BrailleSense 6

ブレイルセンスシックス　ユーザマニュアル

開発元：

SELVAS Healthcare,Inc

日本語版開発・発売元：

有限会社エクストラ

http://www.extra.co.jp/

E-mail：support@extra.co.jp

**お知らせ**

* このユーザマニュアルと製品には印刷上の誤りあるいは技術的な誤りがある可能性があります。また、性能の改善などのために予告なしで変更される可能性があります。
* このユーザマニュアルと製品は著作権法によって保護されています。
* Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。その他記載の製品名、ソフトウェア名は、一般にその会社の登録商標または、商標です。

安全上のご注意

シックスをご使用になるにあたり、以下の安全上のご注意をお読みください。

1. 製品付属ACアダプタの入力電圧は100V〜240V、出力はDC 5V / 3Aおよび9V/2Aです。
2. 初めてご使用になるときには必ず十分に充電してください。新しいバッテリーを使うときには、まず5時間以上充電してください、十分に充電されないとバッテリー充電率を正確に表示できない場合があります。シックスを購入後すぐにご使用になる場合には、必ず電源アダプタを本体に接続して電源を供給してください。
3. 本体からバッテリーを取り出したい場合、または取り外す必要がある場合は、シックスの電源をオフにしてからバッテリーを取り外します。本体とAC電源が接続されている場合は、バッテリーを再挿入する前に、電源をオフにしてください。専用バッテリー以外のバッテリーを使用すると、爆発の危険性があります。 SELVAS Healthcareがシックス向けに特別に製造したバッテリーパックのみを使用するようにしてください。使用済みのバッテリーは、お住まいの自治体指定の方法で処分してください。
4. フル充電した際の連続使用時間が製品仕様のバッテリー動作時間の半分に満たない場合は、バッテリーを交換することをお勧めします。
5. 長期間シックスを使用しない場合は、バッテリーを取り外して保管することをお勧めします。
6. 製品やバッテリーを意図的に破損、分解したりすると、感電、爆発、火災の原因となる場合があります。
7. バッテリー電源でシックスを使用している場合、バッテリー残量が少なくなると通知されます。バッテリーの充電量が15％を下回ったら、ACアダプタを本体に接続して再充電してください。バッテリーの残量が5％に低下し、本体がACアダプタに接続されていない場合、シックスはバッテリーの状態を通知し、1分後に自動的にシャットダウンします。 フル充電後の連続使用時間は、設定したオプションや実行しているタスクの数や種類によって変動します。
8. シックスは精密機器です、正しく慎重に取り扱ってください。特に埃によって故障する可能性があります。埃の多い場所での保管は避けてください。
9. 点字セルは非常に敏感で繊細な部品です。埃等の異物混入や、その他の理由により点字セルが正しく機能しない場合は、シックスを購入した販売店または、有限会社エクストラにご連絡ください。
10. 本機器の保証期間は1年間です。ただし、落下などの事故などで破損した場合の修理費用は有償となります。詳しくは同封の保証書をご確認ください。アップデート情報等を希望される場合はユーザ登録を行ってください。手続きは有限会社エクストラのウェブサイト（http://www.extra.co.jp/register.html）または同封のユーザ登録カードから行ってください。ご自身での登録が難しい方は、シックスを購入された代理店にお問い合わせください。
11. シックスを自分で分解しないでください。 HIMSの許可を受けていない人が本機を分解すると、重大な損傷が生じる可能性があります。許可されていない人が本体を分解すると、それは無償保守から除外され、保証は無効になります。液体や外部からの衝撃により機器が損傷する場合は、保証期間中に故障した場合でも、保守から除外されることがあります。 シックスには液体接触インジケータが含まれており、水やその他の液体と接触すると色が変わります。このインジケータは、製品の通常の環境要件に該当する湿気やその他の条件下では作動しません。
12. バッテリーが損傷したり異常発熱したりする可能性があるため、シックスを暑い夏に車内などの閉鎖された、または高温の環境に放置しないでください。
13. 聴力に悪影響を及ぼす可能性を防ぐため、長時間大音量での音声再生は行わないでください。
14. この機器は、FCC規則のパート15に準拠してテストされ、クラスBデジタル機器の制限に準拠しています。これらの制限は、居住用の設置で有害な干渉から適切な保護を提供するように設計されています。操作には、次の2つの条件があります。
    1. このデバイスは有害な干渉を引き起こさないこと。
    2. このデバイスは、望ましくない動作の原因となる干渉を含め、受信した干渉を受け入れなければならないこと。

この機器は、無線周波エネルギーを生成、使用、放射することができ、指示に従って設置および使用されない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。また、特定の設置環境で干渉が発生しないという保証はありません。

この機器がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こした場合（機器の電源を入れ直して判断できます）、次のいずれかの方法で干渉を是正するようにしてください。

- 受信アンテナの向きを変えたり、移動したりする。  
- 機器と受信機の間隔を広げる。  
- 受信機が接続されているコンセントとは別のコンセントに機器を接続する

- 販売店またはラジオやテレビ技術者に相談してください。

RF Exposure Information and Statement

The SAR limit of USA (FCC) is 1.6 W/kg averaged over one gram of tissue. Device types Tablet PC (FCC ID: 2AL4DH632B) has also been tested against this SAR limit. The highest SAR value reported under this standard during product certification for use on the body is 2.4GHz:0639W/kg, 5GHz:0.973W/kg. This device was tested for typical body-worn operations with the back of the handset kept 0mm from the body. To maintain compliance with FCC RF exposure requirements, use accessories that maintain a 0mm separation distance between the user's body and the back of the handset. The use of belt clips, holsters and similar accessories should not contain metallic components in its assembly. The use of accessories that do not satisfy these requirements may not comply with FCC RF exposure requirements, and should be avoided.

5G WIFI indoor used only

内容物とマニュアルについて

シックスをお買い上げいただき、ありがとうございます。シックスは、Android10 搭載視覚障害者向け点字音声情報端末です。

I.内容物

1. シックス本体

2. バッテリー（本体装着済み）

3. SDカード（試供品）

4. アダプタ

5. アダプタ用USB C-Cケーブル（試供品）

6. HDMI-USB変換ケーブル（試供品）

7. キャリングケース（ストラップ付）

8. イヤホン（試供品）

書類

1. ユーザーズマニュアルCD（DAISY、word、text）

2. シックス簡単ガイド墨字版

3. シックス簡単ガイド点字版

4. 保証書（墨字のみ）

5. ユーザ登録カード（墨字版・点字版）

6. 問い合わせ連絡先

II.本書の使い方

このマニュアル内では、ホットキーとショートカットキーを紹介しています。これらのキーは、対応するアプリケーションや機能に素早くアクセスするために使用します。

基本的にショートカットキーはメニュー内の機能を素早く実行するためのキー操作であり、ホットキーはプログラム内のどの場面であっても機能を実行するキー操作です。

ただし一部のショートカットキーとホットキーはプログラム固有のものであり、特定のプログラム内でのみ使用可能な場合があります。

このマニュアルに機能が記述されている場合は基本的に、ショートカットキーは（）内に表示され、ホットキーは「」内に表示されます。

このユーザマニュアルでは、ホットキーとショートカットキーを次のように押す方法について説明しています。同時に押すキーは - （ハイフン）で区切られています。 「Space-b」と表示されている場合は、「Space」と「b」（すなわち1と2の点）を同時に押す必要があります。

上下移動の動作について、「上下キーを使って・・・」と表記された場合は、上下スクロールキーを押す以外にも、Space-1（↑）、Space-4（↓）、またはCtrlキー（↑）、Altキー（↓）でも同様の操作が行えるものとします。

また、ブレイルセンスシックスには左右の移動キーは存在しませんが、Space-3（←）、Space-6（→）として使用できます。

F3の動作について、「F3を使って・・・」と表記された場合は、F3（順送り）、Space-F3（逆送り）またはSpace-4-5（順送り）、Space-1-2（逆送り）でも同様の操作が行えるものとします。

マニュアルを読んでも問題の解決策が見つからない場合、またはサポートが必要な場合は、sense-support@extra.co.jpまで電子メールでお問い合わせください。

または、センスサポート窓口054-368-6987までお電話ください。

目次

[1 はじめに 15](#_Toc101339357)

[1.1 ブレイルセンスシックスとは 15](#_Toc101339358)

[1.2 ハードウェア 15](#_Toc101339359)

[1.2.1 トップパネル 15](#_Toc101339360)

[1.2.2 右側面 16](#_Toc101339361)

[1.2.3 左側面 16](#_Toc101339362)

[1.2.4 背面 17](#_Toc101339363)

[1.2.5 前面 17](#_Toc101339364)

[1.2.6 裏側 17](#_Toc101339365)

[1.3 ハードウェア仕様 18](#_Toc101339366)

[1.4 シックスのメモリについて 18](#_Toc101339367)

[2 シックスの基本機能 20](#_Toc101339368)

[2.1 コマンドの入力方法 20](#_Toc101339369)

[2.1.1 基本アラートとメッセージ 20](#_Toc101339370)

[2.1.2 ナビゲーション操作 20](#_Toc101339371)

[2.2 メニューについて 21](#_Toc101339372)

[2.2.1 コントロール記号 23](#_Toc101339373)

[2.3 ファンクションキーの使用方法 25](#_Toc101339374)

[2.4 AC電源とバッテリー 26](#_Toc101339375)

[2.5 合成音声の設定 27](#_Toc101339376)

[2.6 音声と点字の使用 27](#_Toc101339377)

[2.7 文字入力 27](#_Toc101339378)

[2.7.1 点字文書の入力方法 27](#_Toc101339379)

[2.7.2 テキスト文書の入力方法 28](#_Toc101339380)

[2.8 マルチタスク 30](#_Toc101339381)

[2.9 メディアモードの切り替え 31](#_Toc101339382)

[2.10 キーロックの切り替え 32](#_Toc101339383)

[2.11 片手モード 32](#_Toc101339384)

[2.12 入力モード 33](#_Toc101339385)

[3 シックスのカスタマイズ 34](#_Toc101339386)

[3.1 時計設定 34](#_Toc101339387)

[3.2 インターネット設定 35](#_Toc101339388)

[3.2.1 無線LANの設定 35](#_Toc101339389)

[3.2.2 有線LANの設定 37](#_Toc101339390)

[3.3 Bluetooth接続 37](#_Toc101339391)

[3.3.1 Bluetoothデバイスリスト 37](#_Toc101339392)

[3.3.2 Bluetoothサービスリスト 38](#_Toc101339393)

[3.4 メニュー管理 40](#_Toc101339394)

[3.5 バックアップ／復旧オプション 40](#_Toc101339395)

[3.6 デバイス名変更 41](#_Toc101339396)

[3.7 クイックスタートガイド 41](#_Toc101339397)

[3.8 パスワード設定 42](#_Toc101339398)

[3.8.1 パスワードの設定/変更 42](#_Toc101339399)

[3.8.2 パスワード環境設定 43](#_Toc101339400)

[3.8.3 パスワードを工場出荷状態にリセットする 43](#_Toc101339401)

[3.9 設定の初期化 43](#_Toc101339402)

[3.10 音声設定 43](#_Toc101339403)

[3.10.1 Braillesense Vocalizer 44](#_Toc101339404)

[3.10.2 Android TTS 44](#_Toc101339405)

[3.11 オプション設定 44](#_Toc101339406)

[3.11.1 オプション設定の設定項目 45](#_Toc101339407)

[3.12 Androidのバックアップとリセット 50](#_Toc101339408)

[3.13 Androidシステム設定 50](#_Toc101339409)

[4 ファイル管理 51](#_Toc101339410)

[4.1 概要 51](#_Toc101339411)

[4.1.1 ファイルリストでの移動 51](#_Toc101339412)

[4.1.2 項目（フォルダまたはファイル）選択キー 52](#_Toc101339413)

[4.2 ファイルとフォルダの作業 52](#_Toc101339414)

[4.2.1 フォルダを開く/閉じる 52](#_Toc101339415)

[4.2.2 USBメモリとSDカードの取り出し 52](#_Toc101339416)

[4.3 ファイルメニュー 53](#_Toc101339417)

[4.4 編集メニュー 54](#_Toc101339418)

[4.5 表示メニュー 54](#_Toc101339419)

[4.6 クラウドドライブへのアクセス 55](#_Toc101339420)

[4.7 アドレスウィンドウの使用 56](#_Toc101339421)

[5 ワードプロセッサ 57](#_Toc101339422)

[5.1 ファイルメニュー 57](#_Toc101339423)

[5.2 編集メニュー 58](#_Toc101339424)

[5.3 挿入メニュー 58](#_Toc101339425)

[5.4 移動メニュー 59](#_Toc101339426)

[5.5 読み上げメニュー 60](#_Toc101339427)

[5.6 レイアウトメニュー 60](#_Toc101339428)

[5.7 その他のコマンド 61](#_Toc101339429)

[6 ノートパッド 62](#_Toc101339430)

[6.1 ファイルメニュー 62](#_Toc101339431)

[6.2 編集メニュー 63](#_Toc101339432)

[6.3 挿入メニュー 64](#_Toc101339433)

[6.4 移動メニュー 64](#_Toc101339434)

[6.5 読み上げメニュー 65](#_Toc101339435)

[6.6 レイアウトメニュー 66](#_Toc101339436)

[6.7 その他のコマンド 66](#_Toc101339437)

[7 電子メール 67](#_Toc101339438)

[7.1 電子メールの起動 67](#_Toc101339439)

[7.2 アカウントの設定 68](#_Toc101339440)

[7.3 アカウントの管理 70](#_Toc101339441)

[7.3.1 情報 70](#_Toc101339442)

[7.3.2 修正 70](#_Toc101339443)

[7.3.3 削除 71](#_Toc101339444)

[7.4 電子メールの受信 71](#_Toc101339445)

[7.5 メッセージの読み上げ 71](#_Toc101339446)

[7.6 メールを書く 73](#_Toc101339447)

[7.6.1 ファイルの添付 73](#_Toc101339448)

[7.6.2 電子メールをOutboxに保存 74](#_Toc101339449)

[7.7 アカウントやメールボックスの移動 74](#_Toc101339450)

[7.7.1 メールボックスの管理 75](#_Toc101339451)

[7.7.2 メールボックスにコピーまたは移動 75](#_Toc101339452)

[7.7.3 電子メールのインポート 76](#_Toc101339453)

[7.8 メッセージの高度な機能 76](#_Toc101339454)

[7.8.1 返信と全員に返信 76](#_Toc101339455)

[7.8.2 メッセージの転送 76](#_Toc101339456)

[7.8.3 電子メールの保存 77](#_Toc101339457)

[7.8.4 メッセージの検索 77](#_Toc101339458)

[7.8.5 次の未読メールに移動 77](#_Toc101339459)

[7.9 ツールメニューを使用する 77](#_Toc101339460)

[7.9.1 メールボックス設定 78](#_Toc101339461)

[7.9.2 オプション設定 78](#_Toc101339462)

[7.9.3 迷惑メール設定 79](#_Toc101339463)

[8 メディア 81](#_Toc101339464)

[8.1 メディアプレーヤー 81](#_Toc101339465)

[8.1.1 メディアボタンの使用 81](#_Toc101339466)

[8.1.2 メディアプレーヤーの構造 82](#_Toc101339467)

[8.1.3 ファイルメニュー 83](#_Toc101339468)

[8.1.4 再生メニュー 83](#_Toc101339469)

[8.1.5 録音メニュー 84](#_Toc101339470)

[8.1.6 移動メニュー 85](#_Toc101339471)

[8.1.7 マークメニュー 85](#_Toc101339472)

[8.1.8 設定メニュー 85](#_Toc101339473)

[8.1.9 Webラジオ 86](#_Toc101339474)

[8.2 ラジオ 88](#_Toc101339475)

[8.2.1 内蔵スピーカーによるFMラジオの聴取 88](#_Toc101339476)

[8.2.2 周波数移動 88](#_Toc101339477)

[8.2.3 チャンネル登録と移動 89](#_Toc101339478)

[8.2.4 FMラジオの録音 89](#_Toc101339479)

[8.2.5 その他の機能 90](#_Toc101339480)

[8.3 ポッドキャスト 90](#_Toc101339481)

[8.3.1 ポッドキャストの購読 90](#_Toc101339482)

[8.3.2 フィードとエピソードの操作 92](#_Toc101339483)

[8.3.3 コンテンツの削除。 93](#_Toc101339484)

[9 読書 94](#_Toc101339485)

[9.1 DAISYプレーヤー 94](#_Toc101339486)

[9.1.1 DAISYプレーヤーの構造 94](#_Toc101339487)

[9.1.2 ファイルメニュー 95](#_Toc101339488)

[9.1.3 文書メニュー 96](#_Toc101339489)

[9.1.4 マークメニュー 96](#_Toc101339490)

[9.1.5 見出しメニュー 96](#_Toc101339491)

[9.1.6 メモメニュー 96](#_Toc101339492)

[9.2 文書リーダ 97](#_Toc101339493)

[9.2.1 ファイルメニュー 97](#_Toc101339494)

[9.2.2 編集メニュー 100](#_Toc101339495)

[9.2.3 移動メニュー 101](#_Toc101339496)

[9.2.4 読み上げメニュー 103](#_Toc101339497)

[9.2.5 マーク 104](#_Toc101339498)

[9.3 DAISYオンライン 105](#_Toc101339499)

[9.3.1 ログイン 106](#_Toc101339500)

[9.3.2 DAISYオンラインのメインメニュー 106](#_Toc101339501)

[9.3.3 図書検索結果リストの操作 108](#_Toc101339502)

[9.3.4 DAISYオンラインで検索した図書の再生 108](#_Toc101339503)

[9.3.5 ネット閲覧室 108](#_Toc101339504)

[10 オーガナイザ 110](#_Toc101339505)

[10.1 アドレス帳 110](#_Toc101339506)

[10.1.1 アドレス追加 110](#_Toc101339507)

[10.1.2 アドレスフィールド設定 111](#_Toc101339508)

[10.1.3 アドレスの検索 111](#_Toc101339509)

[10.1.4 アドレスフィールド検索設定 112](#_Toc101339510)

[10.1.5 アドレス一覧のバックアップと復元 112](#_Toc101339511)

[10.1.6 CSVからインポート 113](#_Toc101339512)

[10.1.7 CSVへのエクスポート 113](#_Toc101339513)

[10.1.8 アドレスの編集、保存、および削除 114](#_Toc101339514)

[10.1.9 アドレス帳の同期 114](#_Toc101339515)

[10.2 予定帳 114](#_Toc101339516)

[10.2.1 予定追加 115](#_Toc101339517)

[10.2.2 .定期の予定設定 116](#_Toc101339518)

[10.2.3 予定検索 117](#_Toc101339519)

[10.2.4 予定の編集と削除 118](#_Toc101339520)

[10.2.5 予定のバックアップと復元 119](#_Toc101339521)

[10.2.6 複数のアカウントと同期 120](#_Toc101339522)

[10.2.7 アラームオプション設定 120](#_Toc101339523)

[10.3 データベース管理 121](#_Toc101339524)

[10.3.1 テーブルマネージャー 122](#_Toc101339525)

[10.3.2 レコード追加 125](#_Toc101339526)

[10.3.3 レコード検索 126](#_Toc101339527)

[10.3.1 バックアップオプション設定 127](#_Toc101339528)

[10.3.2 データベースバックアップ 128](#_Toc101339529)

[10.3.3 データベース復旧 128](#_Toc101339530)

[10.3.4 CSVファイルのインポートとエクスポート 128](#_Toc101339531)

[10.3.5 CSVからテーブルを作成する 130](#_Toc101339532)

[11 ウェブツール 133](#_Toc101339533)

[11.1 ウェブブラウザ 133](#_Toc101339534)

[11.1.1 ファイルメニュー 133](#_Toc101339535)

[11.1.2 編集メニュー 134](#_Toc101339536)

[11.1.3 移動メニュー 134](#_Toc101339537)

[11.1.4 読み上げメニュー 134](#_Toc101339538)

[11.1.5 お気に入りメニュー 134](#_Toc101339539)

[11.1.6 オプション 134](#_Toc101339540)

[11.1.7 ページの要素を移動 135](#_Toc101339541)

[11.1.8 テーブルナビゲーション 136](#_Toc101339542)

[11.1.9 ストリーミングオーディオファイルの再生 137](#_Toc101339543)

[11.2 Google検索 137](#_Toc101339544)

[11.2.1 検索ダイアログ 137](#_Toc101339545)

[11.2.2 検索結果ダイアログ 138](#_Toc101339546)

[11.2.3 ブラウザ選択 138](#_Toc101339547)

[11.3 ウィキ検索 138](#_Toc101339548)

[11.4 システム全体で使用できるWeb検索機能 139](#_Toc101339549)

[12 アクセサリ 140](#_Toc101339550)

[12.1 エクセルビューア 140](#_Toc101339551)

[12.1.1 一般的な移動コマンド 140](#_Toc101339552)

[12.1.2 ファイルメニュー 141](#_Toc101339553)

[12.1.3 編集メニュー 141](#_Toc101339554)

[12.1.4 移動メニュー 142](#_Toc101339555)

[12.1.5 読み上げメニュー 142](#_Toc101339556)

[12.1.6 表示メニュー 143](#_Toc101339557)

[12.2 センス辞書 143](#_Toc101339558)

[12.3 カラーリーダー 143](#_Toc101339559)

[13 ユーティリティ 145](#_Toc101339560)

[13.1 電卓 145](#_Toc101339561)

[13.1.1 一般関数 145](#_Toc101339562)

[13.1.2 分数計算 146](#_Toc101339563)

[13.1.3 変数計算 146](#_Toc101339564)

[13.1.4 サイン関数 148](#_Toc101339565)

[13.1.5 コサイン関数 148](#_Toc101339566)

[13.1.6 タンジェント関数 148](#_Toc101339567)

[13.1.7 対数関数 149](#_Toc101339568)

[13.1.8 単位換算 149](#_Toc101339569)

[13.1.9 クリップボードにコピー 150](#_Toc101339570)

[13.1.10 式に戻る 150](#_Toc101339571)

[13.1.11 オプション設定 150](#_Toc101339572)

[13.2 現在時刻 150](#_Toc101339573)

[13.3 世界時計 150](#_Toc101339574)

[13.4 電子コンパス 151](#_Toc101339575)

[13.4.1 電子コンパスのオプション 151](#_Toc101339576)

[13.5 アラーム 152](#_Toc101339577)

[13.5.1 アラームリスト 152](#_Toc101339578)

[13.5.2 アラームの追加 152](#_Toc101339579)

[13.5.3 修正 154](#_Toc101339580)

[13.5.4 削除 154](#_Toc101339581)

[13.6 ストップウォッチ 154](#_Toc101339582)

[13.7 スクリーンリーダーのターミナル 155](#_Toc101339583)

[13.7.1 ターミナルクリップボード 156](#_Toc101339584)

[13.8 ネットワーク状態 156](#_Toc101339585)

[13.9 バッテリー状態確認 157](#_Toc101339586)

[13.10 フラッシュディスクのバックアップ/復旧 157](#_Toc101339587)

[13.11 フォーマット 158](#_Toc101339588)

[13.12 スリープタイマー 158](#_Toc101339589)

[13.13 マクロ 158](#_Toc101339590)

[13.13.1 マクロを記録する 159](#_Toc101339591)

[13.13.2 マクロの実行 160](#_Toc101339592)

[13.13.3 マクロ管理 160](#_Toc101339593)

[13.14 ファームウェアの更新 161](#_Toc101339594)

[13.14.1 ディスクからのファームウェア更新 161](#_Toc101339595)

[13.14.2 インターネットを利用したファームウェアの更新 162](#_Toc101339596)

[14 サードパーティのアプリやアクセサリの使用 163](#_Toc101339597)

[14.1 GooglePlayとすべてのアプリケーション 163](#_Toc101339598)

[14.1.1 モバイルスクリーンリーダーの基本的な操作 163](#_Toc101339599)

[14.1.2 メディアキーを使った操作 164](#_Toc101339600)

[14.1.3 モバイルスクリーンリーダーのオン/オフ 164](#_Toc101339601)

[14.1.4 アプリケーションの検索とインストール 164](#_Toc101339602)

[14.1.5 すべてのアプリケーション 164](#_Toc101339603)

[14.1.6 通知 165](#_Toc101339604)

[14.2 互換性のあるアクセサリの使用 165](#_Toc101339605)

[15 ヘルプメニューの使用 168](#_Toc101339606)

[16 トラブルシューティングガイド 170](#_Toc101339607)

[16.1 ブレイルセンスシックスが起動しない 170](#_Toc101339608)

[16.2 音声が聞こえない 170](#_Toc101339609)

[16.3 音声が早すぎてわからない 170](#_Toc101339610)

[16.4 音声トーンが低すぎまたは高すぎてわからない 170](#_Toc101339611)

[16.5 使用中のプログラムがわからない 170](#_Toc101339612)

[16.6 インターネットに接続できない 170](#_Toc101339613)

[16.7 電子メール 171](#_Toc101339614)

[16.8 点字ディスプレイに点字表示されない 171](#_Toc101339615)

[16.9 Playストアまたはアプリを使用時にシックスが読み上げない 171](#_Toc101339616)

[16.10 ブレイルセンスのメニューが表示されないまたは読み上げられない 171](#_Toc101339617)

[16.11 ブレイルセンスシックスが反応しない 171](#_Toc101339618)

[16.12 LCDが点灯しない 172](#_Toc101339619)

[16.13 USBやSDが0バイトと表示される 172](#_Toc101339620)

[17 コマンドリスト 173](#_Toc101339621)

[17.1 コマンドキー 173](#_Toc101339622)

[17.2 簡単起動コマンド 174](#_Toc101339623)

[17.3 ファイルマネージャ 176](#_Toc101339624)

[17.3.1 ファイルとメニューリストのナビゲーションキー 176](#_Toc101339625)

[17.3.1 選択コマンド 176](#_Toc101339626)

[17.3.2 ファイルリストのナビゲーションキー 176](#_Toc101339627)

[17.3.3 ファイルメニューのコマンド 176](#_Toc101339628)

[17.3.4 編集メニューコマンド 177](#_Toc101339629)

[17.3.5 表示メニューコマンド 177](#_Toc101339630)

[17.4 ワードプロセッサ 177](#_Toc101339631)

[17.4.1 ファイルメニューコマンド 177](#_Toc101339632)

[17.4.2 編集メニューコマンド 178](#_Toc101339633)

[17.4.3 挿入メニューコマンド 178](#_Toc101339634)

[17.4.4 移動メニューコマンド 178](#_Toc101339635)

[17.4.5 読み上げメニューコマンド 179](#_Toc101339636)

[17.4.6 レイアウトメニューコマンド 179](#_Toc101339637)

[17.4.7 その他のホットキー 179](#_Toc101339638)

[17.5 ノートパッド 180](#_Toc101339639)

[17.5.1 ファイルメニューコマンド 180](#_Toc101339640)

[17.5.2 編集メニューコマンド 180](#_Toc101339641)

[17.5.3 挿入メニューコマンド 180](#_Toc101339642)

[17.5.4 移動メニューコマンド 181](#_Toc101339643)

[17.5.5 読み上げメニューコマンド 181](#_Toc101339644)

[17.5.6 レイアウトメニューコマンド 181](#_Toc101339645)

[17.5.7 その他のホットキー 181](#_Toc101339646)

[17.6 電子メール 182](#_Toc101339647)

[17.6.1 インボックスのホットキー 182](#_Toc101339648)

[17.6.2 電子メール送信のホットキー 183](#_Toc101339649)

[17.6.3 電子メールメッセージの閲覧および作成中のホットキー 183](#_Toc101339650)

[17.7 メディア 183](#_Toc101339651)

[17.7.1 メディアプレーヤー 183](#_Toc101339652)

[17.7.2 FM Radio 185](#_Toc101339653)

[17.7.3 ポッドキャスト 186](#_Toc101339654)

[17.8 読書 186](#_Toc101339655)

[17.8.1 DAISY プレーヤー 186](#_Toc101339656)

[17.8.2 文書リーダ 187](#_Toc101339657)

[17.8.3 DAISYオンライン 188](#_Toc101339658)

[17.9 オーガナイザ 189](#_Toc101339659)

[17.9.1 アドレス帳 189](#_Toc101339660)

[17.9.2 予定帳 189](#_Toc101339661)

[17.9.3 データベース管理のホットキー 190](#_Toc101339662)

[17.10 ウェブツール 191](#_Toc101339663)

[17.10.1 ウェブブラウザ 191](#_Toc101339664)

[17.11 アクセサリ 193](#_Toc101339665)

[17.11.1 エクセルビューア 193](#_Toc101339666)

[17.12 ユーティリティ 195](#_Toc101339667)

[17.12.1 電卓 195](#_Toc101339668)

[17.12.2 電子コンパス 196](#_Toc101339669)

[17.12.3 アラーム 196](#_Toc101339670)

[17.12.4 ストップウォッチ 196](#_Toc101339671)

[17.12.5 スクリーンリーダーのターミナル 196](#_Toc101339672)

[17.12.6 マクロ管理 196](#_Toc101339673)

[17.13 設定 196](#_Toc101339674)

[17.13.1 日時設定 196](#_Toc101339675)

[17.13.2 Bluetooth接続 197](#_Toc101339676)

[17.13.3 バックアップ/復旧オプション 197](#_Toc101339677)

[17.13.4 パスワード保護 197](#_Toc101339678)

[17.14 スクリーンリーダーコマンド 198](#_Toc101339679)

[17.14.1 フォーカスの移動 198](#_Toc101339680)

[17.14.2 文書の編集 198](#_Toc101339681)

[17.14.3 Appモードでのメディアボタンの機能 199](#_Toc101339682)

[18 技術サポート情報 200](#_Toc101339683)

# はじめに

## ブレイルセンスシックスとは

ブレイルセンスシックス（以後シックスと表記します。）はHIMSによって開発・製造された視覚障害者のための点字音声情報端末です。日本語版は有限会社エクストラがローカライズを行っています。以下シックスの主な機能です。

1. TXT、BRF、RTF、PDF、EPUB、およびMicrosoft Word、Excel、PowerPointファイルを読み込む事ができます。文書データの作成や、電子メール、点字データの読み込みや編集に対応しています。
2. メディアプレーヤー、DAISYプレーヤー、FMラジオ機能を備えています。
3. 予定帳やアドレス帳機能を持ち、Googleアカウントと同期可能です。
4. 計算機、時計、アラーム、カレンダー機能を搭載しています。
5. スクリーンリーダーの点字ディスプレイとして使用することができます。（USBまたはBluetooth接続対応）
6. GPSレシーバー、デジタルコンパス搭載
7. GooglePlayからアプリケーションをダウンロードして使用可能です。
8. ドライブ、ドキュメント、スプレッドシート、スライド、クラスルームなどのGoogleサービスを、付属のスクリーンリーダー（これらのアプリケーション用に特別にカスタマイズされたもの）で使用可能です。
9. Zoom、Google Meet、Microsoft Teams、またはその他のアクセシブルなプラットフォームを介してオンライン会議等に参加可能です。
10. シックスに内蔵のGoogleアシスタントやAmazon Alexaなどサードパーティの音声アシスタントを使用可能です。
11. スマートウォッチに接続可能です。
12. 内蔵カメラ（13MP）またはUSB接続外部カメラを使用することができます。

## ハードウェア

機器の外観やキーを説明します。シックスの点字ディスプレイが手前側になる向きでテーブルや机に置いてください。

### トップパネル

シックスの操作パネルは上部に１から６の点字キー、Space、Backspace、Enterの合計9個のパーキンス式点字キーボードを備えています。

Spaceと同じ並びにはCtrlとAlt、4つのファンクションキーが配置されています。左から順にF1・F2・Ctrl・Space・Alt・F3・F4と並びます。

キーボードの下側には、32セルの点字ディスプレイがあります。点字ディスプレイ部分の上部にはセルそれぞれに対応するタッチカーソルキーがあります。文書編集中にはこれらのキーを使ってカーソルを対応する点字セルの文字に移動します。また、タッチカーソルキーはリストやフィールドのグループを選択する際にショートカットキーとしても機能します。例えば、リスト10番目の項目を実行する場合、左から10番目のタッチカーソルキーを押すことで実行する事が可能です。タッチカーソルキーは5番目、10番目、15番目、20番目、25番目、30番目の上部に点が付いていて、何番目かを確認しやすくしています。

点字ディスプレイの両側に、2個ずつ上下に並んだボタンがあります。これは上と下のスクロールキーです。スクロールキーは点字ディスプレイの表示をスクロールするために使用します。オプション設定でスクロールする単位を左右それぞれ変更することが可能です。

トップパネルの最上部中央には液晶ディスプレイ（LCD）があります。液晶ディスプレイにはシックスの出力情報が墨字で表示され、晴眼者がシックスの出力情報を確認したい際に使用できます。

また、液晶ディスプレイの右側に2つのLEDインジケータがあります。液晶ディスプレイに近い方のLEDは電源オン/オフの状態を示します。右側のLEDは充電状態を示します。

トップパネル最上部の左右隅にステレオスピーカーがあります。

### 右側面

シックスの右側面には、3つのUSB ポートがあります。2つのUSB Cポートがあり、その間に１つのUSB Aポートがあります。

本体背面に最も近い奥側のUSB Cポートは本体の充電や点字ディスプレイとして使用する際にPCへの接続、データの転送、またはWindows用のAndroidコンパニオンソフトウェアを使用したシックスの操作に使用します。

ユニットの前面に最も近いUSB　Cポートは、ポータブルビデオモニターの接続に使用され、他の互換性のあるUSB Cデバイスに対しホストとして接続することができます。どちらのポートが何の機能のために使用かについての混乱をなくすために、点字各ポートの近くに点字を記載しています。電源とデータのポートには点字で「p」と表記し、ビデオとホストのポートには点字で「v」と表記しています。

2つのUSBCポートの間にあるUSB Aポートは、ドライブ、プリンタ、オーディオデバイス、カメラなどを接続するための追加のUSB Aホストポートです。

### 左側面

左側面の本体の前面近くには、主音量を調整するための2つの小さなボタンがあります。音量を下げる際は前面に近いボタンを押し、音量を上げるには背面側のボタンを押します。

音量ボタンから更に背面側には、2つの小さな丸いジャックがあります。前面に近いジャックはステレオヘッドホンジャックで、背面に近い方はステレオマイクまたはライン入力に使用するためのステレオマイクジャックです。ヘッドホンジャックの上部には点字で「h」と表記し、マイクジャックの上部には点字で「m」と表記しています。

左側面の一番背面側には、SDカードスロットがあります。

### 背面

シックスの背面パネルには、ドライブ、キーボード、マウス、カメラ、プリンタ、オーディオ、その他の互換性のあるUSB周辺機器を接続するためのUSB Aホストポートが1つあります。

### 前面

前面の左端には、3段階のスライドスイッチがあります。これはキーロックスイッチです。このスイッチについては本書の2.10にて詳しく説明します。

キーロックスイッチの右側にはもう一つ3段階のスライドスイッチがあります。これはメディアモードスイッチです。オーディオボタンで操作可能なメディアの種類を決定するスイッチです。このスイッチについては次章にて詳しく説明します。

メディアモードスイッチの右側には5つのオーディオボタンがあります。メディアモードスイッチの右側には5つのオーディオボタンがあります。左から「戻る」、「録音」、「停止」、「再生/一時停止」、「進む」ボタンです。これらのボタンはメディアモードの設定によって機能が変わります。

前面右端のボタンは電源ボタンです。電源をオンにするには、ビープ音が鳴り本体が振動するまでボタンを長押ししてください。初回起動時や、バッテリーが空になった状態から起動する場合は通常よりも時間がかかります。

起動後は、電源ボタンを軽く1回押すとスタンバイモードになります。これはスマートホンやタブレットの画面ロック状態と同じです。もう1回電源ボタンを軽く押すとロックを解除してスタンバイモードになる前の状態に戻ります。

電源を完全に切る場合は電源ボタンを長押ししてください。

「電源をオフにしますか？はい」と表示します。電源を切りたい場合はEnterを押してください。キャンセルしたい場合はSpaceを押して「はい」を「いいえ」に切り替えてからEnterを押してください。

### 裏側

本体裏側には、バッテリー挿入口とカメラがあります。バッテリーを外した状態で手前側にバッテリーの挿入口が来るように裏返した本体を置いてください。

バッテリーは、片方の長辺が丸みのある形をしています。この丸みを帯びた端は、本体の辺に沿わせる必要がありますので、丸みのある辺が手前の上側になるように用意してください。バッテリー2つの小さな突起が右側の下辺に来ます。

バッテリーの右側を本体挿入口にはめ込み、左側を押し下げて、バッテリーをはめ込んでください。バッテリーを取り外すには、左側短辺のバッテリロックを左側に向けて引っ張りながら、バッテリーを取り外してください。

13メガピクセルのカメラは、バッテリー差込口のロックが無い側のすぐ隣にあります。 OCRやカメラ映像を用いたアプリケーションを、GooglePlayからダウンロードした場合に使用します。文書などをOCRする場合、対象物の30センチほど上にシックスを持って撮影してください。

## ハードウェア仕様

1. OS：Android 10
2. フラッシュメモリ：128GB（約100GBをユーザが使用可能です）
3. RAM：6GB
4. CPU：Octa-core （4 x 2.0 GHz A76、4 x 2.0 GHz A55）
5. バッテリー：リチウムイオン（取外し可能）、4590mAh
6. バッテリー稼働時間：約18時間（点字出力と同時に中程度の音量で内蔵スピーカーから音声出力をした場合の目安）
7. キーボード：9個のキーを使ったパーキンス式点字キーボード、CtrlとAlt、4つのファンクションキー、32個のタッチカーソルキー、左右に配置された上下キー
8. 他スイッチとボタン：キーロックスイッチ、メディアモードスイッチ、5つのメディアボタン
9. 点字ディスプレイ：32セル
10. ビデオディスプレイ：内蔵LCD、USB CからHDMIへ接続可能
11. ワイヤレスネットワーク：Wi-Fi：802.11ac、Wi-Fi Dual band（2.4Ghz及び5GHz）、2T2R MU-MIMO（IEEE a / b / g / n互換）、 Bluetooth：LEおよびClassicの5.1デュアルモード
12. センサー：内蔵GNSSレシーバー（GPS/Glonass/Bedou/Galileo）、加速度センサー、コンパス、ジャイロスコープ
13. カメラ：13MP オートフォーカスカメラ内蔵、USB接続で外部カメラ使用可能
14. インターフェース：USB C×2、USB　A×2、SDカードスロット×1(FAT32およびexFATをサポート)
15. サウンド：内蔵ステレオスピーカー、ステレオヘッドホンジャック
16. 録音：内蔵ステレオマイク、外部ステレオマイク/ライン入力ジャック、ヘッドセットマイク、USBオーディオをサポート
17. バイブレーション：内蔵バイブレーション機能搭載

## シックスのメモリについて

シックスは6GBのRAM（ランダムアクセスメモリ）と128GBのフラッシュメモリを搭載しています。 RAMは、プログラムを実行するために確保されたメモリです。 RAMは、実行中のプログラムファイルや、現在開いているドキュメントを一時的に格納するための領域です。シックスのバッテリーが空になった状態でACアダプタが接続されていないとRAM領域のデータが消えます。 また、シックスが何らかの理由で再起動すると、RAMデータも消えます。つまり、保存していない状態で開いている文書がある場合、保存されていないデータは消えてしまいます。データは定期的に保存し、データのバックアップを取る事をお勧めします。

# シックスの基本機能

## コマンドの入力方法

シックスの操作に使用されるコマンドは、点字とファンクションキーのさまざまな組み合わせで構成されています。 このユーザマニュアルでは、キーを同時に押す必要があることを示すために「 - 」（ハイフン）が使用されています。 たとえば、「Space-z」は、「Space」とz(1-3-5-6)を同時に押す操作を示します。 このマニュアルには「Space-2-4-6」のような表現も含まれています。 つまり、2の点、4の点、6の点とSpaceを同時に押す操作を意味します。

メニューまたはダイアログで、カーソルが目的のコマンドに置かれているときは、「Enter」を押すことで、コマンドを実行できます。機能をキャンセルして元の場所に戻すには、「Space-z」を押します。 「Space-z」は、実行されたプログラムやメニューを中止することができる重要なコマンドです。

参考：コマンドの入力は「同時に押す」と表記されていますが、実際は指定されたキーを全部押さえてから同時に離す事で入力します。一度にキーを押すことが難しい場合は、ゆっくり全てのボタンを押さえてから同時に離すと入力しやすいです。

### 基本アラートとメッセージ

シックスは設定したイベントについてアラートを出すことがあります。例えば、初期設定ではスケジュール帳に予定が登録されている日にシックスを起動すると、起動時にその予定を通知します。予定が通知されると、予定帳が開いた状態になります。Space-z かSpace-eを押すと予定帳を終了します。

起動時に「今日の予定」を通知されたくない場合は、オプション設定で「今日の予定を確認する」オプションをオフに設定することができます。（第3章を参照）

シックスを起動すると、前回終了した状態から始まります。実行中のプログラムがあれば、プログラムの名前と現在の状態を通知します。例えばワードプロセッサの使用中にシックスを終了すると、再起動時にプログラム名、ファイル名、入力モード、ファイル保護状態が通知されます。

また、ACアダプタをシックスに接続すると、「ACアダプタオン」と通知します。ACアダプタを外すと「ACアダプタオフ」と通知します。

電源をオフにした状態でも、充電中は点字ディスプレイに現在の充電状態を表示します。

### ナビゲーション操作

シックスのダイアログボックスでは上下キーを使った項目の移動とF3を使ったコントロールの移動を行います。リストから項目を選ぶ場合は上下スクロールキーを使い、「リスト」や「エディットボックス」、「ボタン」などのコントロールを切り替える場合はF3を使用します。

上移動はSpace-1やCtrl、下移動はSpace-4やAltでも同様の操作ができます。

F3はコントロールの切り替えを順送りで行います。逆送りで切り替えたい場合はSpace-F3を押してください。また、F3はSpace-4-5、Space-F3はSpace-1-2でも同様の操作ができます。

## メニューについて

シックスのメニューでは、選択できるプログラム、アクション、またはオプションのリストが表示されます。メニュー項目にサブメニューがある場合、メニュー項目を選択すると、別の選択肢リストが表示されます。

プログラムの実行中は、F2キーを押して各プログラムのメニューを表示します。

上移動キーを押して前の項目に移動し、下移動キーを押して次の項目に移動します。

メニューの最初の項目に移動するには、Space-1-2-3を押します。メニューの最後の項目に移動するには、Space-4-5-6を押します。サブメニューの最初の項目を開いた状態で、Backspaceを押すと前のメニューに戻ります。

同じ項目を繰り返し読み上げたい場合は、Space-rを押します。

メニュー項目のショートカットキーを押すことで、メニュー項目にすばやくジャンプして実行することもできます。

また、多くの機能はプログラムの現在の位置から直接ホットキーを使用してメニュー項目を即座に実行することができ、メニューを開いて機能を選択する操作をせずに目的の機能を実行することができます。

ショートカットキーは、メニュー名の後の括弧内に表示されます。ホットキーは、通常、「Enter」、「Space」、「Backspace」などのキーと、アルファベットまたは点の組み合わせと同時に押して使用します。メニュー項目を表示した際にホットキーは、ショートカットキーの後に表示されます。

例えば、ワードプロセッサでSpace-mまたはF2を押してメニューを開き、「ファイル」でEnterを押し、「新規（n）Enter-nプルダウンメニュー」と読み上げます。 「新規」はメニューオプションです。

ファイルメニューでnを押すと、ショートカットキーを使って「新規」を実行する事ができます。ワードプロセッサ使用中にEnter-nを押すとメニューを使わずに「新規」を実行する事ができます。

ホットキーにはプログラム固有のホットキーと、どの機能を使っていても使用できるホットキーがあります。例えば、前述したワードプロセッサの「新規」を実行するにはワードプロセッサが実行中である必要があります。しかし、ユーティリティメニューの「日付と時刻」はどの機能を使用していても、メインメニューの状態でもホットキーのSpace-tを押すと現在の日付と時刻を表示します。このように使用中の機能に関わらず使用できるホットキーをグローバルホットキーといいます。

メニュー上で実行したい項目が表示されたらEnterを押してください。その項目にサブメニューまたはダイアログがある場合、サブメニューまたはダイアログが開きます。

その項目がコマンドの場合、Enterを押すとコマンドがアクティブになります。この状態を「選択」といいます。

メニュー項目のサブメニューをアクティブにすると、点字ディスプレイ上の対応するメニューの名前の後ろに右矢印の矢印記号が表示され、シックスはメニュー項目名の後ろに「プルダウンメニュー」と表示します。メニュー項目がダイアログボックスの場合は、メニュー項目名の後に省略符号が表示されます。

実際にメニューを試してみましょう。まず、シックスの電源をオンにしてください。

次に、F1を押してプログラムメニューを表示します。プログラムメニューはシックスのメインメニューです。

このメニューから、Play Storeやインストールされているアプリなど、全てのプログラムとオプション設定、ユーティリティ、ヘルプにアクセスできます。

プログラムメニューの、「ファイル管理」、「ワードプロセッサ」、「ノートパッド」、「電子メール」の4つはすぐに実行できるプログラムです。「メディア」、「読書」、「オーガナイザ」、「ウェブツール」、「アクセサリ」、「プログラム」、「ユーティリティ」、「設定」、「ヘルプ」の9つは、サブメニューがあります。続いて「プレイストラ」と、「すべてのアプリケーション」があります。、「すべてのアプリケーション」では本体にインストールされている全てのAndroidアプリリストが表示されます。最後の項目は「ブレイルセンス情報」です。

プログラムメニューの最初の項目は「ファイル管理」です。下移動キーを押すと、次のメニュー項目が表示され、音声と点字とLCDディスプレイに表示されます。下移動キーを繰り返し押すと、プログラムメニューのリストを下に進んで行きます。リストの末尾まで移動すると、「ブレイルセンス情報」が表示されます。

※点字ディスプレイの左右に配置されている上下スクロールキーは初期設定の状態では点字をスクロールする機能に設定されており移動操作をしても音声の出力が伴いません。

また、プログラムメニューを表示した状態でSpace-4-5-6を押すと、リスト末尾の「ブレイルセンス情報」にすばやくジャンプすることができます。続いてSpace-1-2-3を押すと、シックスはプログラムメニューの先頭項目にジャンプし、再び「ファイル管理」と表示します。

前述したように、プログラムメニューからサブメニューまたはプログラムを実行するには、Enterを押します。サブメニューに入っていて、プログラムメニューに戻るには、Space-eまたはF4を押します。

メディアは、「メディアプレーヤー」、「ラジオ」、「ポッドキャスト」で構成されています。

読書は、「DAISYプレーヤー」、「文書リーダ」、「DAISYオンライン」で構成されています。

オーガナイザは「アドレス帳」、「予定帳」、「データベース管理」で構成されています。

ウェブツールは、「ウェブブラウザ」、「Google検索」、「ウィキ検索」で構成されています。

アクセサリは、オプションの「エクセルビューア」、「センス辞書」、「カラーリーダー」で構成されます。

ユーティリティは、「電卓」、「現在時刻」、「世界時計」、「電子コンパス」、「アラーム」、「ストップウォッチ」、「スクリーンリーダーのターミナル」、「ネットワーク状態」、「バッテリー状態確認」、「フラッシュディスクのバックアップ/復旧」、「フォーマット」、「スリープタイマー」、「マクロ管理」、「ファームウェアの更新」で構成されています。

設定は、「時計設定」、「インターネット設定」、「Bluetooth接続」、「メニュー管理」、「バックアップ/復旧オプション」、「デバイス名変更」、「クイックスタートガイド」、「パスワード設定」、「設定の初期化」、「音声設定」、「オプション設定」、「Androidのバックアップとリセット」、「Androidシステム設定」で構成されます。

ヘルプでは、ユーザマニュアルの各章を閲覧する事ができます。

Play StoreはGoogle Play Storeを開き、アプリの検索とインストール及びアンインストールができます。

すべてのアプリケーションには、インストールされている全てのアプリのリストが表示されます。

ブレイルセンス情報は、ファームウェアのバージョンやMacアドレスなど、シックスに関する一般的な情報を表示します。

特定のプログラムの詳細については、そのプログラムに関連するこのユーザマニュアルのセクションを参照してください。

プログラムメニューにアクセスするためのF1は、グローバルホットキーです。これは、サブメニュー、ファイル、ダイアログ、アプリケーションのいずれを使用している状態でも、F1を押すとプログラムメニューに移動し先頭の項目である「ファイル管理」を表示します。

また、プログラムにはグローバルクイック起動コマンドがあり、主にF1またはF3とアルファベットまたは点の組み合わせで構成されています。これらの簡単起動コマンドを使うと、アプリケーションをすぐに起動できます。簡単起動コマンドのリストは17.2章を参照してください。

### コントロール記号

シックスは、表示する情報の種類を確認するために、いくつかのコントロール記号を使用します。例えば、「リスト項目」や「メニュー項目」、「エディットボックス」があります。これらの記号は、項目の「前」または「後ろ」に表示されます。この情報の表示が「オフ」に設定することもできます。コントロール記号の表示については、オプション設定の「コントロール情報」で設定できます。初期設定は「後ろ」に設定されています。

※注意：ウェブブラウザでは、「コントロール情報」が 「オフ」に設定されていてもコントロール記号を表示します。

前述したように、コントロール記号は項目の前または後ろに表示します。例えば、「コントロール情報」が「前」に設定されている状態で、ワードプロセッサのメニューを表示するとシックスは「MNファイル(f)　プルダウンメニュー」と表示します。

以下、コントロールの種類とその記号です。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 名称 | 点字表記 | 説明 |
| メニュー | MN | サブメニューのあるメニューです。 |
| メニュー項目 | MI | サブメニューのないメニューです。 |
| リスト項目 | LI | 一般的なリストでの項目名です。  （例:ファイル管理の｢ファイルリスト｣で｢LI‘データベース’｣あるいは｢LI Sample.txt｣） |
| エディットボックス | EB | この記号の後に表示されるのはエディットボックス名です。このエディットボックス名の後にエディットボックスがあります。ウェブブラウザではエディットボックス名は表示されません。EBで始まるエディットボックスは1行編集用のエディットボックスです。  （例:アドレス帳でEB姓（カーソルあるいはEB（カーソル）） |
| 複数エディットボックス | MEB | 複数行の入力ができるエディットボックスです。  （例:メールプログラムで、MEB本文：（カーソル）） |
| コンピュータエディットボックス | CE | 1行のコンピュータ点字を入力するエディットボックスです。この記号が付いているエディットボックスにはコンピュータ点字で入力してください。（例:メールの｢宛先｣、｢宛先(Cc)｣など） |
| コンボボックス | CB | 上下キー（Space-1、Space-4）を押して項目を選択することができるコンボボックスです。  （例:ワードプロセッサの｢開く｣ダイアログボックスのCB type: \*.\*） |
| エディットコンボボックス | ECB | 上下キー（Space-1、Space-4）を押して項目を選択するか、項目を直接入力することができます。  （例:ワードプロセッサの｢開く｣ダイアログボックスのECB ファイル名（カーソル）） |
| プロンプトボタン | PB | ｢はい｣、｢いいえ｣を選択する質問メッセージです。Space、Backspaceを押して「はい」と「いいえ」を切替えます。  （例:ワードプロセッサを終了するときに、PB 保存？：「はい」） |
| スタティックボックス | ST | 現在の状態を表示するボックスです。  （例:ワードプロセッサでST noname.hbl/挿入モード/書き込み） |
| リンク | LN | ウェブページ内のリンクです。 |
| アンカー | ANC | ウェブページ内のアンカーです。 |
| ラジオボタン | RB | 上下キー（Space-1、Space-4）や Space、 Backspaceで項目間の移動ができるラジオボタンです。同じ方向に繰り返して押すと再び最初の項目に移動します。  （例:ファイル管理の｢情報｣ダイアログボックスでRB 属性:書き込み） |
| ラジオボタン選択 | SRB | ラジオボタンが選択されていることを示します。 |
| ラジオボタン未選択 | URB | ラジオボタンが選択されていないことを示します。つまり選択が解除されたという意味です。 |
| チェックボックスチェックあり | SCHB | チェックボックスがチェックされていることを示します。 |
| チェックボックスチェックなし | UCHB | チェックボックスがチェックされていないことを示します。 |

リンク、アンカー、ラジオボタンはウェブブラウザのみで使えるコントロールです。

コントロール記号によって、表示された場面でどのような作業を行えばよいかがすぐに分かります。「メニュー」、「メニュー項目」 あるいは 「リスト項目」 を表示している場合は上下キーを利用して移動します。

「エディットコンボボックス」、「エディットボックス」、「コンボボックス」、「複数エディットボックス」を表示している場合は文字を入力できます。「ボタン」 などを表示している場合にはEnterを押して実行します。

## ファンクションキーの使用方法

シックスには4つのファンクションキーがあります。これらのファンクションキーを使用して、メニューを開いたり、タスクをキャンセルしたり、他のアイテムに移動することができます。

F1を押すとどんな場面であってもシックスはプログラムメニューを開きます。

また、F1とプログラムのショートカットキーを使用して、指定したプログラムを開くことができます。たとえば、ワードプロセッサ使用中に、ウェブブラウザを開く場合は、F1-bを押すことでウェブブラウザを開くことができます。

F2はプログラム実行中に押すことで、プグラム固有のメニューを開きます。

参考：Space-mはF2と同じくメニューを開きます。

F3はコンピュータのTabとして機能します。Space-F3はShift-Tabとして機能します。

参考：Space-4-5はF3と同じくTabとして機能し、Space-1-2はSpace-F3と同じくShift-Tabとして機能します。

F4は、コンピュータのEscキーとして機能します。

参考：Space-eはEscキーとして使用することができます。

F4はプログラムを終了せず、メニューやダイアログ、プロンプトボックスを終了します。それは、アプリの「戻る」ボタンとしても機能します。

ファンクションキーを組み合わせて使用​​すると、他のさまざまなタスクを実行できます。F1とF2を同時に押すと、PageUpとして機能します。F3とF4キーを同時に押すと、PageDownとなります。 F1とF4を同時に押すとタスクリストを開きます。F2とF3を同時に押すと、コンピュータのAltとTabを同時に押した場合と同じように実行中のプログラムを切り替える事ができます。タスクリストとタスクの切り替えについては、2.9節で詳しく説明します。

スペースバーの左右のキーは、CtrlとAltです。Google Play Storeから入手したAndroidのアプリケーションでは、これらのキーがQWERTYキーボードのCtrlとAltとして機能するため、アクセシビリティショートカットが存在する場合に使用します。 シックスのアプリケーションでは、CtrlはSpace-1、AltはSpace-4と同様に動作します。

## AC電源とバッテリー

バッテリーの電力状態を確認するには、Space-1-6を押してください。

次の2項目が表示されます：

1.バッテリー充電レベル：フル充電を100%として、バッテリー残量をパーセンテージで表します。

2.電源種別：使用中の電源がバッテリーかACアダプタかを表します。

バッテリーの充電レベルが15％以下に低下すると、シックスは電源インジケータにバッテリーの状態を表示し、バッテリーの残量が15％以下であることを通知します。バッテリー充電レベルが5％を下回ると、シックスはバッテリー充電レベルが5％未満であることを示す警告を表示し、AC電源に接続しない限り、シックスは1分で自動的にオフになります。

参考）バッテリーが完全に0になると、シックスは起動できません。この状態で本体を電源に接続すると、ユニットが充電中であることと充電の割合を示す点字メッセージが表示されます。これは、起動する前に数分間充電する必要があることを警告するためのものです。

本体を起動する前に、ユニットを約5％まで充電することをお勧めします。充電状態が5%以上表示されたら、電源ボタンを約5秒間押し続けて電源をオンにしてください。

出荷時のシックスは、バッテリーが取り外されています。これは輸送中の損傷を防ぐために行われます。シックスに初めてバッテリーを取り付けた際は、バッテリーの充電レベルが正確に表示されない場合があります。初めてシックスを使用する前に、少なくとも5時間はバッテリーを充電してください。最初の充電中にも本機を使用することができますが、バッテリーを完全に充電するには、少なくとも5時間AC電源に接続したままにしておくことをお勧めします。

シックスからバッテリーを取り外すときは、本体の電源がオフになっていることを確認してください。特にバッテリー電源使用中に、シックスが起動している状態でバッテリーを取り外すと、閲覧中の文書や電子メール、バックアップされていない連絡先や予定など、RAMに保存されている全てのデータが失われてしまうのでご注意ください。

シックスは、任意のUSBC充電器を介して充電できます。 PD V2.0（電力供給）仕様と互換性があり、より迅速に充電できます。付属の電源アダプタを使用すると、約2.5時間で充電できます。充電時間は使用する充電器の電力仕様により異なります。

シックスミニは、1回のフル充電で平均約18〜20時間動作します。ただし、複数のUSBデバイスが接続されている場合や多くの電力を消費するアプリが実行されている場合連続使用可能時間は減少します。

## 合成音声の設定

シックスで使用する音声のボリューム、速度、トーンを以下の操作で変更することができます。

音声ボリュームを上げる：Backspace-F4

音声ボリュームを下げる：Backspace-F1

音声速度を上げる：Space-F4

音声速度を下げる：Space-F1

音声トーンを上げる：Enter-F4

音声トーンを下げる：Enter-F1

音声の設定は、ハードリセットを実行した場合と、バッテリーが空になった状態が続くと初期の設定に戻ります。

参考：合成音声のボリュームと本体の主音量は別の設定になります。そのため、起動音や警告音、音声データの再生音量はこの設定では変更できません。

主音量の調整は本体左側にあるボリュームボタンを使うか以下の操作で変更できます。

主音量を上げる：Bacspace-Space-F4

主音量を下げる：Backspace-Space-F1

オプション設定からも設定変更可能です。

## 音声と点字の使用

シックスは点字のみ、または音声のみを使って操作することができます。初期設定では点字と音声を同時に使用する状態です。点字と音声の両方をオフにすることはできません。

音声と点字の切り替えは以下の操作で行う事ができます。

音声オン/オフの切り替え：Backspace-F2

点字オン/オフの切り替え：Backspace-F3

オプション設定からも設定変更可能です。

## 文字入力

シックスの点字入力キーボードで文字入力を行います。シックスでは、テキスト文書と点字文書の両方を作成することができます。

### 点字文書の入力方法

点字文書では｢漢字｣、｢英文｣、｢カタカナ｣、｢ひらがな｣の区別はありません。全て｢点字｣で入力します。Backspaceを押して削除すると、点字セルの単位で削除されます。

### テキスト文書の入力方法

1)日本語入力

テキスト文書では日本語入力モードで漢字変換を使用するのが基本です。データを入力してSpaceを押すと、変換候補リストが現れます。Spaceか上下キーを押すと、入力したデータの変換候補データを一つずつ読み上げます。正しい候補を読み上げたらEnterを押して確定します。

文節単位でも候補リストを呼び出せますが、文章全体を入力して候補リストを呼び出すこともできます。文章を全て入力してSpaceを押すと、自動的に分節単位で変換した変換候補が表示されます。変換候補が表示された状態でSpace-3またはSpace-6を押すと1文節ずつカーソルが移動します。カーソルが文章の最初の文節に移動すると変換候補の詳細読みを行います。変換候補が正しくなかった場合はSpaceを押してください。変換候補リストが表示されます。候補リストが表示されたらSpace-1またはSpace-4を押して、入力したい候補を読み上げたらエンターを押して確定します。候補リストの項目間の移動にはSpaceか上下キーを使います。Space-6とSpace-3は文章内での左右移動キーです。文章内の文節の選択が終わったら、Enterを押して文章全体を確定します。同じ単語の変換候補リストを呼び出すと、最近使用した単語を読み上げます。

Spaceを押して候補リストを呼び出す前は入力した内容の一部の修正ができますが、Enterを押して確定してからは単語の一部修正はできません。候補リストを呼び出してから、その前の状態に戻りたい場合はF4を押してください。

日本語変換がオフに設定された状態では上記のキーは無効になり、ビープ音が鳴ります。

F2-F4を押すと、「日本語」、「日本語変換」、「英語」、「英語全角」が切替わります。

F1-F3を押すと使用頻度の高い「日本語変換」と「英語」の入力モードを切り替えることができます。

「日本語」では全てひらがな入力になります。

2)英語入力

英文は英語１級、英語２級、無変換（NABCC）で入力できます。英語を入力する際の点字入力方式と、点字ディスプレイの英語点字表示方式は｢オプションメニュー｣の｢英語点字表示｣によって設定できます。

入力方式が英語に設定されている状態では、英語１級・英語２級のどちらかで入力することができます。外字符は入力する必要はありません。

※\を入力すると画面上の表示は＼（バックスラッシュ）となります。

3)記号

1級では通常の英文字に加えて多くの記号が入力できますが、2級では入力できない記号が多くあります。

以下に1級で入力可能な記号を記します。

! 2-3-5  
" 3-5-6  
# 1-4-6  
$ 1-4-5-6  
% 1-2-4-5-6  
& 1-2-3-4-6  
' 3  
( 1-2-3-5-6  
) 2-3-4-5-6  
\* 1-6  
+ 3-4-6  
, 2  
- 3-6  
. 2-5-6  
/ 3-4  
: 2-5  
; 2-3  
< 3-5  
= 1-2-3-4-5-6  
> 2-6  
? 2-3-6  
@ 2-4-6  
[ 1-2-6  
\ 1-2-4-6  
] 3-4-5  
\_ 4-5-6  
| 1-2-5-6  
~ 4-5

4)コンピュータ点字の入力 （NABCC）

シックスではコンピュータ点字を入力する際に日本情報処理点字または無変換（NABCC）を選択することができます。ここでは無変換（NABCC）の入力方法を以下に説明します。まず、全ての記号は点字１文字で表します。

小文字の英字は通常の英語１級点字と同じです。ただし英字符は付けません。大文字の英字はSpace-uで大文字モードにしてから、小文字と同じ英語１級点字を入力します。

大文字を続けて入力するにはSpace-uを2度連続して入力します。小文字モードにもどすには再びSpace-uを入力します。

数字は下がり数字で入力します。数符は付けません。

その他の記号は下記のように入力します。  
! 2-3-4-6  
" 5  
# 3-4-5-6  
$ 1-2-4-6  
% 1-4-6  
& 1-2-3-4-6  
' 3  
( 1-2-3-5-6  
) 2-3-4-5-6  
\* 1-6  
+ 3-4-6  
, 6  
- 3-6  
. 4-6  
/ 3-4  
: 1-5-6  
; 5-6  
< 1-2-6  
= 1-2-3-4-5-6  
> 3-4-5  
? 1-4-5-6  
@ Space-1-3-6 4  
[ Space-1-3-6 2-4-6  
\ Space-1-3-6 1-2-5-6  
] Space-1-3-6 1-2-4-5-6  
^ Space-1-3-6 4-5  
\_ Space-1-3-6 4-5-6  
` 4  
{ 2-4-6  
| 1-2-5-6  
} 1-2-4-5-6  
~ 4-5

日本情報処理点字を使ってコンピュータ点字を入力する場合は、英語1級と同じ方法で入力します。数字入力の際は数符を使用し、記号は前述した英語1級の記号と同じです。

## マルチタスク

シックスは複数のプログラムを同時に実行することができます。これをマルチタスクと呼びます。例えば、音楽を聴きながらワードプロセッサを使うこともできますし、文書作成中に電卓を呼び出して計算することもできます。

音楽を聴きながらワードプロセッサを使いたい場合には、まずメディアプレーヤーを起動して、音楽ファイルを再生してください。音楽を聴きながらF1を押してシックスのプログラムメニューを呼び出し、ワードプロセッサを起動します。

例えば、文書「A」を編集中にファイル管理を実行し、文書｢B｣を検索してEnterを押すと、シックスは既に開いているワードプロセッサで文書「B」をロードして読み上げます。このときに文書「A」は裏で動いています。文書「B」の編集中に再び文書「A」を編集したい場合は、F3またはSpace-F3を押してAを呼び出すことができます。ワードプロセッサでの複数の文書編集については5章で詳しく説明します。

現在実行中のプログラムを切り替えるには、F1-F4を押してタスクリストを開きます。タスクリストには、現在実行中の全てのプログラムがリスト形式で表示されます。任意のアプリケーションに戻るには、上下キーでアプリケーションを選択しEnterを押してください。このリスト上でSpace-dを押すと、リストのアプリケーションを強制終了することができます。

プログラムリストを閉じたい場合はF4を押してください。F1-F4を押す前の状態に戻ります。

F2-F3を押すと、タスクリストを開かずに、実行中の全てのプログラムを切り替える事ができます。これはコンピュータのAlt-Tabを押した機能と同じです。 3つのプログラムを実行していて、2つ目のプログラムを使用中の場合は、F2-F3を押すと、3つ目のプログラムに切り替わります。 F2-F3をもう一度押すと、１つ目のプログラムに切り替わります。

複数のプログラムを同時に起動している状態でSpace-zを押すと現在使用中のプログラムをとじて、1つ前のプログラムが表示されます。実行中のプログラムが１つの場合はプログラムメニューに戻ります。

## メディアモードの切り替え

前面のメディアボタンは、メディアモードスイッチの位置によって機能が変わります。

メディアモードスイッチを左端にスライドさせると、シックスは「appモード」と表示します。メディアボタンは現在実行中のアプリケーションの操作に使用できます。メディアモードスイッチを中央にスライドさせると、シックスは「daisyモード」と表示します。daisyモードではメディアボタンをdaisyコンテンツの操作に使用できます。メディアモードスイッチを右端にスライドさせると、シックスは「メディアモード」と表示します。メディアボタンはメディアプレーヤーの操作に使用できます。

メディアボタンを使う際に、メディアモードの位置を確認する事は非常に重要です。例えばメディアプレーヤーを使用している時に、メディアモードスイッチが中央にあると、メディアボタンはメディアプレーヤーではなくDAISYプレーヤーを操作してしまいます。

メディアボタンの機能について詳細は関連する章で詳しく説明します。

## キーロックの切り替え

前面のキーロックスイッチを使用すると、誤ってキーを押さないように、シックスのキーを無効にすることができます。

キーロックスイッチを左端にスライドさせると、シックスは「キーロック」と通知します。これは、電源ボタンを含む本体の全てのキーが無効になっていることを意味します。キーロックスイッチを中央にスライドさせると、シックスは「点字キーロック」と表示します。前面パネルのボタンとスイッチ（メディアモードスイッチ、メディアボタン、電源ボタン）を使用できますが、本体トップパネルにあるキーは使用できません。キーロックスイッチが右端にスライドされている場合、シックスは「キーロック解除」と表示します。これは全てのキーが操作可能であることを示します。

また、前面のキーのみをロックまたはロック解除することも可能です。「戻る」と「進む」のメディアボタンを同時に押すと「メディアキーはロックされました」と通知します。もう一度「戻る」と「進む」のキーを同時に押すと、「メディアキーはアンロックされました」と通知し、メディアボタンが再び操作可能になります。

## 片手モード

シックスには片手で点字を入力するモードがあります。片手モードのオン/オフを切り替えるには、メインメニューでBackspace-1-2-3を押してください。

また、オプションメニューでも設定を変更することができます。

片手モードでの入力方法は以下の通りです。

1. 文字を入力するにはいくつかのキーを組み合わせて入力を行います。その際全ての点字キーを押したあとスペースを押します。例えば、「h」を入力したい場合、1と2と5の点を押しますが、1と2と5の点はどのような順番で押しても構いません。また同時に押す必要もありません。最後にスペースを押して入力完了です。
2. スペースを含むキーコマンドを入力する場合は最初と最後にスペースを押します。例えば、Space-o(1-3-5)と入力したい場合には、まずSpaceを押します、次に1と3と5の点を適当な順番で押します。最後にSpaceを入力して完了です。
3. BackspaceやEnterを含むキーコマンドを入力したい場合には点字キーの入力前にBackspaceやEnterを入力します。そして、全てのキーを入力したらSpaceを押して完了です。例えば、Enter-l(1-2-3)と入力したい場合は、まずEnterを入力してから1と2と3の点を押し、最後にSpaceを押します。
4. SpaceやBackspace、Enterを押す場合はそのキーを2回押します。例えば、文書中にスペースを開けたい場合はSpaceを2回押してください。

矢印キーやファンクションキー、オーディオボタンは両手モードと同じ使い方です。片手モードがオンの場合、シックスの電源を入れた時に片手モードがオンであることを読み上げ、両手モードに戻す方法も表示します。

## 入力モード

文書を作成している際に、高速で文字を入力していると誤って点字キーを操作してしまう可能性があります。「入力モード」をオンにすると、点字キーを使ったナビゲーション操作が無効になり、点字キーを文字入力のためだけに使用する事ができます。

文書編集中にBackspace-Space-Enter-mを押すたびに入力モードのオン/オフが切り替わります。

通常の状態で、Space-1を押すと上スクロールとして機能しますが、入力モードがオンの状態でSpace-1を押すと、Spaceと1の点が入力されます。

# シックスのカスタマイズ

シックスは、メインメニューの「設定」にて各種設定を変更して自分の使いやすいようにカスタマイズする事ができます。ショートカットはsです。

設定メニューには「時計設定」、「インターネット設定」、「Bluetooth接続」、「メニュー管理」、「バックアップ/復旧オプション」、「デバイス名変更」、「クイックスタートガイド」、「パスワード設定」、「設定の初期化」、「音声設定」、「オプション設定」、「Androidのバックアップとリセット」、「Androidシステム設定」の項目があります。

以下各項目について説明します。

## 時計設定

シックスの時計を設定するには、設定メニューの「時計設定｣でEnterを押します。あるいは、設定メニューでtを押します。

また、簡単設定コマンドのF3-tを押しても実行できます。

｢時計設定｣ダイアログボックスは、｢タイムゾーン｣、｢時間制｣、｢時刻｣、「日付の表示形式」、｢日付｣、「時計サーバと同期」、｢確認｣ボタン、｢閉じる｣ボタンという項目で構成されており、項目間の移動にはF3を使います。

｢時計設定｣の初回実行時にタイムゾーンを読み上げますので、上下キーで代表都市名を選択してください。

タイムゾーンを選択したら、F3を押して次の設定項目へ移動します。

夏時間が採用されているタイムゾーンを選択したのであれば「自動的に夏時間の調整をする」チェックボックスが表示されます。Spaceを押すことで自動的に夏時間の調整をするかどうか変更できます。タイムゾーンを「大阪・札幌・東京」に設定した場合は表示されません。

F3を押して次の設定項目へ移動します。

次の項目は｢時間制｣です。ここでは｢12時間表記｣と｢24時間表記｣を上下キーで切替えて選択します。

時間制を選択したら、F3を押して｢時刻｣設定に移動します。｢時間制｣設定で｢12時間表記」を選択すると｢午前｣と｢午後｣が表示されます。午前午後の切り替えはSpace-xで行います。｢24時間表記｣に設定した場合は、午前と午後の区別なしで時刻を設定します。時刻を数字で入力するときは｢時｣と｢分｣の間にスペースかコロン（：）を挿入してください。

次にF3を押すと「日付の形式」に移動します。ここではSpaceを押して「短い」か「長い」に設定することができます。「短い」に設定すると「2021/09/24」の様に数字で表示し、「長い」に設定すると「2021年9月24日金曜日」と文章で表示します。

「日付の表示形式」を設定したら、F3を押して｢日付設定｣に移動します。ここでは｢年｣、｢月｣、｢日｣の設定をします。｢年｣は4桁、｢月｣と｢日｣はそれぞれ2桁で入力し、｢年｣、｢月｣、｢日｣の間にはスペースかスラッシュ（/）を挿入してください。

次にF3を押すと「時計サーバと同期」へ移動します。ブレイルセンスの時計が表す時間に誤りがある場合にとても便利な機能です。この機能を実行するためにはブレイルセンスがインターネットに接続されている必要があります。

エンターキーを押して実行すると、インターネットの時計サーバに接続し正しい時間に自動的に設定します。

日付と時刻の情報を直接入力しない場合は、次のコマンドを使用しても設定できます。

時間設定

1時間前に移動：Space-1

1時間後に移動：Space-4

10分前に移動：Space-2

10分後に移動：Space-5

1分前に移動：Space-3

1分後に移動：Space-6

日時設定

次の日に移動：Space-6

前の日に移動：Space-3

次の週に移動：Space-5

前の週に移動：Space-2

次の月に移動：Space-4

前の月に移動：Space-1

次の年に移動：Space-5-6

前の年に移動：Space-2-3

入力が終わったらEnterを押すか、F3で｢確認｣ボタンまで移動してEnterを押してください。

設定を保存して終了します。

## インターネット設定

「インターネット設定」は、シックスを無線LANまたは有線LAN接続を使用してインターネットにアクセスするための設定項目です。

注意：有線LAN接続を使用するには、USB- Ethernetアダプタが必要です。

インターネット設定を行うには、設定メニューのインターネット設定でEnterを押すか、設定メニュー内でiを押してください。簡単設定コマンドはF3-iです。

### 無線LANの設定

無線LAN接続を設定する前に、オプション設定で無線LANがオンになっていることを確認してください。 Backspace-1-4-5-6を押すと、シックスのどこからでも無線LANのオンとオフを切り替えることができます。

参考：無線LANがオフになっていても、無線LANの設定を実行するとシックスは自動的に無線LANをオンにしますが、事前に無線LANがオンになっている方が周辺の無線LANの検出にかかる時間が短いです。

無線LANに接続するには、「インターネット設定」の「無線LAN」を実行してください。「無線LAN」ダイアログは、「アクセスポイント」リスト、「詳細」ボタン、「オプション」ボタン、「閉じる」ボタンで構成されています。 F3または Space-F3を押すと、これらのコントロール間を移動できます。無線LANがオフの場合、または無線LANの無い場所では、「アクセスポイント」リストに「リストがありません」と表示されます。

無線LANがオンになっている場合、このリストには接続可能なアクセスポイント（ネットワーク）が表示されます。 「アクセスポイント」リストには、各項目の「アクセスポイント名」、「暗号化」、および「感度」が表示されます。 （例：アクセスポイントextra、暗号化：WEP、信号強度：強い）

リストに複数のアクセスポイントがある場合は、上下キーを押して項目を移動できます。接続したいアクセスポイントに移動し、Enterを押してください。アクセスポイントが暗号化されていない場合、シックスは「接続先（アクセスポイント名）」をアナウンスします。接続に成功すると、接続音が鳴ります。ネットワークが暗号化されていてネットワークキーが必要な場合は、アクセスポイントでEnterを押すと、ネットワークキー編集ボックスが表示されます。編集ボックスにコンピュータ点字でネットワークキーを入力し、Enterを押してください。暗号化キーが正しく入力されれば、「設定完了」と表示され、接続音が鳴ります。

F3またはSpace-F3を押すと詳細ダイアログの各コントロールに移動します。詳細ダイアログは「プロファイルリスト」、「接続」ボタン、「追加」共通ダイアログボタン、「削除」ボタン、「プロパティ」共通ダイアログボタンで構成されています。

各コントロールはEnterで実行します。

1. profile：登録済みの無線LANプロファイルを確認できます。
2. 接続：プロファイルリストで選択したプロファイルを使って無線LANへの接続を行います。
3. 追加：各設定項目を手動で入力する事ができます。非表示に設定された無線LANに接続する場合などに使用します。設定項目は「ネットワーク名（SSID）」、「ネットワーク認証モード」、「構成オプション チェックボックス」、「Proxy」、「IP設定」、「IPアドレス」、「Gateway」、「ネットワークプレフィクス長」、「DNS１」、「DNS2」、「確認」、「取消」です。
4. 削除：プロファイルを削除します。
5. プロパティ：プロファイルのプロパティを開きます。
6. WPS接続：WPS（Wi-Fi Protected Setup）を使って無線LANに接続します。お使いのルータにWPS接続機能があれば使用可能です。接続方式はPinとPushを選択できます。上下キーで選択し、Enterを押すと実行します。

Pinを実行するとPinコードを発行します。シックスに表示されたPinコードをルータに入力することで無線LANに接続します。

Pushを実行すると「ルータのWi-Fi Protected Setupボタンを押してください」と表示されます。この状態でルータのWPSボタンを押すと無線LANに接続します。

1. 閉じる：詳細ダイアログを閉じます。

### 有線LANの設定

LAN接続の設定を行う前に、USBイーサネットアダプタを使ってLANケーブルをシックスに接続し、ケーブルのもう一方をルータまたはインターネットモデムに接続します。

「インターネットの設定」の接続オプションのリストから、LANに移動してEnterを押します。

この設定では、IPを自動、手動のどちらで設定するかを選択できます。｢IP設定？ 自動｣と表示したらEnterを押します。自動設定は、使用するホストサーバがDHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）サービスに対応している場合に使うことができます。

IPを手動設定する場合は、｢IP設定？ 自動｣と表示されたら、下スクロールで｢手動｣に切替えてEnterを押します。手動設定には、｢IPアドレス｣、｢Gateway｣、「ネットワークプレフィクス長」、｢DNS｣という設定項目があります。これらの設定には特別な情報が必要となりますので、シックスを接続するサーバのネットワーク管理者あるいはインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。情報の入力にはコンピュータ点字を使い、設定項目間の移動には上下キーを使います。最後に｢DNS｣を設定してEnterを押すと、設定が保存され、｢設定完了｣と表示され、｢インターネット設定｣に戻ります。

この設定が完了すると、インターネットへの接続が可能になります。

## Bluetooth接続

シックスはBluetooth対応で、キーボード、プリンタ、オーディオデバイス、その他のコンピュータなど、ケーブルを必要とせずにさまざまなデバイスに接続できます。 Bluetooth接続を使用してファイルを転送したり、シックスを点字ディスプレイとして互換性のあるスクリーンリーダーに接続したりすることもできます。 Bluetoothは最新の無線技術であり、パーソナルエリアネットワーク（PAN）を介してワイヤレス接続を可能にします。従来の無線ローカルエリアネットワーク（WLAN）とは異なり、これらのネットワークは約9メートル以下に制限されています。 Bluetoothを使用すると、ユーザはこのワイヤレス接続を介してさまざまな情報を交換できます。

Backspace-3-4-5-6を押すと、いつでもシックスのBluetoothオン/オフを切り替えることができます。

メインメニューからBluetooth接続を実行するには、設定メニューに移動してEnterを押し、次に Bluetooth設定に移動してEnterを押します。簡単設定コマンドはF3-bです。

### Bluetoothデバイスリスト

Bluetooth接続を実行すると、ペアリングされたデバイスリストと、使用可能なデバイスを検索するための「検索」ボタンの2つの項目を持つダイアログが表示されます。

例えば、近くにBluetoothを有効にしたコンピュータがある場合、シックスはそのコンピュータを見つけようとします。範囲内の全てのBluetoothデバイスを検出するのに30〜40秒かかります。 検索を実行すると「デバイス検索中・・・」と表示します。スキャンの進行状況を示すために、点字ディスプレイに全ての点を出したセルを左から1セルずつ表示します。

Bluetoothデバイスが検出されると、シックスは検出したデバイス名を表示します。

※注意：Bluetoothデバイスを検索している間、シックスのキー操作は使用できません。通常の操作に戻るには、検索の完了を待つ必要があります。

検索が完了すると、Bluetoothデバイスリストを表示します。範囲内の他のBluetoothデバイスが検出された場合は、「デバイス名（許可前または許可済み）xx / yy」と表示されます。ここで、xxはデバイスがリストに表示されている順番、yyは総デバイス数を示します。 「許可済み」はサービスが認証されたことを示し、「許可前」はサービスが認証されていないことを示します。

範囲内に他のBluetoothデバイスがない場合は「リストなし」と表示します。

上下キーを押すと、リスト内を移動できます。リストからデバイスを選択するには、デバイス名を表示した状態でEnterを押します。

Bluetoothデバイスと接続した場合、デバイスを接続するための設定は自動的に保存されます。この情報を削除するには、リスト内のBluetoothデバイス名を表示した状態でSpace-dを押します。 「デバイス設定が削除されました」と読み上げます。設定の削除は、現在表示されているデバイスでのみ使用できます。

Bluetoothデバイスリストで、 F2を押すとメニューを表示することができます。 「Bluetoothデバイスリスト」メニューは、「検索」、「デバイスを削除」、「設定、「閉じる」で構成されています。上下移動キーを使用してメニュー項目間を移動できます。

最初のメニュー項目は「検索」です。この機能は、再度Bluetoothデバイスのスキャンを開始します。実行するには、メニューの 「検索」で Enterを押します。

次は「デバイスを削除」です。この項目では、現在のデバイスの接続設定を削除できます。実行にするには、メニューの「デバイスを削除」でEnterを押すか、Space-d押して実行します。

「設定」では、シックスが他のBluetoothデバイスに検出可能かどうかを判断できます。オプションをオンまたはオフにするにはSpaceを押します。

Bluetoothデバイスリストメニューの最後の項目は「閉じる」です。実行するとBluetooth接続を終了します。実行するには、メニュー内の「閉じる」でEnterを押すか、Space-zを押してください。

### Bluetoothサービスリスト

接続先のBluetoothデバイスが検索されたら、上下キーを押して目的のBluetoothデバイスに移動し、Enterを押します。「サービス検索中・・・」と表示します。

※注意シックスはスキャン中にキーの操作を受け付けません。

シックスは、FTP、シリアルポート、USBポート、およびヘッドセットのBluetoothサービスをサポートしています。これらの機能を使用するには、リモートBluetoothデバイスが検出可能な状態になっており、アクセスするサービスがそのデバイスで有効になっていることを確認してください。リモートBluetoothデバイスで特定のサービスを有効にし、他のデバイスを無効にすることは可能です。 シックスは、他のサービスが利用可能な場合でも、リモートデバイスで有効になっているサービスのみを表示します。

シックスが使用可能な全てのサービスを検出すると、サービスは次の形式でリストに表示されます。「サービス名xx / yy」ここで、xxはサービスがリストに表示される順番、yyは利用可能なサービスの総数です。上下キーを押すと、利用可能なサービスを選択できます。 Backspaceを押すと、Bluetoothデバイスリストに戻ります。

Bluetoothサービスリストで、F2を押すとメニューを開くことができます。Bluetoothサービスリストメニューには、「FTPを開く」、「切断」、「閉じる」があります。上下キーを使ってリストを移動できます。

「FTPを開く」を使用すると、デバイスとサービスのリストにアクセスせずに、リモートBluetoothデバイスと直接FTP接続を開くことができます。ただし、以前にシックスのFTPサービスを接続して、ファイルを転送できるように設定する必要があります。 FTPサービスを接続した事がない状態でこの機能を実行すると、「FTPサービスが切断されました」とアナウンスされます。

メニューの「FTPを開く」でEnterを押すか、BluetoothサービスリストでEnter-tを押すことで、「FTPを開く」を実行できます。実行するとシックスに「サービス接続中」と表示されます。詳しくは、この章の後半で説明します。

「切断」を使用すると、他のBluetoothデバイスとのサービスを切断できます。実行するには、メニューの「切断」でEnterを押します。または、Enterキーを押してBluetoothサービスリストから直接切断することもできます。接続されているサービスがない状態で、この機能を実行すると、「接続されていません」と表示されます。

#### サービスの接続

サービスを認証して接続するには、サービスでEnterを押します。シックスは「接続サービス」と表示します。 PINコードを入力するときは、コンピュータ点字を使用する必要があります。この編集ボックスは、以前にサービスに接続していないときにのみ表示され、デバイスでPINコードが必要な場合に表示されます。編集ボックスを終了するか、Space-zを押して入力したテキストを閉じると、Bluetoothサービスリストに戻ります。

PINコードを入力したら、Enterを押します。シックスは「認証中」と表示します。リモートデバイスが正しく設定されていて、このデバイスが常に接続できるように設定されていないと、リモートデバイスはPINコードの入力を求めます。両方のデバイスに同じピンコードを入力してください。リモートBluetoothデバイスのPINコードがシックスのPINコードと一致する場合、サービスは認証されます。接続が成功すると、シックスは「PINコード認証を受け付けました」と通知し、「アクセス許可」と表示されます。リモートBluetoothデバイスからアクセス権が与えられていない場合、「接続に失敗しました」と表示され、Bluetoothサービスリストに戻ります。

リモートBluetoothデバイスからアクセス権が与えられている場合、シックスは「接続成功」と表示します。接続が成功すると、Bluetoothサービスリストのサービスの後に「接続済み」と表示されます。一部のサービスは、リモートBluetoothデバイスの設定によってPINコードを入力せずに接続することができます。

## メニュー管理

メニュー管理を使う事でメインメニュー、サブメニュー及び「すべてのアプリ」に表示されるメニューやプログラムを管理する事ができます。ファイル管理とメニュー管理以外のメニューやプログラムを表示または非表示にすることができます。

この機能を実行するには、設定メニュー内で「メニュー管理」選択するか、mを押します。

メインメニューでEnter-hを押してもメニュー管理を起動することができます。

メニュー管理のダイアログはメニュー/プログラムリスト、確認ボタン、取消ボタンで構成されています。上下キーボタンでメニュー/プログラム間を移動しF3で確認ボタン、取消ボタンに移動します。

サブメニューの様にメニュー項目の先にアクセス可能なプログラムがある場合は内部のプログラムメニューが表示されます。内部のプログラムを全て非表示にすると、その上位にあるサブメニューが非表示になります。

普段使わない機能を非表示にするには、メニュー/プログラムリストで非表示にしたい項目名を表示した状態でSpaceを押してください。非表示の状態になると項目名の横に\*（アスタリスク）を表示します。Enterを押すか、確認ボタンへ移動してEnterを押すと設定を保存します。数秒後プログラムメニューを再度表示すると非表示に設定したプログラムは表示されなくなります

再度表示したい場合は、メニュー管理のメニュー/プログラムリストから非表示状態の項目を選んでSpaceを押して非表示を解除し、Enterを押して保存してください。

参考：設定の初期化を使用すると全ての項目が表示される状態に戻ります。

## バックアップ／復旧オプション

「設定の初期化」を実行すると、各プログラムの設定とオプション設定が初期化されます。設定のバックアップを作成してあれば、ハードウェアリセット後に、オプション設定を復元できます。この機能を実行するには、設定メニュー内で選択するか、kを押します。 簡単設定コマンドはF3-kです。

「バックアップ/復旧オプション」ダイアログは、「プログラムオプションチェックボックスリスト」、「全て選択」ボタン、「バックアップ」ボタン、「復旧」ボタン、および「閉じる」ボタンで構成されています。 上下キーを押すとチェックボックスリストを移動することができます。 F3を押すと、ダイアログ内のコントロール間を移動できます。

「プログラムオプションチェックボックスリスト」には、「オプション設定」、「ファイル管理設定」、「ワードプロセッサ設定」、「ノートパッド設定」、「電子メール設定」、「メディアプレーヤー設定」、「ラジオ設定」、「DAISY設定」、 「アドレス管理設定」、「スケジュール管理設定」、「ウェブブラウザ設定」、「Google検索設定」、「Excelビューア設定」、「世界時計設定」、「目覚まし設定」、「bluetooth接続設定」があります。

このリストから、バックアップまたは復元したいプログラムのオプションを選択し、Spaceを押してチェックボックスにチェックを入れます。もう一度 Spaceを押すと、チェックボックスのチェックを外すことができます。

「全て選択」ボタンでEnterを押すとリスト内の全ての「プログラムオプション」を選択しチェックボックスにチェックが入ります。

バックアップまたは復旧したい全ての「オプション」を選択した後、「バックアップ」または「復旧」ボタンでEnterを押してください。

バックアップのショートカットはEnter-b　、復旧のショートカットはEnter-rです。

「バックアップ」を実行すると、バックアップファイルの保存場所を選択するよう求められます。初期設定のまま保存するか、自分で指定して保存することができます。ファイル管理と同様の操作でバックアップファイルを保存するフォルダを選択します。Spaceを押してバックアップを保存するフォルダまたはドライブを選択し、Enterを押すとバックアップ処理が開始します。「復旧」ボタンを実行すると、復旧するためのバックアップファイルを指定するよう求められます。

ファイル管理と同様の操作で、バックアップファイルを含むフォルダを選択してください。

設定を復旧するには、Spaceを押してバックアップファイルを含むフォルダを選択し、 Enterを押すと復旧を開始します。

バックアップファイルが含まれないフォルダを選択しても、「復旧ファイルがありません」と表示されます。

## デバイス名変更

デバイス名変更を実行すると、シックスのBluetooth名・ネットワーク名を変更できます。 初期設定では、シックスの名前は 「BrailleSenseP1234」のように設定されています。他のデバイスと接続する場合、自分なりのデバイス名に変更してあると見分ける際に便利です。「設定」メニューから「デバイス名変更」を選択すると、「デバイス名変更」ダイアログが開きます。ホットキーはBackspace-Enter-eです。

「デバイス名変更」ダイアログは「デバイス名」エディットボックス、「確認」ボタン、「取消」ボタンのコントロールで構成されています。F3を使用してコントロール間を移動します。

デバイス名を変更するには、エディットボックスに新しい名前を入力してEnterを押します。 または、新しい名前を入力した後、F3で「確認」へ移動してEnterを押します。

デバイス名を変更したくない場合は、「取消」ボタンでEnterを押すか、Space-eまたはSpace-zを押します。

## クイックスタートガイド

クイックスタートガイドでは、シックスとその機能を紹介する初期設定ウィザードを実行し、基本的な設定を行うことができます。 このガイドは、シックスを初めて起動したときに自動的に起動します。 設定の「クイックスタートガイド」からいつでも実行できます。

クイックスタートガイドでEnterを押すと、クイックスタートガイドを実行します。

## パスワード設定

パスワード設定を行うと、電源を入れる時やスリープモードから再起動する時、アップデートを実行する時、フォーマットを実行する時にパスワード入力を求められます。

【注意】パスワードは簡単に覚えておくことができるものを作成してください。また、確認できる別の場所にパスワードをバックアップする事をお勧めします。Androidのセキュリティにより、以前のBrailleSenseのように、ロック解除コードを送信して対応することができません。パスワードを忘れた場合や紛失した場合、ロックを解除するために開発元のHIMS/SELVASに機器を送る必要があります。その場合、復旧後シックスに保存された全てのデータは失われます。個人パスワードの管理はユーザの責任において行われるものであり、シックスを開発元に送る送料および作業費は有償となります。ご了承ください。

パスワード設定を実行するにはプログラムメニューの「設定」でEnterを押すか、プログラムメニューでショートカットのsを押してください。次に上下キーで｢パスワード設定｣まで移動してEnterを押してください。ショートカットはaです。

簡単起動コマンドはF3-nです。

パスワード設定ダイアログボックスは「パスワード設定」、「パスワード環境設定」、「パスワードを工場出荷時設定にリセットする」、「閉じる」の4つの項目で構成されています。パスワードを設定していない状態では「パスワード設定」と「閉じる」の2つです。項目間の移動はF3で行います。

### パスワードの設定/変更

パスワード設定を開くと、「パスワードの設定」オプションが表示されます。 Enterを押すと 「パスワード設定」ダイアログが開きます。 「パスワードの設定」ダイアログは、「パスワード」編集ボックス、「パスワードの再入力」編集ボックス、「確認」ボタン、「取消」ボタンの4つのコントロールで構成されています。

使用するパスワードを「パスワード」入力ボックスに入力します。 「パスワードの再入力」編集ボックスに移動し、もう一度「パスワード」入力ボックスに入力したパスワードを入力してください。パスワードを保存するには、Enterを押すか、F3を押して確認ボタンでEnterを押します。パスワードの保存を取り消すには、Space-zを押すか、F3を押して取消ボタンでEnterを押します。

パスワードが保存されると、「パスワードの設定」オプションが「パスワードの変更」に変わります。パスワードの入力と同じように変更が可能になります。 「パスワードの変更」ダイアログは、新しいパスワードを入力する前に、現在のパスワードを入力する必要がある以外は、全て同じコントロールで構成されています。現在のパスワードを入力して、新しいパスワードを入力したら、新しいパスワードを再入力してください。新しいパスワードを保存するには確認ボタンでEnterを押し、変更を取り消すには取消ボタンでEnterを押してください。

### パスワード環境設定

設定したパスワードの入力を求めることのできる4つの場面において、パスワードを入力するかどうかを設定します。パスワードが設定されていないと環境設定は使用できません。使用するには設定済みのパスワード入力が必要です。

パスワードの設定は、「起動時にパスワードを入力」、「スリープ解除時にパスワードを入力」、「フォーマット時にパスワードを入力」、「ファームウェア更新時にパスワードを入力」の4つのラジオボタンで構成されています。 上下キーを使用して、これらのボタンを「はい」と「いいえ」のいずれかを選択します。選択後、「確認」ボタンでEnterを押して設定を保存します。設定をキャンセルする場合は、「取消」ボタンでEnterを押してください。

### パスワードを工場出荷状態にリセットする

パスワードをリセットしてパスワードが設定されていない状態に戻します。

Enterを押してこのオプションを実行すると、「パスワード設定を初期化しますか？」というメッセージが表示されます。上下キーを使用して「はい」と「いいえ」を選択します。 「はい」の状態で現在のパスワードを入力し、Enterを押してください。「パスワード設定が初期化されました」と表示します。

## 設定の初期化

この設定を実行すると、変更した各種の設定が初期化され、インターネット設定などは削除されます。プログラムメニューの「設定」でエンターを押し、上下キーで「設定の初期化」まで移動してEnterを押します。あるいは、設定メニューでcを押します。

「オプションを初期化しますか？」というメッセージが表示されます。Spaceを押して「はい」か「いいえ」を選択してください。「はい」を選択すると設定の初期化が実行されます。再起動後にシックスのクイックスタートガイドが始まります。「いいえ」を選択するとキャンセルされ「設定」メニューに戻ります。

この機能はシックスの電源がオフの状態で、オーディオボタンの早送りを押さえながら電源ボタンを押しても実行できます。点字ディスプレイにHIMSと表示されるまで早送りボタンを押さえたままにしてください。

## 音声設定

音声設定では合成音声エンジンと音声の設定を行う事が出来ます。

F3-vを押すと音声設定をいつでも実行できます。音声設定ダイアログでは「Braillesense Vocalizer」と「Android TTS」の2つの音声タイプを選ぶコンボボックスが表示されます。Space-1とSpace4で設定項目を移動し、各項目の設定内容詳細をF3で表示します。

### Braillesense Vocalizer

Braillesense Vocalizerと表示した状態でF3を押すとDocument TalkerかVoice Wareから合成音声を選択できます。合成音声リストから上下キーで使用したい音声を選びエンターを押すかF3を押して確認ボタンへ移動してエンターを押してください。選択した合成音声に設定されます。

### Android TTS

このオプションではGooglePlayからダウンロードした合成音声を選択できます。Android TTSと表示した状態でF3を押すとインストールされている合成音声リストを表示します。使用したい合成音声を選びエンターを押すかF3を押して確認ボタンへ移動してエンターを押してください。選択した合成音声に設定されます。

Android TTSの設定については、シックスの合成音声設定操作で、ある程度の設定が可能です。また、Androidシステム設定か「言語と入力」の「テキスト読み上げの出力」を実行すると設定を変更する事ができます。

## オプション設定

オプションメニューにはシックスの設定に関する全ての情報が含まれています。プログラムメニューの「設定」でEnterを押し、上下キーで｢オプション設定｣まで移動してEnterを押します。あるいは、設定メニューでoを押します。

また、どのプログラムを使用しているときでもショートカットキーのSpace-oを押せば直接オプション設定を実行することができます。

オプション設定はグループにまとめられており、多数の設定リストの特定のセクションに簡単にジャンプできます。ページダウン（「Space-3-4-5」または「F3-F4」）または「ページアップ（Space-1-2-6」または「F1-F2」）でグループ間を移動できます。グループに移動すると、そのグループ内の最初の設定項目にフォーカスします。

各設定項目へは、上下キーで移動してください。選択した項目の設定を切替えるにはSpaceを押します。例えば選択肢が｢はい｣と｢いいえ｣である場合、Spaceを繰り返して押すと、｢はい｣と｢いいえ｣が切替わります。

ショートカットキーを使用して、特定の項目にすばやく移動することもできます。

【注意】複数の設定項目に同じショートカットキーが使用されています。ショートカットキーを実行すると、フォーカスが最初に一致する設定項目に移動します。ショートカットキーをもう一度押すと、一致する次の設定項目に移動します。ショートカットに一致する設定項目を全て表示すると最初の一致した項目に戻ります。

オプション設定の項目にはグローバルホットキーを持つ項目も多くあり、どんな操作をしている時でもこれらの設定調整できる場合があります。

※詳しくは「17.1章コマンドキー」をご参照ください。

オプション設定を保存するにはEnterを押すか、F3を使って「確認」ボタンへ移動しEnterを押します。「オプション設定を保存しました。」と表示して、オプション設定を閉じます。変更を保存せずに終了したい場合は、F3で「取消」ボタンへ移動してEnterを押すか、F4またはSpace-zを押してください。

### オプション設定の設定項目

以下オプション設定ダイアログの設定項目です。設定ごとに、カッコ内にショートカットキーを表示し、ホットキーがある場合はカギカッコで記載します。

1. 点字表示：（b）、「Backspace-F3」

点字表示のオン/オフを切り替えます。

1. 点字カーソル：（c）、「F4-上スクロール」

点字ディスプレイに点字カーソルを表示するかどうか設定します。選択できる設定は「常に表示」か「点滅」か「オフ」です。

1. 8点モード：（e）、 「F1-下スクロール」

点字を無変換（NABCC）テキストで表示するときに6点点字にするか、8点点字にするかを選択します。Spaceを押して「オン」（8点）と「オフ」（6点）を切替えます。

1. 英語点字表示：(g)、「Space-g」

使用する英語点字の表示方法を選択します。選択可能な設定は「1級」、「2級」、「無変換（NABCC）」です。

1. コンピュータ点字：(u)

コンピュータ点字の表示および入力方法を選択します。選択可能な設定は「日本情報処理点字」、「無変換（NABCC）」です。

1. 入力モード：(n)

テキスト文書で文字を入力する入力モードのデフォルトを、「日本語変換」、「日本語」、「英語全角」、「英語」から選択できます。デフォルトは｢日本語変換｣です。日本語モードでは日本語点字で入力し、英語モードではオプションの「英語点字入力」で設定されている英語入力方法で入力します。

1. メッセージの表示時間：(m)

シックスの使用中に読み上げられる各種点字メッセージの表示時間を選択できます。メッセージの点字表示は音声がオフのときのみ動作します。設定可能なオプションは1秒から10秒までと、「待機」と「非表示」です。デフォルトは3秒です。「待機」状態からの復旧、または設定した秒数以内にメッセージを消すには何かのキーを押してください。

1. 音声：(v)、「Backspace-F2」

音声出力の「オン」、「オフ」を切替えます。

1. 記号レベル：(p)、「Enter-F3」

句読点と記号をどのように読むか設定します。選択可能なオプションは「全て」、「オフ」、「句読点」、「記号」です。

1. キーボードエコー：(k)、「Enter-F2」

シックスを使用して点字を入力するときに、入力を音声で読み上げるかどうかを選択します。｢文字と単語｣、｢文字｣、｢単語｣、｢オフ｣の中で選択が可能です。デフォルトは｢文字と単語｣で、入力する文字と完成された単語を読み上げます。｢文字｣を選択した場合、キー入力の文字だけを読み上げます。｢単語｣を選択した場合、入力中に単語が完成すると、その単語を読み上げます。

1. 大文字の通知：(u) 大文字を通知するかどうかを設定します。選択できるのは、｢文字列｣、｢ピッチ｣、｢オフ｣です。
2. 数値：(n) 数字の読み上げ方を変更することができます。例えば、オンに設定していると「2017」を「にせんじゅうなな」と読み上げます。オフに設定していると「2017」を「に　ぜろ　いち　なな」と読み上げます。
3. 音声ボリューム：(l)、「Backspace-F1」（音量ダウン）および「Backspace-F4」（音量アップ）

音声ボリュームの調整を行います。

1. 音声速度：(r)、「Space-F1」（速度ダウン）および「Space-F4」（速度アップ）

音声速度の調整を行います。

1. 音声トーン：(t)、「Enter-F1」（トーンダウン）および「Enter-F4」（トーンアップ）音声トーンの調整を行います。
2. 主音量：(v)、「Backspace-Space-F1」（主音量アップ）および「Backspace-Space-F4」（主音量ダウン）

主音量を調節します。主音量を調節するとシステムやオーディオならびに合成音声の音量を変更できます。主音量と音声ボリュームは異なる設定項目です。それぞれを調節することが可能です。音声ボリュームを最大にしても音量が小さく感じる場合は主音量も上げてみてください。

1. スクロールボイス：(s)

シックスのスクロールボタンを使う際に、文章を読み上げるかどうかを設定します。オフの状態では、スクロールするときに文章を読み上げません。オンに設定すると、スクロールするときに文章を読み上げます。

1. LCDディスプレイ：(l) 、「Enter-4-5-6」

シックスの上面にある液晶ディスプレイを使用するかどうかを設定します。このディスプレイには点字ディスプレイに表示される内容が墨字で表示されます。表示内容によっては点字ディスプレイの表示と異なる場合があります。「オン」、「オフ」、「（全て）ライティング」から選択できます。｢（全て）ライティング｣を選択すると液晶のバックライトが点灯します。

1. LCDディスプレイの切り替え：(f)

LCDディスプレイに表示されるテキストを反対向きに切り替えることができます。「オン」に切り替えるとLCDディスプレイに表示されるテキストがシックス使用者の対面から読みやすいように切り替わります。シックスのトレーニング時やサポート時に役立ちます。

1. 画面フォントサイズ：(f)

LCDディスプレイに表示される文字のサイズを変更します。

1. HDMIに仮想点字ディスプレイを表示：(b)

HDMIモニターに接続している際に、点字ディスプレイの表示状態を画面下部に表示するかどうかを設定できます。

1. 警告音：(w)

警告音を設定します。「ビープ」、「振動」、「両方」、「オフ」に設定できます。

1. バッテリーの通知(a)

バッテリー残量が少なくなった際の警告方法を選択します。「メッセージ」、「ビープ」、「最終メッセージ」、「最終ビープ」から設定できます。

1. 起動サウンド：(s) シックスの電源を入れた時に起動サウンドを鳴らすかどうかを選択します。
2. 左側スクロールボタン：(l)

点字ディスプレイの左側にある上下キーボタンを押した際に移動する単位を変更することができます。「行スクロール」「行移動」「文字移動」「段落移動」「文単位で移動」の切り替えができます。

1. 行スクロール

スクロールボタンを押すと行ごとに移動します。ただし点字ディスプレイよりも文字数が長い行を表示する場合は一度に表示できなかった残りの部分にスクロールして全文を表示してから次の行へ移動します。

1. 行移動

スクロールボタンを押すと行ごとに移動します。文章が点字ディスプレイで一度に表示できない長さであっても、行の残りへスクロールせずに次の行へ移動します。Space-1またはSpace-4を押した場合と同じ動作です。

1. 文字移動

スクロールボタンを押すと一文字ずつカーソルを移動する設定です。メニュー項目やリスト項目では機能せずに警告音が鳴ります。Space-3またはSpace-6を押した場合と同じ動作です。

1. 段落移動

スクロールボタンを押すと段落ごとに移動する設定です。メニュー項目やリスト項目では機能せずに警告音が鳴ります。Space-2-3またはSpace-5-6を押した場合と同じ動作です。

1. 文単位で移動

スクロールボタンを押すと文ごとに移動する設定です。メニュー項目やリスト項目では機能せずに警告音が鳴ります。Space-2-3-5またはSpace-2-5-6を押した場合と同じ動作です。

1. 右側スクロールボタン：(r)

点字ディスプレイをはさんで右側にある上下キーボタンを押したときに移動する単位を変更することができます。設定内容は「左側スクロールボタン」と同じです。

1. 空行を飛ばす：(e)

空行を読み上げるかどうかを設定します。「オン」と「オフ」を切替えます。オフの場合には、文書を読み上げる際に空行のところで｢空行｣と表示します。オンの場合には、空行はスキップされ、｢空行｣という読み上げは行われません。

1. コントロール情報：(i)

「前」、「後ろ」、「オフ」から設定します。コントロール情報が「前」または「後ろ」設定されていると、ファイルやメニューのコントロール情報を読み上げます。

例：メニューやリスト項目の前で｢メニュー項目｣｢リスト項目｣などと表示します。コントロール情報がオフの場合は、｢メニュー項目｣や｢リスト項目｣などの音声案内はありません。

ウェブブラウザの使用中は、コントロール情報をオフにしてもコントロール記号を読み上げます。「後ろ」に設定されていると、項目の内容を読み上げた後に最後にコントロール情報を読み上げます。「前」に設定されていると、項目の内容を読み上げる前に最初にコントロール情報を読み上げます。

1. パスワード表示：(p)

パスワード表示がオフに設定されているとコンピュータエディットボックスにてパスワード入力をする際＊（アスタリスク）と表示しパスワードの内容が外部からわからないようにします。オンに設定すると入力内容を確認しながら入力することができます。

1. ホットキー情報：(h)

ホットキーを使うとメニューやリスト内の特定の項目を直接呼び出すことができます。｢ホットキー情報｣設定ではこのようなホットキーの表示と非表示を指定します。

例えば、｢新規 n プルダウン Enter-n｣と表示するときは、｢Enter-n｣という文字がホットキーです。nを除いて｢新規 n プルダウン｣とだけ読ませたい場合は｢ホットキー情報｣をオフにしてください。Spaceキーを押すことで「文字」、「点字キー」、「オフ」と切替わります。デフォルトは「文字」です。先の例ではホットキーを「Space-n」のように文字で表します。「点字」にすると「Space-1-3-4-5」のように点字表記で表します。「オフ」にするとホットキー情報は通知されません。

1. ショートカットキー情報：(s)

ショートカットキーを使うとメニュー内の移動を省略して、ただちにメニュー項目を選択することができます。｢ショートカットキー情報｣ではこのようなショートカットキーの表示と非表示を指定します。

例えば、｢ワードプロセッサ (w)｣と表示したなら、「w」がショートカットキーです。｢ワードプロセッサ｣とだけ読ませたい場合は｢ショートカットキー情報｣をオフにしてください。Spaceキーを押すことで「オン」と「オフ」が切替わります。デフォルトは「文字」です。先の例ではホットキーを「Space-n」のように文字で表します。「点字」にするとSpace-1-3-4-5のように点字表記で表します。「オフ」にするとホットキー情報は通知されません。

1. 電源ボタンの操作：(p)

電源ボタンを軽く押した際にシックスが入る状態を選択します。「画面オフ」と「ディープスリープ」を選ぶことができます。「ディープスリープ」に設定するとBluetoothやWi-Fiをオフにし、バッテリーの消耗が少なくなります。

1. スリープモード：(p)

スリープモードを使うかどうかを設定します。オンに設定されているとスリープモードが作動します。Spaceキーを押して「オン」、「オフ」、「メッセージ」を切り替えます。

スリープモードを使用しない場合はオフにしてください。｢メッセージ｣に設定した場合、長時間シックスのキーを押さないと、10、20、30分（この時間は｢スリープモード時間｣オプションで設定します）後には｢電源オフ｣という警告メッセージを読み上げます。

また、電源アダプタが接続されている場合は、スリープモードは無効です。スリープモードに設定しても電源アダプタが接続されていると、スリープモード時間になってもスリープモードになりません。

1. スリープモード開始：(k)

スリープモードを使用するときに、スリープモードが始まる時間を設定します。デフォルトは｢10分後｣です。デフォルト（10分後）では、シックスの電源が入った状態で10分間使わないとスリープモードに入ります。Spaceキーを押すと10分、20分、30分に時間が変更されます。

1. 今日の予定確認：(s)

シックスの予定帳機能に予定を登録している場合に、シックスの電源オン時に｢今日の予定｣を自動的に表示するかどうかを設定します。「オン」または「オフ」に設定します。

1. 片手モード：(h)、「Backspace-1-2-3」

シックスでは片手モードを選択することができます。デフォルトはオフになっています。Spaceを押すと「オン」、「オフ」を切替えます。片手モードの詳細は2.11を参照してください。

1. ノートパッドの基本文書：(q)

ノートパッドを起動したときに新規に作成される文書の形式を指定します。 選択できる文書は「テキスト文書｣、｢sense文書｣、｢点字文書｣、「DOC文書」、「DOCX文書」、です。

1. 既定のウェブ検索：(w)

ウェブ検索に使用する機能を設定できます。

1. 時計サーバと自動同期：(t)

時計サーバと自動同期をオンに設定すると、シックスがインターネットに接続するたびに日付と時刻を自動的に調整します。

1. 時刻の通知：(t)

時刻を30分ごとか毎時通知することができます。「オフ」、「5分ごと」、「10分ごと」、「30分ごと」、「毎時ごと」のいずれかに設定できます。

1. 進行率表示：(p)

作業の進行率を知らせます。選択可能なのは、｢ビープ｣、｢メッセージ｣、「振動」、「オフ」です。

1. Bluetooth：(b) 、「Backspace-3-4-5-6」

Bluetoothをオンにするか、オフにするかを選択できます。

1. 無線LAN：(w) 、「Backspace-1-4-5-6」

無線LANをオンにするか、オフにするかを選択できます。無線LANを使用しない場合はこのオプションをオフにしておくと、バッテリーの消費電力を抑えることができます。

1. スクリーンリーダーのヒント：(h)

サードパーティのアプリを使用する際にスクリーンリーダーの使い方についてヒントを表示するかどうかを設定します。設定項目は「オン」か「オフ」です。

1. スクリーンリーダーコントロール情報：(i)

サードパーティのアプリをナビゲーションする際に、スクリーンリーダーのコントロールやフィールド情報を読み上げるかどうかを設定します。設定項目は「オン」か「オフ」です。

1. 警告の通知：(n)

アプリからのプッシュ通知を受け取るかどうかを設定します。設定項目は「オン」か「オフ」です。

1. スリープモードで点字表示を有効：(n)

スリープモード中にステータスメッセージを点字で表示するかどうかを設定します。設定項目は「オン」か「オフ」です。

## Androidのバックアップとリセット

Androidのバックアップとリセットを使用すると、Androidシステム設定で行った設定をバックアップしたり復元したりすることができます。またデバイスを工場出荷時にリセットすることもできます。

注意：工場出荷時リセットを実行すると、ファイル・アカウント情報・インストールされたアプリケーション等の全ての個人データが消去されます。これは複雑な手順の作業であり、実行の際は技術サポートにお問い合わせください。正しく作業を完了するために特別な指示が必要です。

## Androidシステム設定

Androidシステム設定は「設定」メニュー最後の項目です。簡単起動コマンドはF3-eです。

実行すると、一般的なAndroid端末と同じ設定ダイアログが開きます。シックス独自の設定と重複する設定もありますが、Androidの設定を変更することが可能です。操作方法はアプリケーションと同じです。F3やSpace-F3を使って画面上のオブジェクトを移動する事ができます。スライダーコントロールを調整するにはBackspace-Space-１またはBackspace-Space-4を使用します。Androidインターフェース操作について詳しくは「13章サードパーティのアプリやアクセサリの使用」をご参照ください。

# ファイル管理

## 概要

シックスのファイル管理はWindowsエクスプローラと似た機能と構造になっています。ファイル管理を実行するには、メインメニューでfを押すか、「ファイル管理」と読み上げたところでEnterを押します。また、F1-fを押せばいつでもファイル管理を起動することができます。

ファイル管理は｢アドレスウィンドウ｣と｢ファイルリスト｣から構成されF3を押して切り替えます。ファイル管理を開くとディスク名を読み上げます。デフォルトでは｢フラッシュディスク｣という内蔵フラッシュドライブを読み上げます。SDカードやUSBメモリが接続されていれば、リストに表示されます。上下キーで、他のディスクへのアクセスができます。目的のディスクを読み上げているときにEnterを押すと、選択したディスク内のファイルやフォルダのリストを読み上げます。

「アドレスウィンドウ」は、現在のディレクトリまたはファイルのパスが含まれます。「アドレスウィンドウ」は最上位レベルのディスクリストでは表示する情報が無いため使用できません。

ファイル管理の実行中にF2を押すと、メニューが表示されます。上下キーを使用して、メニュー項目間を移動します。メニューを開くには、Enterを押します。また、メニューから選べる機能にホットキーがある場合、1回のキーストロークでプログラム内の項目を簡単に実行することができます。

ファイル管理にはダイアログも含まれています。ダイアログボックスのコントロール間を移動するには、F3を使用します。

### ファイルリストでの移動

1. 前の項目へ移動: 上スクロールボタンまたはSpace-1、Ctrl
2. 次の項目へ移動: 下スクロールボタンまたはSpace-4、Alt
3. リストの先頭へ移動: Space-1-2-3
4. リストの最後へ移動: Space-4-5-6

次のキー入力はファイルリストのみで使用可能です。

* 1. フォルダリストまたはファイルリストへ移動: Space-5-6
  2. ファイルリストとアドレスエディットボックス間の移動: Space-4-5またはF3 / Space-1-2またはSpace-F3
  3. 選択したフォルダに入る、または選択したファイルを開く: Enter
  4. 上位レベルのフォルダへ移動: BackSpace
  5. 最上位レベルのディスクへ移動: Space-1-2-5-6
  6. 32項目前へ移動: Space-1-2-6またはF1-F2
  7. 32項目後へ移動: Space-3-4-5またはF3-F4
  8. ファイルリストでファイルとフォルダの最初の文字を入力して移動

### 項目（フォルダまたはファイル）選択キー

1. 項目の選択(Space):リスト内で直前に読み上げられた項目を選択状態にします。 Spaceを押して選択状態になると｢選択｣と表示します。点字ディスプレイの項目名の先頭に\*が表示されます。この状態でSpaceをもう一回押すと選択が取消されます。
2. 連続選択(Enter-b):リスト内の項目を連続選択します。選択したい項目の最初の項目でこのコマンドを実行し、最後の項目まで移動して再び実行すると、その2つの項目間にある全ての項目が選択されます。点字ディスプレイの項目名の先頭に\*が表示されます。
3. 全て選択(Enter-a):現在のパスにある全てのファイルとフォルダを選択します。選択は移動キーを使って項目間を移動しながら確認することができます。点字ディスプレイの項目名の先頭に\*が表示されます。選択解除したい項目でSpaceを押すと、指定した項目の選択を解除することができます。選択解除した項目を再度選択したい場合には再びSpaceを押します。「全て選択」コマンドが実行されると、シックスは選択されたファイルの数を読み上げます。

## ファイルとフォルダの作業

ドライブまたはフォルダの内容を表示する場合、2-3-6と3-5-6で囲まれた項目はフォルダであり、囲まれていない項目はファイルです。

注意：ファイル名がアルファベットの場合は、ファイルであっても外国語引用符として2-3-6と3-5-6で囲まれます。

リスト内の項目の後には、1/5や2/5などの数字が続きます。 この数字は、リスト内の項目の位置とリスト内の合計数を示します。 たとえば、「データベース1/5」は、「データベース」がリスト内の5つの項目を含む最初のフォルダであることを示します。

### フォルダを開く/閉じる

フォルダ名を表示した状態でEnterを押すと表示したフォルダを開き、フォルダ内のリストを表示します。フォルダを開いた状態でBackspaceを押すとフォルダを閉じて１つ前の階層のリストを表示します。

フォルダを「開く」のショートカットはEnter-oです。

### USBメモリとSDカードの取り出し

Androidオペレーティングシステムでは、ドライブを取り外す前に、マウントを解除する操作を行う必要があります。マウントの解除が完了していない状態で、シックスにドライブを再挿入したり、他のモバイルデバイスやンピュータに接続したりすると、正しくデータが表示されない場合があります。 USBメモリやSDカードを取り外す前に、Backspace-Enter-uを押してシステムからマウント解除を実行してください。

実行するとマウント解除可能なドライブの一覧が表示されます。取り外したいドライブ名を上下キーで選んでEnterを押すとマウントが解除されます。続いてドライブを取り出してください。

誤ってマウント解除せず取り出してしまった事で、ファイルが正しく表示されない場合は、シックスに再度ドライブを挿入し、Backspace-Enter-uを押して正しく取り出してください。データが正常に表示されるはずです。

## ファイルメニュー

ファイルメニューを開くには、 F2を押してメニューを表示し、 ファイルでEnterを押します。上下キーを使って使用したい項目を選択してEnterを押して実行します。

シックスは、次のファイル形式をサポートしています。

1. 文書ファイル：hbl、brl、txt、brf、rtf、doc / docx、XLS / XLSX、PPT / PPTX、PDFおよび保護されていないEPUB
2. Webフォーマット：url、html
3. メディアフォーマット：ac3、asf、asx、m3u、mp2、mp3、MP4、ogg、pls、wav、wax、wma、wmv、flac
4. DAISY形式：DAISY 2.0,3.0、BookShare
5. プログラム：APK　インストールするにはEnterを押してください。

ファイルメニューは以下の項目で校正されています。ショートカットはカッコで囲み、ホットキーはカギカッコで囲みます。

* + - 1. 開く：（o）、「Enter-o」　選択したファイルを関連するアプリケーションで開きます。
      2. 文書リーダで開く：（k）「Backspace-r」。 文書リーダがサポートする形式の文書データに対してのみ表示されます。ノートパッドやワードプロセッサではなく、読み取り専用の文書リーダでファイルを開くことができます。
      3. 新しいノートパッドを開く：（w）「Backspace-o」。 互換性のある文書データに対してのみ表示されます。ノートパッドで1つのファイルを開いている状態で使用すると、新しいノートパッドで文書を開きます。2つのファイルは簡単に切り替えることができます。
      4. プログラムから開く：（e）、「Enter-e」　選択したファイルと互換性のあるアプリケーションを選択してファイルを開きます。
      5. 圧縮：（x）、「Enter-z」　ファイルまたはフォルダを圧縮します。
      6. 展開：（u）、「Enter-u」　圧縮ファイルのみに表示されます。圧縮されたファイルを展開します。
      7. 送る：（s）、「Enter-s」　現在のファイルまたはフォルダを別の場所に送ります。送信可能な送り先は接続されているローカルドライブや電子メール。または、送信するファイルの種類によって利用可能なアプリです。
      8. 名前の変更：（r）、「Enter-r」　現在のファイルまたはフォルダの名前を変更します。
      9. 新規文書：（n）、「Enter-n」 TXT、BRL、HBL、DOCXを使用して新しい文書を作成します。
      10. 新しいフォルダ：（f）、「Enter-f」　新しいフォルダを作成します。
      11. ファイル変換：（t）、「Enter-t」　選択したドキュメントファイルをTXT、BRL、またはHBLINDに変換します。
      12. ファイル検索：（b）「Space-f」　現在のドライブまたはフォルダ内の特定のファイルを名前で検索します。
      13. 文字列検索：（c）「Backspace-f」　特定のテキスト文字列の現在のドライブまたはフォルダのWord、テキストおよび点字ファイルを検索します。
      14. ファイル結合：（m）、「Enter-m」　2つ以上のテキストまたは点字ファイルを選択して結合します。
      15. ファイル分割：（p）、「Enter-p」　段落や単語の数、サイズ、または同じサイズの特定の数のファイルに、テキストファイルまたは点字ファイルを分割します。
      16. 情報：（i）、「Enter-i」　現在のファイルまたはフォルダの基本的なプロパティを表示します。
      17. 閉じる：（z）、「Space-z」　ファイルマネージャを終了します。

## 編集メニュー

編集メニューは以下の項目で構成されます。

* + - 1. コピー：（c）、「Enter-c」　選択したファイルまたはフォルダをクリップボードにコピーします。
      2. 切り取り：（x）、「Enter-x」　選択したファイルまたはフォルダをクリップボードに切り取ります。
      3. 貼り付け：（v）、「Enter-v」　クリップボード上のファイルまたはフォルダを現在の場所に貼り付けます。
      4. 削除：（d）、「Space-d」　選択したファイルまたはフォルダを削除します。
      5. 全て選択：（a）、「Enter-a」　現在のリスト内の全てのファイルとフォルダを選択します。

## 表示メニュー

表示メニューは次の項目で構成されます。

* + - 1. ファイル並べ替え：（g）、「Enter-g」　ファイルとフォルダの表示順序を選択します。
      2. ファイル情報設定：（l）、「Enter-l」　リスト内の各ファイルまたはフォルダについて表示される情報を決定します。
      3. 特定の種類のファイルのみを表示：（w）、「Enter-w」　ファイルをファイルタイプ別にフィルタリングします。
      4. システムフォルダを表示/非表示：（h）、「Enter-h」　ユーザコンテンツを含まないAndroidシステムフォルダを表示または非表示にします。
      5. 開始フォルダの設定：(s)、「Backspace-s」　ファイル管理実行時に表示するフォルダを設定できます。
      6. 文書を開くオプション：(d)、「Enter-d」　ワードプロセッサとノートパットのどちらでdocとdocxファイルを開くか設定できます。「毎回選択する」に設定するとdocとdocxファイルを開こうとする度に選択プロンプトを表示します。

## クラウドドライブへのアクセス

ファイル管理を使用して、ファイルの選択と移動、ドキュメントの編集と保存、メディアの再生に関して、本体フラッシュディスクやその他のドライブと同様の方法で、複数のクラウドドライブサービスに保存されているコンテンツを直接操作できます。本書が作成された時点では、Googleドライブ、OneDrive、およびDropboxがサポートされています。

ファイル管理を使用して、クラウドドライブとシックスの間でファイルを簡単に転送したり読み込んだりすることができます。

例えばワードプロセッサやノートパッドを使用して文書ファイルを開いて編集したり、文書リーダでサポートされているファイルを読み取ったり、電子メールにファイルを添付したり、Excelビューアを使用してシートを読み取ったりできます。 WebブラウザでHTMLファイルとHTMファイルを開き、メディアプレーヤーでメディアコンテンツを再生します。「プログラムから開く」機能を使用して、サードパーティのAndroidアプリなどの他のアプリケーションを使用してクラウドドライブファイルを開くこともできます。

注意：コンテンツを上記の他のアプリケーションから利用できるようにするには、ファイル管理からクラウドドライブアカウントにログインする必要があります。

クラウドドライブのいずれかを初めて開くと、サインインページが表示されます。 「F3」と「Space-F3」を使用してページ内を移動し、ログイン情報を入力します。以前にGoogleまたはMicrosoftアカウントにサインインしたことがある場合は、オプションとして表示されることがあります。その場合は、正しいアカウントを選択してEnterキーを押す事でログインできます。

サインイン後、BrailleSenseファイルマネージャーサービスにアカウントへのアクセスを許可する必要があります。許可ボタンを見つけ、Enterキーを押してください。

完了すると、関連するクラウドドライブでEnterキーを押し、ファイル管理からファイルとフォルダの構造を読み込むことができるようになります。前述のアプリケーションを使用すると、ドライブリストにも各クラウドドライブが表示され、シックスのローカルドライブからデータを使用する場合と同じようにファイルやフォルダを選択して使用できます。

ファイルがフォーカスされている状態で「Backspace-L」を押すか、ファイルメニューから「共有リンクの作成」を選択することで、さまざまなクラウドドライブから他のユーザとファイルを共有するためのリンクを作成することもできます。

次の条件に注意してください。

•ファイル管理は、現時点ではファイルとフォルダの操作に制限されています。同時にクラウドドライブサービスはZipなどの機能をサポートしていません。そのため、メニュー項目は削除、名前変更、コピー、貼り付けなどの機能に制限されます。展開や点字、TXTファイルの変換などは使用できません。Space-Hを使用すると、使用可能な機能のリストを表示することができます。

•ファイルやフォルダを開いたり保存したりする機能のみをサポートします。

•「貼り付け」、「切り取り」、「新しいフォルダ」機能は、共有ディレクトリでは使用できません。

•編集したデータをGoogleドライブまたはOneDriveに保存するには、ファイルをマイドライブ領域にコピーする必要があります。

•ストリーミングメディアファイルはサポートされていません。フラッシュディスクの一時フォルダにファイルをダウンロードしてから再生してください。

•一般的に、クラウドドライブとの間でデータを転送するため、ローカルのファイルやフォルダにアクセスする場合よりもファイルを開いたり保存したりするのに時間がかかる場合があります。

## アドレスウィンドウの使用

アドレスウィンドウでは、開きたいファイル名の直接パスを入力できます。このウィンドウには、最近開いたファイルやディレクトリに簡単にアクセスできる履歴リストもあります。

ファイルまたはフォルダのリストにあるときは、F3を押してアドレスウィンドウに移動できます。 シックスは、「flashdisk / download /」のような現在のドライブ名を含む現在のパスを表示します。アドレスウィンドウは、ファイルまたはフォルダの一覧にあるときにのみ表示されます。ドライブリストに入っているときは、アドレスウィンドウは使用できません。

タッチカーソルキーを使用してカーソルを移動することでパスを編集することができます。シックスはカーソル位置にテキストを挿入します。正確なパスとファイル名がわかっている場合は、パスとファイル名を入力して、適切なアプリケーションでファイルを開くことができます。たとえば、アドレスウィンドウに「flashdisk / download」と入力してEnterキーを押すと、シックスはダウンロードフォルダ内のファイルのリストを表示します。アドレス欄に「flashdisk / My Documents / sample.txt」入力してEnterキーを押すと、シックスはワードプロセッサを読み込み、「sample.txt」ファイルを開きます。

アドレスウィンドウで上下キーを使用して、履歴リスト（最近開いたファイルおよびフォルダパスのリスト）を確認します。履歴リストのファイルを開くには、Enterを押します。ファイルが適切なアプリケーションで開きます。

# ワードプロセッサ

ワードプロセッサはdocx及びdocファイルの編集とdoc/docx及びppt/pptx/pptmファイルの読み込みをサポートしています。他の形式の文書ファイルを開くには次章で説明するノートパッドを使用してください。

ワードプロセッサを起動するには、メインメニューのワードプロセッサを選択し、Enterを押してください。または、メインメニューでショートカットキーwを押すと、ワードプロセッサを開くことができます。簡単設定コマンドはF1-wです。

シックスでワードプロセッサを起動すると、空白のdocx文書を開きます。ワードプロセッサの全ての機能を使用するには、ワードプロセッサメニューまたはホットキーを使用します。ワードプロセッサのメニューは、ファイル、編集、挿入、移動、読み上げ、レイアウトで構成されています。これらのメニューを使用するには、F2を押します。上下キーを使用してメニュー項目を選択し、Enterを押して実行します。

メニュー、設定、ファイルリストの操作には、上下キーを使用します。 F3を使用して、ダイアログ内のコントロール間を移動します。項目を実行するにはEnterを押します。

## ファイルメニュー

ファイルメニューには次のオプションがあります。

1. 新規：（n）、「Enter-n」　新規文書を作成します。ワードプロセッサで作成できるのはdocx文書のみです。
2. 開く：（o）、「Enter-o」　既存のファイルを開きます。開く事のできるファイル形式はdoc、docx、ppt、pptx、pptmです。※ppt、pptx、pptmファイルは読み取りのみで編集・保存はできません。
3. 最近使ったファイル：（r）「Backspace-Enter-h」 ワードプロセッサで最近開いたファイルを表示します。ファイルを選択してEnterキーを押すとファイルを開きます。
4. 開かれた文書：（d）「Backspace-Enter-o」 現在開いているすべての文書を表示します。リストから選択して文書を閲覧できます。
5. 保存：（s）、「Enter-s」　現在開いているファイルを保存します。名前を付けていないファイルで実行すると名前を指定して保存します。
6. 名前を付けて保存：（a）、「Space-s」　現在のファイル名を変更して保存します。doc、docxファイルを保存することはできますが、それぞれに変換して保存することはできません。
7. ｂｒｌ形式で保存(x)：「Backspace-enter-x」 現在開いている文書をbrl形式（点字データ形式）で保存します。
8. 印刷：（p）、「Space-p」　現在の文書を印刷します。墨字印刷を行う場合はお使いのプリンタに対応したプラグインのアプリをインストールし、設定する必要があります。
9. 設定：（e）、「Enter-e」　文書オプションを設定するためのダイアログです。設定リスト、カーソル位置の情報、既定のフォルダ、確認とキャンセルで構成されています。

設定リストには、「フォーマット文字表示」、「読み上げ単位」、「読み取り専用 はい/いいえ」、「自動保存間隔」、「自動スクロール速度」、「全ての文書に設定を適用」、「Home/End　移動単位」、「新規ファイル名　日付と時刻/noname」の項目があります。

設定の値を変更するには、上下キーを使用して設定リストを選択し、Spaceで設定内容を変更します。

1. ファイルオープン設定：（t）、　文書ファイルを読み込む方法を設定するダイアログです。ファイルオープン設定項目と確認、取消で構成されています。文書を開いた時に文書全体を読み込みたい場合は「完全に読み込む」を選択してください。最初のページを最初に開いた後に全体の読み込みを開始する場合は「バックグラウンドで読み込み」を選択してください。
2. 閉じる：（z）、「Space-z」 ワードプロセッサを閉じます。

## 編集メニュー

編集メニューには次の項目が含まれています。

1. 選択開始：（b）、「Enter-b」　選択の開始をマークします。選択開始後、カーソルを選択終了位置に移動してください。移動した先のカーソル位置が選択終了位置になります。
2. コピー：（c）、「Enter-c」　選択したテキストをクリップボードにコピーします。
3. 切り取り：（x）、 「Enter-x」　選択したテキストをクリップボードに切り取ります。
4. 貼り付け：（v）、「Enter-v」　クリップボードから現在のカーソル位置にテキストを貼り付けます。
5. 削除：（d）「Space-d」 選択したテキストを削除します。
6. 空行削除：（l）、「Backspace-e」　選択したテキスト領域から空白行を削除します。
7. クリップボードに追加：（p）、「Enter-p」　以前のクリップボードを削除せずに、選択したテキストをクリップボードに追加します。
8. クリップボードをクリア：（e）、「Enter-d」　クリップボードを空にします。
9. 全て選択：（a）、「Enter-a」　文書内の全てのテキストを選択します。
10. 挿入/上書きモード変更：（i）、「Space-i」　　テキストを入力する際に、カーソル位置に挿入するか、上書きするかを切り替えることができます。

## 挿入メニュー

1. マーク設定：（m）、「Enter-m」 現在のカーソル位置にブックマークを設定します。
2. マーク移動：（j）、「Enter-j」 設定したマークへ移動します。
3. マーク削除：（d）、「Backspace-d」 これまでに設定したマークを削除します。
4. ファイルから挿入：（i）、「Enter-i」 現在のカーソル位置に他のファイルの文書全文を挿入します。
5. 日付の挿入：（w）、「Enter-w」　現在のカーソル位置に今日の日付を挿入します。
6. 時間の挿入：（u）、「Backspace-w」 現在のカーソル位置に現在時刻を挿入します。
7. フォームフィードの挿入：（p）、「Space-Backspace-Enter-p」 現在のカーソル位置にフォームフィードを挿入します。
8. タブの挿入：（t）、「Space-Backspace-Enter-i」 現在のカーソル位置にタブを挿入します。

## 移動メニュー

1. 検索：（f）、「Space-f」　本文から文字列を検索します。「検索文字列｣、｢検索方向｣、｢確認｣ボタン、｢取消｣ボタンで構成された検索ダイアログボックスを開きます。F3で各項目を切り替えることができます。

「検索文字列」エディットボックスに検索したい文字列を入力し、「検索方向」でSpaceを押して「前へ」または「次へ」を切り替えてください。Enterを押すと検索を実行し、検索文字列が本文中にあればそこへ移動します。

「検査方向」リストボックスで上下キーボタンを押すと「文字種判別」のオン/オフ（大文字と小文字の判別）と「スペースを無視」のオン/オフを設定する事ができます。

必要項目の入力後Enterを押すか、「確認」ボタンを実行すると検索を開始します。

1. 次を検索：（h）、「Enter-f」　前回検索した文字列と検索方向で再度検索を行います。
2. 前を検索：（v）、「Backspace-f」　以前検索した文字列で検索方向を逆にして検索します。
3. 置換：（r）、「Enter-r」　テキスト文字列を検索し、代替文字列に置き換えます。

「検索文字列」、「検索方向」、「確認」、「取消」で構成されたダイアログが表示されます。これらのコントロールはF3で切り替える事ができます。

「検索文字列」で検索したい文字列を入力し、下スクロールを押すと「置換文字列」が表示されます。置換文字列に置換したい文字列を入力してください。

「検索方向」ではSpaceを押すことで検索方向を「次へ」と「前へ」とを切り替える事ができます。検索方向を決めてEnterを押すと検索した文字列を置換文字列に置き換えます。

「検索方向」リストボックスで上下キーボタンを押すと「文字種判別」のオン/オフ（大文字と小文字の判別）と「スペースを無視」のオン/オフを設定する事ができます。

必要項目の入力後Enterを押すか、「確認」ボタンを実行すると置換を開始します。

1. 指定位置に移動：（l）、「Enter-l」　指定した位置にすぐに移動する機能です。「ページ」や「段落」、「行」。「パーセンテージ」を指定して移動できます。
2. 前の文へ：（e）、「Space-2-3-6」 一つ前の文へ移動します。
3. 次の文へ：（x）、「Space-3-5-6」 一つ次の文へ移動します。
4. 前のページへ：（b）、「Space-1-2-6」　1ページ前へ移動します
5. 次のページへ：（g）、「Space-3-4-5」 1ページ次へ移動します。
6. 前の文書へ：（p）、「Space-1-2」　複数の文書が開いている場合は、ファイルを開いた順に前の文書に移動します。
7. 次の文書へ：（n）、「Space-4-5」　現在編集中の文書を開く前に開いた文書に移動することができます。

## 読み上げメニュー

1. 選択したテキストを読み上げ：（b）、「Backspace-b」　選択したテキストを読み上げます。
2. 選択したテキストの最初を読み上げ：（u）、「Enter-u」　選択したテキストの最初の行を読み上げます。
3. 先頭からカーソルまで読み上げ：（t）、「Backspace-g」　文書の先頭から現在のカーソル位置までを読み上げます。
4. カーソルから最後まで読み上げ：（g）、「Enter-g」　現在のカーソル位置から文書の最後までを読み上げます。
5. 自動スクロール：（a）　「上スクロール-下スクロール」　自動スクロール機能を開始/停止します。 「ファイル」メニューの「設定」で、自動スクロールの速度を設定できます。
6. 現在の文を読み上げ：（e）、「Space-1-4-5-6」 現在の文を読み込みます。
7. 現在の行を読み上げ：（l）、「Space-c」 現在の行を読み込みます。
8. 現在の単語を読み上げ：（w）、「Space-2-5」　現在の単語を読み上げます。2回連続して押すと詳細読みをします。
9. 現在の文字を読み上げ：（c）、「Space-3-6」　現在の文字を読み上げます。2回連続して押すと詳細読みをします。
10. カーソル位置を読む：（r）、「Space-1-5-6」　現在のカーソル位置をページ、段落、単語、行として読み上げます。
11. 状態を読み上げ：（s）、「Space-3-4」　文書のタイトルを読み上げます。また、挿入モードか上書きモードかを表示します。
12. 文字数とスペース数を確認：（i）、「Backspace-i」　文書中のカーソル位置までの文字数と総文字数、カーソル位置までのスペース数と総スペース数を読み上げます。
13. フォント情報の読み上げ：(f)、「Backspace-enter-n」 実行すると、カーソル位置にある文字のフォント情報を読み上げます。

## レイアウトメニュー

1. フォント：(f)、「Backspace-enter-f」 フォントダイアログボックスを開いてフォントの設定を行います。ダイアログボックスは「設定項目」リスト、「デフォルトとして保存」ボタン、「確認」ボタン、「取消」ボタンで構成されています。コントロール間はF3で切り替えます。「設定項目」リストで上下キーを押して項目を選択し、スペースキーで設定内容変更することができます。
2. スタイル設定：（s）、「Space-Backspace-Enter-s」 スタイル設定ダイアログが開き、現在カーソルのある行のスタイルを変更します。
3. 印刷段落レイアウト：（c）、「Backspace-2-3-4-6」　現在の段落の墨字文書印刷形式とスタイルを指定します。「マージン設定」リスト、「文字揃え」、「確認」ボタン、「取消」ボタンで構成されたダイアログです。これらのコントロールはF3で切り替える事ができます。

「左マージン」で上下キーを押すと「右マージン」、「インデント」、「行間」に設定項目が切り替わります。何mmに設定するかを数字で入力してください。

「文字揃え」で上下キーを押すと文字の揃え方を設定する事ができます。各設定はSpaceを押して設定を切り替える事ができます。

Enterを押すか「確認」ボタンを実行すると設定が保存されます。

1. 印刷文書レイアウト：（t）「Backspace-t」　現在の墨字文書のページのフォーマットを設定します。「上マージン」、「ページナンバリング」、「確認」、「取消」で構成されたダイアログです。これらのコントロールはF3で切り替える事ができます。

「上マージン」で上下キーを押すと「下マージン」、「左マージン」、「右マージン」、「ヘッダー」、「フッター」、「行間」に設定項目が切り替わります。何mmに設定するかを数字で入力してください。

「ページナンバリング」はSpaceを押して設定を切り替える事ができます。

Enterを押すか「確認」ボタンを実行すると設定が保存されます。

## その他のコマンド

ワードプロセッサでは、次のコマンドを使用できます。

1. 太字のオン/オフ：Ctrl-b
2. イタリックのオン/オフ：Ctrl-i
3. 下線のオン/オフ：Ctrl-u
4. 現在の段落を削除: Backspace-2-3-5-6
5. 現在の行を削除: Backspace-1-4
6. 現在の文節を削除: Backspace-2-5
7. 現在の文字を削除: Space-d
8. フォーマット文字表示のオン/オフ: Space-1-4-6
9. 読み取り単位の設定: Space-2-4-6
10. 読み取り専用のオン/オフ: Space-3-4-6
11. 改ページ挿入：Backspace-Space-Enter-p
12. 現在の行を左に揃える：Backspace-Space-Enter-ｊ
13. 現在の行を中央に揃える：Backspace-Space-Enter-c
14. 現在の行を右に揃える：Backspace-Space-Enter-ｒ
15. スライドを１つ進む（パワーポイントのデータのみ）：Space
16. スライドを１つ戻る（パワーポイントのデータのみ）： Backspace
17. 指定位置へ移動：Enter-l
18. ダブルキャリッジリターンで戻る：Backspace-Space-2-3
19. ダブルキャリッジリターンで進む：Space-Enter-5-6
20. 次の見出しへ移動：Space-2-5-6
21. 前の見出しへ移動：Space-2-3-5

# ノートパッド

ノートパッドはrtf、txt、hbl、brl、brf及びフォーマットされていないdocxファイルの読取と作成をサポートしています。pdf、epub、doc、docxを開くことができます。

PowerPointのファイルの閲覧、word文書のフォーマット作成や保存は前章で説明したワードプロセッサを使用してください。

参考：ノートパッドを使ってWord文書を開く事はできますが、書式設定などの情報がすべて削除されます。

ノートパッドを起動するには、メインメニューのノートパッドで、Enterを押してください。または、メインメニューでショートカットキーnを押すと、ノートパッドを開くことができます。簡単設定コマンドはF1-nです。

シックスでノートパッドを起動すると、空白の新規文書を開きます。ノートパッドの全ての機能を使用するには、ノートパッドのメニューまたはホットキーを使用します。メニューは、ファイル、編集、挿入、移動、読み上げ、レイアウトで構成されています。これらのメニューを使用するには、F2を押します。上下キーを使用してメニュー項目を選択し、Enterを押して実行します。

メニュー、設定、ファイルリストの操作には、上下キーを使用します。 F3を使用して、ダイアログ内のコントロール間を移動します。項目を実行するにはEnterを押します。

## ファイルメニュー

ファイルメニューには次のオプションがあります。

1. 新規：（n）、「Enter-n」　新規文書を作成します。文書の種類を「センス文書」、「点字文書」、「DOC文書」、「DOCX文書」、「テキスト文書」から選択できます。
2. 新しいノートパッドを開く：（w）「Backspace-o」　2つ目のノートパッドを開きます。開いているファイルをより簡単に切り替えることができます。
3. 開く：（o）、「Enter-o」　既存のファイルを開きます。開く事のできるファイル形式はtxt、doc、docx、rtf、hbl、brl、brf、epub、pdf、xml、html、htm、csv、bes、betです。
4. 最近使ったファイル：（r）「Backspace-Enter-h」　ノートパッドで最近開いたファイルを表示します。
5. 開かれた文書：（d）「Backspace-Enter-o」　現在開いているすべての文書をリストに表示します。文書は上下移動で選択することができます。
6. 保存：（s）、「Enter-s」　現在開いているファイルを保存します。名前、保存場所、ファイル形式を指定して保存します。ファイル形式は点字データの場合、brl、brf、hpf、bes、txt、docx、rtf、hbl式に変更可能です。墨字データの場合、txt、docx、rtf、hbl、brl、brf、hpf、bes形式に変更可能です。点字データを墨字データに変更した場合、カタカナの分かち書きに変換されて保存します。墨字データを点字形式で保存した場合、点字データに自動点訳して保存します。
7. 名前を付けて保存：（a）、「Space-s」　現在のファイル名、ファイル形式、保存場所を変更して保存します。hpfファイルタイプを使用してファイルをパスワードで保護する事もできます。ファイル形式は点字データの場合、brl、brf、hpf、bes、txt、docx、rtf、hbl式に変更可能です。墨字データの場合、txt、docx、rtf、hbl、brl、brf、hpf、bes形式に変更可能です。点字データを墨字データに変更した場合、カタカナの分かち書きに変換されて保存します。墨字データを点字形式で保存した場合、点字データに自動点訳して保存します。印刷：（p）、「Space-p」　点字印刷のみ可能です。点字プリンタと接続して印刷を行ってください。
8. 印刷：（p）、「Space-p」現在の文書を印刷します。墨字印刷を行う場合はお使いのプリンタに対応したプラグインのアプリをインストールし、設定する必要があります。
9. 設定：（e）、「Enter-e」　文書オプションを設定するためのダイアログです。設定リスト、カーソル位置の情報、デフォルトフォルダ、パスワードの設定、確認と取消で構成されています。

設定リストには、「フォーマット文字表示」、「読み上げ単位」、「読み取り専用 はい/いいえ」、「自動保存間隔」、「自動スクロール速度」、「全ての文書に設定を適用」、「Home/End　移動単位」、「新規ファイル名　日付と時刻/noname」の項目があります。

設定の値を変更するには、上下キーを使用して設定リストを選択し、Spaceで設定内容を変更します。

1. 閉じる：（z）、「Space-z」　ノートパッドを閉じます。

シックスでは文書をパスワードで保護する事が可能です。文書を保護されたファイルとして保存する前にファイルメニューの設定オプションでパスワードを設定してください。

パスワード設定ダイアログは以下の項目で構成されています。

1. オリジナルファイルを削除する　チェックボックス
2. パスワードを入力してください　編集ボックス
3. もう一度パスワードを入力してください　編集ボックス
4. 確認ボタン
5. 取消ボタン

パスワードを設定したら、名前を付けて保存ダイアログでファイル種類をhpfにして保存してください。パスワードの掛かった文書ファイルを作成する事ができます。

## 編集メニュー

編集メニューには次の項目が含まれています。

1. 選択開始：（b）、「Enter-b」　選択の開始をマークします。選択開始後、カーソルを選択終了位置に移動してください。移動した先のカーソル位置が選択終了位置になります。
2. コピー：（c）、「Enter-c」　選択したテキストをクリップボードにコピーします。
3. 切り取り：（x）、 「Enter-x」　選択したテキストをクリップボードに切り取ります。
4. 貼り付け：（v）、「Enter-v」　クリップボードから現在のカーソル位置にテキストを貼り付けます。
5. 削除：（d）「Space-d」 選択したテキストを削除します。
6. 空行削除：（l）、「Backspace-e」　選択したテキスト領域から空白行を削除します。
7. クリップボードに追加：（p）、「Enter-p」　以前のクリップボードを削除せずに、選択したテキストをクリップボードに追加します。
8. クリップボードを空にする：（e）、「Enter-d」　クリップボードを空にします。
9. 全て選択：（a）、「Enter-a」　文書内の全てのテキストを選択します。
10. 挿入/上書きモード切替：（ｌ）、「Space-l」　　テキストを入力する際に、カーソル位置に挿入するか、上書きするかを切り替えることができます。

## 挿入メニュー

1. マークを設定：（m）、「Enter-m」 現在のカーソル位置にブックマークを設定します。
2. マークへ移動：（j）、「Enter-j」 設定したマークへ移動します。
3. マーク削除：（d）、「Backspace-d」 これまでに設定したマークを削除します。
4. ファイルから挿入：（i）「Enter-i」 現在のカーソル位置に他のファイルの文書全文を挿入します。
5. 日付の挿入：（w）、「Enter-w」　現在のカーソル位置に今日の日付を挿入します。
6. 時間の挿入：（u）、「Backspace-w」 現在のカーソル位置に現在時刻を挿入します。
7. フォームフィードの挿入（p）、「Space-Backspace-Enter-p」

## 移動メニュー

1. 検索：（f）、「Space-f」　本文から文字列を検索します。「検索文字列｣、｢検索方向｣、｢確認｣ボタン、｢取消｣ボタンで構成された検索ダイアログボックスを開きます。F3で各項目を切り替えることができます。

「検索文字列」エディットボックスに検索したい文字列を入力し、「検索方向」でSpaceを押して「前へ」または「次へ」を切り替えてください。Enterを押すと検索を実行し、検索文字列が本文中にあればそこへ移動します。

「検査方向」リストボックスで上下キーボタンを押すと「文字種判別」のオン/オフ（大文字と小文字の判別）と「スペースを無視」のオン/オフを設定する事ができます。

必要項目の入力後Enterを押すか、「確認」ボタンを実行すると検索を開始します。

1. 次を検索：（h）、「Enter-f」　前回検索した文字列と検索方向で再度検索を行います。
2. 前を検索：（v）、「Backspace-f」　以前検索した文字列で検索方向を逆にして検索します。
3. 置換：（r）、「Enter-r」　テキスト文字列を検索し、代替文字列に置き換えます。

「検索文字列」、「検索方向」、「確認」、「取消」で構成されたダイアログが表示されます。これらのコントロールはF3で切り替える事ができます。

「検索文字列」で検索したい文字列を入力し、下スクロールを押すと「置換文字列」が表示されます。置換文字列に置換したい文字列を入力してください。

「検索方向」ではSpaceを押すことで検索方向を「次へ」と「前へ」とを切り替える事ができます。検索方向を決めてEnterを押すと検索した文字列を置換文字列に置き換えます。

「検査方向」リストボックスで上下キーボタンを押すと「文字種判別」のオン/オフ（大文字と小文字の判別）と「スペースを無視」のオン/オフを設定する事ができます。

必要項目の入力後Enterを押すか、「確認」ボタンを実行すると置換を開始します。

1. 指定位置に移動：（l）、「Enter-l」　指定した位置にすぐに移動する機能です。「ページ」や「段落」、「行」。「パーセンテージ」を指定して移動できます。
2. 前の文へ：（e）、「Space-2-3-6」 一つ前の文へ移動します。
3. 次の文へ：（x）、「Space-3-5-6」 一つ次の文へ移動します。
4. 前のページへ：（b）、「Space-1-2-6」　1ページ前へ移動します
5. 次のページへ：（g）、「Space-3-4-5」 1ページ次へ移動します。
6. 前の文書へ：（p）、「Space-F3」　複数の文書が開いている場合は、ファイルを開いた順に前の文書に移動します。
7. 次の文書へ：（n）、「F3」　現在編集中の文書を開く前に開いた文書に移動することができます。

## 読み上げメニュー

1. 選択したテキストを読み上げ：（b）、「Backspace-b」　選択したテキストを読み上げます。
2. 選択したテキストの先頭行を読み上げ：（u）、「Enter-u」　選択したテキストの先頭行を読み上げます。
3. 先頭からカーソルまで読み上げ：（t）、「Backspace-g」　文書の先頭から現在のカーソル位置までを読み上げます。
4. カーソルから最後まで読み上げ：（g）、「Enter-g」　現在のカーソル位置から文書の最後までを読み上げます。
5. 自動スクロール：（a）　「上スクロール-下スクロール」　自動スクロール機能を開始/停止します。 「ファイル」メニューの「設定」で、自動スクロールの速度を設定できます。
6. 現在の文を読み上げ：（e）、「Space-1-4-5-6」　現在の文を読み込みます。
7. 現在の行を読む：（l）、「Space-1-4」　現在の行を読み込みます。
8. 現在の単語を読み上げ：（w）、「スペース2-5」　現在の単語を読み上げます。2回連続して押すと詳細読みをします。
9. 現在の文字を読み上げ：（c）、「スペース3-6」　現在の文字を読み上げます。2回連続して押すと詳細読みをします。
10. カーソル位置を読む：（r）、「Space-1-5-6」　現在のカーソル位置をページ、段落、単語、行として読み上げます。
11. 状態を読み上げ：（s）、「Space-3-4」　文書のタイトルを読み上げます。また、挿入モードか上書きモードかを表示します。
12. 文字数とスペース数を確認：（i）、「Backspace-i」　文書中のカーソル位置までの文字数と総文字数、カーソル位置までのスペース数と総スペース数を読み上げます。

## レイアウトメニュー

1. 点字段落レイアウト：（b）、「Backspace-1-2-4-6」　現在の段落のインデントを設定します。

「先頭行のインデント」と「先頭以外全ての行のインデント」を設定できます。インデントの文字数を数字で入力してください。

Enterを押すか「確認」ボタンを実行すると設定が保存されます。

1. 点字文書レイアウト：（p）、「Backspace-p」　現在の文書の点字書式を設定します。

「1行の文字数設定」、「印刷タイプ」、「確認」、「取消」で構成されたダイアログです。これらのコントロールはF3で切り替える事ができます。

「1行の文字数設定」で上下キーを押すと「ページ行数設定」、「ヘッダー」、「フッター」に設定項目が切り替わります。必要な文字数や行数を数字で入力してください。

「印刷タイプ」で上下キーを押すと「ページ付け」、「ページ位置」、「配置」を設定する事ができます。各設定はSpaceで設定を切り替える事ができます。

Enterを押すか「確認」ボタンを実行すると設定が保存されます。

## その他のコマンド

ノートパッドでは、次のコマンドを使用できます。

1. 現在の段落を削除: Backspace-2-3-5-6
2. 現在の行を削除: Backspace-1-4
3. 現在の文節を削除: Backspace-2-5
4. 現在の文字を削除: Space-d
5. 読み取り単位の設定: Space-2-4-6
6. 読み取り専用のオン/オフ: Space-3-4-6

# 電子メール

電子メールを使用するには、インターネットサービスプロバイダから提供された電子メールアカウントを持っているか、GmailやHotmailなどの無料アカウントにサインアップしている必要があります。電子メールアカウントは、シックスでアクセスするために、POP3（Post Office Protocol 3）またはIMAP（Internet Message Access Protocol）と、SMTP（Simple Mail Transfer Protocol）をサポートする必要があります。

電子メールを使用する前に、シックスがインターネットにアクセスするように設定する必要があります（3.2章 インターネット設定参照）。

電子メールのメニューを実行するには、Space-mまたはF2を押します。メニュー項目を選択してEnterを押します。Space-1とSpace-4または上下キーを使用して、メニュー間や設定間やファイル一覧を移動します。Space-4-5とSpace-1-2、あるいはF3とSpace-F3を使用して、ダイアログ内のコントロール間をタブ移動します。

参考： 電子メールのメニューは、実行中のタスクによって変わります。例えば、電子メールのInbox（受信メールボックス）を表示している場合、メール作成時とは使用可能なメニュー項目が異なります。

## 電子メールの起動

電子メールを使用するには、シックスに電子メールのアカウント情報を設定する必要があります。

電子メールを実行するには、プログラムメニューでSpace-1またはSpace-4を押して電子メールに移動しEnterを押すか、プログラムメニューでeを押します。簡単起動コマンドはF1-eです。

初めて電子メールを起動すると、シックスは「ツールメニューのアカウントマネージャーでアカウントを設定してください。」と表示し、Inboxを開きます。

Inboxは電子メールのメインウィンドウです。初めて電子メールプログラムを実行すると、Inboxには受信メールがないため、シックスは「リストなし」と表示します。

Inboxに電子メールメッセージがある場合、「Inboxを開いています。」と通知し、「XX%進行中」と点字表示されます。処理が100%に達すると、Inboxが開いて受信したメッセージリストを表示します。

アカウントの設定後Space-F3を押すと、メールボックスの一覧を表示します。初期状態では以下のメールボックスがあります。

1) Inbox: 削除されていないあるいは別のフォルダに保存されていない受信メールがあります。

2) Sent: 送信済みのメッセージを保存します。

3) Outbox: 送信待ちのメッセージ、Outboxに保存したメールや送信に失敗したメールもあります。

4) Trash: メールボックスから削除したメールがあります。

## アカウントの設定

アカウントマネージャーにアクセスするには、F2でメニューを開いてツールに移動し、Enterを押します。アカウントマネージャーはツールメニューの最初の項目ですので、再度Enterを押して開きます。また、電子メールのどの局面でもEnter-mを押すことでアカウントマネージャーを実行することもできます。

初めて設定する場合「アカウント名: リストがありません」と表示されます。

アカウントマネージャーダイアログには、アカウントの一覧、情報ボタン、登録ボタン、修正ボタン、削除ボタン、閉じるボタンがあります。

電子メールアカウントの追加は、以下の手順で行います。

1. アカウントマネージャーを起動し、F3で追加ボタンに移動してEnterを押します。
2. ダイアログが開き使用するメールサーバの選択を行います。Spaceを押すたびに「POP3」、「IMAP」、「EXCHANGE」が切り替わります。設定するメールサーバを選択してF3を押してください。
3. 続いてサーバの種類が表示されます。これはコンボボックスで、手動でアカウントを設定するか、GoogleかOutlookの情報を自動的に入力することができます。上下移動でサーバの種類を選択します。使用したいサーバが一覧にない場合は、手動を選択してください。F3を押してアカウントの設定リストに移動します。

参考：F3でコントロール間を移動した場合、Space-F3を押すと前の項目に戻ります。

1. アカウント名：と表示されます。電子メールアカウントを識別する名前を入力します（例：「Gmail」あるいは「仕事用メール」など）。
2. F3を押して、ユーザ名に移動します。メールを送った際、相手に表示したい名前をエディットボックスに入力します。
3. F3を押して、電子メールアドレスに移動します。エディットボックスに電子メールアドレスを入力します（コンピュータ点字で入力します）。（例：sense@himsintl.comなど。）
4. F3を押してログオンユーザ名に移動します。エディットボックスにログオンユーザ名を入力します（コンピュータ点字で入力します）。（例：Sense、あるいはsense@himsintl.comなど）。

参考：一部のプロバイダでは、電子メールアドレス全体をユーザ名として使用する必要がありますが、アドレスのアットマークの前の部分のみを使用するプロバイダもあります。電子メールプロバイダが設定しているユーザ名を正しく入力してください。

1. F3を押してパスワードに移動します。エディットボックスにパスワードを入力します。（コンピュータ点字で入力）

参考：オプション設定でパスワード表示をオンに設定しない場合には入力したパスワードを確認できないので、慎重に入力してください。

1. F3を押して受信サーバ？に移動します。受信サーバの種類としてIMAPを選択した場合は、受信IMAPサーバ？が表示されます。受信サーバの種類としてPOP3を選択した場合は、受信POP3サーバが表示されます。エディットボックスに受信サーバドレスを入力します（コンピュータ点字で入力します）。（例： imap.himsintl.com、またはpop.himsintl.comなど）。ご使用の受信サーバドレスについては、アカウントのプロバイダに確認してください。
2. F3を押して、送信サーバに移動します。エディットボックスにSMTPサーバのアドレスを入力します（コンピュータ点字で入力します）。SMTPサーバの正確なアドレスについては、アカウントのプロバイダに確認してください。
3. F3を押すと詳細設定ボタンに移動します。詳細設定では、ポート番号や暗号化の設定を行います。必要な場合はEnterを押して詳細設定へ進んでください。詳細設定については次節で説明します。
4. F3を押すと「確認」ボタンに移動します。設定を保存して終了する場合はEnterを押してください。設定を取り消す場合はもう一度F3を押して「取消」ボタンに切り替えてEnterを押してください。
5. 設定を完了してダイアログを閉じると、追加したアカウント名を含むアカウント名の一覧を表示します。(例: アカウント名: Polaris 1/1)
6. アカウントの追加を終了する場合は、Space-zを押してInboxに戻ります。

参考：多くの電子メールサービスプロバイダは、異なるポート番号を持つ安全なサーバを使用します。サービスプロバイダで暗号化を使用する必要がある場合、以下で説明する詳細設定ダイアログでこれらのオプションを設定する必要があります。

参考：電子メールアカウントを設定するためのいくつかの項目では、コンピュータ点字を使用する必要があります。ID、パスワード、およびアドレスを入力するには、次章の点字記号のリストを確認してください。

詳細設定ダイアログ

署名を作成したり、詳細設定ダイアログで詳細なオプションを設定したりすることができます。

1. 前述した手順でアカウントマネージャーを起動します。
2. 新しいアカウントを作成中の場合には、F3で登録ボタンに移動してEnterを押します。作成済みのアカウントに詳細設定を行う場合には、F3で修正ボタンに移動してEnterを押します。
3. アカウントの設定に必要な項目を全て入力したら、F3を押して詳細設定に移動してEnterを押します。
4. 「secure POP3（POP3-SSL）?」または「secure IMAP（IMAP-SSL）?」と表示されます。POP3またはIMAPサーバがSSLを使用している場合は、Spaceを押してラジオボタンの「はい」を選択してください。
5. F3を押してPOP3（またはIMAP）ポート番号に移動します。POP3は既定で110に設定されており、IMAPは既定で143に設定されています。プロバイダで異なるポート番号を設定する必要がある場合は、エディットボックスにそのPOP3またはIMAPポート番号を入力します。

参考：上記のSSLを使用にすると、SSLを使用するほとんどのサーバでPOP3のポート番号は自動的に995に変更され、IMAPのポート番号は993に変更されます。

1. F3を押してSMTP暗号化方式に移動します。設定値は、なし、SSL、TLSです。送信SMTPサーバがSSLまたはTLSを使用している場合は、Spaceを押して値を変更します。
2. F3を押してSMTPポート番号に移動します。既定値は25に設定されています。暗号化の種類にSSLを選択した場合、SSLを使用するSMTPサーバで最も一般的に使用されるように、既定のポート番号は465に設定されます。TLSを選択した場合、既定のSMTPポート番号は587に設定されます。プロバイダで異なるSMTPポート番号を使用する場合は、エディットボックスに異なる値を入力します。
3. F3を押してSMTPユーザ名に移動します。インターネットアカウントプロバイダで別のSMTPユーザ名を使用する必要がある場合は、このエディットボックスに入力します。
4. F3を押してSMTPパスワードに移動します。上記のIDに対応するパスワードを入力します。（コンピュータ点字で入力します）。SMTPユーザ名とパスワードが受信のユーザ名とパスワードと同じ場合には、これらの項目は空白のままにします。
5. F3を押して既定の送信アカウントとするに移動します。Spaceを押して　「はい」または「いいえ」を切り替えてください。

※1つ目のアカウント設定時にはこの項目は表示されません。

1. F3を押してサーバにメールのコピーを残しますか？に移動します。Spaceを押して「はい」または「いいえ」を切り替えてください。
2. 下移動を押してSentbox（送信ボックス）にメールを保存するに移動します。Spaceを押して「はい」または「いいえ」を切り替えてください。
3. 下移動を押して「署名を追加」へ移動します。Spaceを押して、送信メールに自動的に署名を追加する場合は「はい」署名を追加しない場合は「いいえ」を選択してください。
4. F3を押すと 署名：の複数エディットボックスに移動します。電子メールに添付する署名の情報を入力してください。
5. F3で確認ボタンに移動してEnterを押すと、詳細設定を完了し詳細設定を保存します。
6. もう一度F3を押すとアカウント設定の確認ボタンに移動します。Enterを押して、アカウント設定を保存します。

## アカウントの管理

### 情報

保存した電子メールアカウントについての情報を表示するには、前述したアカウントマネージャーを開きます。情報を表示したいアカウントに移動してF3キーを押して「情報」を選択してEnterを押します。

このダイアログでは、電子メールアカウントに関連する全ての情報を確認することができます。Space-1またはSpace-4を使用して、アカウントの設定の一覧を移動します。Space-eを押して、アカウントの一覧に戻ります。

### 修正

電子メールアカウントの情報を変更するには、アカウントマネージャーのアカウントリストで目的のアカウントを表示し、F3を押して修正ボタンに移動し、Enterを押します。ショートカットはEnter-mです。

修正ダイアログを開くと、表示された情報を変更することができます。修正ダイアログは、全ての情報が既に入力されていること以外は、アカウント設定ダイアログと全く同じです。通常の編集および移動コマンドを使用して情報に移動し、必要な変更を行います。

修正が完了したら、F3で確認ボタンに移動してEnterを押します。

### 削除

電子メールアカウントを削除するには、以下の手順を実行します。

1) 前述した手順でアカウントマネージャーを開きます。

2) Space-4またはSpace-1で目的のアカウントに移動します。

3) 目的のアカウントが表示されたら、Space-dを押すか、F3で削除ボタンに移動してEnterを押します。

4) 「（アカウント名の）アカウントを削除しますか？ はい」という問い合わせが表示されます。

5) Enterを押してアカウントを削除します。Space-zを押して削除を取り消します。

## 電子メールの受信

新しいメールが届いているかを確認するには「新着メール受信」を実行します。ホットキーはEnter-nです。F2を押してメニュー項目のメッセージから「新着メール受信」を実行する事もできます。

POP3アカウントの場合、「X通受信します。受信中」のように表示されます。「X/Y通受信しました」「X通受信しました」のようなメッセージが表示されます。電子メールメッセージがサーバからダウンロードされると、電子メールメッセージの一覧がInboxに表示されます。

ダウンロードを取り消すには、F3で取り消しボタンに移動してEnterを押すか、Space-eを押します。

IMAPサーバ経由でメッセージを受信する場合は、オプション設定ダイアログで自動的に受信するように設定したメッセージ数に応じて最新のメールをチェックするか、古い電子メールメッセージを読み込むようにシックスを設定できます。最新の電子メールメッセージを受信するには、現在フォーカスのあるメールボックスのメッセージ一覧でEnter-nを押します。前のメールを受信するにはBackspace-Pを押します。また、メッセージメニューから「新着メールを受信」および「前のメールリストを取得する」にアクセスすることもできます。

また、IMAPを使用すると、アカウント内のメールボックスを移動するときに、メールボックスが開いて新しいメールが自動的に受信されます。

## メッセージの読み上げ

電子メールメッセージは、Inboxその他のメールボックスに、タイトル、日付、差出人、宛先やCc、本文、添付ファイル(一つ以上の添付ファイルがあるメッセージを選択した場合のみ表示)といった情報を表示し、メッセージを開くとF3またはSpace-F3で各項目間を移動できます。

電子メールにファイルが添付されている場合、タイトルの前にaと点字表示され、複数のファイルが添付されている場合は、メッセージ一覧を移動するときに添付ファイルの数が音声で読み上げられます。

また電子メールメッセージの未読が音声で読み上げられます。未読の電子メールメッセージには、タイトルの前に未読を示す3-6の点が点字表示されます。

送信日時は、年、月、日の形式で受信された日時を示します。 時間は、24時間形式を使用して時、分、秒の順に表示されます。

差出人では送信者情報を表示します。差出人:の電子メールアドレスをアドレスマネージャで連絡先として保存するには、以下の手順を実行します。

1) 差出人を表示している状態でEnter-iを押します。

2) アドレスの追加ダイアログが表示され、名前やアドレスが表示されます。

3) 送信者の名前を入力するか、自動的に入力されたもので問題なければF3を押して確認ボタンに移動し、Enterを押します。アドレス帳に保存され、メッセージ一覧の前の位置に戻ります。

上記の手順を使用して、カーボンコピー受信者（CC）の電子メールIDをアドレスマネージャに保存することもできます。

F3を押してメッセージの本文に移動できます。あるいは、タイトルや送信日時や差出人でEnterを押すことでも本文を表示できます。Enterを押した場合は本文が読み上げられます。読み上げを停止するにはBackspace-Enterを押します。ワードプロセッサで文書を開いているようにメッセージを操作できます。タイトルに戻るにはSpace-eを押します。

参考: メッセージはプレインテキストとして開かれます。HTML形式の電子メールを受信した場合、そのメッセージをシックスのウェブブラウザで開くことで、リンクその他のHTMLコンテンツにアクセスできます。Backspace-oを押すか、メッセージメニューの「メールをブラウザで開く」を選択すると、ウェブブラウザでメッセージを開きます。

添付ファイルのあるメッセージでは、Tabを押して添付ファイルの確認やダウンロードができます。

添付ファイルを保存するには、添付ファイル一覧で目的のファイル名に移動してEnterを押します。「添付ファイルは/flashdisk/Downloadへ保存されます。保存先を変更しますか？ いいえ」という問い合わせが表示されたらそのままEnterを押します。すると、選択したファイルがflashdiskのDownloadフォルダに保存されます。複数の添付ファイルを保存する場合には、Enter-aを押して添付ファイルを全て選択するか、保存したいファイルでSpaceを押して選択します。

ダウンロードフォルダを変更するには、「ダウンロードフォルダ:\flashdisk\Download 変更しますか？ いいえ」と表示されたときに、「はい」に移動してEnterを押します。flashdiskのDownloadフォルダ内のファイル一覧にフォーカスがあります。一般的なファイルやフォルダ間の移動コマンドを使用して、添付ファイルを保存したいフォルダに移動します。

続いてSpaceを押して添付ファイルを保存するフォルダを選択し、Enterを押します。電子メールメッセージを個別に削除することも、複数のメッセージを選択して同時に削除することもできます。現在のメッセージを削除するにはSpace-dを押し、あるいはSpaceで複数のメッセージを選択してからSpace-dを押してそれら全てを削除します。

メッセージを削除すると、メッセージは自動的にTrashフォルダに移動し、そこから削除するかTrashフォルダを空にするまで保持されます。Enter-Backspace-qを押すか、編集メニューの「ごみ箱を空にする」を選択すると、いつでもTrashフォルダを空にすることができます。

参考： メッセージをTrashフォルダから削除すると、メッセージは完全に破棄され、取り出すことはできません。

## メールを書く

メールを書くには、ファイルメニューの「メール作成」を選択するか、メッセージの一覧でEnter-wを押します。点字ディスプレイに「宛先:」と表示されます。別のアカウントを使用するには、Space-F3でアカウントコンボボックスに移動して使用したいアカウントを選択し、F3で宛先のフィールドに戻ります。

メッセージを送信する相手の電子メールアドレスを入力します。コンピュータ点字を使用して入力する必要があります。複数の相手に送信するには、電子メールアドレスの間に;(セミコロン)を挿入します。

また、アドレス帳から宛先を追加するには、ファイルメニューのアドレス検索を選択するか、Enter-lを押します。目的の相手の姓(名字)または名前を入力し、Enterを押します。

検索結果に一致するアドレスが表示されます。目的の名字を入力せずにEnterを押すと、アドレス帳の全てのアドレスが表示されます。一致するアドレスがない場合は「メールアドレスがありません。」と表示されます。目的のアドレスに移動し、Enterを押します。Spaceを押して複数のアドレスを選択し、それら全てを入力することができます。

宛先のフィールドの入力が完了したら、F3を押してCcやBccに移動し、上記手順で相手のアドレスを入力します。CcやBccの入力が必要ない場合は、次の手順に進みます。

F3を押してタイトルに移動し、電子メールメッセージの件名を入力します。最後に、F3を押して本文に移動し、電子メールメッセージの内容を入力します。ワードプロセッサと同様の方法で入力・編集を行います。

電子メールの作成が完了したら、ファイルメニューの「送信」を選択するか、メッセージにフォーカスがある状態でEnter-sを押します。電子メールの送信が完了すると、「送信成功」のように表示します。送信が失敗した場合、「送信失敗」のように表示します。メッセージを送信できない理由を説明する特定のエラーが表示されることがよくあります。これが発生すると、電子メールはOutboxに保存されます。

電子メールメッセージの作成や送信を取り消すには、Space-eまたはSpace-zを押してInboxに戻ります。

### ファイルの添付

メッセージにファイルを添付するには、ファイルメニューの「添付ファイル」を選択するか、電子メールメッセージの作成中にEnter-fを押します。ファイルやフォルダ間を移動するための一般的なキー操作を使用して、添付したいファイルに移動します。

目的のファイルに移動したらEnterを押して添付します。さらに別のファイルも添付したい場合は、添付したい各ファイルでSpaceを押して選択します。選択したファイル名の前に\*が表示されます。続いてEnterを押すと選択したファイルが添付されます。これで、F3で移動したときにメッセージの本文の次に添付した項目が表示されます。

### 電子メールをOutboxに保存

下記の状況の場合、メッセージはOutboxに保存されます。

1. 後から送信する目的で、手動で電子メールをOutboxに保存した場合。

2. ネットワークエラーその他の原因で、電子メールがoutboxに自動的に保存された場合。

メッセージの作成中は、「ファイル」メニューの「メールボックスにメールを保存」を選択するか、Space-sを押して保存することができます。既定のファイル名は電子メールの件名に表示されるタイトルです。Enterを押して現在のファイル名で電子メールを保存するか別のファイル名を入力し、ワードプロセッサの名前を付けて保存ダイアログと同じ操作でファイルが保存されているパスを変更できます。

参考: 電子メールをflashdiskのemailのoutbox以外の場所に保存することを選択した場合、Outbox内ではその電子メールメッセージにアクセスできません。このため、Outboxフォルダに移動しない限り、その電子メールは送信できません。

メッセージの作成中にSpace-eまたはSpace-zを押すと、メッセージの作成を取り消します。「メールの作成中 保存しますか？ はい」のように表示されます。Enterを押すとメッセージはOutboxに保存されます。メッセージを保存せずにInboxに戻るには、Spaceを押して「はい」を「いいえ」に切り替えてEnterを押します。

Outboxからメッセージを送信するには、Shift-Tabでメールボックスの一覧に移動し、OutBoxに移動してF3でメッセージの一覧に移動します。Space-1またはSpace-4で送信したいメッセージに移動します。

一覧の全てのメッセージを送信するには、Enter-aを押して全てを選択します。個々のメッセージをそれぞれ送信するには、一般的な選択コマンドを使用してそれらを選択します。ファイルメニューの「送信」でEnterを押すか、OutboxでEnter-sを押すと、メッセージを送信します。

## アカウントやメールボックスの移動

アカウントやメールボックスに移動するには、二つの方法があります。

F3またはSpace-F3でアカウント名あるいはメールボックスに移動して、アカウントの一覧あるいはメールボックスの一覧に移動できます。Space-1またはSpace-4を使用して一覧の項目間を移動し、F3を押してアカウントあるいはメールボックスを開きます。

また、以下のホットキーを使用してアカウントやメールボックス間を移動できます。

次のメールボックス: Enter-3-4-5。

前のメールボックス: Enter-1-2-6。

次のアカウント: Backspace-3-4-5。

前のアカウント: Backspace-1-2-6。

参考: 上記のホットキーはアカウントの一覧やメールボックスの一覧では使用できません。

### メールボックスの管理

メッセージを並べ替えて保存するために、E-mailフォルダに追加のメールボックスを作成できます。

新規にメールボックスを作成するには、メールボックスの一覧で編集メニューを開いて「メールボックスの作成」を選択するか、Enter-nを押してこの機能を直接実行します。　　　　　　　　　　　　　　作成したいメールボックス名を入力してEnterを押します。

Inbox、Sent、Outboxは削除できませんが、作成したフォルダ/メールボックスは削除できます。

フォルダ/メールボックスを削除するには、メールボックスの一覧で削除したいメールボックスに移動し、編集メニューを開いて「メールボックスの削除」を選択します。一覧でSpace-dを押して、選択中のメールボックスを削除することもできます。

作成したメールボックス名を変更することもできます。これを行うには、メールボックス一覧で名前を変更したいメールボックスに移動します。編集メニューを開いて「メールボックス名の変更」を選択するか、Enter-rを押してメールボックス名の変更ダイアログを直接開きます。新しいフォルダ/メールボックス名を入力してEnterを押します。

### メールボックスにコピーまたは移動

編集メニューの「メールボックスにコピー」または「メールボックスに移動」コマンドを使用して、電子メールをコピーまたは移動できます。

移動/コピーダイアログには以下の項目が含まれます。

1) メールボックス一覧

2) メールボックス作成ボタン

3) メールボックス削除ボタン

4) メールボックス名変更ボタン

5) 確認ボタン

6) 取消ボタン

以下は別のフォルダに電子メールをコピーまたは移動する手順です。

1) 個別に電子メールを選択するにはSpaceを押し、連続した複数の電子メールを選択するには最初のメールでEnter-bを押して最後の電子メールに移動し、全ての電子メールを選択するにはEnter-aを押します。

2) 編集メニューを開き、Space-4を押して「メールボックスにコピー」または「メールボックスに移動」まで移動し、Enterを押します。メッセージの一覧で、コピーする場合はBackspace-cを、移動する場合はBackspace-xを押してこれらの機能を直接実行することもできます。

3) フォルダの一覧が表示されます。

4) Space-4を押して、メッセージをコピーまたは移動したいフォルダに移動しEnterを押します。

5) 電子メールがコピーまたは移動され、コピーまたは移動コマンドを実行したメールボックスに戻ります。

電子メールのインポート

EML形式のメッセージファイルをシックスの電子メールにインポートする事ができます。ファイルメニューの「電子メールのインポート」を実行するか、メールリストを表示した状態でBackspace-iを押すことで実行できます。

注意：インポートのために選択したデータは現在開かれているか、フォーカスされているメールボックスにインポートされます。新しいフォルダにインポートしたい場合は、前述した方法で事前にメールフォルダを作成してから行ってください。

インポートを実行すると、「ファイルを開く」ダイアログが表示されます。ファイル管理と同様の操作でインポートしたいデータを探し、スペースを押して選択してください。選択した状態でエンターを押すとインポートを開始します。インポート中は進捗状況をパーセントで表示します。

## メッセージの高度な機能

### 返信と全員に返信

電子メールに返信すると、元のメッセージを編集したり、別の受信者を追加したりすることができます。「返信」を選択すると、元の送信者にのみ電子メールが送信されます。「全員に返信」を選択すると、元の送信者だけでなく元の電子メールの他の全ての受信者にも電子メールが送信されます。

1) Inboxのメッセージの「タイトル」、「送信日時」、メッセージの本文で、メッセージメニューの「返信」または「全員に返信」を選択するか、Enter-rまたはBackspace-rを押します。

2) メッセージの本文にフォーカスがあり、受信したメッセージ本文が「--- Original Message ---」に続きます。

3) 追加のテキストを入力したり、元のメッセージを編集したり、タイトルフィールドや宛先フィールドなど、メッセージ関連のフィールドを編集することができます。

4) 編集が完了したら、Enter-sを押して電子メールを送信します。

後で送信するために新規メッセージをOutboxに保存できるように、この返信を保存することができます。

### メッセージの転送

転送とは受け取った電子メールを別の人に送信することです。

1) タイトル、送信日時、メッセージ本文など表示された状態で、メッセージメニューを開いて「転送」を選択するか、Enter-fを押します。

2) 「宛先:」と表示されます。コンピュータ点字を使用して新規の宛先や複数の宛先の電子メールアドレスを入力します。

3) F3を押してCcやBccやタイトルに移動し、それらを編集します。タイトルは「FW: 元の件名」の形式で表示します。

4) Tabでメッセージの本文に移動します。元の電子メールメッセージの本文が「----- Forwarded Message -----」に続いて表示されます。

5) メッセージに追加したいテキストを入力するか、転送するテキストを編集し、Enter-sを押して送信します。

作成中の電子メールメッセージ本文に元の電子メールが表示されないようにするには、電子メールを添付ファイルとして転送することもできます。Backspace-wを使用して選択した電子メールを添付ファイルとして送信し、上記の手順を使用します。

### 電子メールの保存

受信したメッセージをファイルとして保存したい場合があります。なお、IMAPとPOP3で保存する手順が少々異なります。

1)POP3を使用する場合、保存する電子メールのいずれかのフィールドにフォーカスがある状態で、ファイルメニューの「テキスト形式で保存」を選択するか、Space-sを押します。

2) 「ファイル名: (読み上げられる電子メールのタイトル).txt」と表示されます。

3) 表示されたファイル名でメッセージを保存するには、Enterを押してください。必要に応じて、ワードプロセッサの名前を付けて保存ダイアログと同じ手順でファイル名を変更できます。

IMAPを使用している場合は、メッセージを保存する前にまずそのメッセージに移動して開く必要があります。それ以外は上記の手順と同様です。

### メッセージの検索

検索コマンドは、現在のメールボックス内のメッセージを検索する際に使用します。検索機能は、タイトル、日付、および差出人の文字列と一致する文字列を検索します。この機能は、タイトルにフォーカスがある場合に機能します。Space-fを使用して検索ダイアログを開くか、編集メニューを開いて「検索」でEnterを押します。

F3またはSpace-F3でコントロール間を移動します。検索したい文字列をエディットボックスに入力します。メッセージの検索範囲を選択します。検索方向を選択してEnterを押します。

再検索コマンドは、検索ダイアログで指定された検索文字列と検索方向に従って、次に一致する文字列を検索します。検索と同様、再検索機能は、タイトルフィールドで機能します。編集メニューを開き、「再検索」でEnterを押すか、メッセージの一覧でBackspace-fを押します。

### 次の未読メールに移動

次の未読メールに移動コマンドを使用して、次の未読メールに移動することができます。リスト内の最後の未読メッセージでこの機能を使用すると、リスト内の最初の未読メッセージに移動します。

タイトルフィールドでこの機能を有効にするには、編集メニューを開き、「次の未読メッセージに移動」を選択するか、またはEnter-uを押してこの機能を直接実行します。

## ツールメニューを使用する

アカウントマネージャーに加えて、ツールメニューには、保存するパスやスパムフィルタその他の電子メールオプションを設定するためのオプションがあります。

メールボックス設定

メールボックス設定は、添付ファイルと電子メールが保存される既定のダウンロードパスを設定します。ダウンロードパスを設定するには、ツールメニューを開いて「メールボックス設定」で "Enter"を押すか、メッセージの一覧でEnter-pを押します。

メールボックス設定ダイアログには、三つの設定があります。

1) 添付ファイルの保存先

2) 添付するファイルの保存先

3) メール保存ディスク

Space-4またはSpace-1を押してこれらの項目間を移動できます。各項目は、「フォルダ」、「修正」、および「閉じる」で構成されます。「フォルダ」には既定のパスが表示されます。F3またはSpace-F3を押して、この情報を移動できます。フォルダを変更する場合には、修正ボタンを押して、ファイル管理の一般的な移動手順を使用して目的のフォルダに移動し、Enterを押します。

### オプション設定

オプション設定ダイアログを開くには、ツールメニューの「オプション設定」でEnterを押すか、Enter-oを押してこの項目を直接実行します。

オプション設定ダイアログの最初の項目は「使用するメールサーバ」で、既定のサーバを選択できます。設定されているアカウントのいずれかに設定することも「オフ」に設定することもできます。スペースを使用して設定値を変更します。

ダイアログの次のオプションは、「このアカウントを既定の送信アカウントとする」です。スペースを使用してアカウントを選択してください。

ダイアログの次のオプションは、「IMAP使用時のメール受信数」です。既定値は32に設定されています。SpaceまたはBackspaceを使用して、使用可能な設定を切り替えます。使用可能な値は、「全て」、「32」、「64」、「96」、「128」です。

ダイアログの次のオプションは、「Exchangeメッセージリストの種類」を選択するためのオプションです。これは、電子メールメッセージを受信する速度に関連しています。表示するヘッダー情報を少なくすると、電子メールの受信が速くなります。設定は「詳細」と「シンプル」です。

「詳細」に設定すると、添付ファイルの数、タイトル、送信者名、送信者の電子メール、および日付が表示されます。「シンプル」に設定すると、添付ファイルの数、タイトル、送信者名、および日付が表示されます。

この設定は、ツールメニューのスパム設定にも影響します。 「詳細」を選択すると、件名、アドレス、またはホストをスパムフィルタに追加できます。 「シンプル」を選択した場合、スパムフィルタに追加できるのは件名のみです。

次の5つのオプションは、メッセージリストでの情報の表示方法に関連しています。

「ヘッダーラベルの表示」オプションを「使用」に設定すると、メッセージを表示するときに「件名」、「日付」などのフィールドタイトルを表示するかどうかを選択できます。これを「未使用」に設定すると、送信者と受信者の特定の電子メールアドレスは表示されず、名前のみが表示されます。

4つのメッセージヘッダーのそれぞれについて、差出人、宛先、タイトル、日付を表示するように選択できます。 3番目と4番目のヘッダーには、まったく表示しない（オフ）も設定できます。すべてのヘッダーをオフにすると、メッセージリストにコンテンツが表示されないため、このオプションは1番目のヘッダーでは使用できません。このオプションより、メッセージリストに表示したいコンテンツを選択し、表示する順序を決定することができます。

各ヘッダーを選択すると、残りのヘッダーのオプションからこれらが消えます。たとえば、1番目のヘッダーに「タイトル」を選択した場合、タイトルは2番目以降の選択肢として表示されません。

設定の調整が完了したら、Enterを押して設定を保存するか、F3で「確認」ボタンに移動してEnterを押します。変更を保存したくない場合には、「取り消し」ボタンに移動してEnterを押すか、Space-zを押します。

### 迷惑メール設定

シックスが電子メールサーバから電子メールを受信すると、迷惑メールとなる多数の電子メールメッセージがある可能性があります。この場合、件名に特定の単語を特定するか、迷惑メール発信者からのメールアドレスを指定することで、これらの迷惑メールメッセージの受信を回避できます。

迷惑メール設定で特定された迷惑メールメッセージは、シックスに受信されず、電子メールサーバに残ります。

迷惑メールフィルタを設定するには以下の手順を実行します。

1) ツールメニューを開いて「迷惑メール設定」を選択するか、Enter-eを押してメニューにアクセスせずにこの項目を実行します。

2) 迷惑メール設定には、タイプ、リスト、追加、修正、削除、閉じる の6項目があります。

3) タイプには、タイトル、電子メールアドレス、およびドメインの3つの設定のうちの1つを設定できます。Space-1またはSpace-4を押してこれらの設定間を移動できます。選択したタイプに従ってリストが表示されます。

なお、タイトルを選択した場合、そのタイトルは「タイトル：（登録語）1 / xx」のように表示されます。電子メールアドレスを選択した場合は、「電子メールアドレス:(登録メールアドレス）1 / xx」のように表示されます。登録された単語や電子メールアドレスの文字列がない場合、「項目がありません」のように表示されます。

以下は迷惑メール設定の登録方法です。

1) 「タイプ：タイトル 1/3」が表示されている状態でaを押します。またはF3を押して追加ボタンに移動し、Enterを押します。

2) 追加ダイアログが開き、タイトルの追加が表示されます。

3) 迷惑メールメッセージを識別したい単語を入力し、Enterを押します。または、F3で確認ボタンに移動し、Enterを押します。

4) 「迷惑メールデータを正常に追加しました。」と通知され、リストに戻ります。「タイトル:(登録語）1/1」が表示されます。

上記の方法で単語を追加すると、メッセージの件名に入力した単語を含む電子メールがある場合、シックスは電子メールサーバからそれらの電子メールを受信しますが自動的に削除します。

同様の手順で登録することで、特定の送信者またはホストからの電子メールメッセージの受信も回避できます。

追加ダイアログで迷惑メールフィルタの設定をキャンセルするには、F3を押して取り消しボタンに移動してEnterを押します。あるいは、Space-eまたはSpace-zを押します。

設定した迷惑メールフィルタの修正は以下の手順を実行します。

1) 前述の迷惑メール設定ダイアログにアクセスし、Space-1またはSpace-4を押して修正したい迷惑メール設定のタイプに移動します。

2) F3を押すと、そのカテゴリ登録済み項目の一覧に移動します。

3) Space-1またはSpace-4を使用して、修正したい項目に移動します。

4) Enter-mを押すか、F3を押して修正ボタンに移動しEnterを押します。

5) エディットボックスで修正を行います。

6) F3を押して確認ボタンに移動し、Enterを押して変更を保存します。

また、迷惑メール一覧に登録されている項目を削除することもできます。

1) 前述の迷惑メール設定ダイアログにアクセスし、Space-1またはSpace-4を押して削除したい迷惑メール設定のタイプに移動します。

2) F3を押して、そのカテゴリの登録済み項目の一覧に移動します。

3) Space-1またはSpace-4を使用して、削除したい項目に移動します。

4) Space-dを押すか、F3を押して削除ボタンに移動してEnterを押します。

# メディア

シックスのメディアメニューは、音楽、ラジオ、DAISYなどのメディア再生に関する機能で構成されています。 「メディア」メニューには、「メディアプレーヤー」、「ラジオ」、「ポッドキャスト」の3つの項目があります。

メインメニューからメディアを選んでEnterを押すか、メインメニューでmを押すとメディアメニューを開きます。

## メディアプレーヤー

メディアプレーヤーを使用すると、オーディオファイルを再生したり、一部のビデオファイル形式の音声を聴いたりすることができます。 対応しているデータ形式は、ac3、asf、asx、m3u、mp2、mp3、MP4、mpa、mpg、ogg、pls、wav、wax、wma、flac、midi、wmvです。

点字キーボードからのコマンドやシックス前面のメディアボタンを使用して、メディアファイルの再生を操作できます。

メディアプレーヤーを起動するには、メディアメニューのメディアプレーヤーでEnterを押します。

簡単起動コマンドはF1-mです。

### メディアボタンの使用

シックス前面の中央近くには、5つのボタンが並んで配置されています。これらのボタンは、メディアプレーヤーを操作するために使用できます。左から右に向かって、「戻る」、「録画」、「停止」、「再生/一時停止」、「進む」のボタンです。

メディアボタンは、メディアボタン左側にあるメディアモードスイッチの位置に応じて、メディアの再生、DAISYの再生、アプリケーションの操作を行えます。このスイッチを右端の位置である「メディアモード」にスライドさせると、メディアの再生が操作できます。

シックスで別のプログラムを使用しているときに 「再生/一時停止」ボタンを押すと、メディアプレーヤーを開き、最近再生されたファイルの再生を開始します。最近再生されたファイルがない場合、「表示する項目はありません」と読み上げます。オーディオの再生を開始した後、「戻る」、「停止」、「進む」のボタンを利用できます。

【注意】シックスはマルチタスクが可能なため、「再生/一時停止」ボタンでオーディオ再生を開始しても、それまで実行していたプログラムは終了しません。前のプログラムに戻るには、F2-F3を押して実行中のプログラムを切り替えてください。

プレイリストに複数のファイルがある状態で「再生/一時停止」ボタンを押すとシックスはリスト内の全てのファイルを順番に再生します。再生中に「再生/一時停止」ボタンを押すと、再生が一時停止します。再生を再開するには、もう一度「再生/一時停止」ボタンを押します。 「録音」ダイアログで「再生/一時停止」ボタンを押すと、最後に録音したファイルが再生されます。

「進む」ボタンを押すと、プレイリストの次のファイルが再生され、「戻る」ボタンを押すと前のファイルが再生されます。プレイリスト先頭のファイル再生中に「戻る」ボタンまたは、プレイリスト最後のファイル再生中に「進む」を押しても移動するファイルがないため移動できません。

メディアモードの状態で「録音」ボタンを押すと、内蔵マイクまたは外付けマイクを使用して録音データを作成できます。「録音」ボタンを押すと、「録音」ダイアログが開きます。 「録音」ボタンをもう一度押すと録音を開始します。録音中に「録音」ボタンを押すと録音を一時停止します。再度、「録音」ボタンを押して録音を再開してください。録音を停止して保存するには、「停止」ボタンを押します。記録されたファイルは「flashdisk / music / record」フォルダに保存されます。

「停止」ボタンは5つ並んだボタンの中央に位置し、その上に点が付いています。再生または録音を停止するときに使用します。オーディオファイルの再生中に 「停止」を押すと再生を停止します。

次回のメディア再生が開始されると、シックスはプレイリストの最初のファイルの再生を開始します。録音中に「停止」ボタンを押すと、録音を停止して保存します。録音をしない状態の録音ダイアログ表示中に「停止」ボタンを押すと、ダイアログが閉じます。

### メディアプレーヤーの構造

点字キーボードを使用すると、メディアボタンと同じ機能、さらにはメディアプレーヤーの高度な機能を使用できます。

再生ダイアログには、「情報」と「再生」という2つの情報タブがあります。これらのタブ間を移動するには、F3を押します。

「情報」タブには、トラック番号、ファイル名、現在の再生状態（再生、一時停止、停止）が表示されます。プレイリストにファイルがない場合、シックスは「タイトル：表示する項目がありません」と表示します。 下スクロールを押すと、再生時間情報を表示します。

再生タブでは、タッチカーソルキーを使用してメディアファイルの特定の領域に移動することができます。点字ディスプレイの左端を0%で右端を100%として、タッチカーソルキーの位置によって領域を指定します。

例えば、音声データの中盤付近に移動する場合タッチカーソルキーの16または17番目を押します。75％近くの場所に移動する場合は、タッチカーソルキー24または25番目を押します。

再生タブには、プレイリスト内の全てのファイルが表示されます。プレイリスト内の各ファイルについて、トラック番号、ファイル名、リスト内のファイルの位置、およびリスト内のファイルの総数が表示されます。プレイリストにファイルがない場合、「表示する項目がありません」と表示します。

シックスのメディアプレーヤーは、歌詞情報を含むMP3ファイルの歌詞表示をサポートしています。再生中のファイルに歌詞情報が含まれている場合にのみ、「歌詞」タブが表示されます。歌詞は、マルチエディットボックスを使って通常の文書と同様に表示されます。

メディアプレーヤーのメニューには、「ファイル」、「再生」、「録音」、「移動」、「マーク」、「設定」、「Webラジオ」の5つの項目があります。

メニューを開くには、F2を押します。上下キーを使用してメニュー項目を選択し、Enterを押して実行します。またはメニュー項目を開いてから各項目のショートカットを押して実行する事ができます。例えば、録音メニューを開く場合F2を押してメニューを開き、続いてrを押すことで実行できます。

メディアプレーヤーには、様々なリストとダイアログボックスが含まれています。メニュー、設定、ファイルリストを選択するには、上下のスクロールキーを使用します。F3を使用して、ダイアログ内のコントロール間を移動します。項目を実行するにはEnterを押します。

### ファイルメニュー

1. ファイルを開く：（o）、「Enter-o」　メディアファイルを開き、新しいプレイリストを作成します。
2. フォルダを開く：（f）、「Enter-f」　選択したフォルダ内の全てのメディアファイルを含む新しいプレイリストを作成します。
3. ファイル追加：（a）、「Backspace-o」　選択したファイルを現在のプレイリストに追加します。
4. フォルダ追加：（i）、「Backspace-f」　選択したフォルダ内の全てのメディアファイルを現在のプレイリストに追加します。
5. プレイリストの保存：（s）、「Enter-i」　現在のプレイリストを保存します。
6. プレイリストに名前を付けて保存：(l)、「Space-s」　現在再生中のファイルをプレイリストとして保存します。
7. プレイリストから削除：（d）、「Space-d」　現在のメディアファイルをプレイリストから削除します。
8. タグ情報：（t）、「Enter-t」　現在のメディアファイルのプロパティを開きます。
9. URLを開く：（u）、「Enter-u」ストリーミング再生用のWebサイトを開きます。
10. 閉じる：（z）、「Enter-z」　メディアプレーヤーを終了します。

### 再生メニュー

1. 再生：（p）、「Enter」　再生を開始します。 「再生」ボタンを押しても実行します。
2. 前のトラック：（b）、「3の点」　1トラック後ろに移動します。 「戻る」ボタンを押しても実行します。
3. 次のトラック：（n）、「6の点」　1トラック前に移動します。 「進む」ボタンを押しても実行します。
4. 五つ前のトラック：（d）、「2-3の点」　五つ前のトラックに移動します。
5. 五つ後のトラック：（u）、「5-6の点」　五つ後のトラックに移動します。
6. 最初のトラック：（t）、「k」　プレイリストの最初のトラックに移動します。
7. 最後のトラック：（e）、「4-6の点」　プレイリストの最後のトラックに移動します。
8. 音量を上げる：（h）、「Space-上スクロール」　音量を上げます。
9. 音量を下げる：（l）、「Space-下スクロール」　音量を下げます。
10. 速く：（k）、「3-4-5の点」　再生速度を上げます。
11. 遅く：（m）、「1-2-6の点」　再生速度を下げます。
12. 一時停止：（a）「Space」　再生を一時停止します。もう一度押すと再開します。 「再生」ボタンを押しても実行できます。
13. 停止：（s）、「Backspace」　再生を停止します。 「停止」ボタンを押しても実行できます。

### 録音メニュー

録音：（r）「Enter-r」。実行すると録音の準備状態になります。もう一度実行すると録音が始まります。終了したら「Space-Z」を押します。 「録音」ボタンを使用して録音を開始し、「停止」ボタンを使用して終了することもできます。

参考：シックスは、ミキサー、USBヘッドセット、USBマイク、その他の一般的なUSBサウンドカードデバイスなど、一般的なUSBオーディオデバイスを介した録音と再生をサポートしています。多くのデバイスがサポートされていますが、専用のドライバーやアプリを必要とするデバイスは機能しない可能性があることに注意してください。

また、マルチトラック録音デバイスを使用することもできません。これらのデバイスは通常、動作するためにデジタルオーディオワークステーションを必要とするためです。ただし、ステレオ出力にミックスダウンするほとんどのプラグアンドプレイオーディオデバイスは機能します。

外部デバイスを使用する場合、以下の点に注意してください。

1. USBソースが接続されている場合は、常に優先されます。
2. カメラと2番目の個別のオーディオデバイスの場合のように、複数のUSBソースが接続されている場合は、最後に接続されたソースが優先されます。
3. USBオーディオソースは録音ソース設定を完全に無視します。これは内部ソースにのみ適用されます。USBソースを接続すると、USBソースが自動的に引き継がれ、この設定を使用して選択できないため、関係ありません。
4. USBソースが接続されているときに、4極などのヘッドフォンを接続すると、USBオーディオ接続がキャンセルされ、レコーダーは内部録音ソース設定を使用します。
5. イヤホンのモニタリングがオンになっている場合、一部のヘッドセットでのループバックの問題を回避するために、録音中にBrailleSenseオーディオが消音されます。ミキサーを使用してBrailleSenseオーディオをループバックする場合は、必ずイヤホンのモニタリングをオフにし、ミキサー自体を使用して出力をモニタリングしてください。

シックスの録音機能を使用して、DAISYファイルだけでなく、WAVやMP3録音だけでなくDAISY形式の録音も可能です。DAISY形式で録音するには、「設定」メニューの「録音設定」ダイアログで録音形式を「DAISY方式で録音」に設定します。

DAISYの録音を開始すると、「タイトル録音開始」と表示します。その後、10秒間はタイトルを録音する時間です。10秒経過すると自動的に見出し1に移行します。

録音しながら、ナビゲーションポイントを挿入できます。

Backspace-hと入力すると見出しを挿入します。

Backspace-pと入力するとフレーズを挿入します。

Backspace-gと入力するとページを挿入します。

これらのキーを押すたびにシックスはナビゲーションポイントの開始をアナウンスします。たとえば、「8ページ」や「見出し3」などです。

録音を停止すると、ユニットは「ビルド中」とアナウンスして、DAISYブックが作成されていることを通知します。記録されたDAISYファイルはflashdisk/ DAISY /recordに保存されます。

### 移動メニュー

1. ブックマーク設定：（m）、「Enter-m」　現在の位置にブックマークを設定します。
2. ブックマーク削除：（d）、「Enter-d」　ブックマークを削除します。
3. ブックマークへジャンプ：（j）、「Enter-j」　ブックマークの位置に移動します。
4. 指定した時間へ移動：（g）、「Enter-g」　ファイル内の特定の再生時間に移動します。
5. パーセント移動：（e）、「Backspace-p」　ファイルの再生総時間に対して、設定したパーセンテージの位置へ移動します。
6. メニュー番号へ移動：（n）、「Enter-n」　プレイリストのトラック番号を指定して選曲できます。数字入力の際に数符は不要です。
7. リピート先頭位置の設定：（l）、「Enter-p」　リピート再生の開始点を設定します。
8. リピート設定の解除：（r）、「Space-e」。リピート再生の終了ポイントを設定します。

### マークメニュー

ブックマークと異なり、マーク機能は保存されないため設定したマークはメディアプレーヤーを終了すると消去されます。

1. マーク設定：（s）、「Backspace-m」　現在の位置にマークを設定します。
2. マークへ移動：（m）、「Backspace-j」　設定済みのマークに移動します。
3. 前のマーク：（p）、「Backspace-3の点」　現在の位置から一つ後ろのマークに移動します。
4. 次のマーク：（n）、「Backspace-6の点」　現在の位置から一つ次のマークに移動します。
5. マーク削除：（d）、「Backspace-d」　マークを削除します。
6. マーク管理：（k）、「Backspace-k」　現在のファイル内全てのマークを表示および修正します。

### 設定メニュー

環境設定：（c）、「Backspace-c」

環境設定ダイアログは「タイトル表示」、「自動ブックマーク」、「タイトルの表示」、「マークの警告「確認」、「取消」で構成されています。各項目はF3で切り替えます。それぞれ上下キーを押して設定を変更できます。設定を保存して終了する場合はEnterを押すか、「確認」を実行してください。「取消」を実行すると保存を取り消して設定を終了します。

再生設定：（p）、「Enter-s」

再生設定ダイアログは「表示時間」、「進行時間表示」、「リピート再生」、「プレイリスト」、「シャッフル」、「選択したトラックの反復再生の回数」、「速度設定」、「移動時間」、「確認」、「取消」で構成されています。各項目はF3で切り替えます。各項目の設定は上下キーを押して変更します。設定を保存して終了する場合はEnterを押すか、「確認」を実行してください。「取消」を実行すると保存を取り消して設定を終了します。

録音設定：（r）、「Backspace-s」

録音設定ダイアログは「録音タイプ」、「サンプルレート」、「ビットレート」、「マイク音量」、「録音モード」、「ファイル名の種類」、「イヤホンでモニタリング」、「録音中のシステムオーディオミュート」「録音形式」、「フォルダ設定」、「録音ファイル名」、「確認」、「取消」で構成されています。各項目はF3で切り替えます。

「録音タイプ」はSpaceを押してmp3とwavを切り替えます。

「サンプルレート」で上下キーを押すと「ビットレート」、「Micデシベル」、「録音モード」、「ファイル名の種類」の設定項目を表示します。各項目の設定はSpaceを押して変更します。

「録音形式」はSpaceを押して変更します。

「フォルダ設定」は録音データの保存先を指定します。

「録音ファイル名」は録音データに自動的に付けられるファイル名を設定します。

設定を保存して終了する場合はEnterを押すか、「確認」を実行してください。「取消」を実行すると保存を取り消して設定を終了します。

イフェクト設定：（e）、「Enter-e」

イフェクト設定ダイアログは「イコライザー」、「バスブースト」、「確認」、「取消」で構成されています。各項目はF3で切り替えます。各項目の設定は上下キーを押して変更します。

設定を保存して終了する場合はEnterを押すか、「確認」を実行してください。「取消」を実行すると保存を取り消して設定を終了します。

Webラジオ

Webラジオを使用すると、Webからラジオ放送ストリームにアクセスして簡単にラジオを再生できます。

チャンネルリストへのアクセス、追加したいチャンネルのデータベース検索、チャンネルリストやプレイリストにURLを直接追加することができます。

Webラジオのメニューには、「Webラジオチャンネル」と「Webラジオ検索」、「チャンネルデータベース」、「らじるらじる」の4つの項目があります。

Webラジオチャンネル

Webラジオチャンネルには、検索したデータベース、またはチャンネルのアドレスとタイトル情報の手動入力から追加したステーションが含まれています。「Space-1」と「Space-4」を使用してチャンネルリストを選択し、再生したいステーションでEnterを押します。

チャンネルに関するURLやその他の情報がわかっている場合は、個人のチャネルリストにチャンネルを手動で追加することもできます。

チャネルリストでF3を押して「チャンネルの追加」に移動し、Enterを押します。追加するWebラジオチャンネルのタイトル、URLを入力できる2つの編集ボックスがあるダイアログが表示されます。 F3またはSpace-F3を使用して、コントロール間を移動します。 Enterを押してチャンネルを追加すると、シックスは入力したURLを検索します。見つかった場合、そのチャンネルはチャンネルリストに追加されます。

すでにチャンネルリストにあるチャンネルの情報を変更することもできます。これは、URLが変更された場合に必要です。

チャンネルリストでF3を押して「チャンネルの修正」に移動し、Enterを押すか、リストでEnter-mを押します。 「チャンネルの追加」ダイアログと同様のダイアログが表示されますが、情報はすでに入力されています。いずれかの編集ボックスで情報を再入力または編集し、Enterを押して変更を保存します。 Space-eを押すと、変更を保存せずにダイアログを終了します。

リストからチャンネルを削除するには、F3を押して「チャンネルの削除」ボタンに移動するか、削除するチャンネルにフォーカスがあるときにSpace-dを押します。

チャンネルデータベース更新

チェンネルデータベース更新を実行するとデータベースを最新版に更新します。

Webラジオ検索

Webラジオ検索を選択すると、Webラジオチャンネルのデータベースを検索してチャンネルリストに追加できます。

初めて「チャンネル検索」オプションを選択すると、シックスは「データベースのダウンロード」と読み上げ、「検索」ダイアログに移動します。

「検索」ダイアログには、「検索モード」コンボボックス、「チャンネルの追加」ボタン、「再生」ボタン、「取消」ボタンがあります。「単語の検索」を選択すると、「検索モード」コンボボックスの後に検索ワードを入力するエディットボックスが表示されます。

検索モードのコンボボックスで「カテゴリ」を選択すると、「国」、「言語」、「ジャンル」で検索するための3つのコンボボックスがあります。

F3またはSpace-F3を使用して、ダイアログ内のコントロール間を移動します。 Space-1またはSpace-4を使用して、コンボボックスからアイテムを選択します。

検索語を入力するか、カテゴリコンボボックスで検索条件を選択したら、F3を押して結果リストにアクセスします。

Space-1またはSpace-4を使用して、チャンネルリストを移動します。個人のチャンネルリストにチャンネルを追加するには、「チャンネルの追加」ボタンでEnterを押します。

データベースの検索が終了したら、「閉じる」ボタンでEnterを押すか、Space-eを押すと、「メディア再生」ダイアログに戻ります。

らじるらじる

NHKラジオを再生することができます。らじるらじるのダイアログボックスでエリアとチャンネルを指定します。

エリアとチャンネルの設定項目はF3で切り替えます。エリアは上下キーで選択できます。

チャンネルはr1、r2、FMのチェックボックスです。上下移動でチャンネルを選択し、スペースを押してチェックボックスにチェックを入れたチャンネルを再生できます。

チェックを入れたチャンネルは他のWebラジオと異なチャンネルリストには追加されません。

チェックしたチャンネルはそれぞれメディアプレーヤーの再生リストに表示されます。メニューを閉じて上下移動でトラックを切り替えて再生してください。

## ラジオ

シックスでFMラジオを使用するには、ヘッドフォンを本体のヘッドフォンジャックに接続する必要があります。ヘッドホンコードがアンテナとして機能します。

メディアメニューから上下キーボタンを使ってラジオに移動し、Enterを押して実行します。

メディアメニューでrを押しても、FMラジオを起動することができます。簡単設定コマンドはF1-rです。

FMラジオが起動すると、シックスはラジオ周波数をアナウンスします。前回FMラジオ番組を使用していた場合、シックスは最後に聞いた周波数に調整します。

※注意：FMラジオの周波数範囲は87.5MHz〜108MHzです。

### 内蔵スピーカーによるFMラジオの聴取

ヘッドフォンを接続した後でFMラジオを実行すると、ラジオからの音はヘッドフォンから流れます。前述したように、ヘッドフォンを接続して無線受信用のアンテナを設ける必要があるので、ヘッドフォンの接続は必要です。ラジオの音をシックスのスピーカーから出力したい場合、xを押すと内蔵スピーカー出力のオン/オフを切り替える事ができます。オンにすると、ヘッドフォンを接続した状態で本体内蔵スピーカーからも音が出力されます。

また、F2を押してファイルメニューの設定ダイアログから外部スピーカー出力設定を変更できます。

ラジオの音量はSpace-上下キーで調節できます。

### 周波数移動

周波数をチューニングするために、次のコマンドを使用します。

次のラジオ局の周波数を前方に自動スキャンするには「5の点」を、後方に自動スキャンするには「2の点」を押します。 「6の点」を押すと周波数を0.1MHzずつ増加し、「3の点」を押すと周波数を0.1MHzずつ減らします。

周波数を直接入力するにはSpace-fを押してください。編集ボックスが表示されるので、希望の周波数を数字で入力し、Enterを押して移動します。

F2を押して周波数メニューから周波数移動操作を行うことも可能です。

### チャンネル登録と移動

現在選択されている周波数をチャンネルとして登録するには、「チャンネル」メニューから「チャンネル登録」を実行してください。ホットキーはEnter-sです。

「チャンネル登録」ダイアログが開き、「周波数：（現在の周波数）」が表示されます。F3を押して チャンネル名編集ボックスに移動します。チャンネルの名前を入力しEnterを押すとチャンネルを登録します。

現在聴取中の周波数以外の周波数を追加するには、「チャンネル登録」ダイアログの「周波数」エディットボックスに、追加したい周波数を入力してください。複数のチャンネルを登録すると「1の点」を押すと1つ前に、「4の点」を押すと1つ次に移動します。

チャンネルを削除する場合、削除したいチャンネル移動してSpace-dを押してください。

【注意】このコマンドを実行すると、警告や確認なしにチャンネルが削除されるので気を付けてください。

チャンネル管理ダイアログを使用してプリセットを追加または削除することもできます。 F2を押して「プリセット」メニューから「プリセット管理」を実行するか、「Enter-m」を押します。

プリセット管理ダイアログには、「チャンネルリスト」、「登録」ボタン、「削除」ボタン、「修正」ボタン、「閉じる」ボタンがあります。各項目はF3を押すと切り替わります。

「登録」ボタンでEnterを押すと、「チャンネル登録」ダイアログが開きます。変更ボタンでEnterを押すと、「修正」ダイアログが開きます。ここでは、登録されたプリセットのラベルを変更できます。チャンネルをチャンネルリストから削除するには、「削除」ボタンを使用します。 チャンネル管理を終了するには「閉じる」ボタンでEnterを押すか、Space-eを押してください。

本体前面のメディアボタンを使用して、チャンネルを追加したり、チャンネル間を移動したりすることも可能です。 録音ボタンを2秒以上押すと、「チャンネル登録」ダイアログが開きます。「戻る」ボタンを2秒以上押すと前のチャンネルに移動します。「進む」ボタンを2秒以上押すと、次のチャンネルに移動します。 「停止」ボタンを2秒以上押すと、選択したチャンネルを削除します。

### FMラジオの録音

現在聴いているラジオ放送を録音するには、ラジオのメニューから録音を選択するか、Enter-rを押します。 「録音」ダイアログが開き、シックスが録音を開始します。

ラジオを録音中に、F3を押して「一時停止」でEnterを押すか、aを押すと録音を一時停止します。一時停止実行中は「一時停止」は「継続」に変わります。録音を再開する場合F3を押して 「続行」でEnterを押すかgを押してください。録音を停止するには、sを押すか、F3を押して「停止」でEnterを押します。

現在の録音の時間を確認するには、「Space-4」を押します。シックスは、現在の録音実行時間と録音可能時間の合計を通知します。

録音ファイルは「flashdisk / music / radio」フォルダに保存されます。ファイルは、プリセットされたラベルと周波数によって名前が付きます。プリセットリストにないラジオ局を録音している場合、その録音の名前は「ラジオ」となり、その後にその周波数が続きます。

また、本体前面の「録音」ボタンを押して録音を開始することもできます。録音を停止して保存するには、「停止」ボタンを押します。「録音」ボタンをもう一度押すと、録音を再開します。「戻る」と「進む」ボタンを押すと、F3と同じ様に録音ダイアログのコントロール間を移動します。

#### レコードフォルダの変更

録音ファイルを保存するフォルダを変更するには、「ファイル」メニューの「録音設定」を実行するか、「Backspace-s」を押します。

実行すると、「録音設定」ダイアログが開き、「録音タイプ：mp3」と表示します。F3を押して「レコードフォルダ設定」を表示します。

「レコードフォルダ：/ flashdisk / music / radio」と表示されます。Enterを押してください。ファイル管理の操作と同じ方法で、録音ファイルを保存するフォルダを選択してください。フォルダ名を表示した状態でSpaceを押して選択状態にし、Enterを押すと、「録音設定」ダイアログに戻ります。 Enterをもう一度押して設定を保存してダイアログを終了します。

録音設定ダイアログでは、録音タイプ、サンプルレート、およびビットレートを設定することもできます。録音タイプを変更するには、Spaceを押してwavとmp3を切り替えます。

### その他の機能

1）感度調整

聴取したいラジオ局の周波数が検索されない場合、スキャン感度を調整してください。設定ダイアログの感度調整を実行し、Spaceを押して感度を調整します。値を大きくするほど、感度が高くなります。感度を上げると、より多くの周波数に調整できます。

2）ミュート

ラジオを聴きながら、Spaceを押すとミュートします。再度Spaceを押すと、ミュートを解除してラジオを流します。本体前面の「停止」ボタンを押してもラジオをミュートし、「再生」ボタンを押してミュートを解除することもできます。

## ポッドキャスト

ポッドキャストは、RSS（Really Simple Syndication）と呼ばれる方法で個人または組織によって公開されたオーディオファイルです。 ポッドキャストは、ニュース、政治、音楽、本、テクノロジー、料理、および非常に特定の個人的な興味をカバーする無制限の数の個別のキャストを含む、任意の数のトピックで利用できます。

ポッドキャストは、メディアメニューから選択してEnterを押すか、簡単起動コマンドF1-pを押すと起動します。

### ポッドキャストの購読

シックスは以下の方法で、ポッドキャストを検索して購読できます。

購読したポッドキャストフィードがフィードリストに追加されます。また不要になったフィードはフィードリストから削除可能です。フィードリスト内で削除したいフィード名を表示している状態でSpace-Dを押してください。

1)ポッドキャストを検索して追加する

ポッドキャストが起動したら、Enter-sを押してください。検索ダイアログが開きます。

メニューから選択する場合はF2を押してファイルメニューから「ポッドキャスト検索」を実行してください。

検索ダイアログの最初の項目は「検索サイトの選択」です。iTunes、デジタルポッドキャスト、Gpodder.netの3つのサイトから選択できます。上下移動でサイトを選択してF3を押してください。

iTunesで検索する場合は、「検索モード」の選択項目へ移動します。上下移動で「カテゴリで検索」か、検索語を入力できる「単語入力モード」を選択できます。 上下移動を使用してモードを選択し、F3を押してください。

「単語入力モード」を選択した場合は、「検索語」エディットボックスに移動します。検索語を入力し、もう一度F3を押すと検索を実行します。

「カテゴリモード」を選択した場合は、「カテゴリ」選択に進みます。上下移動を使用してカテゴリを選択し、F3を押すと検索を開始します。

\*注：「デジタルポッドキャスト」および「gpodder.net」では、キーワードによる検索のみを提供します。

検索が完了すると、結果のリストが表示されます。上下移動を使用して、検索結果リストに表示されたフィードを選択してください。Enterを押すと、選択したフィードをフィードリストに追加します。複数のフィードを選択したい場合は、選択したい項目を表示した状態でSpaceを押して選択状態にしてください。Enterを押す。またはF3を押して「フィードの挿入」ボタンでEnterを押すと、選択した全てのフィードをフィードリストに追加します。

フィードの追加が終了したら、F4を押してください。フィードリストに戻ります。

2)OPMLからインポートする

ファイルメニューの「OPMLからインポート」オプションを使用して、OPMLファイルからフィードをインポートすることもできます。

「OPMLからインポート」を実行するとシックスのflashdiskが表示されます。ファイル管理と同じ操作でOPMLファイルを選択し、Enterを押してください。OPMLファイルで利用可能なポッドキャストフィードのリストが表示されます。通常の選択コマンドを使用してインポートするフィードを選択し、Enterを押してフィードリストに追加します。

3)フィードの名前とURLを指定して追加する

購入するフィードのURLがわかっている場合は、「フィードの挿入」オプションを使用して、フィードの名前とURLを直接入力できます。F2を押してフィードメニューから「フィードの挿入」を選択するか、フィードリスト表示中にEnter-iを押します。

4)ブラウザからフィードを追加する

購読したいフィードのあるWebサイトにアクセスしている場合は、WebブラウザでEnter-jを押すと、そのサイトから利用可能なポッドキャストフィードのリストが表示されます。リストから追加したフィードを選択してEnterを押すとフィードを購読できます。

### フィードとエピソードの操作

ポッドキャストフィードリストでは、上下移動を使用してポッドキャストフィード間を移動します。フィードのコンテンツを表示するには、F3を押してください。フィードが更新され、ポッドキャストで利用可能なエピソードがリストに表示されます。

エピソードリストでは上下移動を使用して、リスト内のエピソード間を移動します。移動すると、エピソードのタイトルと再生した情報が表示されます。

選択したエピソードの説明を取得するには、F3を押します。

ポッドキャストがダウンロードされていない場合は、F3を何度か押して「ダウンロード」ボタンでEnterを押すとダウンロードを開始し、進行状況インジケータが表示されます。

ダウンロードが完了すると、ポッドキャストプログラムのプレーヤーで再生されるか、メディアプレーヤーで再生されるか、フィードリストに戻ります。

再生方法については、ファイルメニューのオプションダイアログで設定します。初期設定ではポッドキャストでダウンロードして再生します。

ポッドキャスト内蔵のプレーヤーを使用すると、ポッドキャストアプリの検索等、再生以外の操作を続けながらポッドキャストを聞くことができます。

ダイアログ内には経過時間と合計時間が表示され、「再生/一時停止」ボタンが追加されます。

経過時間と合計時間を表示した状態でタッチカーソルキーを押すとメディアプレーヤーでファイルを再生するときと同じように、ポッドキャストのさまざまな再生位置にジャンプすることができます。また、メディアプレーヤーと同様に、3-4-5の点と1-2-6の点で再生速度を変更することもできます。さらに、経過時間を表示する点字ディスプレイに点字での進行状況を表示するように選択できます。これは、ファイルメニューのオプションダイアログにて「進行時間表示」の「はい」または「いいえ」に設定できます。

ポッドキャストの内蔵プレーヤーで、ほとんどのユーザは便利にポッドキャストを楽しめると思いますが、ポッドキャストの再生をより詳細に制御する必要がある場合は、メディアプレーヤーで自動的に再生するように設定することが可能です。

再生コントロールエリアを閉じるには、F4を押します。再生が停止し、これらのコントロールは表示されなくなります。

ポッドキャストの一部をすでに聴いている場合は、次にそれを再生すると、最後に再生を停止した位置から再生が再開されます。

### コンテンツの削除。

前述のように、ポッドキャストフィードにフォーカスがあるときにSpace-dを押すと、リストからポッドキャストフィードを削除できます。

多くのポッドキャストを購読している場合、これらのファイルはすぐに蓄積されるため、エピソードのコンテンツを削除する方法を説明します。

ファイルメニューの「ダウンロードしたファイルを削除」オプションを使用して、ダウンロードしたコンテンツを消去します。実行すると 「ファイルを削除しますか？」と表示し、上下移動で「現在のフィードのみ削除」または「全てのフィードを削除」を選択できます。Enterを押すか、確認ボタンを実行するとダウンロードしたコンテンツを削除します。

# 読書

読書では図書データを閲覧する機能を使用する事ができます。DAISY図書を再生するための「DAISYプレーヤー」、点字や墨字のデータを読むための「文書リーダ」、ネットワークに接続してDAISY図書の検索とダウンロードができる「DAISYオンライン」で構成されています。

## DAISYプレーヤー

DAISYプレーヤーを使用すると、DAISY形式のデータを再生することができます。 DAISYは、（DIGITAL ACCESSIBLE INFORMATION SYSTEM）の略語です。 DAISY形式の書籍データのメリットは、音声で図書を聞くことができる事はもちろん、マルチメディアDAISYの様にテキストと音声の両方のデータを備えた形式であればDAISY書籍のテキストを読むことも可能な点です。

シックスはバージョン3.0以前のDAISY図書をサポートしています。

※ADPCM2コーデックのWAVファイルが含まれる一部のDAISYは再生できません。

以下の形式の図書データをサポートしています。

DAISY 2.0/2.02/3.0, DAISY XML/Digital Talking Book.

ANSI/NISO Z39.86 2002, 2005.

Bookshare.org DAISY content,

NIMAS 1.1

DRM: supports 2006 PDTB2 authentication.

### DAISYプレーヤーの構造

DAISYプレーヤーを起動するには、「読書」メニューの「DAISYプレーヤー」でEnterを押します。 簡単起動コマンドは「F1-d」です。

DAISYプレーヤーを起動すると、シックスのドライブリストが表示されます。読みたいDAISY図書のデータが保存されているドライブを選んでEnterを押してください。

ファイル管理と同様の操作で、読みたいDAISY図書のフォルダを探してください。フォルダ名を読み上げたところでSpaceを押して選択し、Enterを押すとDAISY図書を開きます。

重要：DAISYデータには複数のファイルが含まれているため、DAISY図書全体が保存されたフォルダを最初に選択する必要があります。フォルダを選択せずにEnterを押すと、DAISY図書の各データ1つずつを選ぶことになってしまい、正しくDAISY図書を再生する事ができません。

前に読んだ事のある図書を再生すると、終了した場所から再生が再開されます。 DAISY図書の再生を停止するには、Space-zを押します。DAISYプレーヤーを終了するかどうかの確認が表示されます。Spaceを押して「はい」または「いいえ」を選択してEnterを押してください。

本体前面のメディアボタンを使ってDAISYの再生を操作することもできます。メディアモードスイッチを中央の「DAISYモード」に設定してください。

DAISYの再生を開始するには、前面の「再生」ボタンを押します。もう一度「再生」を押すと、再生が一時停止します。

「戻る」ボタンを押すと設定された移動レベルごとに1つ戻り、「進む」ボタンを押すと1つ進みます。「録音」ボタンを押すと、「戻る」と「進む」で移動する移動レベルを変更することができます。

F2を押すとDAISYプレイヤーメニューが開きます。メニューは、「ファイル」、「文書」、「マーク」、「見出し」、「メモ」で構成されています。上下キーを使用してメニュー項目を選択できます。メニュー項目を実行にするには、Enterを押します。

または、メニュー実行時に対応するショートカットを押すことでも機能を使用できます。

DAISYプレーヤーには、様々なリストとダイアログボックスが含まれています。メニュー、設定、ファイルリストを操作するには、上下キーを使用します。 F3を押すとダイアログ内のコントロール間を移動します。

DAISYコンテンツの再生中は、「見出し」、「情報」、「再生」、「一時停止」の4つのコントロール/コンポーネントを使用できるダイアログが表示されます。 「F3」を使用してこの情報を表示します。

「見出し」には、プレフィックス付きの見出し、またはナビゲーション要素、およびテキストが存在する場合はその箇所のテキストが表示されます。 「情報」には、現在のページ、レベル、フレーズ、経過時間、および実行時間が表示されます。 上下キーでこれらの項目間を移動できます。 「一時停止」または「再生」でEnterを押すと、音声を一時停止または再生できます。ダイアログ内のどこからでも、「スペース」で再生/一時停止を切り替えることができます。

### ファイルメニュー

1. DAISY開く：（o）、「Enter-o」

DAISY開くダイアログを表示します。読みたい図書のデータを指定して再生する事ができます。（詳しくは7.3.1DAISYプレーヤーの起動をご参照ください）

1. 音声設定：（s）、「Enter-s」

「速度設定」、「ボリューム設定」、「自動再生」、「マークの警告」、「確認」、「取消」で構成されています。各項目はF3で切り替わります。スペースを押すと各設定を変更します。

1. 本の情報：（i）、「Enter-i」

「図書情報リスト」、「マーク情報リスト」、「閉じる」で構成されています。各項目はF3で切り替わります。

図書情報リストでは「総時間」、「読み上げ時間」、「残り時間」を確認できます。

マーク情報リストでは「総マーク数」、「マークページ」を確認できます。

リストでは上下キーを押すと各情報を確認できます。

1. 閉じる：（z）、「Space-z」 DAISYプレーヤーを終了します。
2. ブックマークを削除して終了：（q）、「Enter-z」　ブックマークを削除してDAISYプレーヤーを終了します。
3. ブックマークを保存せずに終了：（c）、「Backspace-z」　ブックマークを保存せずにDAISYプレーヤーを終了します。

### 文書メニュー

1. 再生/一時停止：（p）、「Space」　再生を一時停止し、再開します。 前面の「再生」ボタンを使用することもできます。
2. 前のページ：（u）、「Space-1-2-6」 1ページ戻ります。
3. 次のページ：（d）、「Space-3-4-5」 1ページ前に移動します。
4. 指定ページへ：（g）、「Enter-g」　ページ番号を指定して移動します。
5. パーセント移動：（r）、「Enter-e」 文書全体に対して、設定したパーセンテージの位置へ移動します。
6. 時間移動：（t）、「Backspace-t」　DAISYオーディオでのみ
7. もどる：（h）、「3の点」　指定した移動単位で戻ります。
8. 次へ：（l）、「6の点」　指定した移動単位で進みます。
9. もどるのモード変更：（i）、「2-3の点」 前の移動単位に変更します。
10. 次へのモード変更：（e）、「5-6の点」 次の移動単位に変更します。

### マークメニュー

1. マーク設定：（m）、「Enter-m」　マークを設定します。
2. マークに移動：（j）、「Enter-j」　以前に設定したマークに移動します。
3. マーク削除：（d）、「Space-d」　以前に設定したマークを削除します。

### 見出しメニュー

1. 見出し一覧：（l）、「Enter-h」　本の見出し一覧を開きます。見出しを上下キーで選択肢エンターを押すと選んだ見出しの位置へ移動します。
2. 見出しをスキャンする：（n）、「Enter-n」　次の利用可能な見出しを検索します。
3. 見出しを読み上げ：（w）、「Enter-w」　現在のテキストが置かれている文書の見出しを読み上げます。
4. 最初の見出し：（t）、「1-3の点」　最初の見出しに移動します。
5. 最後の見出し：（b）、「4-6の点」　最後の見出しに移動します。
6. 検索（f）、「Space-f」　テキストを検索します。※テキスト情報を含むDAISYの場合。
7. 再検索：（r）、「Enter-f」 検索ダイアログで指定した検索文字列のまま再度検索し次の検索結果を表示します。※テキスト情報を含むDAISYの場合。

### メモメニュー

1. メモ：（m）、「Backspace-m」　メモを挿入します。
2. メモの読み上げ：（r）、「Backspace-r」　現在のメモを読み上げる。
3. 前のメモを読み上げ：（p）、「Backspace-p」　現在再生中の位置の1つ前に挿入されているメモを読み上げます。
4. 次のメモを読み上げ：（n）、「Backspace-n」　現在再生中の位置の1つ後に挿入されているメモを読み上げます。
5. メモの削除：（d）、「Backspace-d」　現在のメモを削除します。

## 文書リーダ

文書リーダはテキストベースの文書ファイルを、読み取り専用の状態で開いて内容を確認するための機能です。文書を快適に読むことができます。簡単起動コマンドはF1-oです。

文書リーダはtxt、RTF、BRL、BRF、doc、docx、PDF、EPUB、XML、HTM、HTML形式のファイルに対応しています。

文書リーダを実行すると、ファイルを開くダイアログボックスが表示されます。文書リーダの機能はメニューから選択するか、ホットキーを使って実行します。

文書リーダのメニューにはファイル、編集、移動、読み上げ、マークがあります。このようなメニューを使うにはSpace-m(1-3-4)かF2を押したあと、上下キーを押して使いたいメニュー項目まで移動し、Enterを押して実行します。

### ファイルメニュー

#### ファイルを開く

保存された文書データを開く操作です。文書リーダを起動すると、自動的に「ファイルを開く」ダイアログボックスが表示されます。ファイルメニューの「ファイルを開く」でエンターを押すかEnter-oを押すと実行します。

ファイルを開くダイアログでは「Documents」フォルダのファイルリストを表示します（初期設定）。リストからファイルを選んでエンターキーを押して実行するとファイルを開きます。リスト間の移動は上下キーで行います。

SDカードやUSBメモリに保存されたデータを読み込みたい場合は、ファイルリストが表示された状態でバックスペースキーを押してください。「Documents」フォルダの外へフォーカスが移動します。ファイル管理と同じ要領で読み込みたいデータを選択してください。ファイル管理内の操作方法については「4.1.1ファイルリストでの移動」をご参照ください。

参考：「Documents」フォルダからファイルを開くのは初期設定です。他のフォルダから文書を開くと次回から最後に開いたフォルダを自動的に参照します。

#### 文書を開いてからの操作

ファイルを指定してエンターキーを押すと文書ファイルが開き、ブレイルセンスは自動的に文書の読み上げを開始します。文書を読み上げる音声は設定を変更することが可能です。※詳しくは「9.2.1.5 音声設定」をご参照ください。

文書の読み上げはエンターキーを押すたびに「自動読み上げ」と「手動読み上げ」に切り替わります。

後述される文書リーダでの操作方法に加えて、前章のワードプロセッサで使用した通常のナビゲーションコマンドも使用することができます。

#### 最近開いた文書

文書リーダで最近開いた文書データをリストにして表示します。文書リーダ実行中に、ファイルメニューの「最近開いた文書リスト」でエンターを押すかEnter-rを押すと実行します。リストが表示されたら上下キーで開きたい文書ファイルを選択し、エンターキーを押してください。選択した文書を開きます。

#### ページ設定

ページ設定では開いた文書の１ページあたりの行数と、1行の文字数を設定します。

文書リーダを実行した状態でF2を押してメニューを開いてください。ファイルメニューの中から「ページ設定」を選んでエンターを押すとページ設定を実行します。文書を開いた状態でBackspace-pを押しても実行することができます。

ページ設定ダイアログは以下の4つの項目で構成されています。

1. 1行の文字数設定：1行あたりの文字数を設定することができます。
2. ページ行数設定：ページの行数を設定することができます。
3. 確認ボタン
4. 取消ボタン

各項目はF3を押すと切り替えることができます。行数と文字数を設定したらエンターを押すか、確認ボタンでエンターを押してください。設定を保存します。

設定を保存せずに終了する場合はキャンセルボタンでエンターを押すか、F4を押してください。ページ設定ダイアログを終了して文書に戻ります。

#### 音声設定

音声設定では文章の読み上げについて設定します。

文書リーダを実行した状態でF2を押してメニューを開いてください。ファイルメニューの中から「音声設定」を選んでエンターを押すと音声設定を実行します。文書リーダを実行した状態でEnter-sを押しても実行することができます。

音声設定ダイアログは、設定項目リストと確認ボタンと取消ボタンで構成されています。設定を保存して終了する場合はエンターを押すか、確認ボタンでエンターを押してください。設定を保存せずに終了する場合はF4を押すか、取消ボタンでエンターを押してください。

以下、「音声設定」の設定項目リストを説明します。設定項目はF3またはSpace-F3で選択し、設定内容はスペースキー（順送り）またはバックスペースキー（逆送り）を押すことで変更することができます。

また、ここで設定した音声は文書リーダの文書読み上げに関する設定です。ブレイルセンスの操作に関する音声や他の機能の音声には影響しません。

1. 音声：音声のオンとオフを切り替えます。点字でのみ文書を読みたい場合はオフに設定してください。初期設定はオンです。
2. ボリューム設定：音量を設定します。1~10の音量から選択してください。
3. 速度設定：速度を設定します。1~10の速度から選択してください。
4. トーン設定：トーンを設定します。1~10のトーンから選択してください。

#### 文書の情報

閲覧中の文書データの情報を確認する事ができます。

文書リーダを実行した状態でF2を押してメニューを開いてください。ファイルメニューの中から「文書の情報」を選んでエンターを押すと実行します。文書リーダを実行した状態でEnter-iを押しても実行することができます。

実行すると、現在読み上げている位置の情報が確認できます。確認できる情報は全体のページ数と現在位置のページ数、現在読み上げているページ内の全段落数と現在位置の段落数、現在読み上げているページ内の全行数と現在位置の行数、現在地点が文書全体の何％の場所か、開いている文書データのファイル名です。

例）　ページ：1/1、段落：2/6、行：2/10、6%、ファイル名：test.txt

F4を押すと文書情報の表示を終了して文書に戻ります。

#### 起動時の設定

文書リーダを起動した際に自動的に実行される、文書ファイルを開く方法を指定する事ができます。

文書リーダを実行した状態でF2を押してメニューを開いてください。ファイルメニューの中から「起動時の設定」を選んでエンターを押すと実行します。文書リーダを実行した状態でEnter-eを押しても実行することができます。

起動時の設定ダイアログは、設定項目リストと確認ボタンと取消ボタンで構成されています。設定を保存して終了する場合はエンターを押すか、確認ボタンでエンターを押してください。設定を保存せずに終了する場合はF4を押すか、取消ボタンでエンターを押してください。

以下、「起動時の設定」の設定項目リストを説明します。設定項目は上下キーで選択し、設定内容はスペースキー（順送り）またはバックスペースキー（逆送り）を押すことで変更することができます。

1. ファイルを開く：自動的に「ファイルを開く」を実行します。「ファイルを開く」の詳細は9.2.1.1章をご参照ください。
2. 最近開いた文書：自動的に「最近開いた文書」を実行します。「最近開いた文書」の詳細は9.2.1.3章をご参照ください。
3. 未使用：文書リーダを起動しても自動的には文書を開く関連のダイアログを表示しません。手動でファイルメニューから文書を開く操作を行ってください。

#### 文書リーダを終了する

文書リーダには3種類の終了方法があります。メニューから実行する場合、ファイルメニューリストの最後でそれぞれ選択して実行することができます。

1. ブックマークを保存して終了：

閲覧した文書の最後に読んでいた箇所を保存して終了します。次回文書リーダで同じファイルを開くと同じ位置から再開できます。Space-zを押しても実行することができます。

1. ブックマークを削除して終了：

文書内のマーク全てを削除してしおりを付けずに終了します。Enter-zを押しても実行することができます。

1. ブックマークを保存せずに終了：

閲覧した文書の最後に読んでいた箇所を保存せずに終了します。次回同じ文書を文書リーダで閲覧しても文書の最初から始まります。Backspace-zを押しても実行することができます。

### 編集メニュー

編集メニューでは閲覧中の文書の特定箇所をクリップボードにコピーすることができます。クリップボードにコピーしたデータはワードプロセッサや電子メール等他のアプリケーションの作成中文書に張り付けることが可能です。

注意：編集メニューは自動読み上げモードでは使用できません。文書閲覧中にエンターキーを押すか、読み上げメニューから読み上げモードを手動に切り替えてください。

#### 選択開始

編集したいテキスト部分を選択するときに使います。選択したい文章の表示中に｢ブロック選択開始｣を実行します。

選択開始は、F2を押して編集メニューを選択し、編集メニューの｢選択開始」でEnterを押すか、文書閲覧中にEnter-b(1-2)を押して実行します。

#### コピー

コピーしたい部分を｢ブロック選択開始｣機能を使って選択した後、Enter-cを押すとコピーを実行します。メニューから行う場合は、F2を押してメニューを呼び出し、編集メニューの「コピー｣でエンターキーを押すとコピーが実行されます。

コピーが実行されると、選択した部分が｢クリップボード｣という仮想の一時保存場所に複写されます。ここで、文書の他の内容を選択してコピーを実行すると、クリップボードに保存されていた内容は消されて、新しくコピーされた内容が保存されます。

#### クリップボードに追加

文書内でクリップボードに追加したい部分を選択してから、Enter-pを押すとクリップボードに追加を実行します。メニューから実行する場合は、F2を押してメニューを呼び出し、編集メニューの｢クリップボードに追加｣でエンターキーを押してください。

｢クリップボードに追加｣は｢コピー｣とほぼ同じ機能を持ちます。ただし、コピー機能を利用すると以前にクリップボードにコピーしたデータは消えますが、｢クリップボードに追加｣機能を使うと、以前にクリップボードにコピーした内容を残して新しく追加されます。

#### クリップボードをクリア

｢クリップボードをクリア｣を実行すると、クリップボードに入っている全てのデータが消えます。Enter-dを押すとクリップボードのクリアを実行します。メニューから実行する場合はF2を押してメニューを呼び出し編集メニューの｢クリップボードをクリア｣を実行します。

#### 全て選択

閲覧中の文書全てを選択します。ホットキーはEnter-aです。

### 移動メニュー

#### 検索

1. 文字列を探す機能です。この機能を実行するには文書を閲覧中にSpace-f を押してください。メニューから実行する場合、F2を押してメニューを呼び出し、｢移動｣メニューの｢検索｣でエンターキーを押してください
2. ｢検索｣が実行されるとダイアログボックスを読み上げます。このダイアログボックスには｢検索文字列｣、｢検索方向｣、｢確認｣ボタン、｢取消｣ボタンがあります。項目間の移動にはF3またはSpae-4-5かSpace-F3またはSpae-1-2を使います。
3. 検索文字列：検索したい文字列を入力してください。検索文字列入力後、エンターキーを押すか、確認ボタンへ移動してからエンターキーを押すと検索を開始します。
4. 検索方向：検索する方向を指定します。初期設定は｢次へ｣です。この方向を｢前へ｣に変更するにはスペースキーを押してください。スペースキーを繰り返し押すと｢次へ｣と｢前へ｣が切替えられます。ここで｢次へ｣は文書の現在の位置から文末に向かう方向に、｢前へ｣は文書の現在の位置から文頭に向かう方向に検索するという意味です。
5. 確認：全ての設定を終えた後に検索機能を実行する場合は｢確認｣でEnterを押してください。上記に説明したように、｢検索文字列｣や｢検索方向｣を設定した後すぐにエンターキーを押しても検索を実行できます。
6. 取消：｢検索｣機能を使用しない場合は｢取消｣でエンターキーを押してください。あるいはF4を押しても検索を終了して文書に戻ります。

検索により、文書内に検索文字列が見つかると、そのテキストが含まれている文章が点字ディスプレイに読み上げられた後｢完了｣と表示します。文書内に該当文字列がない場合は、フォーカスは動かずに、点字で｢これ以上検索するデータがありません｣というメッセージを読み上げます。

この機能は検索したテキストと検索方向を記憶していますので、｢検索｣を再び実行するときに便利です。検索機能を使用するときにはフォーカスの位置が重要になります。フォーカスが文書の先頭にある場合には検索方向を｢次へ｣としてください。フォーカスが文書の終わりにある場合には検索方向を｢前へ｣としてください。

#### 次を検索

「再検索」は検索文字列の入力を省略して、現在開いている文書で先に「検索」した文字列を再度検索する機能です。

「再検索」を行うには、文書を閲覧中にEnter-f を押してください。メニューから実行する場合、F2を押してメニューを呼び出し、｢移動｣メニューの｢再検索｣でエンターキーを押してください

「再検索」を実行すると直前に「検索」された文字列を検索し、そこにカーソルが移動します。「検索」を実行したことのない文書では「再検索」を実行できません。

#### 前の項目を検索

「後方に再検索」機能は、前述の「再検索」機能と同じ様に検索文字列の入力を省略して、現在開いている文書で先に「検索」した文字列を再度検索する機能です。ただし、常に文書の後ろから前に検索します。

「後方に再検索」を行うには、文書を閲覧中にBackspace-f を押してください。メニューから実行する場合、F2を押してメニューを呼び出し、｢移動｣メニューの｢後方に再検索｣でエンターキーを押してください。

「後方に再検索」を実行すると、直前に検索した文字列を逆方向から検索します。

#### 指定位置に移動

「指定位置に移動」は指定した位置にフォーカスを移動する機能です。「指定位置に移動」を行うには、文書を閲覧中にEnter-lを押してください。メニューから実行する場合、F2を押してメニューを呼び出し、｢移動｣メニューの｢指定位置に移動｣でエンターキーを押してください。

指定位置に移動を実行すると移動する種類のリストが表示されます。「ページ移動」、「段落移動」、「行移動」、「割合移動」を指定して移動できます。移動方法の選択には上下キーを使ってください。エンターキーを押すとコンピュータエディットボックスが表示されます。移動先を数字で入力してエンターキーを押すと移動します。

#### 見出しに移動

HTML文書でのみ使用できる機能です。実行すると閲覧しているHTMLファイルの見出しリストを表示します。「見出しに移動」を行うには、文書を閲覧中にEnter-tを押してください。メニューから実行する場合、F2を押してメニューを呼び出し、｢移動｣メニューの｢見出しに移動｣でエンターキーを押してください。

見出しリストでは上下矢印キーで見出しを選択することができます。移動したい見出し名が表示されたらエンターを押してください。指定した見出しの位置から文書を閲覧できます。見出し移動をせずに文書に戻りたい場合はF4を押してください。

### 読み上げメニュー

#### 選択したテキストを読み上げ

ブロック選択によって選択した文章を読み上げる機能です。Backspace-bを押すと実行します。メニューから実行するには、F2を押してから「読み上げ」メニューの｢選択したテキストを読み上げ」でエンターを押して実行します。

この機能を実行してもカーソルは選択したブロックに移動せず、閲覧中の位置にとどまります。

#### 読み上げモードの切り替え

文書リーダでは文章を連続読みで自動的に読みあげる「自動読み上げモード」と手動で文章を順番に読み上げる「手動読み上げモード」の2つのモードを使って文章を読みます。

読み上げモードは文書閲覧中にエンターキーを押すことで自動と手動を切り替えることができます。

メニューから切り替える場合は、文書リーダを実行した状態でF2を押してメニューを開いてください。読み上げメニューの中から「読み上げモードの手動と自動の切り替え」を選んでエンターを押すと切り替えることができます。

自動読み上げモード：

文書を先頭から順番に連続読みを行います。スペースキーを押すことで一時停止／再生を切り替えることができます。

手動読み上げモード：

上下キーを押すことで文章を文単位で進めたり戻したりして読むことができます。音声で読み上げている場所がカーソル位置となり、Space-3やSpace-6で前後に1文字ずつ読み上げることも可能です。

編集メニューは手動読み上げモードになっていないとメニューに表示されません。

文章の一部をコピーしたい場合は必ず手動読み上げモードで行ってください。

#### 現在のページを読み上げ

文書閲覧中にバックスペースキーを押すと現在のページ先頭から文書を読み上げます。メニューから実行する場合はF2を押してから「読み上げ」メニューの「現在のページを読み上げ」でエンターを押してください。

また、前のページに移動する場合はSpace-1-2-6、次のページに移動する場合はSpace-3-4-5を押してください。

#### 現在の段落を読み上げ

文書閲覧中にSpace-2-3-5-6を押すと現在カーソルのある段落を先頭から読み上げます。メニューから実行する場合はF2を押してから「読み上げ」メニューの「現在の段落を読み上げ」でエンターを押してください。

また、前の段落に移動する場合はSpace-2-3、次の段落に移動する場合はSpace-5-6を押してください。

#### 現在の行を読み上げ

文書閲覧中にSpace-cを押すと現在カーソルのある行を先頭から読み上げます。メニューから実行する場合はF2を押してから「読み上げ」メニューの「現在の行を読み上げ」でエンターを押してください。

また、前の行に移動する場合はSpace-1、次の行に移動する場合はSpace-4を押してください。

#### 現在の文を読み上げ

文書閲覧中に2-3-5-6を押すと現在カーソルのある文を読み上げます。メニューから実行する場合はF2を押してから「読み上げ」メニューの「現在の文を読み上げ」でエンターを押してください。

### マーク

#### マーク設定

マーク設定を実行するには、文書を閲覧中にEnter-mを押してください。メニューから実行する場合、F2を押してメニューを呼び出し、｢マーク｣メニューの｢マーク設定｣でエンターキーを押してください。

｢挿入するマーク名を入力してください」と表示したらマークに付ける名前を入力します。マーク名はaからzまでの文字を使ってください。例えば、a(1)を入力すると、内部的にマークを付けて、閲覧中の文書に戻ります。文書閲覧中マーク記号は見えません。5.1.8章で説明した｢設定｣の中で｢フォーマット文字表示｣を選択すると文書上でマークを確認することができます。Space-3とSpace-6を押すと文書中のマークからマークに移動することができます。この場合、マーク記号は｢$pl (マーク名)｣のように読み上げられます。

#### マークに移動

既に設定されたマークを検索して、そのマークがある場所まで移動する機能です。実行するには、文書を閲覧中にEnter-jを押してください。メニューから実行する場合、F2を押してメニューを呼び出し、｢マーク｣メニューの｢マークに移動｣でエンターキーを押してください。

実行すると｢移動先のマーク名は？｣と表示します。選択したいマーク名を入力してエンターを押すと、閲覧中の文書に戻り指定したマークが付いた場所を表示します。

#### マーク削除

既に設定されたマークを削除する機能です。実行するには、文書を閲覧中にSpace-dを押してください。メニューから実行する場合、F2を押してメニューを呼び出し、｢マーク｣メニューの｢マークを削除｣でエンターキーを押してください。

実行すると｢削除するマーク名を入力してください｣と表示します。削除したいマーク名を入力してエンターを押すと、指定したマークを削除します。

#### 次のマーク

文書を閲覧している現在位置よりも先に付けてあるマークへ順番に移動する機能です。実行するには、文書を閲覧中にEnter-nを押してください。メニューから実行する場合、F2を押してメニューを呼び出し、｢マーク｣メニューの｢次のマーク｣でエンターキーを押してください。

#### 前のマーク

文書を閲覧している現在位置よりも前に付けてあるマークへ順番に移動する機能です。実行するには、文書を閲覧中にBackspace-mを押してください。メニューから実行する場合、F2を押してメニューを呼び出し、｢マーク｣メニューの｢前のマーク｣でエンターキーを押してください。

#### マーク管理

マーク管理は閲覧中の文書内にあるマークをリストにして表示する機能です。実行するには、文書を閲覧中にEnter-kを押してください。メニューから実行する場合、F2を押してメニューを呼び出し、｢マーク｣メニューの｢マーク管理｣でエンターキーを押してください。マークリストに表示されたマークは上下キーで選択することができます。マーク名が表示された状態でエンターキーを押すとそのマークの位置に移動します。

マークリストを閉じて文書に戻る場合はF4を押してください。

#### マーク通知設定

文書閲覧中にマーク設定されている場所を通知するかどうか設定する機能です。実行するには、文書を閲覧中にBackspace-oを押してください。メニューから実行する場合、F2を押してメニューを呼び出し、｢マーク｣メニューの｢マーク通知設定｣でエンターキーを押してください。

マーク通知設定ダイアログは、通知方法の設定リストと確認ボタン、取消ボタンで構成されています。各項目はF3を押すと切り替えることができます。

設定できる通知方法は、「beep」、「メッセージ」、「使用しない」の3種類です。スペースキーを押すたびに設定が切り替わります。

通知方法を設定したらエンターを押すか、確認ボタンでエンターを押してください。設定を保存します。

設定を保存せずに終了する場合はキャンセルボタンでエンターを押すか、F4を押してください。ページ設定ダイアログを終了して文書に戻ります。

## DAISYオンライン

DAISYオンラインはサピエ図書館のDAISY図書データを閲覧・ダウンロードできる機能です。使用にはインターネットに接続できる環境と、サピエIDとパスワードが必要です。

メインメニューのライブラリーサービスからDAISYオンラインを実行することで使用できます。

### ログイン

DAISYオンラインを利用するには、サピエIDとパスワードが必要です。ログイン画面でサピエIDとパスワードを入力してサピエにログインしてください。以下手順です。

「DAISYオンライン」を実行すると、「ユーザ名」と表示されます。お持ちのサピエIDを入力してください。

ユーザIDを入力後、F3を押してください。「パスワード」と表示されます。お持ちのサピエパスワードを入力してください。

パスワードを入力後、F3を押してください。「IDを記憶させる」チェックボックスが表示されます。入力したIDを保存しておく場合はスペースキーを押してチェックボックスにチェックを入れてください。スペースキーを押すたびにチェックボックスのチェックを入れたり外したりすることができます。

次にF3を押すと「パスワードを保存する」チェックボックスが表示されます。入力したパスワードを保存しておく場合はスペースキーを押してチェックボックスにチェックを入れてください。

次にF3を押すと「お知らせを確認する」チェックボックスが表示されます。ログイン毎にお知らせを確認したい場合はスペースキーを押してチェックボックスにチェックを入れてください。

次にF3を押すと「ログイン」と表示されます。Enterを押すとログインを実行します。IDとパスワードに誤りがなければサピエにログインします。

ユーザIDとパスワードを入力した状態でEnterを押してもログインすることができます。

入力したIDとパスワードを保存するチェックボックスにチェックが入っていれば、次回ログイン時からは、IDとパスワードが入力された状態から始まりますので、エンターキーを押すだけでログインできます。

＜注意＞不特定多数が使用するブレイルセンスを使用する場合はサピエID等を保存しないよう注意してください。

### DAISYオンラインのメインメニュー

サピエIDとパスワードが正しく入力されると、DAISYオンラインのメインメニューが開きます。ログイン時に「お知らせを確認する」にチェックを入れていると最初にお知らせが表示されます。お知らせはエンターキーを押すと閉じることができます。

メインメニューの項目は以下の5つです。

・前回の検索結果一覧

・図書検索

・雑誌検索

・雑誌の定期配信

・タイトル削除依頼

DAISYオンラインのメニューでは上下キーでリスト項目の移動、F3で各項目のサブメニューの項目に、Space-F3で各項目の一つ上の階層に移動します。

つまり、F3でメニューの先へ進み、Space-F3でメニューを前に戻ります。

メインメニューの項目について以下で説明します。

#### 前回の検索結果一覧

前回の検索結果リストを表示します。

#### 図書検索

閲覧したい図書を検索することができます。

1. 新着完成情報

・過去１週間

・過去１ヶ月

1. 人気のある本
2. ジャンル検索
3. 文字入力検索

・簡易検索

・絞り込み検索

を行う事ができます。

【注意】検索に完成登録日を使用する場合、数字は英語入力を使って半角で入力してください。

#### 雑誌検索

閲覧したい雑誌を検索することができます。

1. 新着完成順で表示
2. タイトル順で表示

・月刊誌

・週刊誌

・その他、隔月刊、季刊誌、不定期刊誌

1. タイトル検索

#### 雑誌の定期配信

1. 登録
2. 解除

雑誌の定期配信を登録または削除することができます。

#### タイトル削除依頼

ネット閲覧室に登録されたタイトルを施設の職員が削除することを「可能」か「不可能」に設定します。

### 図書検索結果リストの操作

各検索方法で検索を行うと図書の検索リストが表示されます。検索した図書名でF3を押すと検索結果リストでの各種操作を行う事ができます。

1. 図書名

検索してリストアップされた図書名です。上下キーを押すと順番にリストを確認できます。

1. ダウンロード

検索した図書を閲覧するためにデータをダウンロードします。

1. 次のページ

検索結果リストに表示しきれていない次ページへ移動します。

1. 詳細情報

検索した図書の詳細情報を表示します。確認できる情報は「タイトル」、「著者」、「出版社」、「詳細」、「言語」です。上下キーで項目を切り替える事ができます。F3を押すと閉じるボタンに切り替わります。「閉じる」でエンターを押すと検索結果リストの操作メニューに戻ります。

1. オプション

オプションでは1ページに表示されるリストの件数確認とダウンロードしたデータの保存先確認、保存先の指定を行うことができます。

1. サインアウト

DAISYオンラインを終了します。Space-zを押しても実行できます。

### DAISYオンラインで検索した図書の再生

図書の検索を行った後、目的の図書をダウンロードして閲覧します。

検索した図書名を表示した状態でF3またはエンターを押すとダウンロードボタンを表示します。ダウンロードボタンを実行すると図書データのダウンロードを実行します。

ダウンロードが完了すると「DAISYプレーヤー」が自動的に起動して図書を読むことができます。

ダウンロードした図書データはflashdiskのOnline Daisyフォルダに保存されます。

### ネット閲覧室

ネット閲覧室には「新着リスト」と「閲覧リスト」があります。  
図書検索の結果から読みたい本を選択すると閲覧リストに追加されます。  
定期配信の設定を行った雑誌は新着リストに登録されます。  
またサピエでは、自分で検索できないユーザは、図書館に電話で検索を依頼し、自分のネット閲覧質の新着リストに読みたい本や定期配信を希望する雑誌を登録してもらうことができます。

#### ネット閲覧室を開く

DAISYオンラインのメインメニューでEnter-tを押すか、F2を押してメニューを開き、「ネット閲覧室」を実行すると、ネット閲覧室を開きます。

再度Enter-tを押すとDAISYオンラインのメインメニューに戻ります。

#### 新着リスト

定期配信の設定を行った雑誌と、図書館に検索を依頼した図書が新着リストに追加されます。

リストでの操作は「9.3.3　図書検索結果リストの操作」と同様です。

#### 閲覧リスト

新着リストに配信されたタイトルを一度再生すると、新着リストから閲覧リストに既読タイトルは移動します。また、図書検索結果リストで検索したタイトルを表示した状態でEnter-sを押すとそのタイトルを閲覧リストに登録します。

リストでの操作は「9.3.3 図書検索結果リストの操作」と同様です。

#### ネット閲覧室から削除

閲覧リストのタイトルを削除します。ショートカットキーはEnter-rです。

#### 閲覧リストに登録

ネット閲覧室の新着リストのタイトルや、検索したタイトルをネット閲覧室の閲覧リストに登録します。登録したタイトルは再度検索しなくとも閲覧リストから読むことが可能になります。ショートカットキーはEnter-sです。

# オーガナイザ

オーガナイザは、「アドレス帳」と「予定帳」、「データベース管理」で構成されており、情報の管理に役立ちます。

メインメニューの「オーガナイザ」を実行するか、メインメニューで「o」を押す事で、「オーガナイザ」メニューを開くことができます。

## アドレス帳

アドレス帳は、会社の住所、自宅の住所、電子メールアドレス、その他の情報など、友人や同僚の連絡先情報を整理・活用するための機能です。「全てのアプリ」の「設定」メニューの「アカウント」でGoogleアカウントと連絡先を同期することもできます。

「アドレス帳」は、連絡先情報を入力する「アドレスの追加」機能と、登録されている情報を確認するための「アドレス検索」の2つのダイアログで構成されています。

「オーガナイザ」メニューから「アドレス帳」を選んでEnterを押すと「アドレス帳」を実行することができます。簡単起動コマンドはF1-aです。

「アドレス帳」を開くと、「アドレス検索」ダイアログが表示され、「姓：」と読み上げます。

メニューを使用すると、使用可能な全てのコマンドを選択して実行できます。メニューを開くにはF2を押します。上下キーを使用してメニュー項目を選択し、Enterを押して実行します。

メニュー、設定、ファイルリストの操作には、上下キーを使用します。 F3を使用して、ダイアログ内のコントロール間を移動します。項目を実行するにはEnterを押します。

### アドレス追加

アドレス追加ダイアログでは、新しい連絡先を入力できます。メニューから「アドレス追加」を選択するか、「アドレス帳」起動後にEnter-iを押してください。

「アドレス追加」ダイアログは、アカウント名のコンボボックス、22個の入力フィールド、「メモ」フィールド、「確認」ボタン、および「取り消し」ボタンで構成されています。アカウント名のコンボボックスでは、機器に設定したGoogleアカウントまたは「BrailleSense6」を選択します。入力フィールドには、22個のフィールドに対応する情報を入力します。上下キーを使用して、フィールドから次のフィールドに移動することができます。全てのフィールドを入力する必要はありません。使用する必要がないフィールドは空白のままにしてください。

電話番号にハイフン（‐）を入力したい場合（例: 000-000-0000）は3-6点を押してください。電話番号の後に内線番号を入力したい場合には、電話番号の後にコンマ（，）を入力してから内線番号を入力してください（例: 000-000-0000, 100）。

コンマを入力する場合は2の点、無変換(NABCC)で入力する場合は6点を押してください。

ホームページアドレスやメールアドレスを入力する場合はコンピュータ点字を使ってください。無変換(NABCC)で入力する場合、@（アット）はSpace-u(1-3-6)を押してから4点を、ホームページアドレスやメールアドレスでピリオドやドット（．）を入力する場合は4-6点を、コロン（：）は1-5-6点を、スラッシュ（/）は3-4点を押してください。

F3またはSpace-4-5を押すと｢メモ｣フィールドに移動します。この｢メモ｣フィールドには複数行の文字列入力ができます。改行したい場合はEnterを押してください。

情報入力を終了して入力した情報を保存するには、F3を押して｢確認｣まで移動し、Enterを押してください。

追加された情報はレコードと呼ばれます。

### アドレスフィールド設定

レコードには22個のフィールドがありますが、22個のフィールドのそれぞれに情報を入力したくない場合があります。「アドレスフィールド検索設定」を使用すると、アドレス追加時に必要なフィールドだけを表示することができます。

この機能を使用するには、メニューから「アドレスフィールド検索設定」を選択するか、「アドレスの追加」ダイアログでEnter-oを押してください。各フィールド名の後に「使用」または「未使用」と表示されます。初期設定は 「使用」に設定されています。Spaceを押すと「使用」と「未使用」が切り替わります。

各フィールドについて設定を変更後、F3を押して「確認」ボタンを表示し、Enterを押すと変更を保存します。設定変更をキャンセルする場合はF4を押してください。

### アドレスの検索

「アドレスの検索」ダイアログでは、「アドレス帳」内の特定のレコードを検索できます。 「住所の検索」ダイアログは、「アドレス帳」が起動されると自動的に表示されます。 「アドレス追加」から「アドレス検索」を実行するには、メニューから選択するか、「アドレス追加」ダイアログでEnter-sを押してください。するとアドレスデータの最初のフィールドである、「姓：」と表示されます。

検索する姓を入力し、Enterキーを押すとレコードの「姓」情報から検索を行います。検索するテキストを入力せずにEnterを押すと、全てのレコードが表示されます。別のフィールドで検索するには、上下キーを使用して目的のフィールドに移動し、編集ボックスに検索ワードを入力してEnterを押してください。

検索完了後、上下キーで検索されたレコード間を移動できます。表示されたレコードでF3を押すと登録されているフィールド情報を確認する事ができます。情報は、通常のテキストで使われる操作を使用できる複数行読み取りボックスを使って表示されます。

レコードに電子メールアドレスが含まれている場合、メールアドレスを表示した状態でEnterを押すと電子メールが起動し、その電子メールアドレス宛に電子メールを作成・送信できます。フィールドにWebページが含まれている場合は、URLを表示した状態でEnterを押すとウェブブラウザでWebページを開くことができます。

検索するためにテキストを入力する際、そのフィールドの全体の内容を入力する必要はありません。例えば、｢たかはし｣のレコードを探す場合、検索する「姓」フィールドに「た」だけを入力すると、登録されたレコードの中で「姓」フィールドに「た」を含む全てのレコードを検索します。

### アドレスフィールド検索設定

「アドレスフィールド検索設定」を使用すると、アドレス検索時に必要なフィールドだけを表示することができます。

この機能を使用するには、メニューから「アドレスフィールド検索設定」を選択するか、「アドレス検索」ダイアログでEnter-oを押してください。各フィールド名の後に「使用」または「未使用」と表示されます。初期設定は 「使用」に設定されています。Spaceを押すと「使用」と「未使用」が切り替わります。

各フィールドについて設定を変更後、F3を押して「確認」ボタンを表示し、Enterを押すと変更を保存します。設定変更をキャンセルする場合はF4を押してください。

### アドレス一覧のバックアップと復元

ハードリセットの実行、またはバッテリーが完全に空になると、「アドレス帳」のデータは全て失われます。そのため、アドレスリストを変更するたびにバックアップファイルを作成することが非常に重要です。バックアップの作成は、アドレス帳のメニューから「アドレスリストバックアップ」を選択するか、アドレス帳使用中にEnter-uを押すと実行されます。

すでにバックアップファイルがある場合は、「バックアップファイルは既に存在します。バックアップを続行しますか？はい」というメッセージが表示されます。アドレス帳を変更した場合は、Enterを押してバックアップファイルを更新してください。変更せずに、以前のバックアップファイルのまま保存する場合はSpaceを押し、「いいえ」に移動してEnterを押してください。アドレスリストのバックアップファイルを作成すると、フラッシュディスクの「Database」フォルダに新しいバックアップファイルが作成されます。

ハードリセット後にアドレスリストを復元するには、メニューから「アドレスリストの復元」を選択するか、アドレス帳を開いた状態でEnter-rを押してください。

すでにアドレスリストが作成されている場合は、「アドレスファイルが既に存在します。どちらを選択しますか？追加」というメッセージが表示されます。「追加」と表示された状態で Enterキーを押すと、バックアップアドレスリストが現在のアドレスリストに追加されます。Spaceを1回押して「上書き」でEnterを押すと、新しいバックアップファイルが復元され、古いバックアップファイルが消去されます。

「バックアップオプション設定」を使用すると、アドレスリストを自動的にバックアップできます。メニューから「バックアップオプション設定」を選択するか、Enter-eを押してください。

「バックアップモード」には、「終了時にバックアップの確認をする」、「終了時常にバックアップ」、「マニュアルバックアップ」という3つのラジオボタンがあります。SpaceとBackspaceを使用してラジオボタンを移動します。Enterを押して設定を保存します。

### CSVからインポート

「CSV」はカンマ区切りのデータを持つファイル形式です。 CSVファイルは、テーブル形式で構成されたデータのデジタル記憶に使用され、さまざまな列の情報がカンマで区切られています。 「アドレス帳」は、MS Outlookまたは一部の携帯電話を使用して作成されたCSV連絡先ファイルをインポートできます。連絡先のCSVファイルをエクスポートして、他のデバイスで使用することもできます。

CSVファイルからデータをインポートするには、メニューから「CSVからインポート」を選択するか、アドレス帳を使用している状態でからBackspace-iを押します。エディットボックスが表示されるのでインポートしたいファイル名を入力します。ファイルを参照するには、Space-F3を押してフォルダやファイルの一覧に移動し、通常のファイル管理の操作方法でCSVファイルを選択し、 Enterを押してください。

CSVファイルを読み込むと、コンボボックスでアドレス帳をインポートするアカウントを選択します。F3キーを1回押すと、フィールドに移動して「姓 1 /xx」のように表示されます。各フィールドのCSVファイルのデータをインポートするかどうかを選択できます。一部のCSVファイルには、「アドレス帳」のいずれのフィールドにも相当しないデータが含まれている場合や、特定の情報をインポートしたくない場合があります。

このダイアログは、アカウント名のコンボボックス、「アドレス帳」の全てのフィールド、最初のレコードのフィールドを許可するためのチェックボックス、「確認」および「取り消し」ボタンで構成されています。F3を押すと各項目を切り替える事ができます。各「アドレス帳」のフィールドには、「未使用」とインポートされるCSVファイルの全てのフィールドを含むリストボックスがあります。上下キー、あるいはF3キーやSpace-F3を使用してフィールド間を移動します。 「アドレス帳」フィールドのCSVファイルに同等のフィールドがない場合は、Spaceを押して「未使用」を選択します。

多くの場合、CSVファイルの最初のフィールドセットはフィールドタイトルを表します。このため、最初のレコードのフィールドをインポートできるようにするためのチェックボックスがあります。最初のフィールドセットにタイトルデータが含まれている場合は、「最初のレコードのフィールドを許可する」項目にチェックが入っていないことを確認してください。

インポートを完了するには、「確認」ボタンでEnterを押します。 「アドレスファイルは既に存在しますが。どちらを選択しますか？上書き」というメッセージが表示されます。Spaceを押すと「上書き」と「追加」を切り替える事ができます。いずれかを選択し、Enterを押してデータを保存します。

### CSVへのエクスポート

アドレスデータをCSVにエクスポートするには、メニューから「CSVへエクスポート」を選択するか、Backspace-xを押します。エクスポートされたデータのファイル名を入力し、Enterを押します。ファイルが保存されている場所を変更するには、Space-F3を押してファイルリストに移動し、通常のファイル管理と同じ操作で保存先を選択してください。

### アドレスの編集、保存、および削除

レコード内の情報を編集するには、「アドレス検索」機能を使用して目的のアドレスを探します。メニューから 「アドレス修正」を選択するか、ショートカットのEnter-mを押してください。フィールドに新しい情報を入力できるようになります。情報を変更したら、Enterを押してください。シックスは変更を保存し、元の状態に戻ります。F4を押すと、変更を取り消すことができます。

現在読み上げているレコードを削除するには、メニューから「アドレスの削除」を選択するか、レコードを表示中にSpace-dを押します。Spaceを押して個々に削除したいレコードを選択したり、Enter-aで全てのレコードを一括選択してからSpace-dを押すことで、複数のレコードを削除したりすることもできます。

選択したレコードをファイルに保存することもできます。メニューから「アドレスをファイルに保存」を選択するか、「アドレス検索」ダイアログで目的のレコードをSpaceで選択してEnter-tを押します。 「ファイル保存」ダイアログが表示され、ファイル名の入力とファイル形式の選択が求められます。ファイル名を入力し、使用可能なファイル形式の1つを選択した後、「確認」ボタンでEnterを押すと、選択したレコードが保存されます。

### アドレス帳の同期

シックスに入力またはインポートされた連絡先は、Googleアカウント、またはGoogleアカウントと同期した他のアカウントと同期することができます。

同期設定は、設定メニューの「Androidシステム設定」から「アカウント」を選択し、Googleを実行して行います。実行すると全てのGoogleアカウントが一覧表示され、同期が有効になっているかどうかが表示されます。設定したいアカウント名で Enterを押してダイアログを開き、同期させたい項目を選択してください。 連絡先の同期がオンに設定されると、連絡先を変更すると自動的に同期されます。 また、「アカウント」ダイアログの「その他のオプション」メニューの「今すぐ同期」を手動で行うこともできます。

注：CSVをインポートするときや、多くの新しい連絡先を同期するときなど、変更が多すぎると、「同期エラー」が表示されることがあります。 この場合はSpace-1-2-3-4-5-6を押して通知シェードを開き、Enterキーを押してエラーを表示します。 そこから、エラーの処理方法を選択できます。

## 予定帳

「予定帳」は、予定、記念日、およびイベントに関する情報を管理するためのプログラムです。また、アラームを使用して、指定された時間に予定を通知することもできます。「オーガナイザ」メニューから「予定帳」を選んでEnterを押すと実行することができます。簡単設定コマンドはF1-sです。

「予定帳」は、「予定追加」と「予定検索」の2つのメインダイアログで構成されます。 「予定追加」では、新しい予定の情報を入力できます。 「予定検索」を使用すると、特定の予定に関する情報を探したり、情報を編集または削除したりすることができます。

予定帳を開くと、最初に「予定検索」ダイアログボックスが表示されます。現在の日付が入力された状態の「日付検索：」入力を求められます。新しい予定を追加するには、メニューから「予定追加」を選択するか、「予定検索」ダイアログでEnter-iを押します。

【注意】予定の性質上、シックスの日付と時刻が正確に設定されている事が非常に重要です。正しく設定されていることを確認してください。 （3.1参照）

時間と日時の設定には以下のコマンドが使用できます。

時間設定

1時間前に移動：Space-1

1時間後に移動：Space-4

10分前に移動：Space-2

10分後に移動：Space-5

1分前に移動：Space-3

1分後に移動：Space-6

日時設定

次の日に移動：Space-6

前の日に移動：Space-3

次の週に移動：Space-5

前の週に移動：Space-2

次の月に移動：Space-4

前の月に移動：Space-1

次の年に移動：Space-5-6

前の年に移動：Space-2-3

### 予定追加

新しい予定を追加するには、「予定検索」ダイアログでEnter-iを押します。 「予定追加」ダイアログは、予定を追加するアカウントのカレンダーのコンボボックス、各種入力フィールド、各種チェックボックス、「確認」ボタン、「取り消し」ボタンで構成されています。F3を使用してコントロールを移動します。

「予定追加」を実行すると、最初にカレンダーを選択します。以下追加操作の手順です。

1. カレンダー：上下キーで選択してF3を押してください。
2. 開始日：表示された日付を開始日に使用する場合は、F3を押して次のフィールドに移動してください。新しい日付を入力する場合は、「月/日/年」を数字で入力します。「/」は3-4の点またはSpaceで入力できます。

【注意】予定検索していない場合の開始日は今日の日付です。

1. 終日の予定：予定が終日の場合にSpaceでチェックします。
2. 開始時刻：デフォルトでは、このフィールドに現在の時刻が表示されます。時間を入力するか、ナビゲーションキーを使用して予定時間を選択します。時刻の入力は時と分の間に「：」かSpaceを入力してください。 「12時間」形式で時刻を表示している場合は、Space-xを押してamとpmを変更できます。
3. 終了日：デフォルトでは、「開始日」と同じです。そのままで良ければF3キーを押して次のフィールドに移動します。新しい日付を入力するには、「月/日/年」と入力します。
4. 終了時刻：デフォルトでは開始時刻で設定した時間と同じです。時間を変更するには、時間を入力してください。
5. 件名：このフィールドに何も入力しなければ、レコードを保存することはできません。件名を入力した後にEnterを押すと、件名以降で入力する「場所」と「メモ」フィールドは空のままで、「アラーム時刻」フィールドはデフォルト値（開始時刻）に設定されたままレコードが保存されます。

「場所」、「メモ」、「アラーム時刻」の設定を行う場合は件名入力後F3を押してください。

1. 場所：予定の行われる場所を入力してください。ここまでで予定の入力を終わりにする場合はEnterを押してください。「メモ」に進む場合はF3を押してください。
2. メモ：予定に関する詳細情報を入力できます。これは複数行の編集ボックスです。つまり、文章を入力できます。「ワードプロセッサ」で使用されている編集コマンドのほとんどを使用できます。必要に応じて入力してください。
3. アラーム時刻：予定を通知したい場合に設定します。アラームは、開始時刻を基準に設定できます。例えば、開始時刻の30分前にアラームを鳴らす事ができます。デフォルトは、「開始時刻」に設定されています。アラーム時刻は、開始時刻の1分前から2週間前までの任意の時間に設定できます。時間と日付を設定するときと同じ操作方法です。アラームを使用したくない場合は、上スクロールを押して「アラームオフ」にします。 「アラーム時刻」を設定した後、Enterを押して予定を保存します。
4. 定期の予定設定チェックボックス：作成する予定が定期的に繰り返される場合、Spaceを押してチェックボックスにチェックをいれてください。（定期の予定設定については8.2.2で詳しく説明します。）1回だけの予定の場合はチェックボックスにチェックが無い状態でF3を押してください。
5. 「確認」：Enterを押して予定の追加を完了します。予定の追加を取り消す場合はもう一度F3を押して「取消」でEnterを押すかF4を押して取消してください。

### .定期の予定設定

作成する予定が定期的に繰り返される場合このオプションを設定します。定期的な予定としてチェックされていない場合、登録した予定は1回だけの予定として設定されます。定期的な予定を設定するには、Spaceを押してチェックボックスをチェックした状態でF3を押すと「定期タイプ」が表示されます。設定できる定期のタイプは「日」、「週」、「月」、「年」です。上下キーで選択し、F3で更に詳しく設定します。最終日が決まっている場合はチェックボックスにチェックを入れてF3を押すと最終日の設定を行う事ができます。設定した最終日を超えた定期の予定設定はできません。

1. 日：定期のタイプを「日」に設定した場合、F3を押すと「間隔」エディットボックスに移動します。次回予定までの日数を数字で入力してください。1と入力すると毎日の予定として登録されますし、2と入力すると1日おきに登録します。「間隔」入力後F3を押すと「定期の予定最終日」チェックボックスが表示されます。チェックボックスにチェックが無い場合、「間隔」で入力した間隔で予定は繰り返します。
2. 週：「定期のタイプ」を「週」に設定した場合、F3を押すと「間隔」エディットボックスに移動します。1〜999の数字で予定間の週数を入力してください。次にF3を押すと、予定が繰り返される曜日を選択するリストボックスに移動します。上下キーを使って曜日を設定してください。複数の曜日で予定が繰り返される場合はSpaceを押すと複数の曜日を選択することができます。
3. 月：「定期のタイプ」を「月」に設定した場合、F3を押すと「定期のサブタイプ」コンボボックスが表示されます。定期的なタイプを「日付」または「曜日」に設定できます。 「日付」は、「毎月17日」や「3ヶ月おきの10日」など数ヶ月おきの日付指定で予定を設定する場合に使用します。

「曜日」は、毎月の同じ週および曜日、たとえば毎月第2週の水曜日に定期的に予定を設定する場合に使用します。 「定期のサブタイプ」を選択した後、F3を押すと「間隔」に移動して、1〜999の数字で予定の間隔を月数で入力します。「定期のサブタイプ」で選択した内容に応じて、設定項目が変わります。「定期のサブタイプ」を「日付」に設定すると、「予定の日」の設定を行います。「定期のサブタイプ」を「曜日」に設定すると「予定の週」と「曜日」の設定を行います。

1. 年：「定期のタイプ」を「年」に設定した場合、F3を押すと「定期のサブタイプ」コンボボックスが表示されます。「日付」または「曜日」のいずれかを上下キーで選択します。 「定期のサブタイプ」を「日付」に設定すると、予定が繰り返される月と日を設定できます。 「曜日」に設定すると、毎年の予定が繰り返される月、週、曜日を設定できます。 「定期のサブタイプ」を設定した後、F3を押すと「月」コンボボックスに移動します。上下キーを使って、月を選択します。ここから、「定期のサブタイプ」の設定方法に応じて、異なる設定項目が表示されます。

「定期のサブタイプ」を「日付」に設定した場合は、「予定の日」エディットボックスで1から31までの数字を入力できます。「定期のサブタイプ」が「曜日」に設定されている場合は、「予定の週」と「曜日」を設定する必要があります。

### 予定検索

｢予定検索｣ダイアログボックスで特定の予定の検索ができます。プログラムメニューから予定帳を起動すると「予定検索」ダイアログボックスが開きます。このダイアログは、「予定の追加」ダイアログで、Enter-sを押すか、F2を押してメニューから「予定検索」を選択して開くこともできます。予定検索には、「タイトル検索」と「日付検索」の2つの方法があります。

「タイトル検索」を実行すると、件名フィールドをキーワード検索して予定を検索することができます。

「日付検索」を実行すると、指定した日付の予定を検索することができます。検索モードを切り替えるには、F2を押してメニューから「検索モードの切り替え」を実行するか、Enter-fを押します。

日付検索のダイアログボックスが開くと、検索する日付の入力を求められます。なにも入力しないと今日の日付が表示されます。そのままEnterを押すと、登録されている今日の予定を全て検索します。他の日付の予定を検索する場合は「yyyy/mm/dd」（ｙは年、ｍは月、ｄは日を表します。年月日の間は/を入力するかSpaceを押してください。）の順に数字で年月日を入力してEnterを押します。検索日に予定がない場合は「予定が登録されていません」というメッセージを読み上げます。予定が検索されると、その中で最初の予定の日付、時間、件名フィールドを読み上げます。

検索された予定に｢定期の予定｣が設定されている場合は、｢定期の予定｣と表示します。

検索日に複数の予定がある場合は、上下キーで予定間の移動ができます。

検索結果を読み上げているときに、その前の日や次の日の予定を確認したい場合は、Space-2かSpace-5で移動して検索します。この機能の検索範囲は日を基準として前後4ヶ月以内です。

検索された予定のうち直近の予定に移動したい場合にはSpace-1-2-3を押して、 最後の予定に移動したい場合にはSpace-4-5-6を押して移動します。

登録された予定を詳しく確認したい場合には、｢予定の日付｣、｢時刻｣、｢表題｣を読み上げたところでEnterを押します。Enterを押した後、上下キーを押すと｢予定開始/終了日付｣、｢予定開始/終了時刻｣、｢件名｣、｢メモ｣の内容を見ることができます。予定リストに戻るにはSpace-eを押します。

検索した予定を表示中に他の予定を検索する場合は、F3を押して検索ボックスに戻って検索し直してください。

### 予定の編集と削除

既存の予定を変更するには、変更したい予定を検索し、F2を押してメニューから「予定編集」を選択するか、Enter-mを押します。

「予定編集」ダイアログには、「予定の追加」ダイアログとほぼ同じです。唯一の違いは、各フィールドに以前に入力した値があることです。変更を行った場合は、F3を押して「確認」でEnterを押します。

予定を削除するには、削除したい予定を検索し、F2を押してメニューから「予定削除」を選択するか、Space-dを押します。削除したい予定が定期的なスケジュールである場合、｢定期の予定。どのように削除しますか?｣とメッセージが表示されます。これは検索された予定が定期の予定なので、定期の予定全体を削除するか、それともこの日の予定だけを削除するかの確認です。もし、｢この予定だけ｣を選択すると検索された日付の予定だけが削除されます。｢一連の予定全て｣を選択すると定期の予定全体が削除されます。

予定帳を完全に初期化するには、F2のメニューから「スケジュールを全て削除する」を実行するか、予定帳実行中にBackspace-Enter-qを押します。

選択した予定を文書として保存することもできます。F2のメニューから「予定に名前を付けて保存」を選択するか、検索結果リストでEnter-tを押してください。保存する予定の開始日と終了日を指定するようにアナウンスします。開始日と終了日を設定した後、Enterを押すと、保存するファイルの名前と形式を入力するよう求められます。このダイアログは、「ワードプロセッサ」の「名前を付けて保存」ダイアログと同じです。Enterを押すとファイルを保存します。

### 予定のバックアップと復元

ハードウェアリセットを実行したり、バッテリーが完全に空になったりすると、予定帳のデータは失われます。したがって、予定を変更するたびにバックアップファイルを作成することが非常に重要です。

1. 予定のバックアップ

予定をバックアップするには、メニューから予定のバックアップを実行するか、Enter-uを押してこの機能を実行します。

すでにバックアップファイルがある場合は、「バックアップファイルはすでに存在します。バックアップしますか？はい」というメッセージが表示されます。予定を変更した場合は、Enterを押して新しいバックアップファイルを作成します。以前のバックアップファイルを保持するには、いいえを選んでEnterを押します。予定帳でバックアップファイルを再度作成すると、新しいバックアップファイル（拡張子DAT）が作成され、前のバックアップファイルは拡張子がBAKに変わります。

1. 予定の復元

ハードリセット後にスケジュールを復元するには、F2のメニューからバックアップの復元を実行するか、 Enter-rを押して復元を実行します。

既に予定が入っている状態で予定復旧を実行すると、｢予定ファイルが既に存在します。どちらを選びますか？ 追加｣というメッセージを読み上げ、Enterを押すとバックアップファイルの内容が復旧されて新しく追加されます。上下キーで｢上書き｣に移動してEnterを押すと、バックアップファイルから復旧された予定が既にある予定に上書きされます。例えば、1日から3日までの予定があって、バックアップファイルには1日から5日までの予定があるとします。｢追加｣を選択して復旧を実行すると全部で8日分の予定となりますが、3日分の予定が重複します。｢上書き｣を選択して復旧を実行すると、既にあった1日から3日までの予定は削除されて、1日から5日までの予定が復旧されます。｢追加｣や｢上書き｣をしない場合は、上下キーを押して｢取消｣まで移動しEnterを押します。

1. バックアップオプション設定

「バックアップオプションの設定」を有効にすると、予定を自動的にバックアップできます。F2メニューから「バックアップオプションの設定」を選択するか、Enter-eを押します。

「バックアップオプション」ダイアログには、「バックアップモード」ラジオボタン、「確認」ボタン、「取消」ボタンの3つのコントロールがあります。ラジオボタンの間を移動するには、Spaceを押します。

オプションは、「終了時常にバックアップを更新する」、「手動でバックアップする」、および「終了時にバックアップの確認をする」です。

「終了時常にバックアップを更新する」を選択すると、スケジュールを変更または追加した場合、新しいバックアップファイルが自動的に作成されます。

「手動バックアップ」を選択すると、スケジュールに変更があっても、新しいバックアップファイルは作成されません。このオプションを選択すると、「予定のバックアップ」機能を使用して新しいバックアップファイルを自分で作成する必要があります。

「終了時にバックアップの確認をする」を選択すると、スケジュールを変更または追加した場合に、「バックアップを更新しますか？はい」というメッセージが表示されます。「はい」でEnterを押すと、予定帳を終了する前に新しいバックアップファイルが作成されます。

お好みの設定を選んでください。

複数のアカウントと同期

シックスは、自動的に設定したGoogleアカウントとの関連付けを行って複数のカレンダーを使用する事ができます。利用可能なカレンダーを表示するには、予定帳メニューから「アカウント設定」オプションを実行します。

デフォルトでは、「BrailleSense Polaris」というアカウントがあります。さらに、シックスミニでGoogleにサインインするとGoogleアカウントがこのリストに表示されます。

ダイアログには、「予定を追加するカレンダー」と「予定を印刷するカレンダー」の2つの設定で構成されます。これにより、複数のカレンダーで予定を設定したり、選択したカレンダーから予定を表示、追加、印刷したりすることができます。これは、仕事や個人用に別々のカレンダーを作成する場合に便利です。

また、「全てのアプリ」の「アカウント」ダイアログを使用して、シックスミニの予定帳をGoogleカレンダーと同期させることができます。

Androidシステム設定を使用した同期の詳細については、10.1.9を参照してください。

また、メニューの「更新」コマンドを使用するか、「Backspace-r」を押すことで、予定帳からクラウドと直接同期することもできます。

注：アドレス帳と同様に、変更、追加、または削除されたアイテムが多すぎると、同期エラーが発生する場合があります。同期エラー通知を受け取った場合は、Space-1-2-3-4-5-6を押して通知を開き、同期エラーの通知からオプションを表示します。

### アラームオプション設定

予定帳の実行中にEnter-oを押すか、F2のメニューから「アラームオプション設定」を実行すると、「アラームオプション設定」ダイアログを開くことができます。アラームオプションには、「エコーの種類」、「エコー：」（エコーの種類をベルまたは全てに設定した場合）、「アラーム持続時間」、「アラームの繰り返し間隔時間」、「繰り返し回数」で構成されます。上下キーで設定内容を変更し、F3で設定項目を切り替えます。

* 1. エコーの種類：アラームの種類を設定します。Spaceを押すと設定が切り替わります。ベルに設定すると音声を使ったアラームを使用し、振動はバイブを使用します。全てに設定すると、音声とバイブ両方を使います。
  2. エコー：アラームに使用する音声を設定します。アラームの種類をベルまたは全てに設定した場合に設定する事ができます。Spaceを押すと設定が切り替わります。選択できるエコーは、3種類の固定メロディーか、任意のメディアファイル、ラジオです。
  3. アラーム持続時間：アラームの持続時間を設定します。5秒から600秒まで設定可能です。数字を入力して設定してください。初期設定は30秒です。
  4. アラーム繰り返し間隔時間：アラームの持続時間終了後、再びアラームが作動するまでの時間を設定します。デフォルトは5分です。1分から60分の間で設定が可能です。Backspace-Enterを押してアラームを停止すると、アラームは繰り返さずに停止します。
  5. 繰り返し回数：アラーム停止の操作をしない場合に何回アラームを繰り返すかを設定します。デフォルトは3回です。1回から10回の間で設定が可能です。

設定を保存する場合は「確認」でEnterを押してください。保存せずに終了する場合は「取消」でEnterを押すかF4を押してください。

## データベース管理

データベース管理ではデータベースを作成し、データの追加や検索を行うことができます。

「オーガナイザ」メニューから「データベース管理」を選んでEnterを押すと「データベース管理」を実行することができます。簡単起動コマンドはF1-qです。

１つのテーブルには１件以上レコードが存在し、１件のレコードは１つ以上のフィールドで構成されます。各フィールドには使用者が使用したい属性を付与することができます。

データベース管理を実行すると、登録されているテーブルを表示します。テーブルが登録されていない場合、｢テーブルマネージャー｣ダイアログボックスが起動し、新しいテーブルの登録を開始します。

既にテーブルが登録されている場合、登録したテーブルを対象に検索ができるように｢レコード検索｣可能な状態になります。「テーブル名」リスト、「フィールド検索」ボックス、「レコード検索結果」リストで構成されています。F3を押すとそれぞれの項目を切り替えます。検索の使い方は10.3.3レコード検索で説明します。

レコードを検索あるいは追加中にプログラムを終了するには、Space-z(1-3-5-6)を押すか、Space-m(1-3-4)あるいはF2を押してからSpace-1あるいはSpace-4を押して｢閉じる｣まで移動しEnterを押します。

プログラム内での主な移動キーは次のとおりです。

1) コントロール単位

次のコントロールに移動: Space-4-5あるいはF3

前のコントロールに移動: Space-1-2あるいはSpace-F3

2) 項目間の移動

次の項目に移動: Space-4あるいは下スクロールボタン

前の項目に移動: Space-1あるいは上スクロールボタン

3)項目選択変更

次の選択に変更: Space-4あるいはSpaceあるいは下スクロールボタン

前の選択に変更: Space-1あるいはBackSpaceあるいは上スクロールボタン

データベース管理は以下のメニュー項目で構成されています。メニューはSpace-m(1-3-4)またはF2を押して呼び出します。

1) テーブルマネージャー

各々のテーブルと、テーブルのレコードを構成するフィールドの作成、削除、修正などを管理します。データベース管理が実行されると、すぐに｢テーブルマネージャー｣ダイアログボックスが現れます。

2) レコード追加

作業対象のテーブルにレコードを追加します。

3) レコード検索

作業対象のテーブルのレコードを対象に検索を行います。各フィールド単位での検索もできます。

4) 見つかったレコードリスト

テーブルで検索されたレコードリストの確認ができます。検索した当該レコード別に修正、削除などができます。もし機能を呼び出す前に何も検索された内容がない場合には｢リストなし　0/0｣のように読み上げられます。

5) データベースバックアップ

作成されたテーブルに対するデータベースをバックアップします。

6) データベース復旧

バックアップされているデータベースを復旧します。

7) バックアップオプション設定

データベースバックアップオプションを設定します。

これから各々の機能について説明します。

### テーブルマネージャー

テーブルマネージャーはテーブルを追加、削除、修正できるダイアログボックスで、以下のコントロール項目で構成されています。コントロール項目間の移動はF3またはSpace-F3で行います。

1. テーブル名：登録したテーブルの名前と登録されたテーブルの数を読み上げます。

複数のテーブルが登録されている場合、上下移動でテーブルを切り替えることができます。

1. テーブル追加：新しいテーブルを追加します。
2. テーブル修正：テーブル名リストにフォーカスされたテーブル名の変更およびテーブルの中にあるフィールドの削除および追加ができます。
3. テーブル削除：テーブル名リストにフォーカスされたテーブルを削除します。
4. 基本テーブル設定：テーブル名リストにフォーカスされたテーブルをデータベース管理実行時にデフォルトで表示する基本テーブルとして設定します。
5. 確認：変更した内容を保存して「テーブルマネージャー」ダイアログボックスを閉じます。
6. 取消：「テーブルマネージャー」ダイアログボックスを閉じて、「テーブルマネージャー」ダイアログボックスを呼び出す前の機能に戻ります。

#### テーブル追加

テーブル追加を実行すると、テーブル追加ダイアログボックスが開きます。

テーブル追加ダイアログボックスは「テーブル名」エディットボックス、｢フィールド｣リスト、｢フィールド追加｣ボタン、「フィールド修正」ボタン、｢フィールド削除｣ボタン、「フィールドを上へ」ボタン、「フィールドを下へ」ボタン、｢確認｣ボタン、「取消」ボタンで構成されます。

各コントロール間の移動はF3か、Space-F3を押して行います。

ここでは例として、名前、電話番号、住所、メモの4つのフィールドで構成された｢アドレス｣というテーブルを追加する方法を説明します。

1) ｢テーブルマネージャー｣ダイアログボックスでF3を押して｢テーブル追加｣ボタンまで移動しEnterを押します。

2) 「テーブル追加」ダイアログボックスが開き、｢テーブル名？｣と表示します。

3) ここに｢アドレス｣と入力してF3を押します。

4) ｢リストなし｣のように｢アドレス｣テーブルに登録されたフィールドリストが現れます。このリストは各フィールドを追加するときに追加されたフィールドの項目を読み上げます。

5) フィールドリストでF3を押して｢フィールド追加｣に移動し、Enterを押します。

6) 「フィールド追加」ダイアログボックスが開いて、｢フィールド名：EB｣と表示します。

7) ｢名前｣と入力してF3を押します。

8) ｢フィールド型｣と表示します。上下移動でフィールドのタイプを選択できます。選択できる型は「エディットボックス」、「数字」、「コンピュータエディットボックス」、「複数エディットボックス」、「日付」、「時刻」、「チェックボックス」です。ここでは「エディットボックス」を選択しF3を押してください。

9) ｢主キー設定｣のチェックボックスが表示されます。現在設定中のフィールド名を主キーとして設定したい場合にはSpaceを押してチェックボックスにチェックを入れます。ここではチェックを入れます。

10) F3を押して｢確認｣ボタンまで移動しEnterを押してください。

「アドレス」というテーブルを作成し、「名前」というフィードを追加できました。

「新フィールド追加完了」と読み上げて、登録された「フィールドリスト｣が表示されます。「フィールドリスト｣では｢名前（エディットボックス）1/1｣と表示します。

｢主キー｣は一つのテーブルに一つのみ存在しますので追加するフィールドの中で一つ選択すると、残りのフィールド追加時には｢主キー設定｣のチェックボックスは現れません。

｢電話｣、「住所」、「メモ｣フィールドを登録するためには上記手順の5～10を繰り返してください。ただし、電話フィールドの｢フィールド型｣は｢数字｣で、｢住所｣フィールドは｢エディットボックス｣を、｢メモ｣フィールドは｢複数エディットボックス｣を選択します。

新しいフィールドの追加が終わったら、F3を押して｢確認｣まで移動しEnterを押します。すると、｢テーブル名リスト｣に追加されたテーブルである｢アドレス｣が表示されます。

登録されたフィールド名を変更する必要があるときは、「フィールド」リストで変更したいフィールド名に移動して、F3を何度か押して「フィールド修正」ボタンまで移動しEnterで実行します。すると、フィールド修正ダイアログボックスが開き「フィールド名」と「フィールド型」が表示されるので、修正・変更を行うことができます。

既に登録されたフィールドを削除したいときは、「フィールド」リストで削除したいフィールド名まで移動します。そして、F3を何度か押して「フィールド削除」に移動してEnterを押して削除を実行します。

フィールドを表示する順番を変更したい場合は、フィールドリストから位置を変えたいフィールドを選んだ状態でF3を何度か押し「フィールドを上へ」または「フィールドを下へ」でEnterを押して実行してください。現在のリストの並びで上か下のフィールドと位置を入れ替えます。

テーブルマネージャーを終了するにはF3を押して｢閉じる｣ボタンでEnterを押すか、Space-z(1-3-5-6)を押してください。

すると｢レコード検索｣の状態に戻り、今作成された｢アドレス｣テーブルの最初のフィールド名である｢名前？」と表示して、データベース検索待ちの状態になります。

#### テーブル修正

｢テーブル修正｣は登録されたテーブルを修正する機能で、｢テーブル追加｣ダイアログボックスと同じ構造です。

テーブルを修正するためにはテーブル名を表示した状態でF2を押してメニューを開き、ファイルの｢テーブルマネージャー｣でEnterを押して実行します。テーブルマネージャーのホットキーはEnter-t(2-3-4-5)です。

テーブルマネージャーが実行されると、｢テーブル名｣リストに移動します。ここで上下キーを押して修正したいテーブルまで移動し、F3を押して｢テーブル修正｣でEnterを押してください。

すると、選択したテーブルを修正することのできるダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスは｢テーブル追加｣ダイアログボックスと同じ構造で、使用方法も同じです。

ただし、｢テーブル追加｣と異なり、｢テーブル名｣、｢フィールド｣リストなどコントロールに既に内容が登録されています。

修正が必要な箇所をテーブル追加と同じ方法で修正することができます。

#### テーブル削除

｢テーブル削除｣は登録したテーブルを削除する機能です。テーブル名を表示した状態でF2を押してメニューを開き、ファイルの｢テーブルマネージャー｣でEnterを押して実行します。テーブルマネージャーのホットキーはEnter-t(2-3-4-5)です。

テーブルマネージャーが実行されると｢テーブル名｣リストを表示します。上下キーで削除したいテーブルまで移動し｢d(1-4-5)｣を押すか、F3を何度か押して｢テーブル削除｣まで移動しEnterを押してください。

｢テーブル削除？はい｣と表示します。削除したい場合にはここでEnterを押し、取り消したい場合にはSpaceを押して｢いいえ｣を選択しEnterを押してください。

#### 基本テーブル設定

特定のテーブルを基本テーブルとして設定するとデータベース管理が実行される際、最初に表示されます。複数のテーブルが登録された場合にはよく使うテーブルを基本テーブルとして設定しておくと便利です。

登録されたテーブルの中で特定のテーブルを基本テーブルとして設定するためにはテーブル名を表示した状態でF2を押してメニューを開き、ファイルの｢テーブルマネージャー｣でEnterを押して実行します。テーブルマネージャーのホットキーはEnter-t(2-3-4-5)です。

テーブルマネージャーが実行されると｢テーブル名｣リストを表示します。ここで上下キーを使って基本テーブルとして設定したいテーブルへ移動し、F3を何度か押して｢基本テーブル設定｣でEnterを押してください。

次回データベース管理を実行すると、基本テーブルに設定したテーブルが表示されます。

### レコード追加

｢レコード追加｣は、テーブルに内容を入力することです。データベース管理を実行すると｢レコード検索｣の状態になります。

｢レコード追加｣を実行するためにはF2を押して編集メニューの｢レコード追加｣でEnterを押すか、メニューを呼び出さずにホットキーのEnter-i(2-4)を押してください。

例えば、｢名前｣、｢電話｣、｢住所｣、｢メモ｣というフィールドを持つ｢アドレス｣というテーブルにレコードを追加する方法は次のとおりです。

1) F2を押してメニューを呼び出し、編集メニューの｢レコード追加｣へ移動しEnterを押します。あるいはホットキーEnter-i(2-4)を押します。

2) 「アドレス」テーブルの最初のフィールドである｢名前？｣が表示されます。ここに入力したい名前を入力してF3を押して次のフィールドに進みます。

3) ｢電話？｣と表示します。ここに電話番号を入力します。このフィールドは数字ですので、数字とハイフンなどの一部符号しか入力できません。数字は数符なしで入力しても構いません。ハイフンの代わりにSpaceを押してもハイフンが入力されます。入力できたらF3を押して次のフィールドへ進みます。

4) ｢住所？｣と表示します。ここに住所を入力します。入力できたらF3を押して次のフィールドへ進みます。

5)｢メモ？｣と表示します。このフィールドは複数エディットボックスですので、入力したい内容を複数の文章として入力することができます。新しい段落を作るにはEnterを押します。入力できたらF3を押して次のフィールドへ進みます。

6)｢確認｣ボタンが表示されます。ここでEnterを押すと入力した内容が保存されて、一つのレコードが追加されます。もし、入力した内容を保存せず取り消したい場合にはF3押して｢取消｣でEnterを押すか、Space-e(1-5)を押します。

レコードを追加する、あるいは取消した後は、次に新しいレコードを追加することができるように再び最初のフィールドである｢名前？｣が表示されます。

### レコード検索

登録したレコードを検索するためには｢レコード検索｣をしようします。データベース管理を起動した状態がレコード検索です。

基本作業テーブルの最初のフィールド名を読み上げます。ここで検索したい文字を入力します。もし最初のフィールドではなく他のフィールドで検索したい場合にはF3を押して他のフィールドに移動してから検索したい文字を入力します。

検索したい文字を入力してEnterを押すと、検索結果を表示します。検索されたレコードリストを表示し結果を｢（最初のフィールド名）：（内容）xx/yy｣のように読み上げます。ここでxxというのは検索されたすべてのレコード中の現在の位置を、yyは検索されたすべてのレコードの数を意味します。

もし検索された内容がない場合には｢見つかりません｣というメッセージを読み上げて検索語の入力ができるように最初のフィールドに戻ります。

検索されたレコードでの移動方法は次のとおりです。

1)　レコード単位での移動

次のレコード: Space-4あるいは下スクロールボタン

前のレコード: Space-1あるいは上スクロールボタン

レコードの最後に移動: Space-4-5-6

レコードの最初に移動: Space-1-2-3

前のレコードの現在と等しいフィールドに移動: Space-3

次のレコードの現在と等しいフィールドに移動: Space-6

2)　レコード内での各フィールド移動

次のフィールド: Space-5

前のフィールド: Space-2

フィールドの最後に: Space-4-6

フィールドの最初に: Space-1-3

レコード検索後、新しいレコードを検索したい場合には、F3を押して検索したいテーブルやフィードを選び直し、再び検索したい内容を入力してください。

もし、検索されたレコードを削除したい場合には、上下移動で削除したいレコードまで移動し、レコード内のどのフィールドでもSpace-d(1-4-5)を押してください。レコードを削除するかどうかの確認メッセージが表示されます。ここでSpaceを押して｢はい/いいえ｣を選択して、Enterを押します。

もし検索されたレコードを修正したい場合には、上下移動で修正したいレコードまで移動しF2メニューの編集から「レコード修正」を実行すると修正ダイアログボックスが開きます。レコード登録と同じ方法で修正を行ってください。

### バックアップオプション設定

設定の初期化を実行した場合や、バッテリーが切れた場合、「データベース管理」のデータは失われます。そのためデータベースに変更を加えるたびにバックアップファイルを作成することが非常に重要です。「バックアップオプション設定」で手動または自動的にバックアップファイルを作成するかを設定できます。

「バックアップオプション設定は」F2を押してメニューの「ツール」から「バックアップオプション設定」を実行するか、Enter-eを押して実行します。

バックアップオプション設定ダイアログは「マニュアルバックアップ」、「終了時にバックアップの確認をする。」、「終了時に常にバックアップ」の3つのラジオボタンと「確認」ボタン、「取消」ボタンで構成されています。

3つのラジオボタンはスペースキーまたはバックスペースキーで設定を切り替えることができます。ラジオボタンで設定を選択しエンターを押すと設定を保存します。

マニュアルバックアップ：データベースに変更を加えても新しいバックアップファイルは作成されません。マニュアルバックアップを選んだ場合、バックアップファイルを作成するには都度自分で「データベースバックアップ」機能を実行する必要があります。

終了時にバックアップの確認をする：データベースに変更が加えられるとデータベース管理終了時に「データベースを保存しますか？」と確認を求められます。バックアップファイルを更新したい場合は「はい」を選択してください。「いいえ」を選択するとデータベースのバックアップは保存されません。

終了時常にバックアップ：データベースに変更が加えられるとデータベース管理終了時に新しいバックアップファイルが自動的に作成されます。

データベースバックアップ

F2を押してメニューの「ツール」から「データベースのバックアップ」を選択するか、Enter-uを押して実行します。

既にバックアップファイルがある場合は、「バックアップの変更？はい」というプロンプトが表示されます。 エンターを押すと新しいバックアップファイルを作成できます。 以前のバックアップファイルを保持するには、スペースを押していいえに切り替えてから、エンターを押してください。

データベース管理でバックアップファイルを作成すると、「BrailleSense\_Database\_bak.db」というファイルがflashdiskのDatabaseフォルダに保存されます。

### データベース復旧

設定の初期化後など、データベースを復旧するには、F2を押してメニューの「ツール」から「データベース復旧」を選択するか、Enter-oで実行します。

｢データベース復旧｣を実行すると、｢データベースがすでに存在します。復旧しますか？はい｣というメッセージを表示します。エンターを押すと、バックアップファイルからデータを復旧します。データベースを復旧しない場合はスペースを押して「いいえ」に切り替えてからエンターを押してください。

### CSVファイルのインポートとエクスポート

CSVとはComma(コンマ)でSeparated(分割された)Value(値)の頭文字を集めたものです。CSVファイルは表形式データ構造のデジタルストレージ（データ集合体）で、情報はコンマで区切られたデータ列で構成されています。「データベース管理」ではエクセルやその他表計算プログラムで作成されたCSVファイルをインポートしたり、CSVファイルに出力したりすることができます。

#### CSVからインポート

本機能を使用すると、「データベース管理」にCSVファイルからデータをインポートすることができます。

**CSVデータインポートの実行**

F2を押してメニューを開き、「ファイル」から「CSVファイルよりインポート」を選択するかBackspace-xで実行します。

**CSVからインポート**

CSVからインポートダイアログボックスは「ファイル名」エディットコンボボックス、「確認」ボタン、「キャンセル」ボタン、「パス検索」リストにて構成されています。

コントロール間はF3またはSpace-F3で移動可能です。

最初に「ファイル名」と読み上げます。エディットボックスにインポートしたいファイル名を入力することでファイルを検索します。または、「パス検索」リストにSpace-F3か(Space1-2)を押して移動します。パス検索リストはファイル管理と同様の操作でデータを選択することができます。インポートするCSVファイルのあるフォルダに移動してください。例えば、CSVファイルがフラッシュディスク内のダウンロードフォルダにある場合、ダウンロードフォルダでEnterを押しファイルを開きます。

ファイルを選択したらEnterを押すか、またはF3を押して「確認」に移動後Enterを押してください。

これでCSVファイルのインポートが始まります。

**CSVファイルからデータベース管理にデータを追加**

CSVファイルのインポートが終了すると、csvからインポートダイアログボックスが開き「（フィールド名」：未使用」と表示されます。

csvからインポートダイアログボックスは以下のコントロールで構成されています。

1. csvファイルのフィールド名リスト
2. 「先頭レコードのフィールドを使用許可」チェックボックス
3. 「確認」ボタン
4. 「取消」ボタン

F3またはSpace-F3を使用してコントロール間を移動します。

上下キーを使用すると「CSVファイルのフィールド名」リストの項目間で移動することができます。スペースキーを押すたびにインポートしたcsvファイルのフィールド名が切り替わります。

例えば、「データベース管理」で作成した住所ファイルにcsvファイルのデータを追加する場合、以下の手順で行います：

1)「名字:未使用」の状態でスペースキーを押し「名前」フィールドにインポートしたいcsvファイル内のフィールドを選択します。

例えば、5つのフィールド、「名前」、「会社名」、「タイトル」、「会社所在地」、「郵便番号」がCSVファイルにあるとします。

「名字:未使用」と表示された状態でCSVファイルから「名前」フィールドの値をインポートする場合、スペースキーを押して「未使用」を「名前」に切り替えてください。シックスは「名字:名前」と表示します。CSVファイル上にインポートするべき項目がない場合、そのフィールドは「未使用」としておきます。

2) 入力後、上下キーを押して「会社名」、「タイトル」など別のフィールドに移動し同様にインポートするフィールドを設定します。

3) 次にF3を押し、「先頭のレコードへのフィールド使用許可」に移動します。

CSVファイルの最初のフィールドセットは、実際のデータではなくフィールドタイトルを表します。このため、最初のフィールドをインポートするかどうかを指定するチェックボックスがあります。フィールドの最初のセットにタイトルデータが含まれている場合は、「先頭のレコードへのフィールド追加許可」項目がチェックされていないことを確認してください。

Spaceを押してチェックボックスの設定を変更することができます。

CSVファイルをインポートすると、本オプションを使用してCSVファイルからどのデータを選択してインポートすべきかを選択できます。CSVファイルによっては、データベースマネージャーのフィールドに対応しないデータが含まれたり、ただ単にインポートしたくないデータが含まれたりする可能性があります。

4) F3を押して「確認」ボタンに移動し、Enterを押してください。

5)データがCSVファイルからインポートされレコード内に表示されます。

インポートを取り消すにはF3「取消」に移動してEnterを押すかSpace-z(1-3-5-6)を押します。

#### CSVファイルへのエクスポート

本機能を使用してデータベース管理からデータベースをCSVファイルとしてエクスポートできます。

**「CSVファイルへエクスポート」の実行**

注意:本機能を使用するためには、検索済レコードリストを表示する必要があります。

「CSVファイルへエクスポート」は F2を押してメニューを開き、「ファイル」の「CSVファイルにエクスポート」を選択するか、Backspace-x(1-3-4-6)を押して実行します。

**CSVへのエクスポート**

「CSVへのエクスポート」ダイアログは「ファイル名」エディットコンボボックス、「確認」ボタン、「取消」ボタン、「パス検索」リストで構成されています。

各項目はF3またはSpace-F3で移動可能です。

CSVへエクスポートを実行すると、「ファイル名」と表示しますので、エクスポートするファイル名を入力します。次にF3を押して「確認」ボタンに移動しEnterを押します。

ファイルは「flashdisk」に保存されます。本機能をキャンセルするにはF3を押して「取消」に移動後Enterを押してください。またはSpace-z(1-3-5-6)を押しても取消しを実行できます。

**CSVファイル保存場所の変更**

以下手順です。

1) F2を押してメニューを開き、「ファイル」の「CSVファイルにエクスポート」を選択するか、Backspace-x(1-3-4-6)を押して実行します。

2) 「ファイル名」と表示されたらF3を押してファイルリストへ移動します。ファイル管理と同様の操作でcsvの保存場所を指定します。Enterを押すと指定した場所にエクスポートしたcsvファイルを保存します。

5)F3かSpace4-5を押してファイルリストに移動します。通常のファイルやフォルダの操作コマンド

### CSVからテーブルを作成する

存在するテーブルにCSVデータをインポートするに加え、CSVファイルからテーブルを作成することもできます。本機能はデータベースマネージャー内ならどこでも使用することが可能です。

#### 「CSVの新しいテーブル」を実行

F2を押してメニューを開き「ファイル」の「CSVの新しいテーブル」を選択するか、Enter-x(1-3-4-6)を押して機能を実行します。

テーブル作成に使用するCSVファイルを指定します。

最初に「ファイル名」と読み上げます。エディットボックスにインポートしたいファイル名を入力することでファイルを検索します。または、「パス検索」リストにSpace-F3を押して移動します。パス検索リストはファイル管理と同様の操作でデータを選択することができます。インポートするCSVファイルのあるフォルダに移動してください。

ファイルを選択したらEnterを押すか、またはF3を押して「確認」に移動後Enterを押してください。

#### テーブル作成

テーブル作成の元となるCSVファイルを選択すると「読み込み成功」と読み上げ、「テーブル作成ダイアログ」を表示します。

このダイアログボックスは「テーブル名」エディットボックス、CSVファイルの各フィールドのコンボボックス、「先頭レコードのフィールドを使用可能する」チェックボックス、「確認」ボタン、「取消」ボタンで構成されています。

これらのコントロール間の移動にはF3またはSpace-F3が使用できます。

エディットボックスにテーブル名を入力します。CSVファイルの先頭フィールドにF3で移動し、Space-1やSpace-4を使用してフィールド設定のオプションを移動します。

注意:CSVファイルの先頭行の情報を使用して各フィールドは決定されます。先頭行のフィールド情報に誤りがなく、データがインポートに適していることが必要です。

フィールド定義コンボボックスのオプションは：未使用、エディットボックス、数字、コンピュータエディットボックス、複数行エディットボックス、日付、時刻およびチェックボックスです。データセットの一部としてはインポートしない場合は、「未使用」を選択します。情報をインポートしたらその情報に最も適したコントロール上に移動します。

例えば、シリアル番号や電話番号が含まれるフィールドの場合、「数字」を選択します。Eメールアドレスやウェブアドレスが含まれる場合は「コンピュータエディットボックス」を選択します。CSVファイルの各フィールドにはF3を使用して移動し、この処理を繰り返し行います。

フィールドの特性が設定し終わったら、F3を押して「先頭レコードフィールドを使用可能にする」に移動後、Spaceを押してチェックボックスの設定を切り替えます。先頭行には実データではなくフィールド名が含まれていることもあることから、本オプションはデフォルトではチェックがはずれています。

どのようにテーブルを作成するかの設定が終了したら、F3を押して「確認」ボタンに移動してEnterを押します。テーブル作成を取消す場合は「取消」上でEnterを押します。

# ウェブツール

ウェブツールメニューは、Webコンテンツの検索やダウンロードを支援するプログラムで構成されています。

## ウェブブラウザ

ウェブブラウザを使用してWeb上のページを閲覧できます。また、ディスクに保存したHTML文書の閲覧もできます。ファイルをダウンロードして、オーディオコンテンツをストリーミング再生することもできます。

ウェブツールメニューからウェブブラウザを起動するには、ウェブブラウザに移動してEnterを押すか、bを押します。簡単起動コマンドはF1-bです。

実行すると、シックスはウェブブラウザを開いてホームページに接続します。また、他のプログラムを使用していてもURLを開くホットキーのSpace-wを使用してウェブブラウザを起動することもできます。コンピュータエディットボックスにアクセスしたいURLを入力してEnterを押すと、ブラウザが起動して目的のWebページに移動します。

ウェブブラウザのメニューにアクセスするには、Space-mまたはF2を押します。Space-1またはSpace-4を使用してメニュー項目を選択し、Enterを押して実行します。

メニュー項目でショートカットを押しても機能を実行することができます。

メニューや設定またはファイルリスト間を移動するには、Space-1とSpace-4または上下キーを使用します。Space-4-5とSpace-1-2、あるいはF3とSpace-F3を使用して、ダイアログ内のコントロール間をタブ移動します。Enterキーを押して項目を実行します。

### ファイルメニュー

1. URLを開く(u) Enter-u　アクセスしたいWebページのアドレスを入力してEnterを押すと入力したURLを開きます。
2. 開く(o) Enter-o　シックスに保持されたHTMLファイルまたはURLを開きます。
3. 名前をつけて保存(a) Space-s　現在のWebページをシックスに保存します。
4. URLをコピー(d) Backspace-d　現在のページのURLをクリップボードにコピーします。
5. リンクアドレスをコピー(c) Backspace-l　フォーカスのあるリンクのアドレスをクリップボードにコピーします。
6. ページ情報(i) Enter-i　現在のページについての情報をダイアログに表示します。
7. ファイルダウンロードダイアログ(l) Backspace-3-4ダイアログを開いて、現在のダウンロードの進行状況とファイルのダウンロード履歴を表示します。
8. 閉じる(z) Space-z ウェブブラウザを閉じます。

### 編集メニュー

* 1. 選択の開始(b) Enter-b　テキストブロックの選択を開始します。選択の終了箇所はカーソル位置によって決まります。
  2. コピー(c) Enter-c　選択したテキストをクリップボードにコピーします。
  3. クリップボードに追加 (p) Enter-p　選択したテキストをクリップボードに追加します。
  4. 全て選択 (a) Enter-a　現在のページ上の全てのテキストを選択します。

### 移動メニュー

1. ホームページに移動(s) Backspace-h　設定したホームページに戻ります。
2. 前のページに移動(p) Backspace-p　閲覧していた一つ前のページに移動します。
3. 次のページに移動(n) Backspace-n　閲覧履歴で次のページに移動します。
4. 前の見出しに移動(u) Backspace-b　一つ前の見出しに移動します。
5. 次の見出しに移動(d) Backspace-f　次の見出しに移動します。
6. 前のテキストに移動(b) Space-2-4-6　現在位置より前のテキストブロックに移動します。
7. 次のテキストに移動(p) Space-1-2-4-5-6　現在位置より後のテキストブロックに移動します。
8. 更新(r) Enter-r現在のページを再読込します。
9. 履歴(h) Enter-h　表示したページの一覧を開きます。
10. 検索(f) Space-f　現在のページでテキストを検索します。
11. 次を検索(e) Enter-f　検索ダイアログで入力したテキストの次の該当項目を検索します。
12. リンクリスト(ｌ) Backspace-i　ページ内の全てのリンクをリストビューに表示します。

### 読み上げメニュー

1. 先頭からカーソルまで読み上げ(t) Backspace-g　ページ先頭から現在のカーソル位置までテキストを読み上げます。
2. カーソルから最後まで読み上げ(g) Enter-g　現在のカーソル位置からページの最後までテキストを読み上げます。
3. 自動スクロール(a) 上スクロール-下スクロール　自動スクロール機能を開始または終了します。

### お気に入りメニュー

1. ホームページとして登録(s) Enter-s　現在のページをホームページとして設定します。
2. お気に入り追加(a) Backspace-a　現在のページをお気に入りとして登録します。
3. お気に入りリスト(l) Enter-l　保存したお気に入りの一覧を開きます。

### オプション

オプションダイアログを使用してウェブブラウザの設定を行います。F3またはSpace-F3で設定項目間を移動します。ショートカットキーはBackspace-oです。

1. ページスタイル: Spaceを押して、モバイルモードまたはデスクトップモードを選択します。
2. 既読リンク: Spaceを使用して、オンまたはオフを選択します。
3. 画像の表示: Spaceを使用して、オンまたはオフを選択します。
4. セルの情報を表示：Spaceを使用して、オンまたはオフを選択します。
5. 既定のダウンロードフォルダ: Enterでフォルダ一覧を開き、目的のダウンロードフォルダを選択します。
6. クッキーの削除: Enterを押してクッキーを全て削除します。
7. 確認：Enterを押すと設定を保存して終了します。
8. 取消：Enterを押すと設定を保存せずに終了します。

### ページの要素を移動

Webページには、リンクなどのコントロールやテキストなどの様々な要素があります。Webページを正確に読むためには、ウェブブラウザが各要素を分類し、それらの情報を確認する必要があります。

Space-4またはSpace-1で移動してWebページを読む場合、一つの要素は1行に表示されます。リンクやコントロールはそれぞれを示す記号で表示されるため、各要素を区別できます。テキストを表示せずにコントロール間を移動するには、F3またはSpace-F3を使用します。

コントロールは、リンクやエディットボックスやラジオボタンやコンボボックスなどです。それぞれのコントロールの使用目的は異なります。そのため、使用されているコントロールの種類をはっきり認識する必要があります。

Webページにコントロールがある場合、シックスはコントロールの内容の前にコントロールの記号を表示します。以下はコントロール記号の一覧です。

コントロール名 記号

リンク ln

既読リンク lnv

アンカー anc

エディットボックス eb

複数エディットボックス meb

リストボックス lb

コンボボックス cb

ラジオボタン選択 srb

ラジオボタン未選択 urb

チェックボックスチェック schb

チェックボックスチェックなし uchb

ボタン bt

コンボボックスで選択項目を変更するには、Backspace-Space-4またはBackspace-Space-1を押します。Space-4を押すと次の項目に移動できます。コンボボックスの選択項目を変更するとページは更新されます。

チェックボックスやラジオボタンで選択または未選択を選択するには、Spaceを押します。

前のフォームフィールドに移動するにはSpace-1-2-3-4-6を押し、次のフォームフィールドに移動するにはSpace-1-3-4-5-6を押します。

前のフレームに移動するにはSpace-3-4-6を押し、次のフレームに移動するにはSpace-1-4-6を押します。

### テーブルナビゲーション

シックスは、テーブルの先頭位置にテーブルの番号、テーブル内の行数と列数を表示します。

例えば、1つのWebページに二つの大きなテーブル（上位レベルテーブル）があります。各テーブルには、それぞれ3行2列の3つのサブテーブル（下位レベルテーブル）があります。この場合、シックスが2番目の大きなテーブルの最初のサブテーブルを表示すると、「テーブル2-1 3行2列」と表示されます。サブテーブルの終わりで、Polarisは「テーブル2-1」と表示します。

テーブルが1行1列のみで構成されている場合や、または境界または背景のみを持つ空白の場合、シックスはテーブルと見なしません。

シックスは、ユーザがテーブルの構造を把握できるように、テーブルごと、およびセルごとに移動する方法を提供します。オプションダイアログ(Backspace-o)で「セルの情報を表示」をオンに設定した場合、セルごとに移動すると、セルの位置とセルの内容が表示されます。ただし、位置情報は音声のみで通知されます。

例えば、2行目の3列目にあるセルに移動し、そのセル内容が「ニュース」である場合、シックスは「2行3列 ニュース」のように通知します。この場合、「2行3列」は音声のみで通知され、「ニュース」は点字表示されます。

テーブルがセルに含まれている場合、シックスは「テーブルセル」と通知します。セルにテーブルがない場合は空白セルと通知します。

テーブルセルでは、下位レベルのテーブル内の任意のセルに移動するにはSpace-4を押して下位レベルのテーブルの先頭行に移動します。

セル移動はテーブル内でのみ有効です。このコマンドがテーブル外で実行されると、警告音が鳴ります。

1. 前のテーブルに移動: Space-3-4-5-6
2. 次のテーブルに移動: Space-1-4-5-6
3. 左のセルに移動: Space-2-3
4. 右のセルに移動: Space-5-6
5. 上のセルに移動: Space-3-5
6. 下のセルに移動: Space-2-6
7. 現在のセルの読み上げ: Space-2-3-5-6
8. 上位レベルテーブルの左のセルに移動: Backspace-2-3
9. 上位レベルテーブルの右のセルに移動: Backspace-5-6
10. 上位レベルテーブルの上のセルに移動: Backspace-3-5
11. 上位レベルテーブルの下のセルに移動: Backspace-2-6
12. セル番地の確認: Space-1-5-6

### ストリーミングオーディオファイルの再生

Webページ上にストリーミングオーディオファイルへのリンクがあった場合、リンク上でEnterを押すだけでオーディオファイルを再生できます。メディアプレーヤープログラムが起動し、ストリーミングファイル内のアドレスのリストを取得して最初のアドレスのストリーミングオーディオファイルが再生されます。サポートされるストリーミングファイル形式は、m3u、pls、asf、asxです。

他の形式については、Enterを押すと直接ウェブブラウザプログラムが直接ストリーミングオーディオファイルを再生します。ウェブブラウザでストリーミングオーディオファイルを再生すると、お気に入りに追加ダイアログが表示されます。ストリーミングアドレスをお気に入りリストに追加し、ファイル名の先頭に「ASF-WAS」をつけてストリーミングファイルを保存することができます。「ASF」はリンクがストリーミングオーディオファイルであることを示します。

ウェブブラウザでストリーミングオーディオファイルを再生しているときに、ウェブブラウザプログラムを終了するか、インターネット接続が切断すると、ストリーミングオーディオファイルの再生は停止します。

ストリーミングオーディオファイルの再生時は、ウェブブラウザで以下の再生コマンドを使用できます。

1. 再生: 機器手前面の再生ボタン
2. 停止: 機器手前面の停止ボタン
3. 音量を上げる: Space-上スクロールボタン
4. 音量を下げる: Space-下スクロールボタン

ウェブブラウザに戻って機器手前面の停止ボタンを押さない限り、別のプログラムに切り替えるとストリーミングオーディオファイルの再生が停止しません。

参考: Realオーディオファイルはウェブブラウザでサポートしていません。

## Google検索

Google検索を使用するとGoogleの検索サービスを使って簡単にWebページの検索が可能です。「ウェブツール」メニューから「Google検索」を選んで起動することができます。簡単設定コマンドはF1-gです。

### 検索ダイアログ

検索ダイアログは「検索語」エディットボックス、「検索」ボタン、「閉じる」ボタンで構成されています。

各項目間の移動はF3かSpace-F3を使用します。

Google検索を実行すると、検索ダイアログの「検索語」エディットボックスが開きます。検索したい用語を入力しエンターを押すか「検索」ボタンを実行すると検索を開始します。終了したい場合は、「閉じる」ボタンを実行するか、Space-zを押してください。

### 検索結果ダイアログ

検索が完了すると、検索結果ダイアログの「タイトル」リストに移動します。検索結果ダイアログは「検索語」エディットボックス、「タイトル」リスト、「概要」テキストボックス、「検索」ボタン、「閉じる」ボタンで構成されています。

「タイトル」リストでは検索語句と一致した検索結果を含むウェブページのタイトルを表示します。リストは最大で64件表示します。タイトルを表示した状態でエンターを押すと、そのWebページへ移動します。開いたウェブページを閉じると「タイトル」リストに戻ります。

「概要」には検索されたウェブページに関する情報が表示されます。「検索語」エディットボックスに検索語を入力する事で、検索結果ダイアログから再度別の検索語で検索する事が可能です。

### ブラウザ選択

Google検索を実行中にF2を押すとメニューが表示されます。メニュー項目は「設定」と「閉じる」です。「設定」と読み上げたところでエンターを押すとGoogle検索を行うブラウザを選択する事ができます。初期設定ではシックスの「ウェブブラウザ」が指定されています。Androidシステム設定で指定した「既存のブラウザ」を選ぶ事も可能です。上下矢印で選択してエンターを押して決定してください。

## ウィキ検索

ウィキ検索では、ウィキペディアとウィクショナリーを使って検索する事ができます。

使用するにはインターネットに接続できる環境が必要です。簡単起動コマンドはF1-iです。

ウィキ検索は検索エンジンリスト、検索語エディットボックス、タイトルリスト、概要、ウェブブラウザで開くボタン、名前を付けて保存ボタン、次のリストボタン、検索ボタン、閉じるボタンで構成されています。各項目間の移動はF3またはSpace-F3で行います。

検索エンジン

ウィキペディアかウィクショナリーを選択する事ができます。上下キーで選択してください。

選択したエンジンを使って検索します。

検索語エディットボックス

検索したい文字列を入力します。入力完了後にEnterを押すかF3で検索ボタンを選択してからEnterを押すことで検索を開始します。

タイトルリスト

検索実行後に、検索結果のタイトルをリスト表示します。自分の読みたい検索結果を上下移動で選択してください。読みたい検索結果を選択した状態でF3またはEnterを押すと選択した結果の概要を表示します。

概要

検索結果から選択したタイトルについて概要を表示します。あくまで概要であり検索した説明の全文ではありません。

ウェブブラウザで開く

概要を表示した状態で選択する事ができます。ウィキペディアまたはウィクショナリーのWebページで検索結果の全文を表示します。

名前を付けて保存

表示した概要をテキスト形式で保存します。

検索

入力した検索語を指定したエンジンを使って検索します。

閉じる

ウィキ検索を終了します。Space-zでも実行できます。

## システム全体で使用できるWeb検索機能

シックスには操作中にいつでもWebコンテンツにアクセスするための機能があります。

Space-wを押すと、いつでも直接URLを開くことができます。

Ctrl-Alt-wを押すと、いつでもウェブ検索を実行できます。

オプション設定(Space-o)の「既定のウェブ検索」オプションを使用して、検索機能を指定できます。設定可能な機能は、Google検索、ウィキペディア、またはウィクショナリーです。

同じ検索機能を使用して、文書中のカーソルの当たっている単語で検索できます。

Backspace-Space-Enter-wを押すと、カーソルの当たっている単語をウェブで検索します。

# アクセサリ

アクセサリは、エクセルビューア・DAISYオンラインで構成されています。

メインメニューでSpace-4を何度か押して｢アクセサリ｣と表示したらEnterを押してください。あるいはプログラムメニューで｢x(1-3-4-6)｣を押してください。アクセサリを実行します。

以下の章でアクセサリの各機能を詳しく説明します。

## エクセルビューア

エクセルビューアを使用して、Excel形式のファイル(XLSファイルやXLSXファイル)の内容を、セル、列、行、グループ、ワークシートごとに読み上げたり移動したりすることができます。エクセルビューアを起動するには、メインメニューからアクセサリのエクセルビューアを選択します。また、簡単起動コマンドはF1-xです。

エクセルビューアを起動すると、ファイルを開くダイアログが表示されます。ファイルの一覧で、開きたいExcelファイル(XLSファイル、XLSXファイル)を選択し、Enterを押して開きます。

Excelファイルが読み込まれると、最初のシートの先頭にフォーカスがあります。たとえばA列の1行目に「日付」と入力されている場合は「A1 日付」と読み上げますが、このようにセル番地とセルに含まれるテキストの内容を読み上げます。

### 一般的な移動コマンド

エクセルビューアでは以下の移動コマンドを使用します。

次の行に移動: Space-4

前の行に移動: Space-1

次の列に移動: Space-6

前の列に移動: Space-3

行の先頭に移動: Space-1-3

行の末尾に移動: Space-4-6

列の先頭に移動: Space-2

列の末尾に移動: Space-5

ワークシートの先頭に移動: Space-1-2-3

ワークシートの末尾に移動: Space-4-5-6

次のワークシートに移動: Space-3-4-5

前のワークシートに移動: Space-1-2-6

次のグループに移動: Backspace-5-6

前のグループに移動: Backspace-2-3

列内の次のグループに移動: Space-5-6

列内の前のグループに移動: Space-2-3

ホットキーまたはF2メニューを使用してエクセルビューアの各機能を実行できます。F2でメニューを開き、上下キーを使用して選択し、Enterを押して実行します。エクセルビューアの機能の中では、リストやダイアログも使用します。コントロール項目の移動にはF3を使用します。

メニュー、設定、ファイルリストを選択するには、上下キーを使用し、各項目を実行するには Enterを押します。

### ファイルメニュー

1. 開く：（o）、「Enter-o」 エクセルビューアの互換ファイルを開きます。
2. ハイパーリンク：（h）、「Enter-h」 ウェブブラウザを使ってExcelファイルに含まれるリンクを開きます。
3. ユーザテーブル設定：（t）、「Enter-t」　ユーザテーブル設定で正確にヘッダーセルを設定することで、スプレッドシートに複雑に項目が配置されていても、入力されたデータとそのカテゴリを認識しやすくなります。たとえば、

セルA1に 価格表

セルC2に 2017年10月10日

セルA3に モデル名

セルB3に シリアル番号

セルC3に 価格

といったデータが入力されたExcelファイルでセルC8に 100 という値が入力されている場合、セルC8でヘッダーセルを確認すると、通常はセルC2に入力された2017/10/10という日付の情報がヘッダーセルの情報として表示されてしまいます。しかし、セルA8のヘッダー情報として本来必要な情報は、セルA8のモデル名の情報とセルC3の価格です。この場合、セルA3からセルC8までをユーザテーブルとして設定することで、セルC8で列ヘッダーを確認したときにセルC3の内容である価格を表示することができます。

また、一つのワークシート内に複数の異なるヘッダーの行や列がある場合もあります。たとえば、テーブル内に別のテーブルが存在するような場合です。この場合、内側のテーブル内で適切なヘッダーセルの情報を得るには、ユーザテーブル設定でテーブルの範囲を適切に設定する必要があります。

1. セルの書式：（i）、「Enter-i」　セルの書式情報を表示します。
2. ユーザテーブル保存：（q）、「Enter-q」　この機能では、ユーザテーブルの範囲を入力して設定することはできませんが、ユーザテーブル設定の機能に類似しています。開始セルとして現在選択しているセルが自動的に設定され、データのある最後のセルが終了セルとして設定されます。
3. 名前を付けて保存：（s）、「Space-s」 Excelファイルをタブまたはコンマで区切ったCSVまたはTXTとして保存できます。
4. 閉じる：（z）、「Space-z」 エクセルビューアを終了します。

### 編集メニュー

1. ブロック選択開始：（b）、「Enter-b」　テキストブロックの選択を開始します。選択終了位置は、選択を開始してから移動したカーソルの前の文字になります。
2. 全て選択：（a）、「Enter-a」　現在のシート上の全てのデータを選択します。
3. コピー：（c）、「Enter-c」　選択したテキストをクリップボードにコピーします。

### 移動メニュー

1. 検索：（f）、「Space-f」現在のシート上のテキストを検索します。
2. セルの移動：（g）、「Enter-j」　セルの番地を入力し指定のセルに移動します。
3. 次のシート：（n）、「Space-3-4-5」　ブック内の次のシートに移動します。
4. 前のシート：（p）、「Space-1-2-6」　ブック内の前のシートに移動します。
5. シート一覧：（l）、「Enter-l」　ブック内の全てのシートのリストを表示します。
6. マーク設定：（m）、「Backspace-m」　現在の位置にマークを設定します。
7. マークに移動：（j）、「Backspace-j」　設定済みのマークに移動します。
8. マーク削除：（d）、「Backspace-d」　設置済みのマークを削除します。
9. 前のグループに移動：（r）、「Space-2-3」　複数のセルの集合がブランクセルで区切られていくつも存在する場合に、セルの集合から前のセルの集合に移動します。
10. 次のグループに移動：（e）、「Space-5-6」　複数のセルの集合がブランクセルで区切られていくつも存在する場合に、セルの集合から次のセルの集合に移動します。

### 読み上げメニュー

1. オプション設定：(o)、「Backspace-o」 読み上げの方式を設定する事ができます。「設定項目」リスト、「確認」、「取消」で構成されています。各項目はF3で移動します。設定項目は「セル番地」、「結合セル」、「ハイパーリンク」、「形式」、「ブランクセル」、「行移動時の読み上げ」、「非表示の列」、「非表示の行」です。上下キーで項目を選択し、Spaceで設定を変更します。

「確認」を実行するかEnterを押すと設定を保存して終了します。設定を変更しない場合は「取消」を実行するか、F4を押してください。

1. シート名：（t）、「Space-1-5-6」　現在のシートの名前を読み上げます。
2. 行の最初から現在のセルまで読み上げ：（p）、「Backspace-3」　左端のセルから現在の位置まで読み上げます。
3. 現在のセルから行の最後まで読み上げ：（n）、「Backspace-6」　現在の位置から一番右のセルまで読み上げます。
4. 列の先頭から現在のセルまで読み上げ：（u）、「Backspace-1」　列の上端から現在のセルまで読み上げます。
5. 現在のセルから列の最後まで読み上げ：（d）、「Backspace-4」　現在のセルから列の最後まで読み上げます。
6. 行の読み上げ：（c）、「Space-1-4」　現在の行の全てのセルを左から右に読み上げます。
7. 列の読み上げ：（r）、「Space-y」　現在の列の全てのセルを上から下に読み上げます。
8. ヘッダー列の読み上げ：（y）、「Backspace-y」　現在の列のタイトルを読み上げます。
9. ヘッダー行の読み上げ：（x）、「Backspace-c」　現在の行のタイトルを読み上げます。
10. ファイル名の読み上げ：（f）、「Space-3-4」ファイル名を読み上げます。

参考：セルの連続読み上げやファイル名読み上げの実行後は一度F4を押してシートに戻ってから次の操作を行ってください。

### 表示メニュー

1. 時計設定：（d）、「Enter-d」　時間と日付の表示方法を決定します。
2. 非表示のシートを表示：（s）、「Enter-s」　非表示のシートを表示するかどうかを切り替えます。
3. 非表示の行を表示：（r）、「Enter-r」　非表示の行を表示するかどうかを切り替えます。
4. 非表示の列を表示：(n)、「Enter-n」　非表示の列を表示するかどうかを切り替えます。
5. セル内容の表示：（a）、「Enter」　テキストをレビューまたは選択できるように、セルを静的ボックスとして開きます。

## センス辞書

センス辞書を使用して、研究社のリーダーズ英和辞典と新和英大辞典を検索することができます。

センス辞書を起動すると、英語キーワードのエディットボックスにフォーカスがあります。上下キーで日本語キーワードのエディットボックスに移動できます。いずれかのエディットボックスにキーワードを入力してF3キーまたはEnterを押すと検索が実行され、検索結果が表示されます。

索を実行すると「検索結果の内容」と「検索結果リスト」が表示されます。これらはF3を押して切り替える事ができます。

同じ単語に複数の意味がある場合や検索語を含む単語がある場合、検索結果リストに複数の結果を表示します。内容を確認したい検索結果を上下矢印キーで選択してください。リストから表示したい検索結果を表示した状態でF3またはEnterを押すと検索結果の内容を表示します。

検索結果は、上下キーで内容を確認できます。

別のキーワードを検索するには、検索結果でF3キーを何度か押してキーワードのエディットボックスに移動し、キーワードを入力して検索します。

## カラーリーダー

カラーリーダーを使用すると、カメラで撮影した画像内の1つまたは複数の色とそのRBG値を表示することができます。

メインメニューからアクセサリのカラーリーダーを選択します。また、簡単起動コマンドはF3-rです。

カラーリーダーを開くと、「画像の取り込み」ボタンと「フラッシュ」のオンとオフの切り替えボタンがあります。 F3またはSpace-F3を使用してボタンを移動し、Enterを押してボタンを実行します。

照明は色の判別結果の精度に大きく影響しますので注意してください。光が弱い場合は、色を正確に確認するのに十分な光を得るために、フラッシュをオンにする必要があります。明るい環境の場合は、画像に過度の光が当たらないように、フラッシュをオフにする必要があります。撮影して、結果が不正確に思える場合は、フラッシュのオン/オフを変更してみてください。フラッシュボタンでEnterを押すとフラッシュのオン/オフが切り替わります。

「画像の取り込み」ボタンでEnterを押すと、内蔵カメラで写真を撮影します。

色の判定結果とRGB値を含む2つの編集ボックスがダイアログに追加されます。これらのコントロールはF3及びSpace-F3を押すことで移動できます。

別の画像を撮影したい場合は、もう一度「画像の取り込み」でEnterを押すと、新しい結果がアナウンスされて表示されます。

Space-zを押すとカラーリーダーを終了します。

# ユーティリティ

ユーティリティでは、電卓、現在時刻、世界時計、電子コンパス、アラーム、ストップウォッチ、スクリーンリーダーのターミナル、ネットワーク状態確認、バッテリー状態確認、フラッシュディスクのバックアップ/復旧、フォーマット、スリープタイマー、マクロ管理、ファームウェアの更新を行う事ができます。

## 電卓

シックスの電卓を使用すると、簡単な計算だけでなく関数計算も実行できます。計算結果は点字と音声で表示します。

電卓を使用するには、「ユーティリティ」メニューから電卓を実行してください。簡単設定コマンドはF3-cです。電卓を実行すると、点字ディスプレイにコンピュータ点字で0が表示されます。

式を入力する際は、無変換（NABCC）を使用して入力できます。「Backspace-c」で電卓をクリアします。数値または関数を計算結果に入力すると、計算結果は消去されます。計算結果表示中に演算子を入力すると次のステップに進みます。さらに、電卓のメモリに結果を保存し、後でそれを呼び出すことができます。電卓メニューを使用して関数と演算子を有効にするか、さまざまな関数に関連付けられたホットキーを使用できます。

### 一般関数

｢一般関数｣というダイアログボックスは、｢基本演算子のリスト｣、｢OK｣ボタン、｢取消｣ボタンで構成されており、これらの項目間の移動にはF3を使います。

また、演算子リスト内の演算子間の移動には、上下キーを使うか、演算子の英語の頭文字を押します。

一般関数を実行するには、電卓でF2を押してメニューを呼び出し、｢一般関数｣でEnterを押すか、メニューで(g)を押します。

電卓を起動すると、｢0｣と表示します。計算中に「Enter-g」を押して｢一般関数｣を呼び出すと、ダイアログボックスが現れて、演算子リストを読み上げます。このリストで演算子を選択してEnterを押すと、演算が実行できます。ダイアログボックスの｢取消｣ボタンでEnterを押すと、選択した演算子を実行せずに取消します。あるいは、Space-zかF4を押しても取消されます。

このようにダイアログボックスで演算子を選択する以外に、次のホットキーを使うこともできます。

プラス（加算）: 3-4-6点

マイナス（減算）: 3-6点

割る（除算）: 3-4点

掛ける（乗算）: 1-6点

パーセント: 1-4-6点

累乗: BackSpace-4-5

ルート: Enter-q

小数点: 4-6点

開くカッコ: 1-2-3-5-6点

閉じるカッコ: 2-3-4-5-6点

パイ: Enter-p

指数: Enter-e

オーバー：Backspace-3-4

全ての演算子のホットキーは電卓起動中にSpace-hを押す事で確認する事ができます。

負の数字の場合は、マイナス記号(3-6)と数字をカッコ内に入力します。例えば、マイナス2は(-2)と入力します。

パーセント計算では、数字を入力してからパーセントサイン（%）を入力すると、入力した数字がパーセントに変換されます。例えば、90+20%を計算すると、90+18になります（18は90の20パーセントです）。計算結果は108になります。

### 分数計算

シックスでは、分数の約分や逓倍、分数の小数への変換などの小数演算を実行できます。

また、分数を小数点表示に変換することもできます。結果が小数点の場合は、F3を押して小数点オプションを表示することができます。使用可能なオプション間を移動するには、上下キーを押します。小数が単純小数である場合、小数点以下桁数と元小数点数を返すオプションがありますが、小数点が不適切な小数点である場合は、不適切な小数点以下を返すオプションもあります。最後に、結果が10進数で「Space-3-4」を押すと、小数点が小数に変換されます。

### 変数計算

計算結果と計算式をメモリに保存することができます。｢変数計算｣のサブメニューは、｢変数リコール｣、｢保存された全ての変数を削除｣、｢変数に保存｣、｢統計関数｣の4つで、サブメニュー間の移動には上下キーを使います。サブメニュー上でEnterを押すと実行できます。

変数計算を実行するには、F2を押してメニューを呼び出し、｢変数計算｣まで移動してEnterを押します。あるいは、メニューでvを押します。

#### 変数リコール

保存した変数のリストを読み上げて計算式への挿入や削除を行うことができます。

「変数リコール」ダイアログボックスは、｢リスト｣、｢削除｣、｢詳細表示｣、｢OK｣ボタン、｢閉じる｣ボタンで構成されており、これらの項目間の移動にはF3を使います。

｢変数リコール｣を実行するには、｢変数計算｣メニューで(r)を押します。あるいは、電卓の実行中にBackSpace-rを押します。

リストは｢変数名：結果値x/y｣と表示します。このリスト内での移動には上下キーを使います。計算式に挿入したい変数名でEnterを押すと、その値が挿入されます。

また、このリスト内の各変数をコピーすることもできます。コピーする変数をSpaceで選択してEnter-iを押すと、選択した変数がクリップボードにコピーされます。

｢詳細表示｣ではリスト内の変数を詳しく確認することができます。｢詳細を読み上げますか？｣という質問ボタンのデフォルト設定は｢いいえ｣で、変数名と結果値のみを読み上げます。結果値以外に計算式を確認したい場合は、Spaceを押して｢はい｣に切替えると、変数出力形式が｢変数名：演算式=結果値｣のように読み上げられます。

｢削除｣では、登録した変数を削除できます。これを実行するには、まず削除したい変数を選択し、次にF3で｢削除｣まで移動してEnterを押すか、あるいはSpace-dを押します。

リスト内の複数の変数を削除したい場合は、削除したい変数をSpaceで選択してからSpace-dを押します。

項目リスト内の変数を他のプログラムで使うためにクリップボードにコピーしたい場合は、変数をSpaceで選択してEnter-iを押すと、選択した変数の内容（変数名と結果値）がクリップボードにコピーされます。｢詳細表示｣を｢はい｣に設定しておくと、演算式もコピーされます。

#### 保存された全ての変数を削除

保存されている全ての変数を削除するには、F2を押してメニューを呼び出し、上下キーで｢変数計算｣まで移動してEnterを押します。次に、上下キーで｢保存された全ての変数を削除｣まで移動してEnterを押します。あるいは、Enter-dを押しても実行できます。

#### 変数に保存

後で計算に利用するために、計算結果を変数に保存することができます。

この｢変数に保存｣ダイアログボックスは、「項目名は：」、｢OK｣、｢取消｣というコントロールで構成されており、コントロール間の移動にはF3を使います。「変数計算」メニューで(s)を押すと、｢変数に保存｣にアクセスできます。電卓の使用中には、BackSpace-sを押してこのダイアログボックスを開くことができます。

｢a=2+sin(3)｣のように変数名と計算式を入力してEnterを押すと、自動的に保存されます。または、計算結果を読み上げた状態で｢変数に保存｣を実行して変数名入力用のダイアログボックスを呼び出し、変数名を入力したらEnterを押して保存します。F3で｢確認｣ボタンまで移動してEnterを押しても保存できます。

｢sin｣、 ｢cos｣、 ｢pi｣などの関数名を変数名として入力すると、｢無効な変数名｣と表示します。既に変数として入力した変数名を入力すると、｢存在する変数名です。変更しますか？｣というメッセージを読み上げます。

#### 統計関数

｢統計関数｣ダイアログボックスは、全ての変数を表示する変数リストボックス、合計、平均、偏差などの演算結果を表示するリストボックス、｢閉じる｣で構成されており、項目間の移動にはF3を使います。

統計関数を実行するには、「変数計算」メニューで(t)｣を押すか、計算式入力時にBackSpace-tを押します。

変数リストは｢変数名：結果値｣のように読み上げられ、リスト内での移動には上下キーを使います。計算に使う変数名はSpaceを押して選択します。

この変数リストは、｢変数リコール｣ダイアログボックス内のリストと似ていますが、｢詳細表示｣の設定にかかわらず変数名と結果値のみを読み上げます。計算に使う変数名を全て選択したら、F3で計算結果を表示するリストに移動します。計算結果リストには、｢合計｣、｢平均｣、｢偏差｣、｢標準偏差｣という項目があり、項目間の移動には上下キーを使います。

計算結果リスト内の項目をSpaceで選択してEnter-iを押すと、クリップボードにコピーされます。このようにクリップボードにコピーすると、ワードプロセッサや他のプログラムに貼り付けることができます。

｢統計関数｣ダイアログボックスを閉じるには、Space-zを押すか、｢閉じる｣ボタンでEnterを押します。

計算結果を確認してから新たに計算をする場合は、F3を押して変数リストに移動し、Space-eで前に選択した変数の選択解除をしてから、Spaceで変数を選択します。

### サイン関数

サイン関数はメニューの｢サイン関数｣でEnterを押して実行します。あるいは、F2でメニューを呼び出してsを押すか、メニューを呼び出さずに「Enter-s」を押しても実行できます。｢サイン関数｣リストには、｢サイン｣、｢アークサイン｣、｢ハイパーボリックサイン｣という項目があり、項目間の移動には上下キーを使います。選択した項目でEnterを押すか、F3で｢確認｣まで移動してEnterを押すと、選択した内容が計算式に挿入されます。あるいは、これらの3項目から選択したい項目の英語の頭文字を入力しても挿入されます。

### コサイン関数

コサイン関数はメニューの｢コサイン関数｣でEnterを押して実行します。あるいは、F2でメニューを呼び出してcを押すか、メニューを呼び出さずにEnter-cを押しても実行できます。｢コサイン関数｣リストには、｢コサイン｣、｢アークコサイン｣、｢ハイパーボリックコサイン｣という項目があり、項目間の移動には上下キーを使います。選択した項目でEnterを押すか、F3で｢確認｣まで移動してEnterを押すと、選択した内容が計算式に挿入されます。あるいは、これらの3項目から選択したい項目の英語の頭文字を入力しても挿入されます。

### タンジェント関数

タンジェント関数はメニューの｢タンジェント関数｣でEnterを押して実行します。あるいは、F2でメニューを呼び出してtを押すか、メニューを呼び出さずにEnter-tを押しても実行できます。｢タンジェント関数｣リストには、｢タンジェント｣、｢アークタンジェント｣、｢ハイパーボリックタンジェント｣という項目があり、項目間の移動には上下キーを使います。選択した項目でEnterを押すか、F3で｢確認｣まで移動してEnterを押すと、選択した内容が計算式に挿入されます。あるいは、これらの3項目から選択したい項目の英語の頭文字を入力しても挿入されます。

### 対数関数

｢対数関数｣ダイアログボックスは、｢関数リスト｣、｢OK｣ボタン、｢取消｣ボタンで構成されており、各項目間の移動にはF3を使います。

関数リストは｢常用対数｣と｢自然対数｣で構成されており、切替えには上下キーを使います。どちらかを選択してEnterを押すか、上下キーで｢確認｣ボタンまで移動してEnterを押すと、計算式に選択した対数が挿入されます。

｢対数関数｣メニューに入るには、F2を押してメニューを呼び出し、｢対数関数｣でEnterを押すか、メニューでlを押します。あるいは計算式の入力中に「Enter-l」を押します。ダイアログボックスで、自然対数を選択する場合はnを、｢常用対数｣を選択する場合はcを押します。

### 単位換算

「単位換算」ダイアログでは、質量、面積、体積、距離、温度等の単位を換算します。

「単位換算」ダイアログを開くには、電卓のメニューから「単位換算」を選択するか、電卓起動中に「Enter-u」を押します。  
「単位換算」ダイアログには、「単位カテゴリ」コンボボックス、「現在の単位」コンボボックス、「単位の変更」コンボボックス、「数値の入力」エディットボックス、「換算」ボタン、「閉じる」ボタン、「結果」スタティックボックスで構成されています。F3を使用して、ダイアログ内のコントロール間を移動できます。コンボボックス内の項目間を移動するには、上下キーを使用します。

使用可能な単位のカテゴリは、距離、面積、質量、体積、温度、データ、数値およびテキストです。測定カテゴリを選択すると、「現在の単位」と「単位の変更」コンボボックスに、選択したカテゴリに応じた単位が表示されます。

利用可能な単位は以下の通りです。

1. 距離：ミリメートル、センチメートル、メートル、キロメートル、インチ、フィート、ヤード、マイル
2. 面積：平方メートル、アレ、スクエアフィート、スクエアヤード、エーカー、ヘクタール
3. 重さ：グラム、キログラム、トーン、グレイン、オンス、ポンド
4. 容積：デシリットル、ミリリットル、リットル、立方センチメートル、立方メートル、キュービックインチ、キュービックフット、キュービックヤード、ガロン、フルードオンス、カップ、クォート
5. 温度：摂氏、華氏、ケルビン
6. データ：ビット、バイト、キロバイト、メガバイト、ギガバイト
7. 数値：16進数、12進数、2進数
8. 文字：ASCII変換

最初の「現在の単位」コンボボックスから換算する元の単位を選択します。 「単位の変更」コンボボックスで、換算先の単位を選択します。 「数値の入力」ボックスに、換算したい数値を入力します。最後に、「換算」ボタンで"Enterを押して変換を実行します。変換をキャンセルする場合は、「取消」ボタンでEnterを押します。 換算を実行すると、換算結果が「結果」スタティックボックスに表示されます。

### クリップボードにコピー

計算式や計算結果をクリップボードにコピーする機能で、コピーした計算式や計算結果はワードプロセッサの文書などに貼り付けることができます。また、最大20件の計算履歴を表示してコピーする事ができます。

この機能を実行するには、F2を押してメニューを呼び出し、上下キーで｢クリップボードにコピー｣まで移動してEnterを押すか、メニューでiを押します。

また、計算式を読み上げたときにEnter-cを押しても、クリップボードにコピーできます。

コピーが終わると｢コピー完了｣と表示して、計算式に戻ります。

Enter-hを押すと計算履歴を表示します。上下キーで計算式を選択してコピーする事ができます。計算履歴を削除する場合は、削除したい式が表示された状態でSpace-dを押してください。「削除しますか？はい」と読み上げますので、削除する場合はエンターを押してください。スペースを押して「いいえ」に切り替えてからエンターを押すと削除をキャンセルします。

### 式に戻る

計算結果を表示した後、使用した式を確認したい場合があります。 「式に戻る」を使用すると、入力した式を再表示ことができます。

計算結果が表示されたら、Enter-rを押すか、F2メニューから式に戻るを実行してください。

現在の計算結果を得るために入力した式が表示されます。

### オプション設定

オプション設定を実行するには、F2を押してメニューを呼び出し、上下キーで｢オプション設定｣まで移動してEnterを押すか、メニューでoを押します。計算式の入力中は、メニューを呼び出さずにEnter-oを押しても実行できます。

「オプション設定」ダイアログボックスには「角度の単位」、「指数表記を使用して表示」、「表示する位」、「OK」、「キャンセル」という項目があり、項目間の移動にはF3を使います。

* 1. 角度単位：「ディグリー」と「ラジアン」で構成されています。これらを選択するには、上下キーで選択したい項目に移動してEnterを押すか、F3で「OK」ボタンまで移動してEnterを押します。「ラジアン」を選択すると、三角関数を使うときにパイ（π）を使うことができますが、「ディグリー」を選択すると、三角関数でパイを入力したときにエラーになります。

## 現在時刻

現在の日付と時刻を確認します。 ユーティリティメニューの「日付と時刻」に移動し、Enterを押します。シックスでどの操作中でも「Space-t」で実行することができます。 F3を押すと「時刻」と「日付」が切り替わります。

## 世界時計

世界時計は、世界中で指定した場所の時刻を簡単に表示できるアプリケーションです。

ユーティリティメニューから選択するか、簡単起動コマンドF3-Lを押すことにより世界時計を開くことができます。

初期設定では、シックスの「日付と時刻」の設定と一致するタイムゾーンが設定されています。上下キーを使ってリスト内の登録した地域の日付と時刻を選択できます。

ダイアログ内のコントロールは、「F3」および「Space-F3」を使用します。

世界時計ダイアログは、時計リスト、追加ボタン、削除ボタン、および終了ボタンで構成されています。

リストに追加するには、追加ボタンを表示した状態でEnterを押します。タイムゾーンのリストが表示されるので追加したいタイムゾーンを上下で選択し、Enterを押すと時計リストに追加されます。

## 電子コンパス

方位を確認する際にこの機能を使用してください。電子コンパスは以下の方法で使用します。

シックスでどの機能を使用していてもSpace-F3-F4を押すと方位を確認することができます。または、ユーティリティメニューから電子コンパスを実行することで使用できます。ユーティリティメニュー内でhを押しても実行できます。

コンパスの起動後、現在の方位を確認するためには、スペースキーを押してください。現在の方位を表示します。コンパスを終了する際はF4または、Space-zを押してください。

注意：以下の状況になると、コンパスが正常に機能するまで15分ほど時間が必要になります。

１．最後に電子コンパスを使用した場所から非常に離れた場所へ移動して使用する場合。

２．シックスを1ヶ月以上充電せずにいた場合。

### 電子コンパスのオプション

電子コンパスには「更新時間」と「方位の提示方法」の2つのオプション設定があります。

更新時間：方位の自動読み上げ間隔を設定することができます。

以下の手順で設定することができます。

1)電子コンパスを実行してください。

2)電子コンパスは現在向いている方位を表示します。

3)F3またはSpace-4-5を押してください。

4)更新時間の設定が表示されます。

5)方位の自動読み上げ時間を秒数で入力してください。初期設定は0です。0の場合スペースキーを押すまで方位は読み上げません。0から120まで設定可能です。

方位の提示方法：

方位の提示方法を設定することができます。以下の手順で設定してください。

1)電子コンパスを実行してください。

2)電子コンパスは現在向いている方位を表示します。

3)「方位の提示方法」と表示するまでF3またはSpace-4-5を押してください。

4)設定項目は「8方位と360度表示」、「8方位表示」、「360度表示」の3項目です。初期設定では「8方位と360度表示」に設定されています。

## アラーム

アラームを設定できます。アラームは複数設定可能です。 「アラーム」を実行するには、「ユーティリティ」から上下キーを使用して「アラーム」に移動し「Enter」を押してください。「アラーム」ダイアログが表示されます。

「アラーム」ダイアログはアラームリスト、「追加」ボタン、「修正」ボタン、「削除」ボタン、「閉じる」ボタンの5つの項目で構成されています。コントロール間を移動するには、「F3」と「Space-F3」を使用します。

アラームが鳴ると、「アラームを止めるにはBackspace-Enterを押してください。」と表示されます。Backspace-EnterまたはF4を押すとアラームを止めることができます。

アラームリスト

登録したアラームのリストを表示します。上下キーを押すことで登録してあるアラームを切り替える事ができます。

アラームの追加

「追加」ボタンを選択してEnterを押すとアラームの「追加ダイアログボックス」が表示されます。「追加」ボタンのショートカットキーはEnter-aです。

設定できる項目は「時刻設定」と「エコー」、「繰り返し」、「アラーム秒数」、「アラームの間隔」、「回数」、「確認」ボタン、「取消」ボタンです。これらの項目はF3かSpace-F3を押して切り替える事ができます。

1) 時刻設定

｢アラーム｣ダイアログボックスが開くと、シックスミニは｢時刻設定｣フィールドを読み上げ、現在の時刻あるいは前に入力した時刻を読み上げますので時刻を設定します。

数字を直接入力するか、以下のキー操作で設定することができます。

1時間前に移動：Space-4

1時間後に移動：Space-1

10分前に移動：Space-5

10分後に移動：Space-2

1分前に移動：Space-6

1分後に移動：Space-3

時刻を設定したら、F3を押して次の設定項目に移動します。

2)エコー

アラーム音を設定することができます。アラーム音はメロディー1、メロディー2、メロディー3、振動、メディアファイル、ＦＭラジオの中から選ぶことができます。「時刻設定」でF3を押すと、現在設定されている音が再生されます。また、上下キーを押すと、アラーム音を変更できます。「振動」を選択すると、設定時刻にシックスミニが振動します。「メディアファイル」の中から選択する場合は、「ファイル名」のタブへ移動し、アラーム音として設定したいファイルを選択してEnterを押します。すると、ファイル管理のメディアフォルダに移動します。その後、使いたいファイルを選択し、Enterを押します。そして、「FMラジオ」を選択すると設定した時刻にFMラジオが起動します。事前に周波数を調整しておいてください。アラーム音の選択が完了した後は、F3を押して、次の設定項目に移動します。

3)繰り返し

この設定項目では、一週間のうちでアラームを使う日を設定します。オプションは、｢オフ｣、｢一回だけ｣、｢平日｣、｢毎日｣の4つで、オプション間の移動には上下キーを使います。｢オフ｣に設定すると、設定時刻になってもアラームは鳴りません。｢一回だけ｣に設定すると、アラームは一回だけ鳴ります。｢平日｣に設定すると、月曜日から金曜日まで設定時間になるとアラームが鳴り、｢毎日｣に設定すると、週末を含めて毎日、設定時間になるとアラームが鳴ります。オプションを選択したら、F3を押して次の設定項目に移動します。

4)アラーム秒数

アラームを鳴らす時間の長さを設定します。選択できる時間は、｢1分｣、｢2分｣、｢3分｣で、上下キーを押して選択します。｢1分｣に設定すると、アラームが1分間鳴り、1分後には止まります。

アラームを止めるには、BackSpace-Enterを押します。

5)アラーム間隔

アラームを繰り返し鳴らす間隔を設定します。例えば、アラームが鳴り始め、｢鳴らす時間｣で設定した時間を過ぎて自動的にアラームが止まったとき、｢繰り返し鳴らす間隔｣を3分に設定している場合は、3分後に改めてアラームが鳴ります。選択できる時間は3、5、10、15、20分で、上下キーを押して選択します。

6)回数

アラームを何回鳴らすかを設定します。設定できる範囲は1回から10回までで、BackSpace-Enterを押してアラームを止めない限り、アラームは設定した回数鳴ります。回数は上下キーを押して選択します。

7)確認/取消

｢確認｣ボタンでEnterを押すと、変更を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

変更を保存しない場合は、｢取消｣ボタンまで移動してEnterを押すと、変更を保存せずに、以前の設定のままでダイアログボックスを閉じます。

修正

「修正」ボタンを選択してEnterを押すとアラームの「修正ダイアログボックス」が表示されます。「修正」ボタンのショートカットキーはEnter-mです。アラーム登録と同じ方法で登録済みのアラーム設定を修正することができます。

削除

「削除」ボタンを選択してEnterを押すと、アラームリストのアラームを削除することができます。「削除」ボタンのショートカットキーはEnter-dです。アラームリストで削除したいアラームを表示した状態で実行してください。

## ストップウォッチ

ストップウォッチでEnterを押すと、｢00:00:00｣と表示します。ここでEnterを押すと、ストップウォッチがスタートします。Enterを再度押すと、ストップウォッチが一時停止して経過時間を読み上げます。ここでEnterを再度押すと、ストップウォッチが再スタートします。

ストップウォッチの使用中あるいは一時停止中にBackSpaceを押すと、経過時間を読み上げたあとに、時間が｢00:00:00｣に初期化されます。

ストップウォッチの使用前あるいは進行中にF3を押すと、カウントダウンタイマーモードになります。

｢カウントダウンタイマー｣を実行すると、｢時｣、｢分｣、｢秒｣の入力が必要となりますので、それぞれ2桁の数字で入力します。数字は数符なしでコンピュータ点字あるいは1級点字を使って入力してください。時と分と秒の間には「：」（コロン）の入力が必要です。Spaceを押して「:」（コロン）を入力することもできます。また、以下のショートカットでもタイマーの時間を変更できます。

1時間後に移動: Space-4

1時間前に移動: Space-1

10分後に移動: Space-5

10分前に移動: Space-2

1分後に移動: Space-6

1分前に移動: Space-3

1秒後に移動:Space-5-6

1秒前に移動:Space-2-3

時間を入力せずにEnterを押すと、デフォルト時間である1分からカウントダウンします。カウントダウンタイマーを実行すると、｢カウントダウンxx分｣と表示して、カウントダウンタイマーが動作します。カウントダウンタイマーでEnterを押すと、シックスは残り時間を知らせて、一時停止します。Enterを再度押すと、カウントダウンを再開します。BackSpaceを押すと、カウントダウンタイマーが初期化されます。タイマーが｢00:00:00｣になると、アラームが10秒間鳴ったあとで、カウントダウンタイマーが初期化されます。アラームが鳴っている間にBackSpaceを押すと、アラームは停止してタイマーが初期化され、新しいカウントダウンの設定時間が入力できます。

カウントダウンタイマーの使用中にF3を押すと、ストップウォッチに戻ります。

ストップウォッチやカウントダウンタイマーを終了する場合は、Space-zを押します。

## スクリーンリーダーのターミナル

｢スクリーンリーダーのターミナル｣機能は、ブレイルセンスシリーズをJAWS for Windowsなどパソコンのスクリーンリーダーの点字ディスプレイデバイスとして使えるようにする機能です。この機能を使う前に、パソコンにJAWS for Windowsなど対応するスクリーンリーダーがインストールされていることと、パソコンとシックスがBluetoothシリアルあるいはUSBで接続されていることを確認してください。USBを使う場合は、シックスのUSBクライアントポートに接続してください。

この機能を実行するには、メインメニューの｢ユーティリティ｣でEnterを押し、Space-4で｢スクリーンリーダーのターミナル｣まで移動してEnterを押します。簡単起動コマンドはF3-sです。

実行すると接続方法リストが表示されます。このリストには、｢Bluetoothシリアルポート｣、｢USBポート｣という項目があります。項目間の移動には上下キーを使い、選択にはEnterを使います。項目を選択すると、ブレイルセンスシリーズに｢ターミナルモード｣と表示されます。Bluetoothがオフの状態でBluetoothシリアル接続を行うと、ターミナルモードに入る前に自動的にBluetoothがオンになります。ターミナルモードに入ると、それ以降は何のメッセージも表示せず、パソコンにインストールされたスクリーンリーダーの点字ディスプレイとして動作します。

パソコンとの接続が失敗すると、接続方法リストに戻ります。

ターミナルモードを終了するには、Backspace-Space-zを入力します。

スクリーンリーダーのターミナルは、JAWS for WindowsやALTAIR for Windowsに対応しています。PC-Talker(Brailleworks)、NVDA、iOSでの接続や設定については、それぞれの開発元にお問い合わせください。

またターミナルモードでの点字表示は、センスシリーズ側ではなく使用するスクリーンリーダー側で制御されます。そのため、センスシリーズ単体で使用する場合とターミナルモードでは点訳精度や表示の状態が異なります。

センスシリーズをJAWS for Windowsの点字ディスプレイとしてUSB接続で使用するには、以下の弊社Webページの情報を参照してください。

http://www.extra.co.jp/faq/sense\_faq.html#terminal\_jaws

センスシリーズをJAWS for Windows以外の点字ディスプレイとしてUSB接続で使用するには、以下の弊社Webページの情報を参照してください。

http://www.extra.co.jp/faq/sense\_faq.html#terminal\_other

センスシリーズをiOSなどの点字ディスプレイとしてBluetooth接続で使用するには、以下の弊社Webページの情報を参照してください。

http://www.extra.co.jp/faq/sense\_faq.html#terminal\_bluetooth

### ターミナルクリップボード

ターミナルクリップボードを使用すると、シックスの機能で作成および編集したテキストをスクリーンリーダーのターミナルを介して接続されたデバイスに送信できます。これは、iOSデバイスでVoiceOverを使用する場合など、入力した文字がiPhoneやiPadに送られるときに変換されるような場合に有用です。また、シックス上の環境で編集する方が快適な場合もあります。

上記で説明したように、ターミナルクリップボードを使用して、シックスでテキストを作成または編集し、完成したテキストを接続されたコンピュータやスマートホンにスクリーンリーダーのターミナルを介して送信できます。

「ターミナルクリップボード」を実行するには、「Space-Enter-i」を押します。シックスは「データ入力モード」と読み上げます。通常のテキスト入力と編集コマンドを使用して、テキストを入力して編集します。 「ターミナルクリップボード」では、接続されたコンピュータやiデバイスとの間で情報の送受信を一時的に無効にするため、テキストの作成や編集に使用できます。コンピュータやモバイルデバイスに送るテキストを入力し終わったら、「Enter-s」を押します。スクリーンリーダー用テキストを使って素早くデバイスに入力され、シックスは情報の送受信に戻ります。

「ターミナルクリップボード」は、シックス上の文書や電子メール、接続されたコンピュータやスマートフォン上で作成している文書や電子メールにテキストを転送する場合にも便利です。 「ターミナルクリップボード」はシックスの標準の編集ボックスであるので、シックスのクリップボードからテキストを貼り付けることができます。 （ワードプロセッサ、電子メール、Webブラウザなどのサポートされているプログラムに適用されるテキストの選択に関するこのマニュアルのセクションを参照してください）

シックスからテキストを送信するには：

1）「Space-Enter-i」を押して、ターミナルクリップボードを実行します。

2）「Enter-v」を押して、シックスのクリップボードのテキストをエディットボックスに貼り付けます。

3）「Enter-s」を押して、シックスからテキストを送信します。

## ネットワーク状態

このプログラムを使うと、シックスがインターネットに接続されているかどうかを確認できます。また、このプログラムは｢現在の接続タイプ｣、｢IPアドレス｣、｢サブネットマスク｣、｢Gateway｣、｢DNS｣、｢MACアドレス｣の情報を提供します。

プログラムを実行するには、ユーティリティメニューの｢ネットワーク状態｣でEnterを押すか、メインメニューでSpace-nを押します。プログラムを起動すると、接続タイプとアドレスの情報リストを読み上げます。ここでF3を押すと、シックスは｢更新｣ボタンに移動し、F3を再度押すと｢閉じる｣と表示します。

情報リストの最初の項目では、シックスの現在のインターネット接続状況（オンライン/オフライン）と接続タイプ（LAN、モデム、ADSL、無線LAN）を読み上げ、これに続いて｢現在のIPアドレス｣、｢サブネット｣、｢Gateway｣、｢DNS｣、｢MACアドレス」と表示します。項目間の移動には上下キーを使います。シックスがインターネットに接続されていない場合は、ネットワーク状態の情報には｢オフライン｣と表示します。

｢更新｣ボタンでEnterを押すと、｢インターネット設定｣で設定したパラメータでインターネットへの接続を再試行して、オンライン、オフラインのどちらの状態であるかを読み上げます。このプログラムを終了するには、Space-zを押すか、｢閉じる｣ボタンまで移動してEnterを押します。

プログラムメニューでネットワーク状態を開くには、Space-nを押します。

## バッテリー状態確認

バッテリー状態を確認するには、ユーティリティメニューでbを押すか、上下キーで｢バッテリー状態確認｣まで移動してEnterを押します。あるいは、シックスの使用中にユーティリティメニューを呼び出さずにSpace-1-6を押しても確認できます。

｢バッテリー状態確認｣ではシックスの電源に関する確認ができます。具体的には、現在のバッテリー充電量やACアダプタの使用状況を確認できます。

この機能を実行すると、｢充電　xx%、バッテリー（あるいはAC電源）使用中｣と表示します。内容の確認後、Space-zを押すと元の表示に戻ります。

## フラッシュディスクのバックアップ/復旧

フラッシュディスのバックアップ/復旧を使用すると、SDカードまたは接続されたUSBドライブにフラッシュディスクデータをパスワードで保護されたzip形式で保存できます。この機能は、ユーティリティメニュー内から選択できます。簡単起動コマンドはF3-pです。

実行すると「バックアップ」ボタンが表示され、バックアップするデータの量が通知されます。 「f3」または「Space-F3」を押すと、「復旧」および「閉じる」ボタンにアクセスできます。

「バックアップ」ボタンでEnterを押すと、バックアップを保存できる使用可能なドライブのリストが表示され、それぞれが使用可能な空き容量を通知します。使用したいドライブを選んでEnterを押してください。

参考：ExFatSDカードまたは64GB以上のドライブの使用をお勧めします。 4 GBを超えるデータのzipファイルをFAT32ドライブまたはカードに作成することはできません。また、シックスのフラッシュディスクは100 GB近くのデータを保持できるため、ほとんどのバックアップは4GBを超えます。

ドライブを選択すると、パスワードを作成するように求められます。 バックアップデータのzipファイルをパスワードで保護する場合は、コンピュータエディットボックスに8文字以内のパスワードを入力してください。 F3を押して、パスワードを再入力します。パスワードを使用したくない場合は、もう一度F3を押して「パスワードを使用しない」に移動し、「Enter」キーを押します。

シックスはzip形式でバックアップデータを作成し、進行状況をパーセンテージで通知します。バックアップが完了すると、BrailleSenseデバイス名と日時が記載されたzipファイルが指定したバックアップドライブのルートに表示されます。

バックアップを復元するには、ドライブを選択してから、復元ダイアログからバックアップファイルを選択します。バックアップをパスワードで保護している場合は、復元を開始する前にパスワードの入力を求められます。

## フォーマット

シックスのflashdiskとSDカード、USBメモリをフォーマットすることができます。フォーマットすると保存されていたデータは全て消去されますのでご注意ください。

以下手順です。

1. ユーティリティのメニュー項目からフォーマットを選択してEnterを押してください。ユーティリティメニュー内でfを押しても実行できます。
2. ディスクリストと読み上げ、flashdiskとシックスに挿入さているSDカードやUSBメモリが表示されます。フォーマットしたいディスクを選択してEnterを押してください。
3. 「フォーマットしますか？はい」と表示されますのでEnterを押してください。フォーマットしない場合はSpaceを押して「いいえ」に切替えてEnterを押してください。

フォーマットメニューを終了するにはSpace-zを押してください。

## スリープタイマー

スリープタイマーを設定すると、設定された時間が経過すると自動的に電源がオフになります。スリープタイマーを起動するには、「ユーティリティ」で「スリープタイマー」を選択するか、起動コマンドのSpace-jを押します。

スリープタイマーを実行すると「スリープタイマー0」と読み上げます。ここで設定したい時間を0分から180分までの数字で入力してください。

スリープタイマーで設定した時間が経過すると、使用中であっても電源がオフになります。

## マクロ

同じ操作をよく行う場合、マクロを用いてセンスの機能を自動化することができます。

例えば、毎朝仕事を始める時に特定のプログラムや文書を開く操作や、文書の挿入と書式設定を自動化したい場合などにマクロを使用すると便利です。

マクロを記録する

マクロを作成するために、一通りのキー操作を記録させます。マクロに記録されるのは、作業を行うために行ったキー操作です。

マクロの記録を始めるには、F2-ｒを押してください。

次に自動化したい操作を全て行ってください。操作終了後、再度F2-rを押すと記録を終了します。

例えば、目覚まし時計の設定のマクロを作成するには、F2-rを押してF1キーを押します。そしてユーティリティメニューへ移動してエンターを押し、目覚まし時計でエンターを押します。時刻を入力して設定します。

目覚まし時計の設定の操作完了後、F2-rを押してマクロの記録を終了してください。

すると保存するマクロの名前の入力が求められます。マクロ名を入力してエンターを押します。マクロを保存したくない場合は、Space-ｚを押すとマクロ保存をキャンセルすることができます。

以下、マクロの作成例を示します。

例1：ワードプロセッサでflashdiskのworkフォルダのmemo.brlを開くマクロを作成してmemoというマクロ名で保存するには、以下の手順を実行します。

1. F2-rを押してマクロの記録を開始します。

2. F1-wを入力して、ワードプロセッサを起動します。

3. Enter-oを入力して、開くダイアログを開きます。

4. ファイル名のエディットコンボボックスにフォーカスがあるので、以下のように入力してエンターを押します。

flashdisk\work\memo.brl

5. Enter-4-5-6を入力して、文書末に移動します。

6. F2-rを入力してマクロの記録を終了します。

7. 「マクロの保存」ダイアログが表示され、マクロ名のエディットボックスに「Macro (日付 時刻)」の形式で入力されています。Backspaceでこれを削除します。

8. memoと入力してエンターを押すと、memoというマクロ名で保存されます。

例2：flashdiskのDocumentsフォルダ内のnote.txtを開くマクロを作成してnoteというマクロ名で保存するには、以下の手順を実行します。

1. F2-rを入力しマクロの記録を開始します。

2. F1を押します。

3. flashdiskでEnterを押します。

4. d(1-4-5)を数回押してDocumentsに移動します。

5. Enterを押します。

6. n(1-3-4-5)を押してnote.txtに移動します。

7. Enterを押してファイルを開きます。

8. F2-rを入力してマクロの記録を終了します。

9. マクロ名の入力を求められますので、wetherと入力してエンターを押します。

マクロでは実行したキー操作が記録されますので、マクロの作成時にはショートカットキーや簡単起動コマンドを使用して操作すると効果的です。

ファイルやWebサイトの読み込み時間などを考慮して、マクロに待機時間を挿入する必要がある場合があります。F2-dを押すと、マクロの記録中に遅延時間を挿入できます。 ミリ秒単位で遅延時間を入力し、Enterを押します。 通常どおりマクロの記録を続けます。

マクロの実行

作成したマクロを実行するには、ブレイルセンスが起動している状態でF2-eを押してください。すると、最後に作成または実行したマクロ名が表示されます。マクロを実行するにはエンターを押すか、使用したいマクロ名を入力してエンターを押してください。実行すると「マクロファイルの開始」と読み上げます。

　マクロに登録された作業を行う間、数秒間かかります。マクロの終了後、センスの表示は通常の方法でマクロと同じ操作をした後と同じ状態になります。

　例えば、電子メールを実行して新しいメールを確認するためにマクロを設定した場合、マクロの実行後、センスは最新の未読メールを表示した状態になります。

マクロ管理

マクロ管理を使ってこれまでに作成したマクロを実行したり管理したりすることができます。

マクロ管理はユーティリティメニューにあります。

メインメニューからユーティリティを実行して、マクロ管理まで移動して実行してください。ユーティリティメニュー内でのショートカットはm(1-3-4)です。マクロ管理の簡単起動コマンドはF2-l(1-2-3)です。

マクロ管理ダイアログは、「マクロリスト」、「リピート再生」のエディットボックス、「削除」、「名前の変更」、「マクロの実行」、「インポート」、「エクスポート」、「閉じる」ボタンで構成されています。

マクロリストはこれまでに作成したマクロをリストにして表示します。マクロ名を表示した状態でエンターを押すと表示しているマクロを実行します。または、マクロ名を表示した状態でF3を押して「マクロの実行」へ移動してエンターを押して実行します。前述のとおり、ブレイルセンスを使用中にF2-eを押せばいつでもマクロリストを呼び出すこともできます。

「リピート再生」ではマクロを実行する回数を指定します。

マクロを削除したい場合は、マクロリストで削除したいマクロ名を表示した状態でSpace-dを押すか、F3を何度か押して「削除」を表示した状態でエンターを押してください。

マクロ名の変更を行う場合は、マクロリストで名前を変更したいマクロ名を表示した状態でF3を何度か押して「名前の変更」を表示した状態でエンターを押してください。エンターを押すとファイル名を入力できるエディットボックスが表示されます。現在のマクロ名が表示されていますが、新しい名前を入力してエンターを押すとマクロの名前は変更されます。

必要に応じて「インポート」「エクスポート」を使用します。

## ファームウェアの更新

インターネットあるいはアップグレードファイルが入っているディスクを利用してシックスミニのファームウェア更新ができます。

オフラインでのアップグレードファイルは有限会社エクストラのWebページ（http://www.extra.co.jp/）からダウンロード可能です。オンラインでのファームウェア更新はお使いのネットワーク環境に問題が発生した場合やアップデートサーバの問題などで、正常に完了しない場合があります。またタイミングによってはアップデートサーバのアップデータが適切ではない場合があります。オフラインでのアップグレードの方が確実ですので、コンピュータ等でアップグレードファイルをダウンロードして、ディスクからのファームウェア更新を行う事をお勧めします。

インターネットを使ってアップグレードを行う場合は、実行前に｢インターネット設定｣を実行して設定を完了してください。なお、この機能を実行する前には、シックスの全ての情報をバックアップすることをお薦めします。

アップグレードの実行中にアップグレードの取消はできませんので、リセットボタンを押したり、電源を切ったりしないでください。また、更新中はACアダプタを接続して外部から安定した電源を供給してください。ファームウェア更新の所要時間は、オフラインで実行した場合は約30分、オンラインで実行した場合は、ご使用のネットワークの速度にもよりますが数時間かかる場合があります。

更新中は、シックスに触らないでください。更新が成功すると、シックスは自動的に再起動します。

### ディスクからのファームウェア更新

オフラインでのディスクからの更新は次の手順で行ってください。

1. アップグレードファイルを保存したSDカードやUSBメモリなどのディスクをシックスに接続します。次に、ユーティリティメニューの｢ファームウェアの更新｣でEnterを押します。
2. ｢アップグレード？ オンライン｣と表示されたら、Space-4で｢アップグレード？ オフライン｣に切替えてEnterを押してください。
3. シックスはファームウェア更新を実行するかどうかを確認するメッセージを読み上げます。｢いいえ｣でEnterを押すと、更新が取消されます。Spaceで｢いいえ｣を｢はい｣に切り替えてEnterを押すと、シックスはアップグレードを開始します。シックスのバージョンが最新である場合は、その旨表示されて更新を継続するかを確認するメッセージが表示されます。
4. 更新が完了するまでは、シックスのキーを触らないでください。完了すると、シックスはプログラムメニューに戻って｢ファイル管理｣と表示します。
5. 更新完了後は、プログラムメニューでSpace-vを押してソフトウェアのバージョンを確認してください。

### インターネットを利用したファームウェアの更新

オンラインでのシックスファームウェア更新は次の手順で行ってください。以下は英語マニュアルに記載の内容です。

1. インターネット接続が可能であることを確認してください。次に、ユーティリティメニューの｢ファームウェアの更新｣でEnterを押すと、｢アップグレード？ オンライン｣と表示します。
2. ｢アップグレード？ オンライン｣でEnterを押すと、シックスはシックスのサーバに接続して、お客様のシックスのバージョンと、サーバにある最新バージョンを比較します。お客様のシックスのバージョンよりサーバのバージョンが新しければ、シックスは自動的にダウンロードを開始します。シックスのバージョンが最新である場合は、更新を続行するかどうかを確認するメッセージを読み上げます。この質問のデフォルト設定は｢いいえ｣で、Enterを押すと、更新が取消されます。Spaceで｢いいえ｣を｢はい｣に切替えてEnterを押すと、アップグレードファイルのダウンロードを開始します。
3. ファイルをダウンロードすると、シックスはファームウェアの更新を実行します。更新が完了すると、シックスは自動的に再起動します。アップグレードと再起動が完了するまでは、シックスのキーは触らないでください。
4. ただし、データのダウンロード中であれば、Space-zを押して取消すことができます。
5. 更新完了後は、プログラムメニューでSpace-vを押して、ソフトウェアのバージョンを確認してください。

# サードパーティのアプリやアクセサリの使用

## GooglePlayとすべてのアプリケーション

シックスは独自に搭載している機能のみではなく、GooglePlayからアプリをインストールして使用する事が可能です。GooglePlayからアプリをインストールするためにはGoogleのアカウントが必要になります。

参考：Gmaiｌアカウントをお持ちの場合は、そのアドレスとパスワードが利用できます。

Googleアカウントをお持ちでない方は、事前にPCなどを使ってアカウントを作成してください。

メインメニューのGooglePlayを実行してください。ショートカットキーはpです。

GooglePlayを初めて実行した場合は、Googleアカウントのログインを行います。Googleのアカウントをご用意のうえログインを行ってください。

GooglePlayやそこからインストールしたAndroidアプリを使用する場合、シックスは自動的にモバイルスクリーンリーダー機能を実行します。これはAndroid用のTalkBackに似ています。

そのため、アプリ使用時はシックスに搭載された基本機能とは操作方法や構造が若干異なりますので注意してください。

シックスはGooglePlayからインストールする事ができるアプリ全てが正常に動作する事を保証していません。シックス向けに開発されていないアプリのアクセシビリティや使いやすさを保証することはできません。シックスではモバイルスクリーンリーダーでアプリを使用するため、一般的なAndroid端末でアプリを使用する場合に比べて操作が困難な場合があります。ご承知おきください。

### モバイルスクリーンリーダーの基本的な操作

以下の操作はモバイルスクリーンリーダーの基本的な操作方法です。使用するアプリによっては操作方法が異なる場合があります。

画面上の項目間を移動：F3またはSpace-F3

コンテンツ領域を移動：CtrlまたはAlt

現在のコンテンツ領域の先頭に移動：Space-1-2-3

現在のコンテンツ領域の末尾に移動：Space-4-5-6

項目の実行または選択：Enter

一つ前の画面に移動：F4またはSpace-e

編集モード：Enterまたはタッチカーソルキー

※エディットボックスに文字を入力する場合は、入力を行う前にEnterまたはタッチカーソルキーを押して編集モードに移行する必要があります。

スライダーコントロールで値を増やす：Backspace-Space-4

スライダーコントロールで値を減らす：Backspace-Space-1

ダブルタップ：Space-Enter

ダブルタップしてホールド：Backspace-Space-Enter

ホールドのオン/オフ：Backspace-Space-2

### メディアキーを使った操作

シックスの前面にあるメディアキーを使ってアプリの操作を行うことが可能です。メディア切り替えスイッチを一番左のAPPに切り替えて使用します。

前のオブジェクトへ移動：戻るボタン

次のオブジェクトへ移動：進むボタン

戻る：録音ボタン

使用したアプリを開く：再生ボタン

メインメニューへ移動：停止ボタン

Apple MusicやSpotifyなどのAndroidアプリでメディアを再生する場合は、「戻る」ボタンを押し続けると前の項目またはトラックに移動し、「再生」ボタンを押し続けると再生/一時停止し、「次へ」ボタンを押し続けると次の項目またはトラックに移動します

### モバイルスクリーンリーダーのオン/オフ

キーボードやマウス、ポータブルタッチモニターをシックスに接続してアプリを操作することも可能です。その際はモバイルスクリーンリーダーをオフにする必要があります。モバイルスクリーンリーダーのオン/オフはオーディオボタンの「停止」と「次へ」を同時に押すと切り替わります。

### アプリケーションの検索とインストール

Googleアカウントを使ってログインすると、アプリケーション検索を使用できます。

既に他の端末で使用しているアプリを表示したい場合はナビゲーションドロワーを開き「マイアプリ」オプションを実行し、「全て」ボタンを実行すると、ログインに使用したGoogleアカウントでダウンロードしたアプリを表示します。

アプリリストでEnterを押すとアプリの詳細情報を表示します。インストールしたい場合は「インストール」ボタンを探してEnterを押してください。次に、インストールに必要なアプリケーションの権限を確認するダイアログが表示されます。インストールを行う場合、「同意する」ボタンを探してEnterを押してください。

### すべてのアプリケーション

インストールしたアプリはメインメニューの「すべてのアプリケーション」に登録されます。一覧はアルファベット順、50音順に表示されます。上下キーを押して選択するか、アプリ名の頭文字を入力する事で移動することも可能です。

「すべてのアプリケーション」にて、インストールしたAndroidアプリをアンインストールすることができます。 Androidアプリをアンインストールするには、「すべてのアプリケーション」で表示されるアプリリストで削除したいアプリが表示された状態でSpace-dを押してください。 アプリをアンインストールするかどうかを確認するメッセージが表示されたら、「Enter」を押して確定します。

多くのアプリがインストールされている場合や、メールや音楽など、特定のカテゴリにあるアプリを確認したい場合は、アプリの検索が役立つことがあります。 「すべてのアプリケーション」のリスト表示中にからSpace-fを押すと、検索語を入力するように求められます。検索したい文字列を入力してEnterキーを押すと、検索結果に一致する結果が表示されます。

「すべてのアプリケーション」のリストでアプリ名が表示された状態でEnterを押すと、アプリを実行します。

アプリ一覧の最後に「APP管理」があります。「APP管理」ではアプリのアンインストールを行う事ができます。

### 通知

アプリをインストールすると、インストールしたアプリから通知が届く場合があります。スマートホンやタブレットPCでアプリを使う場合と同じように多くのアプリはシックスに関連情報の通知を行います。

シックスではSpace-1-2-3-4-5-6を押す事でアプリからの通知一覧を表示します。

アプリをインストールすると、これらのアプリに関連するサウンドや通知が読み上げられる場合があります。スマートホンやタブレットの場合と同様に、多くのアプリはリアルタイムで通知をシックスに送信します。機器のどの局面でもSpace-1-2-3-4-5-6を押すと、これらの通知の一覧が表示されます。一覧は上下キーで移動します。通知情報を表示した状態でEnterを押すと関連するアプリを起動します。F3を押すと「通知リスト」、「削除」、「全て削除」、「閉じる」のコントロールを切り替える事ができます。通知を削除したい場合は通知の表示中にSpace-dを押すか、F3を押して「削除」または「全て削除」を実行してください。

また、通知によっては削除できない場合もあります。

## 互換性のあるアクセサリの使用

3つのUSBホストポートとAndroid10オペレーティングシステムを備えたシックスは、ドライブ、キーボード、マウス、リモートコントロール、USBハブ、外部モニター、USBなど、生産性を向上させる可能性のあるさまざまなUSBアクセサリをサポートする機能を備えています。カメラ、およびUSBオーディオデバイス。また、USBハブと3つのホストポートを使用することで、一度に複数のデバイスを接続することができます。

\*ユニットに接続するデバイスが多いほど、バッテリーの消耗が早くなることに注意してください。複数の機器を長期間接続する場合は、AC電源も接続することをお勧めします。 5台または6台を超えるデバイスを接続すると、パフォーマンスまたは接続の問題が発生する場合もあります。

このセクションでは、互換性のあるデバイスを選択するためのヒントとガイドラインをいくつか紹介します。追加の説明、およびテストされた周辺機器のリストについては、当社のWebサイトにアクセスしてください。

互換性のあるデバイスを選択する際に従うべき最も一般的なルールは、それらが汎用USBプラグアンドプレイプロトコルを使用しているかどうかを判断することです。特にAndroid互換とは言わなくても、プラグアンドプレイの汎用USBデバイスであれば、シックスと互換性がある可能性があります。

USB Cモニターを検索するときは、消費電力が5V 1.5Aであることを知っておくことが重要ですが、一部の5V2Aモニターは機能することがわかっています。 3アンペアを必要とするモニターは、バッテリーパックまたはUSB充電器を介してモニターに追加の電力が供給されない限りサポートできません。

また、モニターに接続する際に、ヘッドフォンジャックやUSBオーディオソースを使用していない場合には、オーディオはモニターと内蔵スピーカーの両方に送信されます。外部オーディオ出力ソースを使用している場合には、オーディオは外部ソースにのみ送信されます。メインメニューでF4-aを押すと内部オーディオをミュートまたはミュート解除できます。外部オーディオ出力ソースを使用している場合オーディオは外部ソースにのみ送信されます。

USBオーディオソースを使用する場合、ヘッドフォンがシックスのヘッドフォンジャックに接続されていない限り、他のオーディオソースよりも常に優先されます。接続されている場合は、録音設定で選択された内部ソースが優先されます。詳細については、メディアプレーヤーの章の録音に関するセクションを参照してください。ZoomやTeamsのミーティング中など録音していない時はF4-mでマイクをミュートすることができます。

互換性のあるオーディオデバイスを選択するときは、ドライバーを必要としないデバイスを選択し、マルチトラック制作用のデバイスは避けてください。デジタルオーディオワークステーションを使用する必要がある場合が多いためです。ブルーイエティのようなUSBマイク、AlesisやRockvilleモデルのようなUSBミキサー、USBヘッドセット、サウンドカードなど、単一のステレオまたはモノラル入力にミックスダウンし、ドライバーを必要としないデバイスは、一般的にうまく機能するはずです。テストしたオーディオデバイスのリストと、BrailleSense6でサンプルを録音するためのWebサイト。

カメラの選択は非常によく似たプロセスです。 Logitech、NexiGo、Sonyモデルなど、ほとんどの一般的なUSBWebカメラが適切に機能するはずです。ただし、Androidとの互換性がある製品でも、特定の編集ソフトウェアやドライバーのインストールを必要とするものは避けた方が賢明です。書画カメラは互換性が最も低いようですが、機能するものもいくつかあります。

\*注：カメラにマイクが含まれている場合、シックスはそれをUSBオーディオデバイスとしても認識します。シックスは最後に接続したオーディオデバイスを使用するため、外部カメラと外部オーディオデバイスの両方を使用する場合には、最初にカメラを接続し、次にオーディオデバイスを接続します。

# ヘルプメニューの使用

ヘルプはブレイルセンスシックスのマニュアルデータから構成されており、ブレイルセンスシックスの多くの機能について確認することができます。これらのヘルプファイルにアクセスするには、F1を押してメインメニューに移動し、上下キーでヘルプに移動して実行します。または、hを押すと簡単にヘルプに移動して開くことができます。またF1-hを使用すると、どの局面でもヘルプを起動することができます。

ヘルプが起動するとナビゲーションメニューを表示します。

上下キーを使用して目的の項目に移動します。目的の項目でEnterを押すとヘルプの内容を表示します。また、目的の項目の中にサブメニューがある場合F3を押すと表示できます。前の項目に戻る場合はSpace-F3を押してください。

例えば、メディアの項目でエンターを押すとメディア全体のマニュアルを表示します。メディアの項目でF3を押すと「メディアプレーヤー」、「ラジオ」、「ポッドキャスト」を選択できます。メディアプレーヤーの項目でエンターを押すとメディアプレーヤーの部分のマニュアルを表示します。メディアプレーヤーの項目でF3を押すとメディプレーヤーのマニュアル本文内の各項目を選択できます。マニュアル本文の読みたい箇所がわかっている場合、細かく位置を指定して閲覧できるので便利です。

文書を読み上げるための操作はノートパッドと同じです。キー操作の一覧については、17.5.5を参照してください。

ヘルプを開いた状態でSpace-nを押すとナビゲーションメニューに戻ります。

ブレイルセンスシックスのマニュアルを参照するときに、Space-fを押してテキストを検索できます。検索エディットボックスに検索したい文字列を入力し、Enterを押すと入力した文字列を検索します。Enter-fを押すと、検索した特定の文字列の次の該当箇所に移動することができます。

「はじめに」では、ブレイルセンスシックスの各部の名称やその機能の概要について説明します。

「シックスの基本機能」では、ブレイルセンスシックスのプログラムの概要や操作について説明します。

「シックスのカスタマイズ」では、日付と時刻の設定、インターネット設定、Bluetooth接続、およびオプション設定の説明とそれらの設定を使用してブレイルセンスシックスを設定する方法を説明します。

他の項目ではブレイルセンスシックスのそれぞれの機能を詳細に説明します。

コマンドリストは、ブレイルセンスシックスの全てのプログラムのホットキーのクイックリファレンスで、特定のプログラムの全ての操作を確認せずにアクションを実行するためのキーストロークを知りたい場合に便利です。

また、実行している特定のタスクに関連するヘルプを表示することもできます。 任意のプログラム内でSpace-hを使用して、そのプログラムで使用可能なキーストロークの一覧を表示します。

Space-zを押すとヘルプを終了します。

# トラブルシューティングガイド

ブレイルセンスシックスで問題が発生した場合は、次の内容を参照してください。

## ブレイルセンスシックスが起動しない

1) バッテリーが正しく挿入されていることを確認してください。

2) バッテリーが正しく挿入されている場合は、ACアダプタを接続し、ACアダプタをコンセントに差し込んでください。バッテリーを充電する必要があるかもしれません。

3) あるいは、キーボードロックスイッチの位置を確認してください。このスイッチがロック位置にあると、電源スイッチは機能しません。

## 音声が聞こえない

1) 音量が聞こえるほど大きいことを確認してください。Backspace-F4を押して音量を上げます。

2) 音声がオンになっていることを確認してください。Backspace-F2を押して、音声のオン/オフを切り替えます。

## 音声が早すぎてわからない

1) Space-F1を押して音声速度を下げてください。

## 音声トーンが低すぎまたは高すぎてわからない

1) Enter-F1を押して音声トーンを下げ、Enter-F4を押して音声トーンを上げる事ができます。

## 使用中のプログラムがわからない

1) 現在使用中のプログラムがわからなくなった場合は、「F1」を押してメインメニューにアクセスしてください。次に、開いているプログラムを切り替えるにはF2-F3を押します。ワードプロセッサにフォーカスがある場合は、Space-1-5-6を押すと、開いている文書の現在位置が表示されます。

## インターネットに接続できない

1) Wi-Fi接続を使用している場合は、無線がオンになっていることを確認してください。Backspace-1-4-5-6を使用して、無線のオン/オフを切り替えます。

2) イーサネット接続を使用している場合は、イーサネットケーブルがUSBからイーサネットアダプタにしっかりと接続されていること、およびネットワーク設定が正しいことを確認してください。

## 電子メール

1) 電子メールのダウンロードに問題がある場合は、インターネットサービスプロバイダに問い合わせて、POP3 / IMAPとSMTPの設定が正しいことを確認してください。

2) メールの送受信ができない場合は、インターネットに接続していることを確認してください。

## 点字ディスプレイに点字表示されない

1) 点字ディスプレイに点字が表示されない場合は、点字表示がオンになっていることを確認してください。Backspace-F3を使用して、点字表示のオン/オフを切り替えます。

## Playストアまたはアプリを使用時にシックスが読み上げない

Playストアまたは全てのアプリケーションのリストのアプリを開いたときに読み上げられない場合は、モバイルスクリーンリーダーがオンになっていることを確認してください。機器の手前面にあるメディアボタンの停止と次へを押すと、モバイルスクリーンリーダーのオン/オフを切り替えることができます。

## ブレイルセンスのメニューが表示されないまたは読み上げられない

場合によっては、Google Nowランチャーとブレイルセンスのランチャーの間で既定のランチャーを設定するように求めるメッセージが表示されることがあります。誤ってGoogle Nowランチャーを使用するように設定されている場合、Polarisメニューは表示されず、アクセシビリティ機能は有効になりません。この場合、システムの通知音は引き続き聞こえますが、点字は表示されず音声も聞こえません。

ブレイルセンスのランチャーにリセットするには、F2-F3-1-2-3-4-5-6-Backspace-Enterを押します。

## ブレイルセンスシックスが反応しない

1)ソフトリセット：ブレイルセンスシックスがキー操作やコマンドに反応しない場合は、機器をリセットする必要があります。ブレイルセンスシックスをリセットするには、1-2-3-4-5-6-F2-F3を押します。

※ソフトリセットでブレイルセンスシックスが再起動しない場合は、機器を完全にシャットダウンする必要があります。最も簡単にこれを行うには、バッテリーを取り外し数秒間放置してから再度取り付け、機器の電源を入れてください。

2) 設定の初期化：バッテリーを取り外しても問題が改善しない場合お試しください。メインメニューの「設定」の「設定の初期化」を実行するか、電源オフの状態で、オーディオボタンの「進む」を押しながら電源ボタンを押してください。シックスが振動しながら起動すれば成功です。この設定を実行すると、変更した各種の設定が初期化され、インターネット設定などは削除されますので十分ご注意ください。

3)工場出荷時の状態に戻す： 非常に重大なケースでは、フルシステムリセットを実行する必要があります。ただし、問題を解決するための他の全ての方法を実行していない場合や、全てのデータ、アプリケーション、および設定を完全に消去したくない場合には、これを実行しないでください。さらに、この手順は複雑かつ特殊であり、認定されたサポートスタッフの指示のもとでのみ行う必要があります。システムのリセットが必要と思われる場合は、技術サポートに相談してください。

## LCDが点灯しない

1) 液晶画面が点灯しない場合は、LCDがオンになっていることを確認してください。Space-oを押してオプション設定を開きます。F3-F4を2回押します。Spaceを押してLCDディスプレイの切り替えをオンにし、Enterを押してオプション設定を保存します。

## USBやSDが0バイトと表示される

Androidオペレーティングシステムでは、ドライブを取り外す前に、ドライブを正しくマウント解除する必要があります。マウント解除せずにシックスまたは他のデバイスにそれらを挿入すると、全てのファイルがデータを持たないかのように表示されるか、サイズが0バイトと表示される可能性があります。USBドライブまたはSDカードを取り外す前に、「Backspace-Enter-uを押して正しくマウント解除してください。ドライブにデータのないファイルが表示されている場合は、シックスに再度挿入して、マウント解除キーを押してください。

# コマンドリスト

## コマンドキー

メインメニューを開く：F1

起動中のタスクリストを開く：F1-F4

次の起動中のタスクに切り替え：F2-F3

前の起動中のタスクに切り替え：Space-F2-F3

プログラム詳細メニューを開く：Space-mまたはF2

終了：Space-z

エスケープ： Space-eまたはF4

ダイアログ内で次の操作に移動：F3またはSpace-4-5

ダイアログ内で前の操作に移動：Space-F3またはSpace-1-2

前の文字に移動： Space-3

次の文字に移動： Space-6

前の行/項目に移動：Space-1

次の行/項目に移動： Space-4

行/項目の始まりに移動：Space-1-3

行/項目の終わりに移動：Space-4-6

文書の最初へ移動または最初の項目へ移動: Space-1-2-3

文書の最後へ移動または最後の項目へ移動: Space-4-5-6

前のページまたは前の32項目単位の最初の項目へ移動:

Space-1-2-6 または F1-F2

次のページまたは次の32項目単位の最初の項目へ移動:

Space-3-4-5 または F3-F4

前へスクロール: 上スクロールボタン

次へスクロール: 下スクロールボタン

カーソルを特定のセルやリスト項目へ移動: 対応する順番のタッチカーソルキー

検索: Space-f

大文字へ切り替え（無変換入力のみ）: Space-u

現在の項目を再読み上げ: Space-r

ウェブページを開く: Space-w

現在時刻を読み上げ: Space-t

バッテリー状態確認: Space-1-6

オプション設定を開く: Space-o

オンラインヘルプ: Space-h

バージョンの確認: メインメニューでSpace-v

ネットワーク状態確認: メインメニューでSpace-n

フラッシュディスクの空き容量の確認: メインメニューでSpace-i

LCDディスプレイのオン/オフ: メインメニューでEnter-4-5-6

音声のオン/オフ: Backspace-F2

点字のオン/オフ: Backspace-F3

音声ボリュームを上げる: Backspace-F4

音声ボリュームを下げる: Backspace-F1

音声速度を上げる: Space-F4

音声速度を下げる: Space-F1

音声トーンを上げる: Enter-F4

音声トーンを下げる: Enter-F1

メインボリュームを上げる: Backspace-Space-F4

メインボリュームを下げる: Backspace-Space-F1

キーボードエコーの切り替え:Enter-F2

記号レベルの切り替え：Enter-F3

片手モードのオン/オフ: Backspace-1-2-3

Bluetoothのオン/オフ: Backspace-3-4-5-6

無線LANのオン/オフ: Backspace-1-4-5-6

入力モードのオン/オフ: Backspace-Space-Enter-m

スクロールボイスのオン/オフ：F3-上スクロールボタン

８点入力モードのオン/オフ: F1-下スクロールボタン

点字カーソルのオン/オフ: F4-上スクロールボタン

合成音声の変更:F3-v

コントロール情報の切り替え: F2-下スクロールボタン

USBとSDカードのマウント解除: Backspace-Enter-u

## 簡単起動コマンド

以下の様に、F1とそれぞれのアルファベットを同時に押すことで、それに対応するアプリケーションをすぐに実行することができます。

アドレス帳: F1-a

ウェブブラウザ: F1-b

DAISYプレーヤー: F1-d

電子メール: F1-e

ファイル管理: F1-f

Google検索:F1-g

ヘルプ: F1-h

Wikiサーチ：F1-i

メディアプレーヤー:F1-m

ノートパッド:F1-n

２つ目のノートパッドを実行:F1-Backspace-n

文書リーダ:F1-o

ポッドキャスト:F1-p

データベース管理:F1-q

FMラジオ: F1-r

スケジュールマネージャー: F1-s

ワードプロセッサ: F1-w

エクセルビューア: F1-x

DAISYオンライン:F1-z

以下の様に、F3とそれぞれのアルファベットを同時に押すことで、それに対応するアプリケーションをすぐに実行することができます。

アラーム: F3-a

Bluetooth接続:F3-b

電卓: F3-c

データベース管理：F1-q

フォーマット: F3-f

インターネット設定: F3-i

バックアップ/復旧オプション: F3-k

世界時計:F3-l

パスワードの保護: F3-n

フラッシュディスクのバックアップ/復旧オプション:F3-p

カラーリーダー:F3-r

スクリーンリーダーのターミナル: F3-s

時計設定: F3-t

ブレイセンスアップグレード: F3-u

ストップウォッチ: F3-w

その他の簡単起動コマンド

日付と時刻の表示:Space-t

ネットワーク状態の確認:Space-n

充電状態の確認:Space-1-6

コンパス方位の表示: Enter-5-6

デバイス名の変更: Backspace-Enter-e

スリープタイマーを開く: Space-j

オプション設定を開く:Space-o

センス辞書を開く:Backspace―Enter-d

メニュー管理を開く:Enter-h

URLを開く：Enter-w

ウェブサーチを実行する：Ctrl-Alt-w

フォーカス上の単語を検索する：Backspace-Space-Enter-w

オーディオミュート:F4-a

マイクミュート:F4-m

## ファイルマネージャ

### ファイルとメニューリストのナビゲーションキー

前の項目へ移動：Space-1または上スクロールボタン

次の項目へ移動：Space-4または下スクロールボタン

リストの最初へ移動: Space-1-2-3 または Space-1-3

リストの最後へ移動: Space-4-5-6 または Space-4-6

### 選択コマンド

個別の項目の選択: Space

ブロック選択: Enter-b

全て選択: Enter-a

### ファイルリストのナビゲーションキー

フォルダリストまたはファイルリストへ移動: Space-5-6

ファイルリストとアドレス画面の間の移動: F3またはSpace-F3

選択されたフォルダまたはファイルを開く: Enter

ひとつ前（上位）のフォルダへ戻る: Backspace

最上位フォルダへ移動: Space-1-2-5-6

32項目後へ移動: Space-1-2-3 または F1-F2

32項目前へ移動: Space-3-4-5 または F3-F4

### ファイルメニューのコマンド

フォーカスされているファイルの拡張子によって使用できるコマンドが変化します。

開く: Enter-o

文書リーダで開く：Backspace-r

新しいノートパッドで開く：Backspace-o

プログラムから開く: Enter-e

圧縮: Enter-z

展開: Enter-u

送る: Enter-s

名前の変更: Enter-r

新規文書: Enter-n

新しいフォルダ: Enter-f

ファイル変換: Enter-t

ファイル検索: Space-f

文字列検索: Backspace-f

ファイル結合： Enter-m

ファイル分割: Enter-p

情報: Enter-i

### 編集メニューコマンド

コピー: Enter-c

切り取り: Enter-x

貼り付け: Enter-v

削除: Space-d

全て選択: Enter-a

### 表示メニューコマンド

ファイル並べ替え: Enter-g

ファイル情報設定: Enter-l

特定の種類のファイルのみ表示: Enter-w

システムフォルダを非表示/表示: Enter-h

開始フォルダの設定：Backspace-s

文書を開くオプション：Enter-d

## ワードプロセッサ

### ファイルメニューコマンド

新規: Enter-n

開く: Enter-o

最近使ったファイル：Backspace-Enter-h

開かれた文書：Backspace-Enter-o

保存: Enter-s

名前を付けて保存: Space-s

brl形式で保存：Backspace-Enter-x

印刷: Space-p

設定: Enter-e

閉じる: Space-z

### 編集メニューコマンド

選択開始: Enter-b

コピー: Enter-c

削除: Space-d

切り取り: Enter-x

貼り付け: Enter-v

空行を削除: Backspace-e

クリップボードに追加: Enter-p

クリップボードをクリア: Enter-d

全て選択: Enter-a

挿入／上書きモード変更：Space-i

### 挿入メニューコマンド

マークを設定: Enter-m

マークへ移動: Enter-j

マーク削除: Backspace-d

ファイル挿入: Enter-i

日付の挿入: Enter-w

時間の挿入: Backspace-w

フォームフィードの挿入：Space-Backspace-Enter-p

タブの挿入：Space-Backspace-Enter-i

### 移動メニューコマンド

検索: Space-f

再検索: Enter-f

逆向き検索: Backspace-f

置換: Enter-r

指定位置に移動: Enter-l

前の文へ移動: Space-2-3-6

次の文へ移動: Space-3-5-6

前のページへ移動: Space-1-2-6 または F1-F2

次のページへ移動: Space-3-4-5 または F3-F4

前の文書へ移動：Space-b(1-2)

次の文書へ移動：Space-4-5

### 読み上げメニューコマンド

選択したテキストを読み上げ: BackSpace-b

選択したテキストの先頭行を読み上げ: Enter-u

最初からカーソルまで読み上げ: BackSpace-g

カーソルから最後まで読み上げ: Enter-g

自動スクロール: 上スクロールボタン-下スクロールボタン

現在の文を読み上げ：Space-1-4-5-6

現在の行を読み上げ: Space-1-4

現在の単語を読み上げ：Space-2-5

現在の文字を読み上げ: Space-3-6

カーソル位置を読み上げ: Space-1-5-6

状態を読み上げ: Space-3-4

文字数とスペース数を確認：Backspace-i

フォント情報の読み上げ：Backspace-Enter-n

### レイアウトメニューコマンド

フォント: Enter-backspace-f

スタイル設定：Space-Backspace-Enter-s

印刷段落レイアウト: Backspace-2-3-4-6

印刷文書レイアウト: Backspace-t

### その他のホットキー

太字のオン/オフ：Ctrl-b

イタリックのオン/オフ：Ctrl-i

下線のオン/オフ：Ctrl-u

現在の段落を削除: Backspace-2-3-5-6

現在の行を削除: Backspace-1-4

現在の文節を削除: Backspace-2-5

現在の文字を削除: Space-d

フォーマット文字表示のオン/オフ: Space-1-4-6

読み取り単位の設定: Space-2-4-6

読み取り専用のオン/オフ: Space-3-4-6

改ページ挿入：Backspace-Space-Enter-p

現在の行を左に揃える：Backspace-Space-Enter-ｊ

現在の行を中央に揃える：Backspace-Space-Enter-c

現在の行を右に揃える：Backspace-Space-Enter-ｒ

スライドを１つ進む（パワーポイントのデータのみ）：Space

スライドを１つ戻る（パワーポイントのデータのみ）： Backspace

指定位置へ移動：Enter-l

ダブルキャリッジリターンで戻る：Backspace-Space-2-3

ダブルキャリッジリターンで進む：Space-Enter-5-6

次の見出しへ移動：Space-2-5-6

前の見出しへ移動：Space-2-3-5

## ノートパッド

### ファイルメニューコマンド

新規: Enter-n

新しいノートパッドを開く：Backspace-o

開く: Enter-o

最近使ったファイル：Backspace-Enter-h

開かれた文書：Backspace-Enter-o

保存: Enter-s

名前を付けて保存: Space-s

印刷: Space-p

設定: Enter-e

閉じる: Space-z

### 編集メニューコマンド

選択開始: Enter-b

コピー: Enter-c

切り取り: Enter-x

貼り付け: Enter-v

削除: Space-d

空行を削除: Backspace-e

クリップボードに追加: Enter-p

クリップボードをクリア: Enter-d

全て選択: Enter-a

挿入／上書きモード変更：Space-i

### 挿入メニューコマンド

マークを設定: Enter-m

マークへ移動: Enter-j

マーク削除: Backspace-d

ファイル挿入: Enter-i

日付の挿入: Enter-w

時間の挿入: Backspace-w

フォームフィードの挿入：Space-Backspace-Enter-p

### 移動メニューコマンド

検索: Space-f

次を検索: Enter-f

逆向き検索: Backspace-f

検索と置換: Enter-r

指定位置へ移動: Enter-l

前の文へ移動: Space-2-3-6

次の文へ移動: Space-3-5-6

前のページへ移動: Space-1-2-6 or F1-F2

次のページへ移動: Space-3-4-5 or F3-F4

前の文書へ移動：Space-b(1-2)

次の文書へ移動：Space-4-5

### 読み上げメニューコマンド

選択したテキストを読み上げ: BackSpace-b

選択したテキストの先頭行を読み上げ: Enter-u

先頭からカーソルまで読み上げ: BackSpace-g

カーソルから最後まで読み上げ: Enter-g

自動スクロール: 上スクロールボタン-下スクロールボタン

現在の文を読み上げ：Space-1-4-5-6

現在の行を読み上げ: Space-1-4

現在の単語を読み上げ：Space-2-5

現在の文字を読み上げ: Space-3-6

カーソル位置の読み上げ: Space-1-5-6

状態を読み上げ: Space-3-4

文字数とスペース数を確認：Enter-3-4

### レイアウトメニューコマンド

点字段落レイアウト: Backspace-1-2-4-6

点字文書レイアウト: Backspace-p

### その他のホットキー

現在の段落を削除: Backspace-2-3-5-6

現在の行を削除: Backspace-1-4

現在の単語を削除: Backspace-2-5

現在の文字を削除: Space-d

読み取り単位の設定: Space-2-4-6

読み取り専用のオン/オフ: Space-3-4-6

＊＊＊

## 電子メール

### インボックスのホットキー

アカウントマネージャーを開く: Enter-m

オフラインモードからオンラインモードへの変換(IMAPの場合): Enter-1-2-3

新しいメールの確認: Enter-n

以前のメールの受信(IMAPのみ): Backspace-p

前のアカウントへ移動: Backspace- 1-2-6

次のアカウントへ移動: Backspace- 3-4-5

現在のアカウント確認：Space-3-4

前のメールボックスへ移動: Enter-1-2-6

次のメールボックスへ移動: Enter- 3-4-5

新しいメッセージを書く: Enter-w

返信: Enter-r

全員へ返信: Backspace-r

転送: Enter-f

添付ファイルとして転送: Backspace-w

保存先の設定: Enter-p

オプション設定を開く: Enter-o

迷惑メール設定を開く: Enter-e

検索: Space-f

再検索: Backspace-f

未開封のメールへ移動: Enter-u

メールボックスへ移動: Backspace-x

メールボックスのコピー: Backspace-c

送信者をアドレス帳へ追加: Enter-i (inboxでのみ使用可)

現在のメッセージを削除: Space-d (inboxの件名または日付フィールドでのみ使用可)

ゴミ箱を空にする: Enter-Backspace-q

現在のメッセージをテキストファイルとして保存: Space-s

メールの印刷: Space-p

EMLをインポート：Backspace-i

キャンセル: Space-e

キャンセルしてEメールプログラムを閉じる: Space-z

### 電子メール送信のホットキー

アドレス帳の検索: Enter-l

ファイルの添付: Enter-f

メール送信: Enter-s

アウトボックスへ保存: Backspace-s

キャンセル: Space-e

キャンセルして電子メールプログラムを閉じる: Space-z

### 電子メールメッセージの閲覧および作成中のホットキー

メッセージ本文のリンクを開く：Enter-l

選択開始: Enter-b

全選択: Enter-a

クリップボードのコピー: Enter-c

クリップボードの切り取り: Enter-x (メッセージ入力時のみ有効)

クリップボードからの貼り付け: Enter-v (メッセージ入力時のみ有効)

選択削除/現在の文字の削除: Space-d

選択解除: Space-e

## メディア

### メディアプレーヤー

#### ファイルメニューコマンド

ファイルを開く: Enter-o

フォルダを開く: Enter-f

ファイルの追加: Backspace-o

フォルダの追加: Backspace-f

プレイリストの保存: Enter-i

プレイリストとして保存: Space-s

項目を削除: Space-d

URLを開く: Enter-u

らじるらじる:Enter-w

タグ情報: Enter-t

#### 再生メニューコマンド

再生: Enterまたは再生ボタン

一時停止/再生: Spaceまたは再生ボタン

停止: Backspaceまたは停止ボタン

前のトラック: 3の点　または 前のトラックボタン

次のトラック: 6の点　または 次のトラックボタン

5つ前のトラック: 2-3の点

5つ後のトラック: 5-6の点

最初のトラック:1-3の点

最後のトラック:4-6の点

音量を上げる: Space-上スクロールボタン

音量を下げる: Space-下スクロールボタン

速度を上げる: 3-4-5の点

速度を下げる: 1-2-6の点

移動時間の変更: 2の点 または 5の点

設定した移動時間分、次へ移動: 4の点

設定した移動時間分、前へ移動: 1の点

プレイリストの削除: Space-d

ブックマーク設定: Enter-m

ブックマーク削除: Enter-d

ブックマークへ移動: Enter-j

指定位置に移動: Enter-g

マーク設定: Backspace-m

マークへ移動: Backspace-j

前のマークへ移動: Backspace-3

次のマークへ移動: Backspace-6

マークの削除: Backspace-d

マーク管理: Backspace-k

環境設定ダイアログボックス: Backspace-c

再生設定ダイアログボックス: Enter-s

録音設定ダイアログボックス: Backspace-s

イフェクト設定ダイアログボックス: Enter-e

#### 録音メニューコマンド

録音ダイアログを開く: Enter-r または 録音ボタン

録音: 録音ボタン

一時停止/録音の再開: Space または 録音ボタン

再生: 再生ボタン

停止:Enter-s

#### 再生情報タブでのホットキー

次の項目へ移動: Space-4

前の項目へ移動: Space-1

メニューを開く: F2 または Space-m

ヘルプを開く: Space-h

プレイリストへ移動: Space-4-5 またはSpace-1-2

メディアプレーヤーを閉じる: Space-z

#### プレイリストタブでのホットキー

次のファイルへ移動: Space-4

前のファイルへ移動: Space-1

最後のファイルへ移動: Space-4-6

最初のファイルへ移動: Space-1-3

現在のファイルを再生: Space

ファイル選択の開始: Enter-b

選択されたファイルの再生開始: Enter

停止: Backspace

選択されたファイルをプレイリストから削除: Space-d

再生情報タブへ移動: Space-4-5 または Space-1-2

### FM Radio

プリセットダイアログを開く: Enter-e

メニューを開く: Space-mまたはF2

内部スピーカーのオン/オフ: Space-x

次の周波数への移動: 6の点

前の周波数への移動: 3の点

前の周波数を自動検索: 2の点 または 前のトラックボタン

次の周波数を自動検索: 5の点 または 次のトラックボタン

周波数へ移動: Space-f

前のチャンネルに移動: 1の点 または 前のトラックボタン

次のチャンネルに移動: 4の点 または 次のトラックボタン

チャンネルを保存: Enter-s または 録音ボタンを長押し

チャンネルを削除: Space-d または 停止ボタンを長押し

録音開始: Enter-r

録音の一時停止/再開: 録音ボタン

録音停止: 停止ボタンを軽く押す

ミュートオン: ストップボタン または Space

ミュートオフ: 再生ボタン または Space

音量を上げる: Space-上スクロールボタン

音量を下げる: Space-下スクロールボタン

### ポッドキャスト

ポッドキャスト検索: Enter-s

OPMLファイルのインポート: Enter-o

OPMLファイルのエクスポート: Enter-x

ダウンロードしたファイルの削除: Backspace-c

オプション: Backspace-o

フィードの挿入: Enter-i

フィードの削除: Space-d

## 読書

### DAISY プレーヤー

タイトルを読む: Space-1-2-5-6

DAISY図書を開く: Enter-o

音声設定: Enter-s

図書情報の確認: Enter-i

閉じる: Space-z

再生/一時停止: Space

最初へ移動: Space-1-2-3

最後へ移動: Space-4-5-6

音量を上げる: Backspace-4

音量を下げる: Backspace--1

速度を上げる: Backspace-5

速度を下げる: Backspace-2

音声トーンを上げる: Backspace-6

音声トーンを下げる: Backspace-3

次のページへ移動: Space-3-4-5

前のページへ移動: Space-1-2-6

ページへ移動: Enter-g

設定した文または時間単位で前へ移動: 1の点

設定した文または時間単位で次へ移動: 4の点

移動単位の設定（逆送り）: 2の点

移動単位の設定（順送り）: 5の点

レベルを上げる: 2-3の点

レベルを下げる: 5-6の点

設定したレベル単位で前へ移動: 3の点 または 前のトラックボタン

設定したレベル単位で次へ移動: 6の点 または 次のトラックボタン

次の見出しへ移動: Space-5 または 次のトラックボタンの長押し

前の見出しへ移動: Space-2 または 前のトラックボタンの長押し

最後の見出しへ移動: Space-4-6

最初の見出しへ移動: Space-1-3

現在の読み上げレベルと見出しの確認: Enter-w

現在位置から最後までの見出しのスキャン: Enter-n

見出し検索: Space-f

見出しリスト: Enter-h

再検索: Enter-f

現在位置でのマーク設定: Enter-m

次のマークへ移動: Space- 6

前のマークへ移動: Space- 3

マーク削除: Space-d

メモの作成: Backspace-m

メモを読む: Backspace-r

前のメモを読む: Backspace-p

次のメモを読む: Backspace-n

メモの削除Delete Memo: Backspace-d

警告なしで位置情報を消してDAISYを終了する: Enter-z

警告なしでマーク情報を消してDAISYを終了する: Backspace-z

### 文書リーダ

ファイルメニューのホットキー

ファイルを開く：Enter-o

最近開いた文書：Enter-r

ページ設定：Backspace-p

音声設定：Enter-s

起動時の設定：Enter-e

文書の情報：Enter-i

しおりを付けて終了：Space-z

しおりとマークを削除して終了：Enter-z

しおりを付けずに終了：Backspace-z

編集メニューのホットキー※手動読み上げモードでのみ使用可

ブロック選択開始：Enter-b

コピー：Enter-c

クリップボードに追加：Enter-p

クリップボードをクリア：Enter-d

すべて選択：Enter-a

読み上げメニューのホットキー

読み上げモードの切り替え：Enter

自動読み上げの再生/一時停止：Space

選択したテキストを読み上げ：Backspace-b

現在のページを読み上げ：Backspace

現在の段落を読み上げ：Space-2-3-5-6

現在の行を読み上げ：Space-c

現在の文を読み上げ：2-3-5-6

移動メニューのホットキー

検索：Space-f

再検索：Enter-f

後方に再検索：Backspace-f

指定位置に移動：Enter-g

見出しに移動：Enter-t　※HTMLファイル閲覧時のみ

前の見出しに移動: Backspace-Space-2-3-5　※HTMLファイル閲覧時のみ

次の見出しに移動: Backspace-Space-2-5-6　※HTMLファイル閲覧時のみ

ダブルキャリッジリターンで戻る：Backspace-Space-2-3

ダブルキャリッジリターンで進む：Space-Enter-5-6

マークのホットキー

マーク設定：Enter-m

マークへ移動：Enter-j

マーク削除：Space-d

次のマーク：Enter-n

前のマーク：Backspace-m

マーク管理：Enter-k

しおり通知設定：Backspace-o

### DAISYオンライン

ネット閲覧室の切り替え：Enter-t(2-3-4-5)

ネット閲覧室から削除：Enter-r(1-2-3-5)

ダウンロード：Enter-d(1-4-5)

詳細情報：Enter-i(2-4)

次のページ：Enter-n(1-3-4-5)

閲覧リストに登録：Enter-s(2-3-4)

オプション：Enter-o(1-3-5)

閉じる：Space-z（1-3-5-6）

## オーガナイザ

### アドレス帳

#### アドレス追加時の操作

前のフィールドまたはメニュー項目へ移動: Space-1または上スクロールボタン

次のフィールドまたはメニュー項目へ移動: Space-4または下スクロールボタン

最初のフィールドまたはメニュー項目へ移動: Space-1-2-3

最後のフィールドまたはメニュー項目へ移動: Space-4-5-6

#### 検索結果リストの操作

前のレコードへ移動: Space-1 または 上スクロールボタン

次のレコードへ移動: Space-4 または 下スクロールボタン

最初のレコードへ移動: Space-1-2-3

最後のレコードへ移動: Space-4-5-6

レコード情報へ移動: F3

#### 一般コマンド

アドレス追加: Enter-i

アドレス検索: Enter-s

アドレス修正: Enter-m

アドレス削除: Space-d

全選択: Enter-a

ファイルとして保存: Enter-t

アドレスの印刷: Space-p

アドレス帳のバックアップ: Enter-u

アドレスリストの復旧: Enter-r

バックアップオプションの設定: Enter-e

アドレスフィールドの追加/検索の設定: Enter-o

CSVからのインポート: Backspace-i

CSVへのエクスポート: Backspace-x

### 予定帳

#### 一般コマンド

次のフィールドへ移動: Space-4-5 または F3

前のフィールドへ移動: Space-1-2 または Space-F3

予定の追加: Enter-i

予定の検索: Enter-s

予定の修正: Enter-m

予定の削除: Space-d

全ての予定の削除: Backspace-Enter-q

予定のバックアップ: Enter-u

予定の復旧: Enter-r

バックアップオプションの設定: Enter-e

アラームオプション: Enter-o

予定をファイルとして保存: Enter-t

予定の印刷: Space-p

Googleカレンダーとの同期を更新する:Backspace-r

#### 検索結果の操作

前の予定へ移動: Space-2

次の予定へ移動: Space-5

最初の予定へ移動: Space-2-3またはSpace-1-2-3

最後の予定へ移動: Space-5-6またはSpace-4-5-6

同じ日の前の予定へ移動: Space-1 または 上スクロールボタン

同じ日の後の予定へ移動: Space-4 または 下スクロールボタン

同じ日の最初の予定へ移動: Space-1-3

同じ日の最後の予定へ移動: Space-4-6

### データベース管理のホットキー

レコード追加: Enter-i(2-4)

レコード検索: Enter-s(2-3-4)

テーブルマネージャー: Enter-t(2-3-4-5)

見つかったレコードリスト: Enter-r(1-2-3-5)

データベースバックアップ: Enter-u(1-3-6)

データベース復旧: : Enter-o(1-3-5)

バックアップオプション設定: Enter-e(1-5)

コントロール単位

次のコントロールに移動: Space-4-5あるいはF3

前のコントロールに移動: Space-1-2あるいはSpace-F3

項目移動単位

次の項目に移動: Space-4あるいは下スクロールボタン

前の項目に移動: Space-1あるいは上スクロールボタン

質問ボックスの選択変更

次の選択に変更: Space-4あるいはSpaceあるいは下スクロールボタン

前の選択に移動: Space-1あるいはBackSpaceあるいは上スクロールボタン

検索されたレコード内での移動

次のレコード: Space-4あるいは下スクロールボタン

前のレコード: Space-1あるいは上スクロールボタン

レコードの最後に移動: Space-4-5-6

レコードの最初に移動: Space-1-2-3

前のレコードの現在と等しいフィールドに移動: Space-3

次のレコードの現在と等しいフィールドに移動: Space-6

次のフィールド: Space-5

前のフィールド: Space-2

フィールドの最後に移動: Space-4-6

フィールドの最初に移動: Space-1-3

## ウェブツール

### ウェブブラウザ

#### 一般コマンド

URLを開く: Enter-u

開く: Enter-o

名前を付けて保存: Space-s

情報: Enter-i

ダウンロードダイアログ: Backspace-3-4

閉じる: Space-z

最初から現在位置まで読み上げ: Backspace-g

現在位置から最後まで読み上げ: Enter-g

自動スクロール: 上スクロールボタン-下スクロールボタン

選択開始: Enter-b

コピー: Enter-c

クリップボードの追加: Enter-p

URLのコピー: Backspace-d

リンクのコピーCopy link: Backspace-l

ホームのページへ移動: Backspace-h

前のページへ移動: Backspace-Space-3 または Backspace-p

次のページへ移動: Backspace-Space-6 または Backspace-n

前の見出しへ移動: Backspace-b

次の見出しへ移動: Backspace-f

前のテキストへ移動: Space-2-4-6

次のテキストへ移動: Space-1-2-4-5-6

前の既読リンクへ移動: Space-2-3-6

次の既読リンクへ移動: Space-3-5-6

更新: Enter-r

履歴リストを開く: Enter-h

履歴リストで選択したタイトルのアドレスを確認: Space-i

検索: Space-f

再検索: Enter-f

リンクリスト: Backspace-i

RSSフィードリスト: Enter-j

現在のページをホームとして設定: Enter-s

お気に入りに追加: Backspace-a

お気に入りリスト: Enter-l

オプション設定: Backspace-o

#### ウェブブラウザでのオーディオファイル再生時のホットキー

音量を上げる: Space-上スクロールボタン

音量を下げる: Space-下スクロールボタン

再生: シックス前面の再生ボタン

停止: シックス前面の停止ボタン

#### ウェブページを読むときのホットキー

前の操作へ移動: Space-F3

次の操作へ移動: F3

コンボボックスの次の項目を選択(リストボックス): Backspace-Space-4

コンボボックスの前の項目を選択(リストボックス): Backspace-Space-1

前のコントロールフォームへ移動: Space-1-2-3-4-6

次のコントロールフォームへ移動: Space-1-3-4-5-6

前のテーブルへ移動: Space-3-4-5-6

次のテーブルへ移動: Space-1-4-5-6

前のセルへ移動: Space-2-3

次のセルへ移動: Space-5-6

上のセルへ移動: Space-3-5

下のセルへ移動: Space-2-6

現在のセルを読み上げ: Space-2-3-5-6

上位テーブルの前のセルへ移動: Backspace-2-3

上位テーブルの次のセルへ移動: Backspace-5-6

上位テーブルの上のセルへ移動: Backspace-3-5

上位テーブルの下のセルへ移動: Backspace-2-6

現在の位置を確認: Space-1-5-6

前のフレームへ移動: Space-3-4-6

次のフレームへ移動: Space-1-4-6

現在の行の読み上げ: Space-r

## アクセサリ

### エクセルビューア

#### 操作コマンド

次の行に移動: Space- 4

前の行に移動: Space- 1

次の列に移動: Space- 6

前の列に移動: Space- 3

最初の行に移動: Space-1-3

最後の行に移動: Space- 4-6

最初の列に移動: Space- 2-3

最後の列に移動: Space- 5-6

ワークシートの先頭に移動: Space-1-2-3

ワークシートの末尾に移動: Space-4-5-6

次のワークシートへ移動: Space-3-4-5

前のワークシートへ移動: Space-1-2-6

次のグループへ移動: Backspace- 5-6

前のグループへ移動: Backspace- 2-3

行の次のグループへ移動: Space-5

行の前のグループへ移動: Space- 2

列の次のグループへ移動: Space- 5-6

列の前のグループへ移動: Space- 2-3

#### ファイルコマンド

開く: Enter-o

ハイパーリンクを開く: Enter-h

ユーザテーブルの設定: Enter-t

セルの書式: Enter-i

クイックセットアップ: Enter-x

名前を付けて保存: Space-s

#### 移動コマンド

検索: Space-f

次を検索: Enter-f

前を検索: Backspace-f

セルの移動: Enter-j

次のシート: Space-3-4-5

前のシート: Space-1-2-6

シートのリスト: Enter-l

マークの設定: Backspace-m

マークへ移動: Backspace-j

マークの削除: Backspace-d

#### 読み上げコマンド

オプション設定: Backspace-o

シートタイトル: Space-1-5-6

列の先頭から現在のセルまで読み上げ: Backspace-1

現在のセルから列の末尾まで読み上げ: Backspace- 4

行の最初から現在のセルまで読み上げ: Backspace- 3

現在のセルから行の最後まで読み上げ: Backspace- 6

現在の行を読み上げRead current row: Space-c

現在の列を読み上げ: Space-y

行ヘッダーの読み上げ: Backspace-c

列ヘッダーの読み上げ: Backspace-y

最初から現在位置まで読み上げ: Backspace-g

現在位置から最後まで読み上げRead from cursor to end: Enter-g

1文字読み(セル内容を表示中): Space- 3-6

現在のセルを読み上げ: Space- 3-6

ファイル名を読み上げ: Space- 3-4

選択したテキストの読み上げ: Backspace-b

#### 表示コマンド

非表示のシートを表示: Enter-s

非表示の行を表示: Enter-r

非表示の列を表示: Enter-y

セル内容の表示: Enter

セル内容の表示の取り消し: Backspace

日時の設定: Enter-d

#### 編集コマンド

選択開始: Enter-b

全選択: Enter-a

選択したテキストのコピー : Enter-c

## ユーティリティ

### 電卓

電卓の初期化: Backspace-c

数字または演算子の削除: Backspace

計算履歴: Enter-h

一般関数: Enter-g

パイ: Enter-p

指数: Enter-e

三角関数: Enter-s

サイン: Enter-sまたは s

アークサイン: Enter-sまたはa

ハイパーボリックサイン: Enter-sまたはh

コサイン: Enter-iまたはi

アークコサイン: Enter-cまたは a

ハイパーボリックコサイン: Enter-cまたは h

タンジェント: Enter-t または t

アークタンジェント:Enter-t または a

ハイパーボリックタンジェント: Enter-t または h

対数関数: Enter-l

自然対数: Enter-lまたは e

常用対数: Enter-l または n

変数リコール: Backspace-r

保存された全ての変数を削除: Enter-d

変数に保存: Backspace-s

単位変換: Enter-u

クリップボードにコピー: Enter-c

オプション設定: Enter-o

分数オプション: Space- 3-4

式へ戻る: Enter-r

### 電子コンパス

電子コンパスを開く: Space-F3-F4

次の操作へ移動: Space-4-5 または F3

前の操作へ移動: Space-1-2 または Space-F3

コンパスタイプの変更: Backspace または Space

閉じる: Space-zまたは Space-e

アラーム

アラーム追加:Enter-a

アラーム修正：Enter-m

アラーム削除:Space-d

### ストップウォッチ

ストップウォッチスタート、一時停止、再スタート: Enter

経過時間の確認: Space

経過時間表示の停止/再開: Space-F2

ストップウォッチとカウントダウンタイマーの切替:F3

カウントダウンタイマーの一時停止または再開: Enter

カウントダウンタイマーの初期化: Backspace

ストップウォッチとカウントダウンタイマーを閉じる: Space-z

### スクリーンリーダーのターミナル

ターミナルクリップボードを実行する: Space-Enter-i

ターミナルクリップボードの情報を送る： Enter-s

スクリーンリーダーのターミナルモードを終了する: Space-Backspace-z

マクロ管理

マクロ登録の開始/終了:F2-r

遅延時間の挿入:F2-d

マクロの実行:F2-e

マクロ管理：F2-l

## 設定

### 日時設定

次の日へ移動: Space-6

前の日へ移動: Space-3

次の週へ移動: Space-5

前の週へ移動: Space-2

次の月へ移動: Space-4

前の月へ移動: Space-1

次の年へ移動: Space-5-6

前の年へ移動: Space-2-3

１時間後へ移動: Space-4

１時間前へ移動: Space-1

１0分後へ移動: Space-5

１0分前へ移動: Space-2

１分後へ移動: Space-6

１分前へ移動: Space-3

午前と午後の切り替え: Space-x

### Bluetooth接続

Bluetooth接続を再検索: Enter-r

デバイスへ接続: enter on the device name

サービスへ接続: enter on the service name

Bluetoothサービスリストからサービスを解除: Enter-d

サービスリストのBluetoothデバイスへ移動: Backspace

デバイスリストからデバイス設定を削除: Space-d

### バックアップ/復旧オプション

前の項目へ移動: Space-1 または 上スクロールボタン

次の項目へ移動: Space-4 または 下スクロールボタン

前の操作へ移動: Space-F3

次の操作へ移動: F3

チェックボックスの選択/選択解除: Space

バックアップ: Enter-b

復旧: Enter-r

### パスワード保護

パスワードの設定: Enter-i

パスワードの変更: Enter-m

パスワード環境設定: Enter-c

初期化設定: i

## スクリーンリーダーコマンド

### フォーカスの移動

次の項目へ移動: Space-4-5 または F3

前の項目へ移動: Space-1-2 または Space-F3

先頭へ移動: Space-1-2-3

末尾へ移動: Space-4-5-6

ひとつ下の画面へスクロール: Space-3-4-5

ひとつ上の画面へスクロール: Space-1-2-6

現在の項目を実行: Enter または タッチカーソルキー

戻るボタン: Space-e または F4

特定のオブジェクトへ移動: オブジェクトの最初の文字を入力

ホーム画面へ移動: F1

通知画面を開く: Space-1-2-3-4-5-6

通知内容を実行: Enter

通知の削除: Space-d

すべてのアプリを閉じる：Space-Enter-d

エディットボックスを有効にする：Enter

スライダーの値を増やす：Backspace-Space-4

スライダーの値を減らす：Backspace-Space-１

ダブルタップ：Space-Enter

ダブルタップ＆ホールド：Backspace-Space-Enter

ホールド開始と終了：Backspace-Space-2

シックスランチャーへリセット: F2-F3-1-2-3-4-5-6-7-8

オブジェクトナビゲーション方法の変更：Backspace-Enter-h

### 文書の編集

次の文字へ移動: Space-6

前の文字へ移動: Space-3

次の単語へ移動: Space-5

前の単語へ移動: Space-2

次の文へ移動: Space-4

前の文へ移動: Space-1

次の段落へ移動: Space-5-6

前の段落へ移動: Space-2-3

段落の先頭へ移動: Space-1-3

段落の最後へ移動: Space-4-6

文章の先頭へ移動: Space-1-2-3

文章の末尾へ移動: Space-4-5-6

現在の文字を削除: Space-1-4-5

前の文字を削除: Backspace

現在の単語を削除: Backspace-2-5

現在の文を削除: Backspace-1-4

現在の段落を削除: Backspace-2-3-5-6

次の画面へ移動: 下スクロール

前の画面へ移動: 上スクロール

Appモードでのメディアボタンの機能

メインメニューを開く: 停止ボタン

最新アプリ: 再生ボタン

戻る: 録音ボタン

前の項目へ移動: 前のトラックボタン

次の項目へ移動:次のトラックボタン

Androidメディアの再生/一時停止:再生ボタン長押し

Androidメディアの前のトラックへ移動：前のトラックボタン長押し

Androidメディアの次のトラックへ移動：次のトラックボタン長押し

モバイルスクリーンリーダーのオン/オフ: 停止ボタンと次のトラックボタン

Googleボイスアシスタントの呼び出し: 録音ボタンと再生ボタン

# 技術サポート情報

シックスをご利用の上でご不明な点がございましたら、以下のセンスサポート窓口までご連絡ください。なお、お電話の受付時間は平日朝10時から12時、13時から16時までとなっております。よろしくお願いいたします。

お問い合わせ先

有限会社エクストラ

〒424-0886

静岡県静岡市清水区草薙１丁目19-11

＜センスシリーズ使い方サポート窓口＞

電話：054-368-6897

＜センスシリーズ故障・修理対応窓口＞

電話：054-368-6887

Eメール（共通）：sense-support@extra.co.jp